静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第120集

恒武西宮・西浦遺跡

平成８～10年度（主）浜松環状線（笠井工区）道路改良
（一般）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０００

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第120集

恒武西宮・西浦遺跡

平成８～10年度（主）浜松環状線（笠井工区）道路改良
（一般）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２０００

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

恒武遺跡群は、浜名湖から三方原台地を経て、磐田原台地へと抜ける両台地間のほぼ中央部の沖積微高地上に立地し、地理的には平野部の中核的位置に存在する。

平成8年度の浜松市教育委員会の調査による恒武山ノ花遺跡からは、奈良時代の墨書土器や人面墨書土器が多く出土し、地方官衙との関連性が注目された。また、5世紀の旧河道内からは、非常に多くの土器、木製品、石製品などが発見されており、とくに土器は初期須恵器、木製品では蓋、下駄、漆塗りの太刀把、石製品には子持勾玉が、その他駆櫛なども出土した。これらは豪族層が所有していたと考えられる貴重な遺物である。これらに伴って祭祀具である剣形、刀形、鍬形、舟形などの多数の木製品と、約2,000点の石製模造品が検出され、ミニチュアの土器も多数出土している。これらは、おそらく当集落をおさめていた豪族が執り行った祭祀に関係するものであろう。

今回の発掘調査は、その山ノ花遺跡の東側を南北に細長く実施することになった。調査は東名浜松インターから北へと延びる浜松環状線の建設工事に先立つもので、道路幅の調査ではあったが集落域を南北に横断しており、5世紀の豪族居館や律令期の官衙関連施設などが存在する可能性の高い遺跡であったため、注目されていた。結果としては、それらの存在を明確にすることはできなかったが、大型掘立柱建物跡や大量の多種多量の遺物の出土は、その可能性をより高めたのではないかと考えられる。

当研究所も、山ノ花遺跡へと連続する旧河道部分の調査を行い、多くの遺物を発見したが、とくに木製品の中には優品が多い。その木製品のほとんどは、5・6世紀に属するものと考えられており、当該期の資料が少ないだけに非常に重要な発見であった。出土資料は、祭祀具、農具、紡織具、武具、容器、楽器、建築材など多種類で、当時の生活様式、ひいては日本の木の文化を語るうえで、欠かすことのできない資料となるであろう。特殊な遺物としては、筑状打弦楽器とされる楽器が認められる。これは、中国馬王堆漢墓の明器や棺絵などに見られる筑という楽器に構造がよく似ていることから、この名が付けられている。楽器の街、浜松からの出土で、新聞などでも大きく取り上げられ話題となった。他に琴も出土しており、これらが祭祀に使われた楽器の可能性が高く、楽器史上だけでなく古代の祭礼を復元していく上でも重要な発見であった。

平成10年度の10月以降も継続的に発掘調査は実施されている。それらの成果は、次回の報告となるが、当地域では発掘調査があまり行われてこなかったこともあり、この報告書での成果と合わせ、貴重なものとなるであろう。

現地調査および本書の作成にあたっては、静岡県浜松土木事務所並びに静岡県教育委員会・浜松市教育委員会をはじめとする関係機関各位の御理解と御協力に厚くお礼を申し上げたい。また、出土資料の鑑定・教示をいただいた静岡大学教授　佐藤洋一郎氏、奈良国立文化財研究所　松井章氏、放送大学助教授　笠原潔氏には深く感謝したい。静岡大学名誉教授　加藤芳朗氏には、現地調査からご指導をいただいた。その他、御指導・御助言をいただいた皆様や、猛暑や厳寒の日、雨の中でも作業にあたられた現地作業員の方々、大量の遺物を手際よくまとめられた整理作業員の方々にこの場を借りて深く感謝する次第である。

2000年3月

財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所長　斎藤　忠

例　言

1．本書は静岡県浜松市恒武町に所在する恒武西宮（つねたけにしみや）・西浦（にしうら）遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、(主) 浜松環状線（笠井工区）道路改良（一般）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、静岡県浜松土木事務所の委託を受け、静岡県教育委員会の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

3．調査期間は、平成８年９月から平成10年９月まで現地調査を行い、途中、平成９年４月から６月までと平成10年４月は現地調査の準備と基礎的整理作業を行った。本格的整理作業は、平成10年10月から平成12年３月まで実施した。

4．調査体制は以下のとおりである。

平成８年度

所長：斎藤　忠　　副所長：池谷和三　　常務理事：三村田昌昭　　調査研究部長：石垣英夫

調査研究三課長：渡瀬　治　　調査研究員：宮崎　覚　　柴田　睦

平成９年度

所長：斎藤　忠　　副所長：池谷和三　　常務理事：三村田昌昭　　調査研究部長：石垣英夫

調査研究三課長：渡瀬　治　　調査研究員：佐原哲之　　柴田　睦

平成10年度

所長：斎藤　忠　　常務理事：伊藤友雄　　調査研究部長：石垣英夫

調査研究四課長：遠藤喜和　　調査研究員：柴田　睦　　溝口彰啓

平成11年度

所長：斎藤　忠　　常務理事：伊藤友雄　　副所長：山下　晃　　調査研究部長：佐藤達雄

調査研究部次長兼資料課長：佐野五十三　　調査研究員：柴田　睦

5．本書の執筆は第Ⅱ章第７節と第Ⅳ章第１節を溝口彰啓が、その他付載を除いて柴田　睦が担当した。遺物写真撮影は楠華堂の内田真紀子さんと当研究所杉山すず代が撮影した。

6．古環境の復元については、加藤芳朗氏（静岡大学名誉教授）に御教示いただき、動物遺存体の鑑定は松井　章氏（奈良国立文化財研究所）に、植物遺体は佐藤洋一郎氏（静岡大学教授）から御教示いただいた。現地では、田辺昭三氏（京都造形大学教授）と向坂鋼二氏（元浜松市博物館長）より指導を受け、古代の楽器については、笠原　潔氏（放送大学助教授）より御助言と資料の提供を受けた。木製品の樹種同定は当研究所西尾太加二と森田直美が行ったが、一部、鈴木三男氏（東北大学教授）に依頼した。

7．自然科学分析を㈱古環境研究所と㈱パリノサーヴェイに委託し、その結果を掲載した。

8．遺構および遺物出土状況図の作成は、写真測量による図化を㈱フジヤマに委託した。

9．本書の編集は、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

10．本調査に関する資料は、静岡県教育委員会文化課が保管している。

凡　例

1　調査区の座標軸は、国土座標Ⅷ系を用いた。

2　本書で使用した方位は、上記の方位（座標北）である。

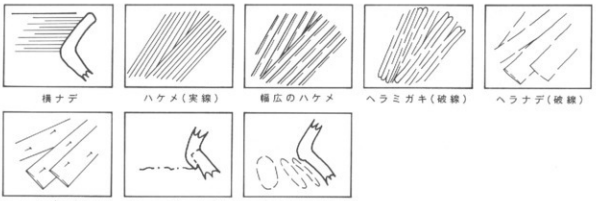
3　国土座標を利用して一辺10mのグリッド（方眼）を調査区内に設定し、東西列をアルファベットで、南北列をアラビア数字で表記し、南西隅の交点をもってそのグリッドの名称とした。

4　現地調査段階の遺構名は、全て新しい名称に変更した。小穴と土坑には全て遺構名を付したが、溝状遺構については、出土遺物実測図を掲載した遺構を中心に遺構名を付したため、細溝などには名称は付していないが遺物は多く出土している。旧遺構名との対照は一覧表を参照していただきたい。

5　遺構の略号はSB（竪穴住居跡）、SH（掘立柱建物跡）、SR（旧流路）、SD（溝状遺構）、SF（土坑）、SE（井戸跡）、P（小穴）、SX（性格不明遺構）を用いた。

6　別冊図版の遺構図面内の網目は焼土を、斜線は粘土や炭化物を主に示し、その他特殊なものについては図中に注記した。出土遺物は「●」の多くは土器を示すが、その他の場合は注記した。また、土器は「P」と略称している場合もある。「▲」または「玉」は石製模造品などの玉類で、「S」は礫または砥石である。「W」は木製品の略称である。

7　別冊図版の土器実測図で、口径が不明瞭であるものは中心線を外し、ある程度根拠のあるものは中心線を一点破線とした。土師器の実測図は以下のように統一した。



8　別冊図版の木製品実測図中のドットは欠損部もしくは剥落痕を示し、黒塗りは木釘、楔、榫紐を表現している。スクリーントーンによる表現は以下のとおりである。

炭化範囲　　圧痕

目　次

序
例言
凡例

第Ⅰ章　調査経過と環境
　第1節　調査にいたる経過と調査方法 …… 1
　第2節　地理的・歴史的環境 …… 2
　第3節　基本土層について …… 3

第Ⅱ章　発見された遺構
　第1節　竪穴住居跡 …… 6
　第2節　掘立柱建物跡 …… 7
　第3節　流路跡と溝状遺構 …… 10
　第4節　土坑 …… 16
　第5節　井戸跡 …… 17
　第6節　その他の遺構 …… 18
　第7節　市道笠井51号線部分の調査（溝口） …… 18

第Ⅲ章　発見された遺物
　第1節　木製品 …… 35
　第2節　土器 …… 52
　第3節　土製品 …… 86
　第4節　石製品とガラス製品 …… 89
　第5節　鉄製品と鉄滓 …… 94
　第6節　動・植物遺存体 …… 95

第Ⅳ章　まとめ
　第1節　恒武遺跡の土層観察所見（溝口） …… 99
　第2節　遺構の変遷 …… 103

付載1　恒武西宮遺跡・山ノ花遺跡における自然科学分析（古環境研究所） …… 107
付載2　恒武西浦遺跡における自然科学分析（古環境研究所） …… 127
付載3　恒武西浦遺跡の古環境変遷（パリノ・サーヴェイ） …… 138
付載4　恒武西浦遺跡出土の動物遺存体（松井　章） …… 156

挿表目次

第１～12表　小穴一覧表１～12 …… 21～32
第13表　土坑一覧表 …… 33
第14表　新旧遺構名対照表 …… 34
第15～22表　木製品一覧表１～８ …… 44～51
第23～41表　土器一覧表１～19 …… 67～85
第42表　土製品一覧表 …… 88
第43・44表　石製品一覧表１・２ …… 92・93
第45表　鉄製品一覧表 …… 93
第46表　動物遺存体一覧表 …… 96
第47・48表　植物遺存体一覧表 …… 97・98

挿図目次

第１図　恒武遺跡を中心とする鍬・鋤先の変遷案 …… 37
第２図　恒武遺跡における新出の容器類 …… 38
第３図　恒武遺跡出土刀・刀形柄部 …… 40
第４図　恒武遺跡出土櫛、櫛状木製品 …… 40
第５図　恒武遺跡出土琴および筑状打弦楽器の類例 …… 41
第６図　古新田遺跡出土古墳時代中期土器 …… 53
第７図　恒武西宮遺跡SF49出土土器 …… 57
第８図　恒武西浦遺跡SR16Ｂ出土土器 …… 57
第９図　恒武西浦遺跡SR41出土土器 …… 57
第10図　椿野遺跡SX201出土土器 …… 57
第11図　恒武西浦遺跡SR42出土土器 …… 58
第12図　土師器無台坏皿計測値分布図（奈良時代以降） …… 59
第13図　須恵器有台坏計測値分布図 …… 59
第14図　須恵器無台箱形坏計測値分布図 …… 60
第15図　須恵器無台碗形坏計測値分布図 …… 60
第16図　恒武西浦遺跡SR45出土土器（１） …… 62
第17図　恒武西浦遺跡SR45出土土器（２） …… 63
第18図　恒武西浦遺跡SR30出土土器 …… 64
第19図　土馬の形態変遷案 …… 87
第20図　恒武遺跡出土滑石片 …… 90
第21図　恒武西宮遺跡出土白玉計測値分布図 …… 91
第22図　恒武西浦遺跡出土白玉計測値分布図 …… 91
第23図　北区SR39クロスラミナ計測地点 …… 101
第24図　北区SR30クロスラミナ計測地点、畑跡・噴砂確認地点 …… 101
第25図　北区畑跡の根跡数 …… 102
第26図　恒武西宮遺跡主要遺構変遷案 …… 104
第27図　恒武西浦遺跡主要遺構変遷案（南・北区） …… 105
第28図　恒武西浦遺跡主要遺構変遷案（中区） …… 106

図版目次

カラー図版1　1．恒武遺跡遠景（南より）　2．恒武西宮遺跡全景（北東より）
2　1．恒武西浦遺跡南区全景（西より）　2．恒武西浦遺跡中区全景（西より）
3　1．恒武西浦遺跡北区全景（東より）　2．恒武西浦遺跡SR43全景（北東より）
4　1．恒武西浦遺跡SR45全景（東より）　2．SR45遺物出土状況（北より）
5　1．SR45遺物出土状況（南東より）　2．SR45遺物出土状況（東より）
6　1．SR45遺物出土状況（東より）　2．SR45遺物出土状況（北より）
7　SR45出土筑状打弦楽器（表裏）
8　1．SR43出土琴　2．SR45出土竪櫛　3．SR45出土彫刻された木板
9　1．SR45出土舟形木製品　2．SR45出土刀形木製品
10　1．恒武西宮遺跡出土石製品　2．恒武西浦遺跡出土土・石製品
11　1．SR42～45出土古式須恵器　2．SR30・36出土動物形土製品
12　1．SR30出土人面墨書土器　2．SR41出土人面墨書土器
13　1．SR30出土土器　2．SR41出土土器
14　1．SR30遺物出土状況（西より）　2．恒武西浦遺跡南区北東東壁土層
3．恒武西浦遺跡中区中央西壁土層
図版1　1．恒武西宮遺跡全景（南より）　2．恒武西宮遺跡全景（北東より）
図版2　1．SH1・2（北より）　2．恒武西宮遺跡南端部（南西より）
3．恒武西宮遺跡中央部（北西より）　4．恒武西宮遺跡全景（北より）
5．恒武西宮遺跡土坑群（北より）
図版3　1．SB1、SH6（北より）　2．SH3・4（南東より）　3．SH7（東より）
4．SH5（北より）　5．SF25周辺（西より）
図版4　1．SH12（南より）　2．SH8（東より）　3．SH10・11（北より）
4．SF49～51遺物出土状況（南西より）　5．恒武西宮遺跡北西部（南より）
図版5　1．SF49遺物出土状況（西より）　2．P337遺物出土状況（北東より）
3．SF5遺物出土状況（南東より）　4．SF46遺物出土状況（北東より）
5．SF48遺物出土状況（北東より）
図版6　1．SF9、SR3遺物出土状況（南西より）　2．SR1・3遺物出土状況（北東より）
図版7　1．SR1・3遺物出土状況（北より）　2．SR3遺物出土状況（東より）
3．SR1・3（7～8）土層断面（北東より）　4．SD1遺物出土状況（南より）
5．P282遺物出土状況（南西より）　6．SE1上層（北より）
7．SE1下層（北東より）　8．SF56遺物出土状況（北より）
図版8　1．SF33～39（北西より）　2．SF26土層断面（東より）　3．SF35土層断面（北東より）
4．SF36土層断面（北東より）　5．SR1（1～2）土層断面（南西より）
6．SR5（13～14）土層断面（北東より）　7．SR4（19～20）土層断面（北東より）
8．SR12（33～34）土層断面（南西より）
図版9　1．恒武西浦遺跡南区全景（南より）　2．恒武西浦遺跡南区全景（北より）
図版10　1．恒武西浦遺跡南・中区垂直写真　2．恒武西浦遺跡南区上面全景（北東より）
3．恒武西浦遺跡南区下面全景（北東より）　4．SR16（北より）

5．恒武西浦遺跡南区南（南西より）

図版11　1．SB２（北より）　2．SB３（北東より）

図版12　1．SB４（南より）　2．SB４竈（南より）

図版13　1．SB２上層遺物出土状況（東より）　2．SB３掘り方（北東より）

3．SB４竈土層断面（南東より）　4．SB４竈土層断面（南西より）

5．SB４竈土層断面（北東より）　6．SB２周辺小穴（東より）　7．SH17・18（北より）

8．SH22・23（南東より）

図版14　1．SH24（南東より）　2．SD16遺物出土状況（南より）

3．SR14東上層遺物出土状況（西より）　4．SR16中央遺物出土状況（北西より）

5．SR16東遺物出土状況（北より）　6．SR16Ｂ中央遺物出土状況（北西より）

7．SR16Ｂ中央遺物出土状況（南西より）　8．SR16Ｂ西遺物出土状況（南より）

図版15　1．SR16Ｂ中央遺物出土状況（南より）　2．SR16Ｂ東遺物出土状況（南より）

3．SR16Ｂ中央遺物出土状況（南東より）　4．SR17（北より）　5．SX２（北東より）

6．SX５（北西より）　7．SX６（東より）　8．SR17遺物出土状況（南東より）

図版16　1．SX１（南東より）　2．SF60遺物出土状況（北西より）　3．SX３（北東より）

4．SX４（北西より）　5．恒武遺跡遠景（北より）

図版17　1．恒武西浦遺跡中区全景（南より）　2．恒武西浦遺跡中区全景（北より）

図版18　1．恒武西浦遺跡中区北部（南より）　2．恒武西浦遺跡中区南部（北より）

図版19　1．SH26～30（北西より）　2．SH26～30（北より）　3．SH26～29（北より）

4．SX７（北より）　5．SH25周辺（北より）

図版20　1．恒武西浦遺跡中区中央部（北より）　2．SB５（北より）

図版21　1．SB５周辺建物跡（西より）　2．SH35（西より）

図版22　1．SH31・32（南より）　2．SH41（北東より）　3．Ｐ684遺物出土状況（北西より）

4．Ｐ697遺物出土状況（南東より）　5．SF61（南より）　6．SD26遺物出土状況（西より）

7．SX９（北西より）　8．SB５上層周辺遺物出土状況（西より）

図版23　1．SX10（南東より）　2．恒武西浦遺跡中区北部（北東より）

3．恒武西浦遺跡中区北部下層Ａ（北東より）　4．SR29（91～92）土層断面（北東より）

5．恒武西浦遺跡中区北部下層Ｂ（北東より）　6．SR24～26（87～88）土層断面（南西より）

7．中区北東東壁（89～90）土層断面（西より）　8．SR25・26（南西より）

図版24　1．SR41（北東より）　2．SR41土層断面（北東より）

3．SR41東端遺物出土状況（南西より）　4．SR41中央遺物出土状況（北東より）

5．SR41西遺物出土状況（北東より）

図版25　1．SR41中央遺物出土状況（北より）　2．SR41中央顎骨３・４出土状況（東より）

3．SR41西端遺物出土状況（北東より）　4．SR42東端遺物出土状況（北東より）

5．SR42（北東より）

図版26　1．SR42中央遺物出土状況（北東より）　2．SR42西端遺物出土状況（北より）

3．SR42中央遺物出土状況（南東より）　4．SR42中央遺物出土状況（南東より）

5．SR42中央遺物出土状況（西より）

図版27　1．SR42中央遺物出土状況（南東より）　2．SR42西遺物出土状況（北東より）

3．SR42西遺物出土状況（北より）　4．SR42西遺物出土状況（南東より）

5．SR42西遺物出土状況（東より）　6．SR42東顎骨６～８出土状況（南西より）

7．SR42顎骨13・14出土状況（北より）　8．SR42西顎骨22出土状況（南東より）

図版28　1．SR43中央遺物出土状況（北西より）　2．SR43全景（北東より）
3．SR43東端遺物出土状況（北西より）　4．SR43東遺物出土状況（北東より）
5．SR43中央南遺物出土状況（南より）

図版29　1．SR43刻物出土状況（南東より）　2．SR43刀形出土状況（北西より）
3．SR43曲物出土状況（西より）　4．SR43机出土状況（北西より）
5．SR43大足出土状況（南より）　6．SR43琴出土状況（南より）
7．SR45（北東より）　8．SR45北遺物出土状況（北より）

図版30　1．SR45（南より）　2．SR45北遺物出土状況（北西より）

図版31　1．SR45南下層遺物出土状況（北東より）　2．SR45南遺物出土状況（東より）
3．SR45中央上層遺物出土状況（南東より）　4．SR45中央上層遺物出土状況（南東より）
5．SR45南上層遺物出土状況（南東より）

図版32　1．SR45南下層遺物出土状況（東より）　2．SR45北遺物出土状況（北東より）
3．SR45北遺物出土状況（東より）　4．SR45中央下層遺物出土状況（南東より）
5．SR45中央下層遺物出土状況（東より）

図版33　1．SR45中央上層遺物出土状況（南東より）　2．SR45中央上層遺物出土状況（北より）
3．SR45北遺物出土状況（北西より）　4．SR45中央上層遺物出土状況（南西より）
5．SR45中央上層遺物出土状況（南東より）　6．SR45中央上層遺物出土状況（北より）
7．SR45中央上層遺物出土状況（南西より）　8．SR45中央上層遺物出土状況（北東より）

図版34　1．SR45南下層遺物出土状況（東より）　2．SR45南下層遺物出土状況（北より）
3．SR45中央上層遺物出土状況（西より）　4．SR45北遺物出土状況（南東より）
5．SR45中央西遺物出土状況（南東より）　6．SR45南下層遺物出土状況（南より）
7．SR45北遺物出土状況（東より）　8．SR45中央上層遺物出土状況（南西より）

図版35　1．SR45中央上層遺物出土状況（北より）　2．SR45中央上層遺物出土状況（北より）
3．SR45中央下層遺物出土状況（東より）　4．SR45南東土層噴砂（北東より）
5．恒武西浦遺跡北区全景（北より）

図版36　1．恒武西浦遺跡北区全景（北東より）　2．恒武西浦遺跡北区中央西（南東より）
3．恒武西浦遺跡北区北（東より）　4．恒武西浦遺跡北区水田跡（東より）
5．SR46（東より）　6．SR46西端土層（東より）　7．SR46上層鉄製品出土状況（南より）
8．SR30下層遺物出土状況（西より）

図版37　1．SR30（南東より）　2．SR30下層遺物出土状況（東より）
3．SR30（95～96）土層断面（東より）　4．SR30（97～98）土層断面（北東より）
5．SR30（97～98）土層断面（北東より）

図版38　1．SR30上層遺物出土状況（南より）　2．SR30上層顎骨29・30出土状況（北より）
3．SR30上層遺物出土状況（南西より）　4．SR30上層遺物出土状況（南東より）
5．SR30上層遺物出土状況（東より）　6．SR30上層遺物出土状況（南西より）
7．SR30上層遺物出土状況（西より）　8．SR30西土層帯遺物出土状況（北東より）

図版39　1．SR30下層遺物出土状況（西より）　2．SR30下層遺物出土状況（北西より）
3．SR30下層遺物出土状況（西より）　4．SR33上層顎骨31出土状況（北より）
5．SR33下層遺物出土状況（北西より）

図版40　1．SR36噴砂（南東より）　2．SR36西壁噴砂（東より）

3．SR36下層遺物出土状況（南東より）　4．SR33・36遺物出土状況（北西より）
5．SR36上層遺物出土状況（東より）　6．SR36上層遺物出土状況（東より）
7．SR32遺物出土状況（南より）　8．SD34遺物出土状況（南西より）
図版41　1．SH43（東より）　2．P777遺物出土状況（南より）　3．SD33遺物出土状況（北西より）
4．SE２（南より）　5．SE３（東より）
図版42　1．SE４（南より）　2．SE４（南より）　3．SR34・35土層断面（南西より）
4．SR34土層断面（北東より）　5．SH42（東より）
図版43　1．笠井51号線　調査区全景（第２調査面）（南より）
2．笠井51号線　SR39顎骨33出土状況（北より）
3．笠井51号線　SR39顎骨34出土状況（北より）
4．笠井51号線　SP828集石検出状況（北より）　5．笠井51号線　SR51完掘状況（東より）
図版44　1．笠井51号線　SE６木組み検出状況（北より）
2．笠井51号線　SE６木組み上部除去後（西より）
3．笠井51号線　SE６木組み上部除去後（北より）
4．笠井51号線　SE６曲物出土状況（西より）
5．笠井51号線　SE５竹製網代出土状況（北より）
図版45　SR１・３出土土器
図版46　SR３、SF49、SB３・４出土土器
図版47　SR15・16出土土器
図版48　SR14・15・17、SX９・10、中区包含層出土土器
図版49　SR41出土土器
図版50　SR41・46出土土器
図版51～56　SR42出土土器
図版57　SR42、SR42～45出土土器
図版58　SR42～45、SR43出土土器
図版59　SR43出土土器
図版60　SR43～45、SR45出土土器
図版61～67　SR45出土土器
図版68～74　SR30出土土器
図版75　SR30・33・36出土土器
図版76　SR32・36、SD32出土土器
図版77　SR30・33・36出土土製品
図版78～106　SR42～45出土木製品
図版107　SE１・６、SR５・42～45出土木製品
図版108　土製品、石製品、鉄滓、鉄製品（下段Ｘ線写真）
図版109～111　鉄製品・鉄滓Ｘ線写真

楠華堂撮影写真

カラー図版８、９、10、11、12、13

図版45、46、47、48、49（２・３・５）、50（32・38・１・２・６・７）、51（１・２・４・20・７・21）、
52（35・36・38・41～44・48・49・51・52・56・58）、53（62）、54（127・132～134・136・137）、
55（138・139・141・146）、56（147・148・150・158）、57（166・168・175～178）、
58（181・184・189・191・195・192・２・７）、59（16・18・24～26・28・29・33・41・62）、60（75・１・５～７・12・16・17）、
61、62（37・39・40・45・48・49・54）、63、64、65、66、67（147・148・159・186・189・190・193・195・201）、
68（２・６・７・12・25・26・30）、69（31・37・42・46・47～49・53・54・56・67）、70、71、72（103・133）、73（147・154）、
74（158）、75（192・３・４・８・１）、76（２・６～８・12・１）、77（８・18～22・30）、78（１～６・８・10・11・14）、
79（12・13・16～20）、80（22～26・29・31・40）、81（41～43・45～49・51）、82（54・57・58・60）、
83（77・79・80・84～86・88～90・92）、84（93・98～106）、85（107・109・113・116・117）、
86（121・124～127）、87（129・130・136・138・141・146）、88（133・140・142・148・149）、
89（144・150・151・155・156・158・159）、90（162・163・167・169）、91（166・168・170～172）、92（174・179）、
93（180・184）、94（188・191・192・196・200・209）、95（154・211～214・217・218・233・235・236）、
96（219～228・231）、97（240～245・247～250・257）、98（251～256・259・260～263）、
99（266・267・269・270・275・276）、100（282・285）、103（336・341）、104（352・354・355）、105（391）、
106（443・444）、107（455・467・482・483・487・488）、108（Ｘ線写真以外）

第Ⅰ章　調査経過と環境

第1節　調査にいたる経過と調査方法

調査にいたる経過

恒武遺跡については『浜松市史』でも取り上げられているように、その存在は古くから知られていた。当地区在住の田辺寛治氏により表採活動が行われ、古墳時代から中世にいたる集落の存在が予想された。その表採資料は浜松市博物館に寄贈され、鈴木一有氏により出土地点と実測図が報告されている（鈴木1994）。また、現在でも周辺の畑地からは土器を採集することができ、広範囲にわたる遺跡の存在が予想された。

恒武遺跡の南東側には、浜北市と浜松市をつなぐ主要道の笠井街道が走っているが、片道一車線と狭く朝夕は渋滞が激しいため、新たな道路の建設が計画されていた。そこで、東名浜松インターから北へと延びる取り付け道路（浜松環状線）の延長工事が実施されることになり、浜松土木事務所の依頼を受け、浜松市教育委員会が中心となり、静岡県埋蔵文化財調査研究所が補佐して第1回目の遺跡範囲確認調査が平成7年10月に行われた。

試掘坑は10ヶ所設定され、長福寺の南隣を№1とし、南に向かって順に№5まで調査し、長福寺の北側は北に向かって№6から№10まで調査した。

その結果、長福寺（平成11年移転）の南側の現水田下と北側の微高地域に遺構と遺物が発見された。遺跡名は浜松市教育委員会と協議の上、字名をとって南を恒武西宮遺跡、北を恒武西浦遺跡と呼ぶことになった。恒武西宮遺跡の南側は遺物の出土量が少なく調査しないとのことであったが、その範囲の確定が困難であったため、北より順に調査を進め遺構が無くなったところで調査範囲を確定する予定であったが、調査区南端からも大型の掘立柱建物跡が発見されたため、結果として予定の範囲を全て調査することになった。ただし、南西部に一部未買地が存在したため、その部分は未調査である。恒武西宮遺跡の発掘調査は、平成8年9月から平成9年3月まで実施し、恒武西浦遺跡は平成9年7月から平成10年3月にかけて調査した。ただし、調査区内には東西方向に現道が3本走っており、これらを全て通行止めにすることは不可能であったため、北側2本の現道下の調査は次年度に送られた。平成10年度の調査はその現道部分で、遺跡中央やや北側と北端部の笠井51号線部分の調査が、平成10年5月より9月まで実施された。中央やや北側地点には、浜松市教育委員会が長福寺の移転地（山ノ花遺跡）を調査した際に発見された旧河道の東側延長部分にあたることが予想された。山ノ花遺跡からは、奈良時代の墨書土器を含む完形に近い多量の土器と古墳時代中期の多種・多量の遺物、とくに豪族に関連すると考えられるような希少な遺物が発見され、慎重な調査が要請されていた。

調査方法

調査区は建設予定の道路幅であったため、非常に細長い区画となった。また、確認調査の結果、広範囲に及ぶ遺跡の存在が判明し、将来の調査のことも考慮し、調査区は国家座標に沿って10m単位でグリッドを組み、南西地点を基点とし東へ向かってA、B、Cの順に、北へは1、2、3と仮番号を付した（別冊2図）。グリッド名は南西杭の番号で呼称し、遺物の取り上げ時には、さらにグリッド内を5m単位で4分割し方位を付した。

平成8年度の恒武西宮遺跡の調査は、北側の微高地部分は遺構が複雑に重複し、南側は排土置場となっていたため、南北端を遣り方測量により、残りの中央部は写真測量によった。

平成９年度の恒武西浦遺跡の調査は調査区が非常に長かったため、南・中・北区に３分割した。中区は大雨により調査区が冠水したため、南～北区の上層遺構群と共に遣り方測量を実施し、他は写真測量によった。

平成10年度の恒武西浦遺跡の調査は、北端部の笠井51号線部分と中区北部の上層遺構は遣り方測量により、下層遺構は写真測量を実施した。

遺跡の略称は、恒武西宮遺跡がTNM、恒武西浦遺跡をTNUとしている。

第２節　地理的・歴史的環境

当遺跡は西の三方原台地と東の磐田原台地に挟まれた天竜川平野の中央部に位置している。行政区画としては、浜松市にあたるが、北の浜北市に近接している。平野部中央に立地していることから、単純に見ると、交通交易の要衝となり得る条件を備えている。

天竜川によって形成された、北東から南西へ延びる沖積微高地上に当遺跡は存在する。この微高地上には笠井街道が走り、巨視的にはその街道に沿うかのように弥生時代以来の遺跡が多く分布している。天竜川平野の縄文時代の遺跡は、海進海退現象と天竜川の氾濫による侵食を受け、その様相はほとんどわかっていない。

当遺跡の南西部に位置する箕輪遺跡（矢田1993）の調査では、カワゴ平パミスと大沢スコリアのペアスコリアが標高4.3mの地点で確認された。箕輪遺跡では、当遺跡で確認されたような礫層は地表下５mでもなく、加藤芳朗氏は縄文時代後期に生成した古芳川湖が存在した可能性を指摘している（加藤1993）。箕輪遺跡では古芳川湖の埋没後、弥生時代後期（中期にさかのぼる可能性大）より水田耕作が開始され、古墳時代後期になるとそれまでの粘土質の土壌からシルトや砂の堆積量が増し、水田としては機能しなくなり、７世紀末葉から８世紀には小河川が流れ、より洪水による砂の堆積量が増し、高燥化する。その後は畑地として利用されているようである。

７世紀後半の環境変動を示す例には、他に静岡市曲金北遺跡（及川1996）がある。ペアスコリアは、地表下１～２mと浅い地点で確認されているが、弥生時代中期後半(有東式期)以降水田として開削され、広大な面積の水田化がなされている。西側の低い地点は、古墳時代の中頃には洪水の影響により耕作が一時中断し、その後、古墳時代後期には再び水田化されるが、７世紀後半には洪水砂により再び埋没するのであるが、箕輪遺跡同様砂質土壌の水田をつくり、可能な限り耕作をするが、奈良時代には放棄されてしまうのである。その後、水田畦畔の方位とは違う方向に、奈良時代の古代東海道が建設されている。

類例はまだ少ないが、７世紀末葉になると低湿地遺跡では洪水砂の影響が顕著であり、それまでの水田経営が破綻してしまった集落も少なくなかったと思われる。生産力の低い砂質水田でも可能な限り耕作を続けていることから、土地の所有形態と水利システムが固定化し、また複雑化し、容易に新天地の開拓ができなかったとも考えられ、自然環境の変動が土地の支配システムの変更を容易にさせた要因の一つになる可能性がある。

当遺跡では、旧河道のSR43～45が７世紀後半には一旦埋没し、その後SR46が流れ、７世紀末葉に埋没し、８世紀になってSR30･42が形成される。SR43～45のように長期にわたる固定化した流路から、短期流動型の流路へと７世紀末葉以降変化する。流路内の埋積土も粘土質から砂質の強いものへと変化し、水流の状態も異なる。

恒武遺跡群の本格的集落形成は、恒武西宮遺跡から厚手の折り返し口縁壺が出土しており、おそくとも古墳時代前期には集落が営まれ、おそらく未調査区に集住型の集落跡が存在し、古墳時代の中頃には

散在的農耕集落が形成され、広範囲に及ぶムラがつくられたものと考えられる。

付近には、平野部では珍しく、横穴式石室の古墳（蛭子森古墳）が6世紀後半にはつくられている（向坂前掲書）。特異な存在とされ、首長層の墳墓は東西の台地上のどこかにあるのではないかとされる意見が多い。しかし、近年の調査では平野部でも古墳が築かれる例も多く、再検討すべきかもしれない。

奈良・平安時代の遺構は、当遺跡では北側に集中している。とくに、旧河道内からは律令的祭祀に関連した遺物と牛馬骨が多数出土し、墨書土器や北隣の笠井若林遺跡（大谷1999）や東隣の社口遺跡（鈴木前掲書）から出土の円面硯などの存在から、官衙関連施設が存在していた可能性は高いのであろう。

南西部には敷智郡衙とされる伊場遺跡（向坂他1977）、西には引佐郡衙と目される井通遺跡（梁原1996）が存在し、遠江国府の御殿・二之宮遺跡（中嶋他1981）へと至るルートの中間に当遺跡は位置している。浜名湖北岸から東の三方原台地へ延び、三方原台地東縁部の下滝遺跡（佐野1997）から当遺跡へ、そして、磐田原台地西縁部の長者屋敷遺跡（平野1994）などへとつながるようなルートの存在も予想される。

南西の伊場遺跡へは、笠井街道がどこまでさかのぼるのか不明であるが、その原形となる条里制以前の集落間をつなぐ主要なルートも当然利用されていたものと考えられる。

当遺跡からは、平安時代以降の陶磁器類も少量ではあるが出土している。北側には式内社の若倭神社（現在の春日神社の境内に存在するようであるが、若倭神社の位置については諸説あり、不明な点も多い）が鎮座し、その周辺の笠井若林遺跡では、奈良時代以降の集落跡が存在する。西宮遺跡の東側にも神社が存在したとされ、その宮の西側ということで小字名が付されている。寺院も西宮遺跡の北部に長福寺が存在した。時宗の寺院で、田辺寛治氏の『長福寺誌』によると定治年間（1362～1367年）に天台宗の寺院として建立され、応永元年（1394年）に時宗に改宗し、西宮山長福寺と称されるようになったとされる。ただし、宝暦9年（1759年）に火災にあい、安政の大地震では半壊の被害を受けていることもあり、詳細については不明な点も多い。応永元年の記述が正確ならば、それ以前には神社も建っていたことになり、室町時代には西宮の地に長福寺も存在したことになるのである。しかし、発掘調査では、最近まで存在した長福寺跡地では明確に中世にさかのぼる根拠は発見されず、大火事にあったとは考えにくい状況でもあり、また寺の周囲の土塁上の施設も近代以降のものであろうとされている。詳細は次回の報告書を参照していただきたいが、江戸時代までさかのぼる可能性はあろうが、それ以前については別の場所にあったとも想定される。

第3節　基本土層について

基本土層は、恒武西宮遺跡と恒武西浦遺跡は、西浦遺跡北区北東部のやや低い地点を除いて概ね共通している。基本土層はローマ数字のⅠ～Ⅵを用いて示しており、分層が可能な場合はアルファベットで細分しているが、地点によって土質が異なる場合も多い。細分層の内容は、各地点の土層説明を参照していただきたい（別冊図版第10・11・29・32・41・54図）。ここでは、基本土層Ⅰ～Ⅵの内容について述べることにする。なお、分層に際しては、加藤芳朗先生に現地で御指導をいただいており、内容については先生からの御教示によるところが大きいことを付け加えておきたい。Ⅰ層上の上層は盛土と現代の耕作土で、西宮遺跡の13ライン以南は標高も低く水田耕作が行われており、以北は微高地域で砂質が強いため畑として土地利用されている。

Ⅰ層土も耕作土で、西宮遺跡では13ライン以南が水田跡である。ⅠB層は酸化鉄が斑状に認められ、水田作土の下層土と考えられる。Ⅰ層土とⅡ層土の境界は、酸化鉄と酸化マンガンが集積し、固く締まった状態となっていた。Ⅰ層土は湧水点から1.5m以上高く、下層の砂質の強い土壌から乾田型水田であったと考えられる。当然のことながら、Ⅰ層土の上層の現代に至る水田も乾田であるが、調査区内からは、

昭和16年以降に二毛作を目的とした暗渠排水が発見されている。暗渠は葉脈状に配置され、中には粗朶が埋められていた。これは戦時下における政府の緊急食料対策によるもので、湿田を乾田化し、米の増産と裏作を可能にするためのものである。ここでは暗渠の必要性はほとんどなかったものと思われるが、Ⅰ層とⅡ層の境界にできた酸化帯が不透水層となり、水はけのやや悪い水田であったため、暗渠が部分的につくられたのではないかと思われる。

13ライン以北は微高地域にあたり、畑として耕作されていた地点が多いものと考えられる。

Ⅱ層土は、上層がシルト質で下層が細砂質の自然堆積状であるが、遺物がまんべんなく大量に出土し、畑の耕作や居住に伴う人工的攪拌と侵食による自然の攪拌をかなり受けている。遺構はこのⅡ層内でほとんど確認され、幅の広い溝は上層でその方向は確認でき、小溝や小穴は下層でのみプラン確認が可能であった。13ライン以北では包含層が厚く、徐々に掘り下げながら何面かに分けて、小穴や小溝のプラン確認を行った。遺構の掘り込み面は多少の高低差は当然あったものと考えられるが、集落跡の上限を示す5・6世紀の遺物が中層からまとまって出土していることから、遺構はⅡ層上部から掘り込まれているものが多いと考えられる。

Ⅱ層土には酸化鉄や酸化マンガンが多く含まれているが、上層より浸透した還元力の強い水により、灰色条斑も認められる。

Ⅲ層土は粘土～細砂が互層に堆積した自然堆積層である。管鉄が発達し、一部に太いパイプ状の管鉄も認められる。Ⅲ層以下からは遺物は出土していない。

Ⅳ層土は粘土質で、ⅣB層土は黒色が強い。ⅣA・B層土からは炭化物や植物遺体が検出される場合が多く、遺構が存在する可能性が試掘調査の段階より指摘され、上層の調査終了後に深掘りをして下層遺構の確認調査を実施したが、遺構と遺物は発見されなかった。Ⅲ層土と同様に管鉄も多く、上部にⅢ層へと続くパイプ状管鉄が認められる地点もある。

Ⅴ層土は粗砂で、Ⅵ層土の砂礫内の地下水により還元されている。

Ⅴ層とⅥ層の境界は、13ライン以北が標高10m前後で、以南よりむしろ低い状況にあるのが、Ⅲ層とⅣ層の境界では高低差が逆転し、Ⅱ・Ⅲ層が13ライン以北で厚く堆積し微高地化している。西浦遺跡中区北～北区南にかけては、旧河道によりⅡ層も大きく侵食を受けているが、付近の微地形はⅢ層堆積後に形成され、後の土地利用に大きく影響している可能性がある。

時期的な問題については不明な点が多いが、Ⅰ層は昭和40年代以降の区画整理事業の攪拌を受けていないと考え、それ以前に、Ⅱ層は古墳時代中期～近世(近世の遺物はあまり出土していない)、Ⅲ層が古墳時代前期以前に、Ⅵ層は縄文時代の海退期に大まかではあるが対応するものと考えられる。Ⅲ層が古墳時代前期～中期と考えると、各地で報告されているこの時期の自然環境の変化に対応する可能性もある。

ここで、北区北東部の状況に少し触れておきたい(別冊41図)。北区南西部の微高地部は他地点とほぼ共通しているが、北東部はやや異質であったため、層位にアラビア数字を用いている。2層上面で中世の溝(SR34)が確認され、下面で奈良～平安時代前期の溝(SD34)が発見されている。3層の黒色の強い粘土が薄く堆積し、4層上面では溝と小穴が確認された(別冊40図)。2層以下は固く締まっていた。

引用・参考文献

向坂鋼二　1968『浜松市史　一』　浜松市役所

向坂鋼二他 1977『伊場遺跡遺構編』　浜松市教育委員会

中嶋郁夫他 1981『御殿・二之宮遺跡発掘調査報告Ⅰ』　磐田市教育委員会

田辺寛治　1988『長福寺誌』

矢田　勝　1993『箕輪遺跡』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
加藤芳朗　1993「箕輪遺跡の地学的環境・埋没水田の土壌学的検出・火山灰の同定」『箕輪遺跡』
㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
鈴木一有　1994『社口遺跡』　㈶浜松市文化協会
平野吾郎　1994「長者屋敷遺跡」『静岡県史　考古２』　静岡県
及川　司　1996『曲金北遺跡（遺構編）』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
栗原雅也　1996『井通遺跡』　細江町教育委員会
佐野一夫　1997『下滝遺跡群』　㈶浜松市文化協会
大谷宏治　1999『年報XV』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所

第II章　発見された遺構

第１節　竪穴住居跡

竪穴住居跡は５軒が発見されているが、畑の耕作による撹乱と崩れ易い土質のため、プラン確認は非常に困難であった。そのため、平面プランなどは不明瞭な点も多く、隅丸か直角かなどといった細部にわたる検証はできていない。周溝は土層断面などによりその有無を検討したが、発見できなかった。

恒武西宮遺跡では、中央西側でSB１（別冊14図）が確認された。6.2m×4.4mと小型で、略長方形を呈しているが、もう少し東側にひろがっていたものと考えられる。北東部に炉跡が位置しているが、柱に近接しており恒常的なものとは思えない。南西部の小穴内からは、古墳時代後半の土師器が出土し、覆土内からは、別冊126図７の器台と同一個体の破片も発見されている。棟方位はＥ－28°－Ｓである。他の遺構との重複が著しいため不明な点が多い。

恒武西浦遺跡では、南区で３軒、中区で１軒が発見されているが、上層では焼土や白色粘土が点在している地点が多くあり、掘り込みの浅い竪穴住居跡が存在していた可能性は高い。それらについては性格不明遺構として図示した（別冊59・74図）。

SB２（別冊45図）は、北側に白色粘土が混じる竈状の痕跡が認められたが、焼土や炭化物が含まれなかったため、竈とは認定できなかった。東西長は6.45mで平面プランは方形を呈するものと考えられる。棟方位はＥ－４°－Ｓである。この竪穴住居跡は、埋没の途中で高坏を主体とする多くの土器が廃棄されており、古墳時代中期の土器も多い（別冊132図）。

SB３（別冊46図）は、南側をSR16に切られているが、ほぼ全容が理解できる。平面形態は5.46m×5.2mの方形で、壁際には床面下に溝状の掘り方があり、北壁際には炉跡が２基確認された。炉跡内には黄白色粘土が貼られていたが、竈の袖部にあたる部分は無く、もし竈が付設されていたと考えるならば、袖部付け根付近にも焼土が存在することから、粘土以外の礫などによって簡易な施設が構築されていた可能性は残るであろう。棟方位はＥ－38°－Ｓである。埋積土内からは中央部にまとまって土器が出土しており、TK10型式（田辺1981　以下須恵器は田辺編年を用いる）並行の須恵器なども見られる（別冊132図）。

SB４（別冊47図）は南側半分をSR19～21により切られている。東西長は7.65mと比較的大型で、北壁中央部に白色粘土でつくられた竈が付設されている。煙道部は注意深く検出に努めたが、確認できなかった。天井部は崩落し、床面に貼り付いていた。竈周辺からは、床面上から礫や甕を主体とした土器が少量出土し、須恵器にはTK217型式前後並行のものが存在する（別冊133図）。竈の東隣には貯蔵穴と考えられＬ字形の小穴が位置している。棟方位はＥ－８°－Ｎである。

SB５（別冊51図）も北壁中央部に白色粘土でつくられた竈を有しているが、小穴によって切られ、構造は不明である。平面形態は5.25m×5.23mの方形で、棟方位はＥ－１°－Ｓである。プラン確認面では、暗褐色土が広範囲にひろがっており、遺物も比較的多くその暗褐色土内より出土した（別冊133図）。西側と北側の落ち込みはその暗褐色土の落ち込みで、性格は不明である。

古墳時代中期には一般的に竈が普及すると考えられているが、古墳時代後期のSB３には明確な竈が認められなかった。壁際の焼土の解釈には、もう少し類例の増加を待ちたいが、遠江地方で明確な竈が認められるようになるのは、浜松市伊場遺跡（漆畑1987）のKD４などのようにTK208型式並行期ぐらいからであろうとされている。ここで問題となるのが、浅羽町古新田遺跡（柴田稔1992）の例である。古新田遺跡はTK208型式並行期を前後する時期につくられた豪族居館跡とされている遺跡で、掘立柱建物跡

には最新の建築技術を応用した様々な形態のものが存在する。しかし、竪穴住居跡には竈はなく、中央部もしくは柱穴間のやや外側に地床炉が存在するのみである。この時期には、竈を採用する集落とそうでない集落があった可能性がある。

古墳時代中期以降には様々な形態の掘立柱建物跡が普及し、それまでの梁間1間の倉庫や納屋といった収納施設だけではなく、様々な用途の掘立柱建物跡が一般の集落にも見られるようになると考えられている。しかし、遠江地方では、主たる居住家屋は奈良時代まで竪穴住居跡であったようである。当遺跡では大量の遺物出土量に対して、竪穴住居跡はわずか5軒と散漫な在り方を示している。約9,000m²の中に、多く見積もっても一時期に1・2軒程度である。これは、古墳時代中期以降の政治的安定と単位集団の変質に伴う居住空間の変化が、こうした散在型の集落をつくり出したものと考えられている。

第2節　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は43棟が発見された（別冊12～15･45～53図）。恒武西宮遺跡で16棟、恒武西浦遺跡では17棟が存在する。この他に、柱穴と認定できなかった小穴は多数存在し、掘立柱建物跡数は実際にはもっと多かったものと考えられる。

個々の掘立柱建物跡の形態については、図面と小穴一覧表を参照していただくこととし、ここでは特徴的なことと時期的な問題について補足しておきたい。古墳時代中期以降の建物跡は、特殊な事例を除いて屋敷地内に群を形成し、それらの配置は棟方位が並行もしくは直行する場合が多いようであるので、ここで各掘立柱建物跡の棟方位をまとめておく。

SH 1	E－11°－N	SH 2	E－18°－S	SH 3	E－41°－S
SH 4	E－33°－S	SH 5	E－0°－NS	SH 6	E－4°－S
SH 7	E－7°－S	SH 8	E－0°－NS	SH 9	E－25°－S
SH10	E－12°－S	SH11	E－19°－S	SH12	E－13°－S
SH13	E－13°－S	SH14	E－5°－S	SH15	E－9°－N
SH16	E－34°－N	SH17	E－11°－S	SH18	E－8°－S
SH19	E－18°－S	SH20	E－31°－S	SH21	E－30°－S
SH22	E－43°－S	SH23	E－35°－S	SH24	E－40°－S
SH25	E－38°－N	SH26	E－36°－S	SH27	E－4°－N
SH28	E－8°－S	SH29	E－3°－N	SH30	E－13°－S
SH31	E－2°－S	SH32	E－7°－N	SH33	E－35°－S
SH34	E－24°－N	SH35	E－13°－S	SH36	E－16°－S
SH37	E－5°－N	SH38	E－44°－S	SH39	E－0°－NS
SH40	E－27°－N	SH41	E－12°－S	SH42	E－15°－N
SH43	E－13°－N				

掘立柱建物跡は、周辺の微地形や環境に大きく左右されて建てられており、群馬県の黒井峯遺跡（石井1990）の例をみても棟方位だけでは同時性は証明できないが、時代差を考えるうえでの一つの根拠にはなり得るであろう。

ここでは、恒武西宮遺跡と恒武西浦遺跡は距離的にかなり離れていることから、分けて述べることとする。

恒武西宮遺跡では、出土土器の9割以上が古墳時代中・後期の土器であり、確率的に言えば、掘立柱建物跡の大半は当該期に属する可能性も高い。小穴は調査区中央部に集中区が認められるが、北側の微

高地域に向かうにつれて数量は増加傾向にある。南側は散漫な状況であり、土器の出土数量も激減する。おそらく、集落の南端部に近いのであろう。

掘立柱建物跡の棟方位は、①ほぼ東西のものが4棟、②10度前後北(北に傾いているもの、以下同様)のものが2棟、③34度北が1棟、④10度前後南が4棟、⑤20度前後南が3棟、⑥35度前後南が2棟の6群にまとめられる。

ここで、棟方位がある程度規制を受ける可能性のある大型流路跡の方向を棟方位との対比が可能なように変換して以下にまとめておく。

SR 1	E－25°－S	SR 2	E－30°－S	SR 3	E－45°－NS
SR 4	E－30°－S	SR 5	E－40°－N	SR 6	E－30°－N
SR 7	E－5°－S	SR10	E－25°－S	SR11	E－略30°－S

これら流路跡の埋没時期は、出土土器から考えるとSR 3・10は6世紀前半、SR 1・2・4・5は7世紀、SR 6・7・11は中世以降である。

調査区内のほぼ全域に存在する畑跡と考えられる小溝群は、SR 1・4・10に概ね直交していることから、それらがかなり近い時期に存在した可能性は高く、棟方位がN－25～30°－Sの掘立柱建物跡がそれらの遺構と関連しているものと考えられる。一部外れるものがあるが⑤・⑥群が該当している。その他、方位の概ね一致するものは、①群がSR 7と③群がSR 6となる。ここで問題となるのが、流路との距離である。

①群はSH 5・6・8・14で、SR 7とSH14は離れ過ぎているが、その他は近接している。SH14は北側の調査区外へと延びているため不明な点が多いが、最下層で確認されたものであり、中世より古いものと考えられる。④群のSH 7の方位もSR 7に近く、柱間間隔も広いことと総柱形となることから、①群に含めておく。よって、①群はSH14を除き中世以降の可能性があり、SH 5・6は総柱建物跡と側柱建物跡で、L字形に配置されている。

③群はSH16であるが、SR 6とは離れ過ぎている。重複するSR11の方向とほぼ一致するが、SR11に切られており、中世より少し古いものと考えておきたい。

④群はSH10・12・13で、調査区北西部にまとまっており、同時期に存在した可能性が高く、SH10を後述のように出土土器から古墳時代中期とすると、④群は当該期となるであろう。SH12の柱穴内からは菱の実と石製模造品の細片が出土している。

⑤群はSH 2・9・11で、⑥群はSH 3・4である。これらについては、方位を同じくする流路内出土土器から古墳時代中・後期に属する可能性がある。⑥群のSH 3・4は重複しているが、石製模造品を出土したSF 7とSF 9に挟まれており、古墳時代中期の可能性が高い。SH10・11は建て替えによるものと思われ、上層より多量の土器が出土している(SF49)。柱間の間隔がやや広いが、竪穴住居跡の廃絶後に土器が埋積土内に廃棄されたと考えると、SH10・11も古墳時代中期となる。

その他のSH 1とSH15は、調査区の南北端に位置し、②群とまとめているが関連性は薄いと考えられる。SH 1は古墳時代後期の土器が出土したSR 2に切られており、形態も大型建物跡にしては柱間間隔が狭い点で古墳時代的であり、古墳時代中・後期に属するであろう。SH15はSH16と同様にSR11上層南肩部確認後に発見されていることから、中世より古く、棟方位から考えると古墳時代中・後期の可能性が高い。

自然地形に左右される流路跡と建物跡の方向の一致は、偶然の産物によることもあるが、とりあえず、上記の検討結果による各掘立柱建物跡の時期と大きさ〔計測単位はcm〕をまとめておく。

SH 1	古墳時代中・後期	925×679	SH 2	古墳時代中・後期	(539)×485
SH 3	古墳時代中期	323×323	SH 4	古墳時代中期	239×239

SH 5	中世	399×332	SH 6	中世	422×385
SH 7	中世以降？	672×414	SH 8	中世以降	269×264
SH 9	古墳時代中・後期	360×197以上	SH10	古墳時代中期	326×315
SH11	古墳時代中期	412×400	SH12	古墳時代中期	434×384
SH13	古墳時代中期	442×369以上	SH14	中世より古い	604以上×384以上
SH15	古墳時代中・後期	220×185	SH16	中世よりやや古い	200以上×185以上

次に特徴的な掘立柱建物跡について少し記しておきたい。SH１は南側中央部のＰ７・８が桁側柱列より内側に位置し、入り口が存在したようである。その南側の溝は目隠し塀の塀り方と考えられないであろうか。SH３は２間×２間を想定しているが、中間の側柱は隅柱をつなぐラインより内か外側に柱１本分外れている。SH７は中世以降としているが、古墳時代の土器が出土したSD１との関係が微妙である。SH12は西と北側には連続していないことから２間×２間であり、柱堀り方は大きく、平面形態は隅丸（長）方形を呈し、やや異質である。柱痕は掘り方底面にめり込んでおり、重量物を納めた高床式倉庫跡と考えている。

恒武西浦遺跡で発見された掘立柱建物跡は、南区南半（Ａ地点）、南区北端～中区南端（Ｂ地点）、中区中央南部（Ｃ地点）、北区北部（Ｄ地点）の４地点にまとまりが認められる。Ａ地点ではSH17～23が、Ｂ地点ではSH24～30が、Ｃ地点ではSH31～41が、Ｄ地点ではSH42・43が存在する。Ｄ地点を除く各地点の掘立柱建物跡は重複しており、同一時期に存在したものではなく、各地点では何棟かの建物跡がセットとなり屋敷地内に建てられていたものと考えたい。ここでは、各地点毎に棟方位と周辺の竪穴住居跡や流路跡などの方向などを手がかりとして、時期的問題を考えてみたい。

Ａ地点ではSH17・18が10度前後南で、SH20・21・23が30度前後南でまとまる。SH17・18は柱穴堀り方が平面方形で、比較的大型の建物跡である。同様の棟方位のものにSB２の西側で発見された柱穴例があり、西壁にも柱穴が確認できたことから、西側へと延びる大型の建物跡となるであろう。これらの建物跡の棟方位はSB２に近く、古墳時代中期に属する可能性がある。SH20・21・23の棟方位はSR15・16の方向やSB３の棟方位と同じように南に傾いている。SR15・16は時間幅が広く時期を限定する材料とはならないが、SB３との棟方位の類似を考え、SH20・21・23は古墳時代後期と考えておきたい。SH23上層には焼土が散乱しており（SX２）、竪穴住居跡であった可能性がある。

SH22はSH23の建て替えの可能性もあるが、棟方位がSR15・16にかなり近いことから、その流路をかなり意識していたものと考えたい。また、SR16Ｂからは、奈良時代の土器が南側から投棄されている状況も確認されていることから、SH22が当該期に存在していた可能性を指摘しておきたい。

SH19の南東部上層には厚い焼土層があり、周辺からは奈良時代の土器が出土している。両者の関連は不明であるが、掘立柱建物跡の上層から出土する焼土には火災によるものも多いが、火所となる場合も想定される。

Ｂ地点にはSH24～SH30が存在し、内４棟が１ヶ所で重複しており多時期に及ぶものと想定される。

南東部のSB４の棟方位に近いものはSH27・29で、単純に棟方位の類似から古墳時代後期後半に比定しておきたい。SH29は北側の焼土を含めて竪穴住居跡となる可能性が高い。上層からは古墳時代中・後期の土器が出土している（SX７）。

SH24～26は棟方位が45度前後のもので、大きく南に振れている。SR16との関係が微妙ではあるが、SB３の棟方位に近いこととSB４を避けているかのように配置していることを重視し、古墳時代後期前半頃と考えておきたい。

SH28・30は南側の柱列が並んでおり、同時存在の可能性が高い。北側のSD21・22は０度前後で並行し、時期は奈良時代～平安時代前期と考えている。SH28・30はSD21・22と関連するならば、当該期と考えら

れる。

C地点ではSH31～41が発見された。この地点ではSB５、方形区画、北側の旧河道とA・B地点の建物跡との関係といった建物の構築に際しての複雑な要因が考えられ、一概には時期を限定できないのが現状である。

SH31～41の棟方位は４群にまとめることが可能であり、０度前後のもの（①群）、15度前後南（②群）、40度前後南（③群）、25度前後北（④群）に分けて考える。

①群はSH31・32・37・39で、古墳時代後期のSB５の棟方位に近く、SB５とは重複していない。

②群はSH35・36・41である。SH35は柱穴が平面方形の堀り方で、棟持柱が柱１本分外側に位置する大型建物である。SB５を切っていることから、古墳時代後期後半以降である。②群は方形区画との関係が注目されたが、SD22・23と重複している。SD22・23が区画内の間仕切りと考えれば②群は区画内と言える。とりあえず②群は奈良時代～平安時代前期と考えておきたい。

③群はSH33・38で、棟方位が大きく南に振れている。SH33の柱穴内より古墳時代中期の土器が出土しており、③群は古墳時代中期の可能性が高い。SB３の棟方位とは矛盾しない。

④群はSH34・40で近接している。SH40上層からは古墳時代後期の土器と共に焼土（SX10）が出土しているが、北側の旧河道との関係から平安時代以降を想定しておきたい。

D地点ではSH42・43が存在する。SH43の柱穴内からはK－14型式の皿が出土しており、平安時代前期である。両者は棟方位がほぼ一致することから、併存していたものと思われる。

上記の検討結果を恒武西宮遺跡例と同様に以下にまとめておく。

SH17	古墳時代中期	545×529	SH18	古墳時代中期	573×377以上
SH19	奈良時代？	515以上×455	SH20	古墳時代後期	524×390
SH21	古墳時代後期	403×326	SH22	奈良時代	446×390
SH23	古墳時代後期	319×312	SH24	古墳時代後期前半	490以上×476以上
SH25	古墳時代後期前半	222以上×200以上	SH26	古墳時代後期前半	539×476
SH27	古墳時代後期後半	403×304	SH28	奈良～平安時代前期	440×339
SH29	古墳時代後期後半	290×281	SH30	奈良～平安時代前期	501以上×271以上
SH31	古墳時代後期	665×280	SH32	古墳時代後期	556×260
SH33	古墳時代中期	534×410	SH34	平安時代以降	339×252
SH35	奈良～平安時代前期	742×464	SH36	奈良～平安時代前期	574×268以上
SH37	古墳時代後期	239×233	SH38	古墳時代中期	191×180
SH39	古墳時代後期	496以上	SH40	平安時代以降	486×195以上
SH41	奈良～平安時代前期	269×227	SH42	平安時代前期	426×322
SH43	平安時代前期	597×296			

第３節　流路跡と溝状遺構

流路跡と溝状遺構の厳密な区別はできていないが、比較的大型の溝状遺構を流路跡と考えて記述している。

流路跡は当初から自然にできたものか、人工的な溝が流路となったかは不明であるが、地域や時代によって流れの方向が類似していること、幅が一定していないこと、蛇行しているものが多く埋積土には一部ラミナが認められることなどから、自然流路と判断している。

溝状遺構の多くは並列もしくは直交しており、それらの多くは畑の畝間や侵食痕であろうと考えられ

る。包含層内より大量の遺物が出土するのは、耕作や流路からのオーバーフローした水により流されたものが多いと考えている。

恒武西宮遺跡では、調査区全域で流路跡が発見されているのに対して、西浦遺跡では地点が限定されており、その在り方が異なるためここでは分けて記述を進めることとする。

恒武西宮遺跡（別冊４～８図）の流路跡については、掘立柱建物跡との関連で、第Ⅱ章第２節においてその方向と埋没の時期について少し触れているが、ここで再度まとめておく。

SR１	N－25°－E　7世紀	SR２	N－30°－E　7世紀
SR３	N－45°－E　6世紀前半	SR４	N－30°－E　7世紀
SR５	N－50°－E　7世紀	SR６	N－30°－W　中世以降
SR７	N－5°－E　中世以降	SR８	N－23°－E　中世以降
SR９	N－2°－W　中世以降	SR10	N－25°－E　6世紀前半
SR11	N－略30°－E　中世以降	SR12	N－25°－E　古墳時代後期

流路跡内出土遺物は侵食による落ち込み、周辺部からの流れ込みや二次的廃棄によるものなどが多分にある。また、存在期間をどの程度の幅で考えるかによって時期は異なってくるため、時期を限定するまでにはいたらなかったが、およそ古墳時代以前とより新しいものに分けて考えることができる。

古墳時代以前のものはSR１～５、10・12で、方向は北東から南西を向いているものが多い。SR１・２・４・10・12は概ね並列しているのに対して、SR３・５は南に大きく振れている。SR３とSR１は北東部で合流しており、出土遺物からするとSR３の方が早くに埋没しているようである。SR３内からはSF９から流れ込んだ古墳時代中期の石製模造品なども存在するが、TK10型式並行の須恵器坏を主体とした土器群が合流部付近よりまとまって出土した。SR１も北東部でSF10・11と重複しているため、古墳時代中期の土器が混在している。SF11は当初SR１の肩部と考えたため、別冊125図20・22はSR１出土となっているが、SF11出土である。5・16はＡ１区より肩部を滑り落ちたかのような状況で伴出した。SR５もSR４と南西部で合流している。SR５内出土須恵器器台とSR４・12出土器台が同一個体の可能性が高く、同時に存在していたとも考えられるが、SR３の状況を加味すると、SR５はSR４より早くに埋没したものと考えている。

流路跡の断面形態はＶ字状を呈するものが多く、下層には有機質を含む粘質土が認められるものが多かった。SR５の東壁では最下層より粗砂が認められ侵食の状況を示していたが、ほとんどは水が流れていたというより、埋積土の内容から判断するとよどんでいたような状況にあったのではないかと考えられる。流れの方向は、恒武西浦遺跡で発見された旧河道が北東から南西に向かって流れていた（加藤先生の御教示による）ことから考えると、同様に北東から南西方向を想定するのが妥当と思われる。

古墳時代より新しい流路跡には、SR６～９・11がある。当遺跡の傾向としては、中世以降の流路跡の埋積土はやや白色の強いことが挙げられる。SR６・９にその傾向は顕著であった。SR６はSR11とつながる可能性もある。SR11は北微高地を北東から南西にかけて大きく抉って流れており、SR７との合流部で西へと大きく蛇行している。SR７はSR11の支流となった時期もあるようである。SR８は北側のSD10から連続しSR７に合流している。

溝状遺構は幅が50cm前後、深さは30cm以下と浅いものが多い。流路跡との新旧関係は不明であるが、調査区中央部ではSR４を意識して切れているものも多く、SR４と併存していた可能性がある。

恒武西浦遺跡（別冊22～28・35～41図）の流路跡と溝状遺構は多数存在するため、南・中・北区に分けて説明し、時期や特徴を個別にまとめることにする。

南区では２面の調査を実施しており、上面ではSR14上層（別冊58図）、SR16、SR19～21が発見されている。図面上では下面の状況とほぼ同じであったため、下面の図（別冊22・23図）にまとめた。これら

の流路跡内からは様々な遺物が出土しているが、比較的大型の山茶碗の破片が混在する場合が多く、最終的には中世以降に埋没しているものと思われる。ただし、SR15・16のように古墳時代や奈良時代の土器がまとまって出土している例があり、その規模から考えると長期継続と考えるより同一地点に断続的に流路が存在したものと考えざるをえないものもあり、その形成時期は不明なものが多い。

南区南部のSR14の方位はN－82°－Wで、ほぼ東西方向である。東端部からは奈良時代の土器が拳大の礫と共に上層からまとまって出土したが、灰釉陶器がSR14より出土しており、これらは平安時代中期以降に廃棄されたものと考えたい。この流路跡と同一方向にSD17が上層から確認され、古瀬戸片が出土している。SD17はSR14が最終的に埋没する段階の流路底面の侵食痕と考えると、SR14は平安時代中期には存在し、中世には埋没した可能性が高い。南東部のSR13はSR14から派生したものと考えると、流れの方向は東から西ということになるであろう。

南区中央部にはSR15・16が存在し、およそN－60°－Wで北西から南西方向を向いている。底面は凹凸が著しく、古墳時代から中世にいたる土器が出土している（別冊55～57・134～136図）ことから、何回かの侵食と埋没が繰り返されたものと考えている。ここでは、南側のテラス状の部分をSR15とし、その北側全体の流路跡群をSR16とした。そして、そのSR16の中で時期の限定できる流路跡にABを付した。SR16Aは北側の幅2m強の流路跡で、SR16の中でも最終段階で確認できたものである。SR16Bは多量の遺物が出土した南側下部の流路跡である。SR16は平面プランではほとんど確認できず、土層断面によりプランを確定しているが、流路の新旧関係を明らかにするまでにはいたらなかった。

SR15からは古墳時代中期の甕などがまとまって出土している。このSR15と重複するかのように、南側に不規則な網目状の小溝群が存在している。これらの中には畑の畝間も含まれている可能性もあるが、多くはSR15・16からオーバーフローした水による侵食痕と考えている。SR16Bからは、奈良時代の土器が破片の状態で灰白色粘土内より多量に出土した。これらの中には、ミニチュア品や手捏ね土器などの祭祀具があり、鉄製品も出土している。SR16Aからはあまり遺物は出土していないが、7世紀後半の完形の須恵器坏蓋が出土している。SR16の上層からは山茶碗が出土していることから、鎌倉時代には流路は埋没してしまったようである。SR15・16は、出土した土器に時間軸上の連続性が認め難く、その規模から考えても長期にわたって流れていた河道とは思われない。よって、古墳時代中期から鎌倉時代にかけて断続的に流れたものと考えられる。

SR15・16の流れの方向は定かではないが、中区北部の旧河道へと連続するものと仮定すると、南東から北西への流れを想定できる。

南区北西部のSR17はN－20°－Eで、底面は侵食作用により網目状に凹んでいる。奈良時代のSR20に切られていることから古墳時代後半に流れたもので、微量の石製模造品や大量の土器が出土した（別冊58・59・137図）。中には、礫を敷いた上に底部を欠いた甕を置き、その底部を高坏坏部で蓋をしたかのような状態の土器も出土しており、別の遺構が存在していた可能性が高い。西側のU字溝設置工事の際にも、断面に焼土が確認されていることから、遺物は侵食により他遺構から流れ込んでいるものが多いと考えられる。

南区北部のSR19～21は北東部で重複している。SR19は西側で南に屈曲しているが、上面段階では西へと延びていた。出土土器には山茶碗があり、鎌倉時代には埋没したものと考えられる。SR21からも山茶碗の細片が出土している（別冊137図）。SR20はN－80°－Wの東西方向の流路跡で、上層からは奈良時代の土器が列状に出土した（別冊59・165図SX5）。

SR19周辺にはSR18のように幅広の凹みが存在しているが、これらの多くも侵食痕であろうと考えている。

調査区南半部の細溝群の多くも侵食痕の可能性を指摘してきたが、南端部のSD16からは古墳時代中期

の壺の破片がまとまって出土した（別冊137図）。細溝群は、古墳時代の土器破片が少量出土する例がほとんどであり、SD16は建物跡の排水溝などを想定すべきかもしれない。

中区は、北部に旧河道が上下に重複していたため分層発掘を実施し、その旧河道以南は１面の調査である（別冊24～26・35～37・60～64図）。

中区南西部には南北方向にSR22・23といった流路跡があり、これらは南区のSR17・21に連続するものと考えられる。

中央部には略長方形に巡る区画溝（SD22・23・28）が位置している。断面形態はU字状で、板塀状の施設を埋め据えたような形跡は認められなかった。SD22は南東部で屈曲し、SD23と平行している。SD23がSD21に連続する可能性もあるが、SD28の北東端が東へ伸びていることから、SD23は東へと屈曲し、別の区画を東側に形成していたものと考えたい。南側のSD21と平行するSD22との空白域は通路となっていたのではないかと考えている。出土土器には古墳時代から中世のものがあり（別冊138図）、時期を限定するまでにはいたらなかた。ただし、少量の細片ではあるが、奈良時代の土器の出土とSD22に接続するSD26から奈良～平安時代前期の甕が出土している（別冊74・138図）ことを過大評価すると当該期の可能性は高い。

旧河道以南には多くの溝状遺構が存在する。南東から北西方向の細溝は旧河道に直交し、おそらく旧河道へと流れ込んだ水の侵食痕であろう。その他、SD24のように掘立柱建物跡を囲んでいるかのようなものもあるが、ほとんどは性格不明である。

中区北部のSR25～28からは、磁器、瓦やスレート片が出土しており、近代以降のものである。SR25・26からは暗渠と考えられる板材が並んで発見された。南側のSR24からは、古墳時代中・後期の土器が少量出土したが、時期はより新しいものと考えられる。

北西部のSR29はN－50°－Eで、おそらく北東から南西へと流れたものと考えられるが、埋積土は均質的なシルト質で、規模の割には水流は緩やかであったものと思われる。出土遺物は少ないが、天日茶碗や内耳鍋（別冊138図）が出土していることから中世以降であろう。

SR29の南側の細溝をSR40（別冊35図）としたが、これは侵食による溝の底面にできる細溝と考えている。黄褐色シルトを除去した後に暗褐色粘土上面で確認できたものである。深さは30cm以下と浅く、山茶碗などが少量出土した（別冊138図）。下層の暗褐色粘土を除去した後にも同様の細溝群が発見された。これらの溝はおよそN－50°－Eで、上層の溝とほぼ同じ方向である。暗褐色粘土は溝群の両肩部周辺にも薄く堆積し、溝群に向かって傾斜していた。溝群内からは灰釉陶器片などが出土しており、下層のSR41が平安時代前期であるので、平安時代の後半に形成されたものと考えられる。

これらの細溝群も同様であるが、下層では旧河道による侵食と埋没が繰り返されている。旧河道の平面調査は、分層発掘が可能な鍵層が確認された場合や遺物が集中的に出土した場合に実施しており、旧河道の中間層に便宜的に遺構名を付している場合がある。上層からSR41→SR42→SR43・44→SR45の順に約２m人力により掘り下げたが、下層にゆくに従い規模が大きくなり、湧水が著しかったため完掘はできなかった。これらの旧河道は北東から南西へと流れ、山ノ花遺跡の旧河道へと連続していたものと考えられる。

SR41はSR42の埋積土上層に位置し、最下層の黒灰色シルト質粘土によりSR42と区別した。方向はN－50°－Eで、拳大の礫と共に多量の土器や牛の顎骨などが底面に貼り付いた状況で出土している（別冊60・61図）。土器は細片の状態で出土したが、復元可能なものが比較的多い。器種は土師器の坏と甕が多く、中には人面墨書土器も存在し、平安時代前期の祭祀的行為に関連したものと考えられる（別冊139・140図）。

SR42は深さが約１mで、SR43やSR45を抉って流れている。そのため時代の異なる遺物が混在してい

る。とくに、中央部ではSR45に伴う古墳時代中期の土器や木製品が奈良時代の土器と共に最下層より出土した。SR42は奈良時代に形成されたもので、SR41と同様に拳大の礫と共に多量の土器や牛や馬の顎骨が発見されている。土器の器種は、須恵器の壺類と暗文が内面全体に施された土師器の坏や皿が比較的多く、やや特殊な状況下で使用されていた可能性もある。祭祀に関連する手捏ね土器やミニチュア品も少量出土している（別冊141～146図）。馬の顎骨は11点で、牛が１点（不明分を除く）と馬が比較的多くこれらの土器と共に出土している点は注目される。自然化学分析の珪藻分析結果報告（付載３）によると、SR41・42から好汚濁性種、浮遊性種や沼沢湿地指標種群が多産しており、水がよどんだような状態が想定されている。

SR43は南側をSR42によってほとんど抉られて、不明な点も多い。SR43は最下層の砂層により分層発掘したが、南肩部は砂層の堆積が不明瞭であった。北西部のSR44は北側に張り出している部分であるが、SR43とほぼ同一時期のものと考えている。SR43の方向はおよそN－65°－Eで、西側へと広がっているようである。下層のSR45最上層は、北東から流れてG36区南東部で西へ曲がっており、SR45埋没後にSR43が洪水により形成されたものと考えると、SR45南西部出土土器（別冊72図）の多くはSR43に伴うものと考えた方が良いであろう。SR43出土土器（別冊147・148図）には時間幅があり、比較的長期間存在した可能性がある。SR45が６世紀前半には埋没し、それ以降７世紀中葉頃まで流れた可能性が高い。土器以外には加工された木片も多数発見されているが、H37区に集中しておりSR45上部の屈曲部にあたることから、多くはSR45に伴うものと思われる。ただしSR45の中でも上層に位置し、時期的には新しいものが多いと考えられる。原形を推定し得る資料は少なかったが、祭祀に関連する刀形や琴、容器の曲物や桶の出土が注目される。

SR45は木製品の出土地点によっても流れの方向が推定可能である。SR45の中でも木製品が大量に出土するのがG36・37区であり、上部では北から（最上層では北東寄りから）流れていた。H37・38区東半は流木のみが出土し、西半とは土質も異なっていることより、SR45下部は北東から南西方向へ当初は流れていたものと考えられる。出土遺物には大量の土器や木製品の他に、石製模造品やガラス玉、鉄鏃、動植物遺存体など多種多量である。祭祀に関連する遺物も多い。G35区北側の肩部では人頭大の礫が集中し、土器もまとまって出土した。珪藻分析の結果（付載３）によると、SR45下部は流水の影響を受けており、上部では止水性種の増加と浮遊性種の検出から水が停滞していたような状況が想定されている。出土土器（別冊149～156図）には５世紀前半から６世紀前半のものがあり、５世紀前半以前より流れていたようである。

北区は北に向かってやや低くなっており、北端部では、時代は新しいが水田跡が発見されるなど、他地点とは様相を異にしている。

北区南側には、比較的規模の大きい旧河道（SR30・46）が存在する。SR46はN－70°－Eで、埋積土は砂質でラミナが発達している。洪水などにより比較的短期間で埋没している可能性がある。最下層からは、７世紀後半のローリングを受けた土器が細片の状態で多く出土（別冊140図）した。最上層の確認面のG38区南東からは、刀子などの鉄製品がまとまって出土した（別冊170図）。SR30もN－70°－Eで、埋積土もSR46に類似している。出土遺物には７世紀末葉～９世紀前半の土器（別冊157～161図）があるが、それほど長期間流れていたとは考え難く、二次的廃棄も含めて考えた方が良いかもしれない。最下層からは奈良時代の土器が拳大の礫と共に多量に出土し、中層からは遺物はほとんど出土しなかった。上層からは奈良時代の土器と共に土馬、牛の顎骨や碗状の鍛冶滓が出土している（別冊75・76図）。土馬と顎骨は近接して発見され、これらに平安時代前期の土器が少量混在している。下層出土土器は大型礫の集中する地点から多く発見されており、大型礫が流れにあまり影響を受けていないと考えると、土器もそれほど動いてはいないと思われる。出土遺物には手捏ね土器や土器のミニチュア、人面墨書土器や

土製品といった祭祀関連遺物も多数出土している。加藤先生によるクロスラミナの傾斜角度の分析によると、流れの方向は東から西が想定されている(第Ⅳ章第1節)。SR46もおそらく同じ流れであろう。北側のSR31・32はSR30の支流であろう。

北区中央部のSR33はN－55°－Eで、埋積土は粘土質である。南西部から奈良～平安時代初めの土器が出土しており(別冊162図)、馬の顎骨の出土地点の下層より土馬や人形土製品がまとまって出土した(別冊77図)。

北区北半部のSR34・35は南西部で切り合っており、SR35が新しい。方向はSR34がN－30°－E、SR35がN－50°－Eで、埋積土は粘土質であったがラミナが観察され、緩やかな流れがあった可能性がある。出土遺物には山茶碗などがわずかにあり(別冊163図)、鎌倉時代頃には埋没しているようである。

北区中央部のSR36はほぼ東西方向を向いている。東側部分は削平されていたため、不明な点が多い。西側からは、下層より細片の状態で多量の土器が出土した(別冊77・162図)。遺物は南側に片寄って出土していることから、最終的には、SR36は幅1mほどに縮小したものと考えている。上層からは奈良時代頃の壺と小型の形骸化した土馬が検出された。出土土器は土師器が多く、赤彩された壺が比較的多いことから、特殊な祭祀的行為に関わるものと推定される。底面には噴砂が確認された(別冊41図)。土層断面にはSR36の埋没途中まで噴砂が認められ、白鳳(684年)もしくは和銅(715年)年間の地震痕跡の可能性があると加藤先生より指摘を受けた。

SR37はN－25°－Wで、底面の比高差から南東から北西へと流れたようである。水田跡よりは古いが、出土遺物はほとんどなく時期は不明である。おそらく近世以降であろう。

東側中央部のSR38は、上層部は削平され埋積土が還元状態にあり、形状の把握が難しかった。最下層には砂礫が混じっていることから流路跡と判断した。西側の下層へと連続していた可能性もあるが、とりあえず南側のSR30に関連するものと考えておきたい。出土土器には奈良時代のものが多いが、古墳時代から中世のものがある。

北区北西部のSR39は笠井51号線の調査区へと連続していることから、詳細は第7節(溝口報告)を参照していただきたい。底面からは、砂礫に混じってローリングされた奈良時代の土器片が多く出土した。流れの方向は、加藤先生の分析によると北東から南西とされている(第Ⅳ章第1節)。

SR30の北西部には南北方向の細溝群が存在する。幅は約40cm、深さは約10cmで、加藤先生による根跡数の分析より、畑跡の可能性が指摘されている(第Ⅳ章第1節)。調査段階で流路跡との新旧関係の把握に努めたが、埋積土の類似から新旧がはっきりしていないのが現状であるが、発見の順序は畑跡の方が後からである。方向性はSR36におよそ直交しており、奈良時代前後の可能性がある。

北区北東部にもおよそN－10°－Wの方向に細溝群が存在する。一部幅広となっている部分も存在するが、幅は約30cmで深さは約10cmである。基本土層(別冊41図)3層上面で確認できたもので、平安時代前期のSD34と同一面で発見された。中世のSR34より古く、SH42・43と方向性が一致するので、平安時代前期の耕作痕の可能性がある。

SD34はN－85°－Eで、これらの細溝群とほぼ直交している。埋積土は黄白色シルト質粘土で、双耳坏などの土器が少量出土した(別冊163図)。別冊166図1の北区包含層出土灰釉陶器が、SD34に伴う可能性がある。土師器坏の形状も奈良時代よりやや新しい感があるため、時期は平安時代前期としておきたい。

SD33はN－23°－Wで、断面形態は逆台形を呈している。2層上面で確認できたもので、埋積土は1層土と類似しており、かなり新しいものである。この溝を境に東側は微高地で、西側には水田跡がひろがっている。水田跡の畦畔との方向性が一致することからして、水田跡の導排水溝として機能していたものと考えたい。水田跡の時期から近世より新しいものであろう。

北区下層では、中央部にSR50、北東部に4層上面でSR47～49が発見された(別冊40・41図)。

SR50はほぼ東西方向で、北側が深く抉れラミナが認められる。古墳時代中・後期の土師器片が微量出土した。

SR47はN－82°－Wで、下部には粗砂やラミナが認められる。古墳時代中・後期の土師器片が微量出土した。

SR48はN－81°－Wの細溝で、中央部が深く抉れており、深さは約20cmである。

SR49は南北方向の溝で、深さ約5cmと浅く、南側は判然としなかった。

SR48・49からは遺物は出土しなかったが、層位的に奈良時代以前と考えられる。

第4節　土坑

土坑についても一覧表を掲載しているので、形態についてはそちらを参照していただきたい。ここでは恒武西宮遺跡と恒武西浦遺跡に分けて、特徴的なものについてまとめて述べることにする。

恒武西宮遺跡からは57基の土坑が発見されている。古墳時代の例には、石製模造品が多量に出土するもの（SF 9）、石製模造品が微量出土するもの（SF 7・8・10・32・47）や土器が比較的多く出土するもの（SF 5・46・48・49）などがある。

SF 9からは217点の石製模造品と、細片の状態で土器が多く出土している（別冊18図）。SF 9は周辺に暗褐色土が厚く堆積し、平面プランの確定が難しく、図示はしていないが上層からも多くの遺物が発見されており、本来はかなり深かったようである。また、石製模造品は土坑中央部に集中しており、埋没過程における多数回の廃棄行為が想定される。隣接するSR 3からも古墳時代中期の遺物が出土したが、これらはSF 9から流れ込んだものである。SR 3からは石製模造品が63点出土しており、合計すると280点が検出され、内、勾玉形4点、円板10点、剣形1点で、その他は、不明品を除いて全て臼玉である。

SF 7からは臼玉が2点、SF 8・32は臼玉が各1点、SF10は臼玉が9点、SF47は勾玉形が確認面より1点検出された。SF10・32の上層にも暗褐色土が堆積し、SF 9と同様のものと当初は考えたが、遺物はあまり出土していない。これらの土坑の形態は様々であり、一概には言えないが、柱穴内や土器内より少数の石製模造品が検出される場合も多々あり、何らかの祭祀的行為に関わるものと考えておきたい。

SF 5・46・48・49は、出土土器の密度が比較的濃いもの（別冊12・19図）である。出土土器は全て破片で、一部古式須恵器が混じる。SF 5からは骨片が、SF48からは拳大の礫も出土している。SF 5・46は古墳時代中期に、SF48は古墳時代後期に下る可能性もある。SF49上層からは中世の内耳鍋が列状に発見され、上層で溝状遺構と重複していたようである。下層からは古墳時代中期の土器が比較的大型の破片の状態で出土した。

その他の土坑の中で、出土土器から古墳時代中・後期に属する可能性の高いものを挙げると、古墳時代中期がSF 6・11、古墳時代後期前半がSF50、後期後半がSF 2・4・14・57がある。SF 4はSR 1より新しく、SF 6は土師器甕片が多く、SF57は中層に焼土と炭化物が多量に認められた（別冊14図）。

出土土器の中に奈良時代前後のものがある土坑は、SF13・15・29・55である。SF13はSR 5より新しく、SF15からは比較的まとまって土器が出土し、SF29はSR 4より新しく、SF55はSH12より新しいようである。

平安時代末葉以降では、SF44・56からは山茶碗が、SF51からは内耳鍋が、SF53からは天目茶碗やかわらけが少量出土している。SF56からは拳大の礫と完形の小碗が、土坑壁面を滑り落ちているかのような状態で発見された（別冊15図）。

SF17・18・22～28・30・31・33～41は調査区北半部に位置し、SR 4に並行して列状に掘削されている。平面形態は土坑が重複して長楕円形となっているものもあるが、長径がおよそ1.5mの楕円形の例が多

い。深さは低地部ではⅣ層の粘土層を少し掘り込み、微高地部ではⅢ層まで掘削している例が多い。埋積土にブロック土が多量に含まれ、人為的に埋め戻されているが、上層がレンズ状堆積となっているものもあり、かなり雑な埋め戻しが行われている。最下層にもブロック土が認められ、掘削後間もなく埋め戻されたようである。出土遺物は古墳時代中・後期の土器片が多いが、SF23・24からは灰釉陶器や白磁の破片が微量出土した。これらの土坑はその在り方から共通性が高く、それほど時間幅は無いものと思われる。出土土器から平安時代以降のものと考えたい。用途としては、粘土採掘坑、水溜、墓、陥し穴などが想定できる。粘土層まで掘り込んでいるものは粘土採掘坑や水溜にもなるであろうが、粘土(滯水)層に達していない例も多い。上層部のレンズ状堆積を棺の腐食によるものと考えれば、墓坑の可能性もあるが、最下層で腐食による顕著な有機質土は確認されていない。また、墓坑にしては重複例が多すぎる。消去法であるが小獣用の陥し穴の可能性を指摘しておきたい。

これら以外の土坑からも、古墳時代中・後期の土師片が微量出土しているが、時期を限定するまでにはいたらなかった。

恒武西浦遺跡からは13基の土坑が発見された。

南区ではSF58～60・70があり、古墳時代中・後期の土器が少量出土した。SF58は長方形の箱形で、SH23の施設の一部になるかもしれない。SF60は溝状で、西側が一段低くなっており、上層からは砥石と古墳時代中期の土器がまとまって出土した(別冊59図)。SF70は、南端中央部の遺物が比較的多く出土した暗褐色土の落ち込みを不明瞭であったが土坑と認識した。小礫と古墳時代中期から後期にかけての土師器片が少量出土した(別冊59図)。

中区ではSF61～64があり、SF61からは山茶碗が、他の土坑からは古墳時代中・後期の土器片が少量出土している。SF61は奈良～平安時代前期のSD26を切っており、出土した山茶碗から平安時代末葉以降と考えられる。湧水により断ち割り調査ができなかったため、完掘できていない可能性があり、井戸跡であったかもしれない。形態や埋積土は恒武西宮遺跡の陥し穴と推定した土坑と類似するが、西宮遺跡例は断ち割り調査によって湧水点(Ⅵ層)には達していないことが確認されている。SF62は被熱により底面と肩部が赤変していた。鉄滓などの特殊遺物や厚い炭化物層は発見できなかった。

北区では、北東部に集中してSF65～69があり、SF67・69からは奈良時代の土器片が、SF68からは中世の古瀬戸片などが微量出土した。SF66を除き、全て上面で発見されたもので、SF67はSR35より新しい。埋積土は灰色シルトが主体で、中世より新しいものと考えて良いであろう。

第5節　井戸跡

恒武西宮遺跡の北西部(SE1)と恒武西浦遺跡の北区(SE2～4)で井戸跡が発見されている(別冊16・54図)。市道笠井51号線の調査で発見された井戸跡については、第7節を参照していただきたい。

SE1の下部は、加工した板材で2段に井桁に組み、その直上より上部は人頭大の円礫で約5m積み上げている。石組みは土圧により中央部が内側にせり出しているが、小口積みされた礫の内、上層部は外側に開くように傾斜させて積まれている。上層の礫の外周には、崩落防止のために横置きされた円礫が巡っている。石組み内の下部より木製品がまとまって出土した。SE1の廃絶時に投棄されたものか、井戸としての機能はしていたが底は埋没し、二次的な井戸底にたまっていたものかは不明である。出土土器にはかなりの時間幅があるが、表土直下で発見され、畑の耕作の影響もあまり受けていないことから、江戸時代以降のものであろう。

SE2の下部からは籠状に編まれた竹枠が発見されている。砂の溶出を防止する工夫がなされている。

SE3の下部からは、底板を外した桶が土圧により変形した状態で発見された。上部からは拳大の礫が

多量に出土した。井戸の廃絶に伴い廃棄されたものであろう。陶器の細片が出土しており、江戸時代以降のものであろうか。

SE 4 にも底板を外した桶が設置されていたが、桶の外側には竹製の編枠がはまっていた。それらの直上から、人頭大の礫が小口積みされている。底からは大型の鉄片が発見されている。

第6節　その他の遺構

恒武西浦遺跡の北区北部には水田跡が存在する。北区と約80m北の微高地上に立地する笠井若林遺跡との間は、やや低い地点にあたる。SR39などの東西方向の旧河道や、南北方向のSR37などによって侵食された地域を水田化したのであろう。水田跡は盛土直下より存在するが、調査ではより下層の畦畔の検出に努めた。中央部では上層水田の鋤床層（1層下部）下面で畦畔の痕跡が確認されているが、ほとんどは擬似畦畔であろう。西側のやや高い地点では小区画状の畦畔が確認された。これらの畦畔は、区画内の耕作により形成された擬似畦畔である。時代は江戸時代より新しいもので、一部は近代の水田畦畔の擬似畦畔が含まれている。畦畔の区画は時代が新しくなるにつれて広くなる傾向にあるようであるが、地形の状況に応じて小区画水田もかなり新しい時代までつくられているようである。

恒武西浦遺跡南・中区では掘り込みなどは確認できなかったが、遺物の集中地点が存在する。これらは性格不明遺構（SXと略称）として、出土状況を掲載した（別冊59・74図）。南区にはSX 1～6が、中区にはSX 7～11が存在する。

SX 2、SX10・11は焼土が散在し、これらは竪穴住居跡の竈や炉が耕作により攪乱されている可能性もある。

SX 1からは古墳時代中期の土器がまとまって出土した（別冊165図）。

SX 3・4は近距離にあり、古墳時代中・後期の土器が多く出土した（別冊164図）。周辺部も含めると、管玉や土製紡錘車といった特殊な遺物が出土している。

SX 5はSR20に伴うもので、奈良時代の土器がまとまって出土した（別冊165図）。その南西部下層にはSX 6が位置し、SR17内から発見されている。古墳時代中期から奈良時代の土器が出土している。

SX 7はSH29の上層に位置し、竪穴住居跡の埋積土内のものかもしれない（別冊166図）。

SX 8には炭化物の集中部が存在する。わずかであるが焼土も混じっている。

SX 9からは、古墳時代後期初頭の須恵器坏蓋3点がまとまって出土した（別冊166図）。　（柴田）

第7節　市道笠井51号線部分の調査

市道笠井51号線部分の調査は恒武西浦遺跡北区の北側地区で実施した。本来、恒武西浦遺跡北区に含まれるものだが、別項にて報告する。2面の遺構面を確認し、全体図と遺構の詳細図を別冊図版に掲載した（溝口作成）。

第1遺構面（別冊42図）　検出した主な遺構は流路、井戸である。

SR51（図版42）　調査区のやや北よりを横断する形で、北東方向を向く流路である。幅は約2.5mから3mで、深さは約0.3mほどである。後述するSR39が埋没する段階で流れを西側で変えた遺構であると考えている。

出土した遺物の内、図化したものは4点である。（別冊163図SR51－1～4）1と2は山茶碗の碗で、3は小皿である。4は須恵器甕の底部である。他にも奈良時代を中心とした須恵器、土師器の小破片も

出土している。山茶碗の年代から13世紀前半から中頃の遺構と思われる。

SE 5（別冊44図　図版44）　調査区東端に位置する井戸である。堀方の平面形は長径1.55m、短径1.42mでやや楕円形を呈する。底は湧水のため明確ではないが、井戸側の底面は検出面から1.2m、標高は10.8mであった。上部は竹製の網代、下部は高さ90cmほどの桶状に組んだ板を井戸側として使用している。出土遺物がほとんどないため年代の特定が難しいが、検出面や形態から近世以降の遺構と推定した。

第２遺構面（別冊43図　図版43）　第２遺構面では流路、溝、井戸、小穴を主に検出している。

SR39　調査区中央から東ではSR51と方向を一にするが、西側で南に方向を変え、北区北西に接続する自然流路である。幅は東側はSR51とほぼ同じ約３m、西側ではやや広がり約４mとなる。深さは平均約0.7mである。奈良時代を中心とした土師器、須恵器の小破片が多量に出土しているが、そのほとんどは摩滅が顕著で混入したものと考えられる。

図化した遺物は以下のとおりである。（別冊163図SR39－１～８）１～４は山茶碗の碗、６は小皿で底部に墨書があるが判読不能であった。５は須恵器の杯身の底部と思われる。７は須恵質の鉢の底部と思われる。８はいわゆる伊勢型鍋の口縁部である。これら遺物から12世紀中頃から後半にかけての遺構と判断した。また、馬の顎骨（図版43）が遺構中央北側で2個体出土している。出土状況からは意図的なものかどうかはわからなかった。

SD34　調査区中央南端で検出し、ほぼ東西方向を向く。東側ではやはり北区へと続く。幅は東側で約1.25m、西側約0.65mで西に向かって細くなり、西端ではSR39と同方向の小溝につながる。調査区中央南ではこのような溝をいくつか検出したが、それに伴う遺構もなく、性格を明らかにはできなかった。

遺物は数点出土したが、図化したのは２点である。（別冊163図SD34－１～２）１は須恵器の坏蓋、２は山茶碗の碗である。東側が粘土質土が埋土だったのに対し、西側は埋土の堆積に流路から流入したと見られる粗砂が認められた。山茶碗はその西側埋土上層から出土したため、埋没後混入したと考えられる。よって、遺構の年代は須恵器の年代から８世紀後半としたい。

SE 6（別冊44図　図版44）　調査区中央南端で検出した井戸である。堀り方はかなり大きく、南北の一辺3.5m、東西の一辺が3.7mの隅丸方形を呈する。堀り方の下部は湧水が激しく正確には確認できなかった。曲げ物の下端を最下部ととらえれば、検出面からの深さは1.44m、標高は10.52mである。井戸に伴う構造物として地下施設である木組みの井戸側を確認した。井戸側は隅柱横板横桟方形井筒（山本1970）、もしくは横板組隅柱どめ井戸（宇野1982）に分類されるものである。四隅に上部を尖らせた径20cm、長さ90cmから130cmほどの支柱をたて、ほぞ穴に差し込まれた横桟によりそれらは接続され、木組みを支持する。木組みは大きく分けて３段階で設置されており、仮に内枠、中枠、外枠として説明する。内枠は井戸側の最下段に設置され、長さ125cm前後、厚さ５～７cmほどの板に相互に切り込みを入れて方形に組んである。内枠の外側にくさび状の長さ約50cmの杭をその外側に打ち込み支持しており、さらに井桁の形に組まれた内枠の外側、やや下段には土圧による変形を防ぐためか、長さ50～60cm、厚さ６cmほどの板を4方それぞれに２～３枚据えている。中枠は内枠の上方の外側に組まれていた。中枠は長さ100cm～150cm、厚さ４～８cm程度の板の両端を切り欠き、内枠にはめ込むような形となっていた。中枠の外側は粘土で固められており、さらに内枠と中枠の間には径約10cmの円礫がつめられていた。円礫は内枠の支持と共に中枠の土圧からの保持と、水溜への砂の流入の防止を目的とする施設と考えられる。外枠は内枠の上方に設置され、特別な加工は見られないため、土圧により支持されていたと推定している。木組みを構成する板の中では最も腐朽が激しく、４方それぞれに長さ120～130cmの板材を３枚～５枚確認したが、本来は上方に数枚は続いていたものと思われる。井戸側の内側下部では水溜として曲物（別冊124図－482）が使用されていた。曲物は直径39cm、高さ29cmで、内側にケビキを入れた厚さ0.5cmほどの板材を桜の皮で２カ所綴じている。上下両端は、さらに桜の皮で綴じた幅３cm～５cmの曲物をたが

状にはめ込み、本体の曲げ物に縫い込んである。

出土遺物は木製品３点（別冊124図479～481）、土器１点（別冊163図SE６－１）である。木製品はいずれも井戸側の木枠に入り込んでいた。479は円柱形の木材の一方の端をこけし状に加工したもので、小型の人形と思われる。480、481はともに横櫛であるが、井戸の構築時か使用時に入ったものかは不明である。SE６－１は灰釉陶器の碗で、底部には墨書が認められるが判読不能であった。曲物の外側に接する形で出土しているため混入とは考えにくく、遺物の年代観から井戸の構築年代は９世紀前半に求めたい。

なお、北区で当該期の掘立柱建物跡（SH42・43）を検出しており、それにともなう施設と考えている。

SP828（別冊44図　図版44）　小穴は５基検出した内のひとつである。底部には４つの石が敷かれていた。根石であったとも考えられ、建物の柱穴の可能性もあるが、断定はできない。　（溝口）

引用・参考文献

山本　博　1970『井戸の研究』　綜芸舎

田辺昭三　1981『須恵器大成』　角川書店

宇野隆夫　1982「井戸考」『史林』第65巻第５号　史学研究会

漆畑　敏　1987『伊場遺跡遺物編４』　浜松市教育委員会

柴田　稔　1992『古新田Ⅰ』　浅羽町教育委員会

石井克己　1990「黒井峯遺跡」『古墳時代の研究２』　雄山閣

松井一明　1993「遠江における山茶碗の生産について」『静岡県考古学研究』№25　静岡県考古学会

中世土器研究会編 1995『概説　中世土器の研究』　真陽社

遠藤喜和　1996『若林村西遺跡』　浜松市文化協会

第Ⅰ表　小穴一覧表Ⅰ

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高	平面形	備　考
			長径	短径	(cm)		
西宮	P 1	—	46	44	1142	円形	
西宮	P 2		33	30	1094	円形	柱痕径16×14
西宮	P 3	P269	39	35	1130	円形	
西宮	P 4	P256	70	64	1087	円形	SH1　柱痕径21
西宮	P 5	—	—	—	1091		SH1
西宮	P 6	P255	—	60	1079		SH1　柱痕径20×18
西宮	P 7	P254	84	56	1095	楕円形	SH1　柱痕径26×24
西宮	P 8	P253	76	66	1090	楕円形	SH1　柱痕径26
西宮	P 9	P252	69	60	1084	楕円形	SH1　柱痕径22×21
西宮	P10	P251	67	60	1077	楕円形	SH1　柱痕径20×18
西宮	P11	P250	80	70	1080	楕円形	SH1　柱痕径22×19
西宮	P12	P249	78	66	1091	楕円形	SH1　柱痕径23×22　段あり
西宮	P13	P248	63	62	1082	円形	SH1　柱痕径22　段あり
西宮	P14	P247	64	43	1103	楕円形	SH1　柱痕径20
西宮	P15	P246	85	67	1090	楕円形	SH1　柱痕径22
西宮	P16	P245	53	50	1097	円形	SH1　柱痕径20
西宮	P17	P244		48	1098	楕円形	SH1　柱痕径18×16
西宮	P18		55	45	1108	楕円形	SH1
西宮	P19	P243	61	60	1110	円形	SH1
西宮	P20	P242	90	68	1110	不整形	SH1
西宮	P21	P241	54	50	1093	円形	SH1　柱痕径22
西宮	P22	P240	70	64	1087	方形	SH1　柱痕径26×23
西宮	P23	P259	72	68	1087	円形	SH1　柱痕径26×25
西宮	P24	P258	74	56	1082	楕円形	SH1　柱痕径18×17　段あり
西宮	P25	P257	70	64	1087	円形	SH1　柱痕径18×15
西宮	P26	P263	58	51	1104	楕円形	SH2　柱痕径20×22
西宮	P27	P264	78	66	1116	楕円形	SH2　柱痕径23×21
西宮	P28	—	43	38	1109	不整形	SH2　柱痕径13×12
西宮	P29	P266	45	42	1116	円形	SH2　柱痕径24×19
西宮	P30	P267	46	40	1110	楕円形	SH2　柱痕径16×14
西宮	P31	P260	72	32	1111	不整形	SH2　柱痕径26×24
西宮	P32	P261	73	56	1109	不整形	SH2　柱痕径22
西宮	P33	P262	58	50	1105	楕円形	SH2　柱痕径22×20
西宮	P34	P268	30	28	1122	円形	
西宮	P35	—	50	34	1130	楕円形	
西宮	P36	—	18	16	1113	円形	
西宮	P37	P291	42	33	1104	楕円形	柱痕径18×16
西宮	P38	—	29	25	1120	楕円形	
西宮	P39	—	33	35	1133	楕円形	
西宮	P40		29	30	1132	円形	
西宮	P41	—	84	52	1132	長方形	
西宮	P42	—	30	27	1125	円形	
西宮	P43	—	43	32	1134	楕円形	
西宮	P44		37	35	1133	円形	
西宮	P45	P201	96	81	1111	楕円形	
西宮	P46	—	30	29	1131	円形	
西宮	P47	—	55	54	1137	円形	
西宮	P48	—	30	25	1120	楕円形	
西宮	P49	P239	31	29	1117	円形	
西宮	P50	P295	40	40	1117	方形	柱痕径21×15
西宮	P51	P270	45	44	1111	円形	柱痕径24×20
西宮	P52	—	43	38	1127	楕円形	柱痕径17
西宮	P53	—	38	32	1136	楕円形	
西宮	P54	—	46	42	1132	円形	柱痕径20
西宮	P55	—	50	43	1125	楕円形	柱痕径20×19
西宮	P56	—	50	42	1127	楕円形	柱痕径16
西宮	P57	P197	37	32	1131	楕円形	
西宮	P58	—	62	59	1147	円形	
西宮	P59	—	46	42	1129	円形	柱痕径20×18
西宮	P60	P294	41	39	1152	円形	
西宮	P61	—	36	34	1141	円形	
西宮	P62	—	73	58	1141	楕円形	
西宮	P63	—	69	66	1109	円形	
西宮	P64	—	63	44	1144	楕円形	
西宮	P65	—	66	48	1138	楕円形	
西宮	P66	—	46	40	1134	楕円形	
西宮	P67	P226	72	54	1115	楕円形	段あり
西宮	P68	—	52	38	1119	楕円形	段あり
西宮	P69	P196	61	56	1111	楕円形	段あり
西宮	P70	—	35	32	1146	円形	
西宮	P71		24	23	1146	円形	
西宮	P72	—	38	36	1141	円形	
西宮	P73	P193	36	35	1131	円形	柱痕径15×13

第２表　小穴一覧表２

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高 (cm)	平面形	備　考
			長径	短径			
西宮	P74	—	44	42	1138	円形	
西宮	P75	P178	39	38	1135	円形	
西宮	P76	P179	43以上	43	1130	楕円形	
西宮	P77	P181	66	64	1126	楕円形	SH３　柱痕径31×30
西宮	P78	P180	55	44	1139	楕円形	SH３
西宮	P79	P183	86	59	1114	楕円形	SH３　柱痕径22
西宮	P80	P176	74	42	1131	不整形	SH３
西宮	P81	P174	86	62	1123	楕円形	SH３　段あり
西宮	P82	P185	43	34	1137	楕円形	SH３
西宮	P83	P171	26	58	1123	楕円形	SH３　柱痕径28×24
西宮	P84	P184	41	36	1131	楕円形	SH３
西宮	P85	P182	38	38	1127	円形	SH４　柱痕径15×13
西宮	P86	P175	44	40	1133	円形	SH４
西宮	P87	P173	51	44	1136	楕円形	SH４
西宮	P88	P172	34	34	1139	円形	SH４
西宮	P89	P177	56	42	1131	楕円形	
西宮	P90		38	35	1146	円形	
西宮	P91	P189	45	34	1143	楕円形	
西宮	P92	P195	36	36	1140	円形	
西宮	P93	—	35	33	1143	円形	
西宮	P94	—	36	34	1144	方形	
西宮	P95	P186	—	—	1135		
西宮	P96	—	46	42	1139	円形	
西宮	P97	P190	46	36	1147	楕円形	
西宮	P98	—	46	44	1140	円形	
西宮	P99	—	46	43	1137	円形	
西宮	P100	P187	45	35	1153	長方形	
西宮	P101	P188	44	34	1152	楕円形	
西宮	P102	—	23	22	1151	円形	
西宮	P103	—	50以上	—	1132		
西宮	P104	—	35	33	1144	円形	
西宮	P105	—	27	26	1149	円形	
西宮	P106	—	30	26	1144	楕円形	
西宮	P107	P194	74	54	1134	楕円形	
西宮	P108	SF36	—	86	1149		
西宮	P109	—	48	48	1086	円形	
西宮	P110	—	35	35	1144	円形	
西宮	P111	P293	38	36	1151	円形	
西宮	P112	—	53	—	1151		
西宮	P113	P292	37	37	1091	円形	
西宮	P114	—	46	44	1146	円形	柱痕径21×20
西宮	P115	—	27	26	1147	円形	
西宮	P116	P191	34	29	1141	楕円形	
西宮	P117		—	40			
西宮	P118	P126	50	46	1155	円形	
西宮	P119	—	40	30	1165	楕円形	
西宮	P120	P192	42	35	1158	楕円形	
西宮	P121	—	39	28	1153	長方形	
西宮	P122	P128	35	32	1162	円形	
西宮	P123	P146	38	36	1160	円形	
西宮	P124	P141	41	34	1163	楕円形	
西宮	P125	P142	33	31	1161	円形	
西宮	P126	P121	60	50	1154	楕円形	
西宮	P127	P100	48	42	1139	楕円形	
西宮	P128	P122	52	48	1152	楕円形	
西宮	P129	P101	50	41	1143	楕円形	
西宮	P130	P46	31	31	1160	円形	
西宮	P131	P123	50	46	1150	円形	
西宮	P132	P124	30	30	1165	不整形	
西宮	P133	—	19	18	1168	方形	
西宮	P134	—	42	40	1157	不整形	
西宮	P135	P108	74	44	1145	楕円形	柱痕径20×18
西宮	P136	P170	47	47	1155	不整形	柱痕径19×18
西宮	P137	—	35	32	1167	円形	
西宮	P138	P281	49	48	1161	円形	SH５
西宮	P139	P44	46	42	1168	円形	SH５
西宮	P140	P45	56	55	1158	不整形	SH５　柱痕径30
西宮	P141	P117	32	48	1161	円形	SH５
西宮	P142	P50	53	40	1149	楕円形	SH５　柱痕径30
西宮	P143	P42	52	47	1157	円形	SH５　柱痕径18×16
西宮	P144	—	29	27	1159	円形	
西宮	P145	P168	66	63	1153	円形	
西宮	P146	P165	31	28	1164	円形	

第３表　小穴一覧表３

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高 (cm)	平面形	備　　考
			長径	短径			
西宮	P147	SD122	—	—	1153		SH７
西宮	P148	P166	36	34	1150	円形	SH７
西宮	P149		48	44	1147	円形	SH７
西宮	P150	P159	57	53	1143	円形	SH７
西宮	P151	—	52	49	1163	円形	SH７
西宮	P152	P157		80	1127		SH７　柱痕径30×21以上　段あり
西宮	P153	P154	47	42	1153	楕円形	SH７　柱痕径20×19
西宮	P154	P160	50	42	1155	楕円形	SH７
西宮	P155	P162	49	47	1148	円形	SH７
西宮	P156	P161	54	50	1146	円形	
西宮	P157	P164	60	56	1128	円形	
西宮	P158	SD120	80	73	1153	楕円形	
西宮	P159	P163	66	57	1140	楕円形	
西宮	P160	P156	55	41	1167	楕円形	
西宮	P161	P158	34	33	1156	円形	
西宮	P162	P167	43	42	1159	方形	
西宮	P163	SE34	100	71	1168	楕円形	
西宮	P164	P155	36	35	1161	円形	
西宮	P165	P289	36	33	1160	円形	
西宮	P166	P149	43	41	1163	円形	
西宮	P167	P51	60	48	1157	楕円形	柱痕径28
西宮	P168	P104	28	26	1145	円形	
西宮	P169	P282	34	29	1158	楕円形	
西宮	P170	P279	49	44	1160	楕円形	
西宮	P171	P140	77	64	1163	楕円形	
西宮	P172	P275	50	44	1159	楕円形	SB１
西宮	P173	P143	46	42	1161	円形	SB１
西宮	P174	P116	58	50	1153	楕円形	SB１
西宮	P175	P112	41	39	1148	円形	SB１
西宮	P176	P144	48	46	1154	円形	SH６
西宮	P177	P119	46	42	1155	円形	SH６　柱痕径22×21
西宮	P178	P277	—	48以上	1165		SH６
西宮	P179	P107	32	31	1173	円形	SH６
西宮	P180		35	33	1168	円形	SH６
西宮	P181	P96	68	62	1151	円形	SH６
西宮	P182	P41	72	58	1136	楕円形	SH６
西宮	P183	P36	62	60	1150	円形	SH６　柱痕径20
西宮	P184	P111	50	45	1157	円形	SH６
西宮	P185	P110	71	52	1162	楕円形	SH６
西宮	P186	P113	41	38	1162	円形	SH６
西宮	P187	P48	38	32	1167	長方形	SH６
西宮	P188	P278	46	42	1158	円形	
西宮	P189	—	42	39	1165	円形	
西宮	P190	P169	66	58	1138	楕円形	柱痕径25
西宮	P191	P276		38以上	1165		
西宮	P192	P133	—	22以上	1163		
西宮	P193	P106	56	54	1134	円形	
西宮	P194	P120	46	38	1162	楕円形	
西宮	P195	P115	34	27	1163	楕円形	
西宮	P196	P114	50	42	1152	楕円形	柱痕径18
西宮	P197	—	22	18	1169	楕円形	
西宮	P198	—	42	38	1167	円形	
西宮	P199	P53	80	53	1150	楕円形	
西宮	P200	P93	42	38	1148	円形	
西宮	P201	—	36	34	1163	円形	
西宮	P202	P49	42	40	1162	円形	
西宮	P203	—	42	40	1164	円形	
西宮	P204	—	33	32	1169	円形	
西宮	P205	P97	80	76	1155	円形	柱痕径38×32
西宮	P206	P105	47	42	1161	楕円形	
西宮	P207	—	37	35	1159	円形	
西宮	P208	P35	92	72	1169	楕円形	
西宮	P209	P118		—	1169		
西宮	P210	P37	60	54	1171	不整形	
西宮	P211	P38	74	76	1167	円形	
西宮	P212	P39	68	59	1180	楕円形	
西宮	P213	P145		60	1174		
西宮	P214	P47	75	—	1170	長方形？	
西宮	P215	P98	76	64	1178	長方形	
西宮	P216	P99	70	66以上	1150		
西宮	P217		28	27	1168	円形	
西宮	P218	P273	70	66	1149	円形	
西宮	P219	—	41	36	1169	楕円形	

第４表　小穴一覧表４

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm） 長径	短径	底面高（cm）	平面形	備　考
西宮	P220	P272	44	40	1143	円形	SH８
西宮	P221		28	27	1147	円形	SH８
西宮	P222	P274	42	42	1149	円形	SH８
西宮	P223	P271	47	44	1142	円形	SH８
西宮	P224		23	22	1167	円形	
西宮	P225	—	77	52	1171	楕円形	
西宮	P226	P27	102	88	1152	長方形	柱痕径35×34
西宮	P227	P103	45	39	1139	長方形	
西宮	P228	P283	28	28	1152	円形	
西宮	P229	P95	32	30	1145	円形	
西宮	P230	—	34	32	1143	円形	
西宮	P231	—	26	25	1150	円形	
西宮	P232	—	30	26	1151	楕円形	
西宮	P233	P284	31	25	1156	楕円形	
西宮	P234	P102	26	25	1155	円形	
西宮	P235		36	36	1163	円形	
西宮	P236	P288	27	20	1162	楕円形	
西宮	P237	P287	55	48以上	1159	長方形	
西宮	P238	P52	59	40	1153	長方形	
西宮	P239	—	110以上	58	1162	楕円形	
西宮	P240	P285	28	26	1141	円形	
西宮	P241	P286	25	23	1149	円形	
西宮	P242	P148	—	20以上	1155		
西宮	P243	—	25	23	1163	円形	
西宮	P244	—	23	23	1170	円形	
西宮	P245	—	26	24	1164	円形	
西宮	P246	P92	47	46	1167	円形	
西宮	P247	P91	56	34	1172	円形	
西宮	P248	P149	36	34	1156	円形	
西宮	P249	P139	36	32	1138	楕円形	
西宮	P250	P138	39	36	1152	円形	
西宮	P251	P120	51	48	1136	円形	
西宮	P252	P80	49	44	1144	楕円形	柱痕径27×24
西宮	P253	P89・P289	56	45	1155	小穴形	柱痕径30×27　重複？
西宮	P254	P88	43	36	1157	楕円形	
西宮	P255	—	38		1167	方形？	
西宮	P256	P87	52	52	1150	円形	
西宮	P257	P137	42	41	1148	円形	
西宮	P258		56	46	1145	楕円形	段あり
西宮	P259		30	30	1147	円形	
西宮	P260	P135	60	46	1142	楕円形	
西宮	P261		50	50	1144	円形	
西宮	P262	P32	80	75	1133	円形	柱痕径32
西宮	P263	P136	56	52	1123	円形	柱痕径30×22
西宮	P264	P150	53	49	1160	不整形	
西宮	P265		39	36	1166	円形	
西宮	P266		46	41	1170	楕円形	
西宮	P267		—	—	1157		
西宮	P268	—	—	—	1163		
西宮	P269		72	44	1174	楕円形	
西宮	P270	—	23	22	1164	円形	
西宮	P271	—	23	21	1157	円形	
西宮	P272	P85	52	50	1149	方形	
西宮	P273	P238	43	30	1138	楕円形	
西宮	P274	—	46	42	1149	不整形	
西宮	P275	P221＝P30	50	45	1160	円形	
西宮	P276	—	40	36	1150	円形	
西宮	P277	P81	52	50	1163	円形	
西宮	P278	P82	64	46	1156	楕円形	柱痕径21×20
西宮	P279	SF32	84	66	1142	楕円形	
西宮	P280	P133	44	40	1158	円形	
西宮	P281	P152	28	25	1158	楕円形	
西宮	P282	P151	—	—	1149		
西宮	P283		94	62	1157	楕円形	
西宮	P284	P213	35	33	1171	円形	
西宮	P285	P214	44	31	1170	楕円形	
西宮	P286		54	49	1163	方形	
西宮	P287	P215	36	34	1154	方形	
西宮	P288	P212	54	37	1169	楕円形	
西宮	P289		28	27	1169	円形	
西宮	P290	—	46	42	1184	円形	
西宮	P291	P70	62	—	1187		段あり
西宮	P292	P211	34	32	1181	円形	

第５表　小穴一覧表５

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高	平面形	備　考
			長径	短径	(cm)		
西宮	P293	P64	—	37	1191		
西宮	P294	P210	46	33	1183	長方形	
西宮	P295	—		33	1196		
西宮	P296	P217	66	66	1152	円形	
西宮	P297	—	44	38	1196	長方形	
西宮	P298	—	48	—	1175		
西宮	P299		30	26	1172	楕円形	
西宮	P300	—	42	32	1169	楕円形	
西宮	P301	P222	73	61	1161	楕円形	
西宮	P302	P76	60	54以上	1173	円形	
西宮	P303	P219	78	58	1167	不整形	
西宮	P304	P58	64	52	1157	楕円形	段あり
西宮	P305		23	22	1176	円形	
西宮	P306	—	35	29	1168	楕円形	
西宮	P307	P69	—	29	1185		
西宮	P308	—	26	24	1198	円形	
西宮	P309	P56	61	50	1173	楕円形	SH 9
西宮	P310	P71	30	28	1195	円形	SH 9
西宮	P311	P74	29	29	1196	円形	SH 9
西宮	P312	P68	42	39	1188	円形	SH 9
西宮	P313	P26	36	32	1185	楕円形	SH 9　柱痕径20
西宮	P314	P75	28	26	1189	円形	
西宮	P315	P26	22	22	1200	円形	
西宮	P316	P25	21	20	1199	円形	
西宮	P317	P24	21	21	1200	円形	
西宮	P318		26	26	1203	円形	
西宮	P319	P23	26	26	1201	円形	
西宮	P320	P209	65	60	1184	円形	
西宮	P321	—	30	20以上	1201		
西宮	P322	—	30	26	1197	楕円形	
西宮	P323	—		—	1185		
西宮	P324	P67	62以上	53	1195	楕円形	
西宮	P325	—		—	1181		
西宮	P326	—	32	26	1179	楕円形	
西宮	P327	P208	64以上	54	1174	不整形	
西宮	P328	P57	89	74	1145	楕円形	SH10　SH11　柱痕径34
西宮	P329	P65	60	48	1158	楕円形	SH10
西宮	P330	P72	56	55	1149	円形	SH10
西宮	P331	P207	56	52	1151	円形	SH10
西宮	P332	P31	48	48	1126	円形	SH11　柱痕径20×18
西宮	P333		40	39	1140	円形	SH11　柱痕径16×14
西宮	P334	P206	53	42	1146	楕円形	SH11　柱痕径24×22
西宮	P335		42	36	1161	楕円形	
西宮	P336	—	34以上	35	1165		
西宮	P337	P63	62	56	1148	不整形	柱痕径32
西宮	P338	P223	37	33	1155	長方形	
西宮	P339	P66	60	50	1176	楕円形	
西宮	P340		34	32	1160	円形	段あり
西宮	P341	P86	35	32	1156	円形	
西宮	P342	P79	—	38	1175		
西宮	P343	P224	46	38	1151	楕円形	
西宮	P344	—	30	27	1154	方形	
西宮	P345	P80	40	35	1176	楕円形	
西宮	P346	P33	32	30	1151	円形	
西宮	P347		47	44	1130	円形	
西宮	P348	P 1	56	46	1174	楕円形	
西宮	P349	—	50	38	1170	楕円形	
西宮	P350	P236	66	54	1165	楕円形	
西宮	P351	P235	48	46	1168	円形	
西宮	P352	SF25	92	48	1166	楕円形	
西宮	P353		30	28	1170	円形	
西宮	P354	P73	46	42	1181	円形	
西宮	P355	SF17		80	1186		
西宮	P356		26	25	1168	方形	
西宮	P357	P83	70	66	1168	不整形	
西宮	P358	P 2 A・P 2 B	59	37	1144	楕円形	SH15
西宮	P359	P60	—		1161		SH15
西宮	P360	P61	26	25	1144	円形	SH15
西宮	P361	P 4	30	27	1145	円形	SH15
西宮	P362	—	41	35	1177	楕円形	SH16
西宮	P363		70	31	1167	楕円形	
西宮	P364		52	46	1168	楕円形	SH16
西宮	P365	P62	30	29	1145	円形	SH16

第６表　小穴一覧表６

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高（cm）	平面形	備　考
			長径	短径			
西宮	P366	P３	36	33	1162	円形	
西宮	P367		—	30	1180		
西宮	P368	P200	—	—	1179		柱痕径20×18以上
西宮	P369	P８	96	—	1163	長方形？	SH12　柱痕径32×22
西宮	P370		—	—	1175		SH12
西宮	P371	P19	110	82	1168	長方形	SH12　柱痕径30×29
西宮	P372	P７	96	87	1172	方形	SH12　柱痕径24×22
西宮	P373	P９＝P237	130	84	1155	楕方形	SH12　柱痕径26×24，38×34
西宮	P374	P21	—	94	1166		SH12　柱痕径27
西宮	P375	P20	106	96	1169	方形	SH12　柱痕径29×24
西宮	P376	P５	100	84	1173	長方形	SH12　柱痕径24×22
西宮	P377	P６	106	99	1162	方形	SH12　柱痕径27×26
西宮	P378	—	—	—	1160		
西宮	P379	P227	—	74	1149		柱痕径34×28
西宮	P380	—	22	22	1167	方形	—
西宮	P381	P233	64	45	1163	長方形	
西宮	P382		56	49	1196	方形	SH13
西宮	P383	P203	37	36	1166	円形	SH13
西宮	P384	P12	46	44	1174	円形	SH13
西宮	P385	P229	36	26	1175	楕円形	SH13
西宮	P386	—	29	29	1185	円形	SH13
西宮	P387	—		49	1192		SH13
西宮	P388	P228	38	38	1180	方形	SH14
西宮	P389	P234	43	38	1184	楕円形	SH14　柱痕径14
西宮	P390	—	38	32	1175	楕円形	SH14
西宮	P391	—	46	29	1189	楕円形	SH14
西宮	P392	—	30	28	1169	円形	
西宮	P393	P22	24	19	1167	楕円形	
西宮	P394	P202	36	35	1178	円形	
西宮	P395	P205	48	30	1159	楕円形	
西宮	P396	P55	22	20	1185	円形	
西宮	P397	P13	30	29	1180	円形	
西宮	P398	P204	30	28	1168	円形	
西宮	P399		60	33	1170	楕円形	
西宮	P400		28	26	1176	円形	
西宮	P401		40	39	1170	円形	
西宮	P402	P14	32	30	1181	円形	
西宮	P403	P15	30	28	1152	円形	
西宮	P404	SP４		56	1183		
西宮	P405	P11	30	24	1173	楕円形	
西宮	P406	P232	28	26	1168	円形	
西宮	P407	P10	21	21	1160	円形	
西宮	P408	—	32	30	1170	円形	
西宮	P409	—	—	—	1171		
西宮	P410	—	32	31	1182	円形	
西宮	P411	P230	39	34	1188	楕円形	
西宮	P412	P231	36	24	1187	円形	
西浦南区	P413	P７	52	47	1176	円形	SB２　柱痕径24（方形）
西浦南区	P414	—	—	50	1200		SB２　P419と重複
西浦南区	P415	P２	42	41	1198	円形	SB２　柱痕径24
西浦南区	P416	P８	74	46	1174	楕円形	SB２　柱痕径27×23　段あり
西浦南区	P417		62	46	1186	長方形	柱痕径34×26　重複？
西浦南区	P418	P１	46	41	1187	円形	柱痕径16×14
西浦南区	P419	—	—	36	1198	—	P414と重複
西浦南区	P420	P６	35	34	1190	円形	柱痕径31×28（方形）
西浦南区	P421	P４	101	89	1195	楕円形	段あり
西浦南区	P422		55	52	1215	不整形	
西浦南区	P423	P41	60	45	1198	長方形	
西浦南区	P424	P３	63	57	1195	方形	段あり
西浦南区	P425	P５	63	55	1188	楕円形	
西浦南区	P426	—	—	44	1208		
西浦南区	P427	—	64	44	1188	長方形	柱痕径28×24
西浦南区	P428	—	76	—	1218	不整形	
西浦南区	P429	—	98	—	1198		
西浦南区	P430	—	82	—	1196		
西浦南区	P431	P44	56	43	1198	長方形	
西浦南区	P432	P43	86	51以上	1194	不整形	柱痕径41×38
西浦南区	P433	P42	88	76	1185	長方形	段あり
西浦南区	P434	—	74	57	1205	長方形	
西浦南区	P435	—	48	43	1205	長方形	
西浦南区	P436	P46	52	44	1186	長方形	柱痕径16
西浦南区	P437	P47	83	56	1174	長方形	柱痕径26　段あり
西浦南区	P438	P48	—	—	1202		柱痕径27×25以上

第７表　小穴一覧表７

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm） 長径	短径	底面高（cm）	平面形	備　考
西浦南区	P439	—	62	54	1199	楕円形	
西浦南区	P440	—	36	32	1197	楕円形	
西浦南区	P441	P36	88	64以上	1187	長方形	
西浦南区	P442	—	77	73	1175	円形	
西浦南区	P443	—	51	49	1218	円形	
西浦南区	P444	—	70	40	1197	長方形	
西浦南区	P445	P45	41	36	1192	楕円形	SH19
西浦南区	P446	P40	56	46	1188	楕円形	SH19
西浦南区	P447	P39	46	42	1191	円形	SH19　柱痕径16
西浦南区	P448	P31	50	50	1201	円形	SH19
西浦南区	P449	—	44	43	1210	円形	SH19　SH20
西浦南区	P450	P4	37	—	1214		SH19
西浦南区	P451	P33	—	—	1202		SH19
西浦南区	P452	—	23	21	1209	円形	
西浦南区	P453	P3	51	46	1203	楕円形	柱痕径30×25
西浦南区	P454	—	32	27	1205	楕円形	
西浦南区	P455	—	40	29	1196	不整形	段あり
西浦南区	P456	P32	83	70	1173	不整形	SH17　柱痕径26×23
西浦南区	P457	P28	62	61	1181	方形	SH17
西浦南区	P458	P9	62	60	1173	円形	SH17　柱痕径30×28
西浦南区	P459	P18	75	68	1172	方形	SH17　柱痕径30×26
西浦南区	P460	SF5	100	80	1194	長方形	SH18
西浦南区	P461	—	38	36	1208	円形	SH18
西浦南区	P462	P29	52	50	1209	円形	SH18
西浦南区	P463	P28	67	56	1202	長方形	SH18
西浦南区	P464	P6	56	46	1201	楕円形	SH18　柱痕径25×23
西浦南区	P465	P35	72	71	1193	方形	SH18　重複？
西浦南区	P466	P5	40	40	1208	円形	SH20
西浦南区	P467	—	43	39	1212	円形	SH20
西浦南区	P468	—	44	41	1225	円形	SH20
西浦南区	P469	P38	58	56	1187	方形	SH20　柱痕径33×30
西浦南区	P470	P8	50	48	1207	方形	SH20　柱痕径30×28　重複？
西浦南区	P471	—	25	21	1201	長方形	
西浦南区	P472	—	62	51	1200	長方形	
西浦南区	P473	P25	62	56	1203	楕円形	
西浦南区	P474		40	40	1216	円形	
西浦南区	P475		31	30	1207	円形	
西浦南区	P476	P38	34	32	1201	円形	柱痕径14×12
西浦南区	P477	P7	56	50	1214	楕円形	
西浦南区	P478	P36	50	44	1201	楕円形	柱痕径19×18
西浦南区	P479	—	54	48	1200	楕円形	SH21　段あり
西浦南区	P480	P10	53	46	1197	楕円形	SH21
西浦南区	P481	P11	49	46	1189	方形	SH21　柱痕径20
西浦南区	P482	—	73	56	1216	長方形	SH21
西浦南区	P483	P13	44	41	1200	円形	柱痕径22×21
西浦南区	P484	P12	—	—	1179		段あり
西浦南区	P485		51	42	1201	楕円形	
西浦南区	P486		62	62	1221	方形	
西浦南区	P487	—	34	28	1203	楕円形	段あり
西浦南区	P488	P37	55		1198		柱痕径22×20
西浦南区	P489	P37	35	33	1218	方形	
西浦南区	P490	P56	32	30	1193	円形	柱痕径14
西浦南区	P491	P55	25	24	1200	円形	
西浦南区	P492	—	—	50	1203	不整形	重複？
西浦南区	P493	P24	80	56	1208	楕円形	
西浦南区	P494	—		—	1200		
西浦南区	P495		—	43	1188		
西浦南区	P496	P19	62	56	1209	円形	
西浦南区	P497	P54	56	50	1207	楕円形	柱痕径19
西浦南区	P498	P17	78	61	1203	楕円形	柱痕径18
西浦南区	P499	—	38	30	1208	楕円形	段あり
西浦南区	P500	P40	63	58	1195	円形	柱痕径20
西浦南区	P501	P50	49	43	1204	楕円形	柱痕径14
西浦南区	P502	P20	50	45	1193	方形	段あり
西浦南区	P503	P21	51	39	1198	楕円形	SH23　柱痕径26×24
西浦南区	P504	P51	50	42	1189	楕円形	SH23　柱痕径22×17
西浦南区	P505	P15	41	38	1184	円形	SH23
西浦南区	P506	P53	48	48	1197	不整形	SH23　柱痕径30
西浦南区	P507		52	49	1202		SH22
西浦南区	P508	P52	52	51	1189	円形	SH22　柱痕径30×28
西浦南区	P509	P14	73	54	1219	楕円形	SH22　柱痕径36×30
西浦南区	P510	—	58	56	1210	方形	SH22
西浦南区	P511	P22	42	40	1216	円形	

第8表　小穴一覧表8

遺構名		II遺構名	大きさ（cm）		底面高	平面形	備　考
			長径	短径	(cm)		
西浦南区	P512		30	27	1202	方形	
西浦南区	P513	—	39	36	1229	円形	
西浦南区	P514	—	56	46	約1210	長方形	柱痕径32×28
西浦南区	P515	—	68	64	1206	円形	
西浦南区	P516	P16	66	66	1203	円形	
西浦南区	P517	—	42	36	1190	楕円形	
西浦南区	P518	—	46	42	1201	円形	
西浦南区	P519	—	50	38	1216	不整形	
西浦南区	P520	—	34	28	1213	楕円形	
西浦南区	P521	—	35	32	1209	円形	
西浦南区	P522	—	48	38	1216	楕円形	
西浦南区	P523		44	42	1235	円形	
西浦南区	P524		48	42	1195	楕円形	SB 3　柱痕径28×25
西浦南区	P525		42	37	1190	楕円形	SB 3　柱痕径22
西浦南区	P526	—	40	33	1203	楕円形	SB 3　柱痕径20
西浦南区	P527		42	40	1201	円形	SB 3　柱痕径20
西浦南区	P528	—	66	36	1218	不整形	
西浦南区	P529	—	37	31	1211	楕円形	段あり
西浦南区	P530	—	34	27	1209	楕円形	
西浦南区	P531	—	62	61	1207	方形	柱痕径46×45
西浦南区	P532	—	45	42	1213	円形	
西浦南区	P533		36	26	1223	長方形	
西浦南区	P534	P34	48	44	1236	円形	
西浦南区	P535	—	114	54	1233	楕円形	
西浦南区	P536		46	42	1234	円形	
西浦南区	P537		40	40	1235	円形	
西浦南区	P538	—	80	66	1225	楕円形	
西浦南区	P539	P60	130	120	1214	不整形	風倒木痕？
西浦南区	P540	P59	50	48	1231	方形	
西浦南区	P541	P64	59	50	1221	長方形	
西浦南区	P542	P65	47	43	1212	方形	柱痕径28×27
西浦南区	P543		32	32	1220	円形	
西浦南区	P544	P 3	64	46	1228	不整形	SB 4
西浦南区	P545	P 2	51	44	1210	楕円形	SB 4　柱痕径22×20
西浦南区	P546	P 1	48	46	1208	円形	SB 4
西浦南区	P547		58	58	1223	方形	
西浦南区	P548	P 3	90	82	1212	不整形	段あり
西浦南区	P549	—	62	60	1200	方形	
西浦南区	P550	—	—	54	1203	不整形	
西浦南区	P551	SF 7	112	94	1195	不整形	
西浦南区	P552	—	57	48	1208	楕円形	
西浦南区	P553	P61	54	46	1213	楕円形	
西浦南区	P554	—	35	33	1218	円形	段あり
西浦南区	P555	—	70	62	1226	楕円形	
西浦南区	P556		62	43	1228	楕円形	
西浦南区	P557	—	59	44	1220	楕円形	
西浦南区	P558	—	—	—	1226		
西浦南区	P559	P63	38	32	1227	楕円形	
西浦南区	P560	—	—		1231		
西浦南区	P561	—	68	48	1239	楕円形	SH24
西浦南区	P562	—	70	48	1227	楕円形	SH24
西浦南区	P563	P 2	100	72	1234	不整形	SH24　段あり
西浦南区	P564	P62	32	42	1224	長方形	SH24　柱痕径32×28
西浦南区	P565	P67		41	1231		SH24　柱痕径20×18
西浦南区	P566	P66	46	46	1229	方形	SH24　柱痕径22×20
西浦南区	P567	P65	52	50	1231	方形	SH24　柱痕径21×22
西浦南区	P568	—		—	1235		柱痕あり
西浦南区	P569	P65—2	60	55	1222	方形	
西浦中区	P570	P151	114	89	1204	楕円形	段あり
西浦中区	P571	P139	48	39	1212	長方形	SH25　柱痕径19×18
西浦中区	P572	P132	40	38	1210	方形	SH25　柱痕径36×24
西浦中区	P573	—	—	68以上	1221		SH25
西浦中区	P574		80	76	1197	不整形	柱痕径44×41（方形）
西浦中区	P575		58	—	1237		
西浦中区	P576	P84	—	—	1220	楕円形	柱痕あり　平分調査区外
西浦中区	P577	—	56	52	1223	円形	
西浦中区	P578	—	42	40	1242	円形	
西浦中区	P579	P68	50	46	1220	円形	柱痕径20
西浦中区	P580	P69	68以上	66	1239	楕円形	
西浦中区	P581	P70	61	60	1226	円形	柱痕径23×22
西浦中区	P582	P98	38	35	1223	方形	SH28
西浦中区	P583	P100	41	39	1220	円形	SH28　柱痕径29×26
西浦中区	P584	P101	54	40	1222	長方形	SH28

第９表　小穴一覧表９

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高 (cm)	平面形	備　　考
			長径	短径			
西浦中区	P585	P105	38	37	1216	円形	SH28　SH29　柱痕径14×13
西浦中区	P586	P79	50	48	1223	方形	SH28　SH27　柱痕径30
西浦中区	P587	P75	69	61	1222	長方形	SH28　柱痕径31（方形）
西浦中区	P588	P91	74	72	1220	方形	SH28　柱痕径30（方形）
西浦中区	P589	P108	64	52	1218	長方形	SH28　柱痕径26×22（方形）
西浦中区	P590	P97	48	43	1220	長方形	SH28　柱痕径32×26
西浦中区	P591	P135	54以上	52	1186	不整形	SH27　柱痕径20×18
西浦中区	P592		21	21	1231	円形	SH27
西浦中区	P593	P150	62	56	1213	方形	SH27　柱痕径24　段あり
西浦中区	P594	P199	44	39	1218	楕円形	SH27　柱痕径16×14（方形）
西浦中区	P595	P197	58	56	1204	方形	SH27　柱痕径30×28　重複？
西浦中区	P596	P167	42	38	1218	方形	SH27　柱痕径14
西浦中区	P597	P99	54	44	1259	楕円形	柱痕径34×28
西浦中区	P598	P119	—	44	1213	方形	SH29　柱痕径23×22
西浦中区	P599	P103	50	45	1199	方形	SH29　段あり
西浦中区	P600	P96	38	36	1218	円形	SH26　柱痕径16×14
西浦中区	P601	P98	31	28	1217	方形	SH26
西浦中区	P602		30	30	1220	円形	SH26
西浦中区	P603	P104	36	32	1214	楕円形	SH26
西浦中区	P604	P137	22	20	1225	方形	SH26
西浦中区	P605	P102	44	41	1217	方形	SH26　柱痕径30×28（方形）
西浦中区	P606	P192	40	40	1227	方形	SH26
西浦中区	P607	—	24	23	1225	円形	SH26
西浦中区	P608	P106	24	24	1222	方形	SH26
西浦中区	P609		27	24	1220	方形	SH26
西浦中区	P610	P196	26	24	1218	円形	SH26
西浦中区	P611	—	23	22	1223	円形	
西浦中区	P612	P86	33	24	1218	長方形	
西浦中区	P613	P138	60	56	1207	円形	柱痕径24
西浦中区	P614	—	32	22	1233	不整形	
西浦中区	P615	—	—		1224		
西浦中区	P616	P118	24	22	1218	円形	
西浦中区	P617		40	36	1214	楕円形	柱痕径18
西浦中区	P618	P193	57	48	1207	長方形	柱痕径22
西浦中区	P619	—	56	51	1216	方形	柱痕径22×20（方形）
西浦中区	P620	—	28	23	1228	長方形	
西浦中区	P621	—	28	27	1231	円形	
西浦中区	P622	P71	70	64	1220	方形	
西浦中区	P623	—	48	46	1210	方形	段あり
西浦中区	P624	—	46	38	1218	長方形	
西浦中区	P625	—	72	48	1231	楕円形	
西浦中区	P626	P209			1221		
西浦中区	P627	P120		37	1214	方形	柱痕径28×23
西浦中区	P628	P195	40	40	1217	円形	
西浦中区	P629	—	44	38	1291	長方形	
西浦中区	P630	P92	61	54	1242	長方形	
西浦中区	P631	P78	77	72	1219	円形	SH30　柱痕径26　段あり
西浦中区	P632	P85	—	64	1221		SH30　柱痕径26×24
西浦中区	P633		44	36	1225	楕円形	SH30
西浦中区	P634		24	22	1214	円形	SH30
西浦中区	P635	P126	50	42	1230	楕円形	SH30　柱痕径21×22
西浦中区	P636	P125	70	54	1215	不整形	柱痕径28×20（長方形）
西浦中区	P637	P124	34	38	1221	楕円形	柱痕径22×21
西浦中区	P638	P77	99	61	1219	楕円形	柱痕径34×30
西浦中区	P639	P87	56	46	1240	不整形	段あり
西浦中区	P640	—	34	28	1227	長方形	
西浦中区	P641	P191	54	49	1233	方形	
西浦中区	P642	P74	58	56	1243	円形	
西浦中区	P643	P130	36	35	1228	円形	
西浦中区	P644		32	28	1232	楕円形	
西浦中区	P645	P183	41	36	1239	円形	
西浦中区	P646	—	40	38	1240	円形	
西浦中区	P647	P109	50	48	1235	円形	
西浦中区	P648	P194	68	67	1229	方形	
西浦中区	P649	P181	46	44	1243	円形	
西浦中区	P650	P72・P73	90	80	1210	不整形	柱痕径20×16　段あり
西浦中区	P651	—	100	86	1212	不整形	柱痕径30×24
西浦中区	P652	P186	64	58	1219	方形	柱痕径26
西浦中区	P653	P216	—	—	1220		熱と煙見範囲のため計測不能
西浦中区	P654	P182	54	50	1241	円形	
西浦中区	P655	P110	—	—	1213		柱痕径24×22（方形）　焼土
西浦中区	P656	P83	56	43	1243	楕円形	
西浦中区	P657	P147	116	72	1226	長方形	柱痕径34，28　柱痕２

第 10 表　小穴一覧表 10

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高（cm）	平面形	備　考
			長径	短径			
西浦中区	P658	P134	138	88	1221	不整形	柱痕径40×34，40×38　柱痕２
西浦中区	P659	P180	90	80	1231	楕円形	
西浦中区	P660	—	44	44	1246	円形	
西浦中区	P661	P114	58	50	1229	長方形	SH31　柱痕径20×14
西浦中区	P662	—	70	62	1231	楕円形	SH31　柱痕径38×32
西浦中区	P663	P179	58	56	1230	円形	SH31　柱痕径32
西浦中区	P664	P178	62	52	1237	不整形	SH31　段あり
西浦中区	P665	—	44	44	1243	円形	SH31
西浦中区	P666	P146	62	58	1225	円形	SH31　柱痕径20
西浦中区	P667	P162	50	50	1241	円形	SH31
西浦中区	P668	P166	56	54	1223	円形	SH32　柱痕径18×16
西浦中区	P669	P163	48	48	1227	円形	SH32　柱痕径20
西浦中区	P670	P149	67	64	1237	方形	SH32
西浦中区	P671	P140	40	34	1235	長方形	SH32
西浦中区	P672	P185	42	42	1237	円形	SH32　柱痕径22
西浦中区	P673	P165	50	50	1228	不整形	SH32　柱痕径15
西浦中区	P674	P82	30	30	1241	円形	SH32
西浦中区	P675	—	42	40	1231	円形	柱痕径20×13
西浦中区	P676	P111	46	44	1251	円形	
西浦中区	P677	P88	82	70	1235	楕円形	柱痕径26×23
西浦中区	P678	—	36	34	1231	円形	柱痕径16×10
西浦中区	P679		35	33	1250	円形	
西浦中区	P680		44	42	1232	円形	柱痕径16×12（方形）
西浦中区	P681	P89	70	70	1235	円形	SH33
西浦中区	P682	P184	40	38	1234	円形	SH33　柱痕径20×18
西浦中区	P683	P148	60	58	1239	円形	SH33
西浦中区	P684	P153	64	60	1231	方形	SH33　柱痕径28×26（方形）
西浦中区	P685	P81	58	48	1235	楕円形	SH33
西浦中区	P686	P200	42	41	1229	円形	SH33　柱痕径20×18
西浦中区	P687	P189	39	32	1232	長方形	SH33
西浦中区	P688	P80	54	46	1230	楕円形	
西浦中区	P689	P213	33	30	1225	円形	SH40
西浦中区	P690	P190	34	33	1241	円形	SH40
西浦中区	P691	P206	66	60	1233	円形	SH40
西浦中区	P692		41	40	1245	円形	SH40
西浦中区	P693		—	50	1230		SH40　段あり
西浦中区	P694	P112	66	62	1223	円形	柱痕径17×16
西浦中区	P695	P90	50	48	1234	円形	
西浦中区	P696	P214	42	38	1221	円形	柱痕径20×18
西浦中区	P697	P152	80	—	1231	楕円形	
西浦中区	P698	—	48	48	1224	円形	柱痕径22
西浦中区	P699	P208	49	39	1238	不整形	
西浦中区	P700	—	34	32	1242	円形	
西浦中区	P701	P160	36	33	1221	円形	SH34
西浦中区	P702	P157	52	46	1233	楕円形	SH34
西浦中区	P703	P158	46	46	1229	円形	SH34
西浦中区	P704	—	50	48	1234	円形	SH34　柱痕径26
西浦中区	P705	—	36	34	1234	円形	SH34　柱痕径22
西浦中区	P706		38	32	1235	楕円形	SH34
西浦中区	P707	—	34	26	1231	楕円形	SH34
西浦中区	P708	P161	48	48	1227	円形	柱痕径22×18
西浦中区	P709	—	29	29	1246	円形	
西浦中区	P710	P156	50	49	1212	円形	SB5　柱痕径24×22
西浦中区	P711	P154	56	56	1205	円形	SB5　柱痕径26×25
西浦中区	P712	P155	52	52	1222	円形	SB5
西浦中区	P713	P176	22	22	1235	円形	SB5
西浦中区	P714	P158	37	36	1216	円形	
西浦中区	P715	P177	41	39	1222	円形	柱痕径28×26
西浦中区	P716	P173	46	46	1221	円形	
西浦中区	P717	P141	62	62	1226	円形	
西浦中区	P718	P187	104	90	1206	不整形	SH35　柱痕２　柱痕径22，20×18
西浦中区	P719	SP15	109	108	1215	方形	SH35
西浦中区	P720	P202	—	106	1234	楕円形	SH35
西浦中区	P721	P201	116	100	1221	長方形	SH35　柱痕径22
西浦中区	P722	P207	82	78	1207	円形	SH35
西浦中区	P723	P212	—	86	1212	不整形	SH35　柱痕径26×24
西浦中区	P724	SP12	100	82	1224	長方形	SH35
西浦中区	P725	P94	86	80	1234	方形	SH35
西浦中区	P726	P122	90	90	1236	円形	SH35
西浦中区	P727	SP16	112	94	1208	長方形	SH35　柱痕径26×25
西浦中区	P728	P143	42	42	1226	円形	SH35
西浦中区	P729		62	52	1233	長方形	
西浦中区	P730	P203	42	34	1203	長方形	SH37　柱痕径14

第11表　小穴一覧表11

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高	平面形	備　考
			長径	短径	(cm)		
西浦中区	P731	—	35	35	1232	円形	SH37　柱痕径13×12
西浦中区	P732	P145	42	40	1219	円形	SH37　柱痕径22
西浦中区	P733	P170	78	50	1211	楕円形	SH37　柱痕径18
西浦中区	P734	—	22	20	1217	円形	
西浦中区	P735	—	52	50	1238	不整形	
西浦中区	P736	P174	37	37	1232	円形	
西浦中区	P737	P173	41	40	1199	円形	柱痕径24
西浦中区	P738	P172	58	48	1208	楕円形	柱痕径24
西浦中区	P739	P171	50	46	1224	円形	
西浦中区	P740	—	59	56	1244	円形	
西浦中区	P741	P198	48	42	1226	楕円形	
西浦中区	P742	—	36	30	1240	楕円形	
西浦中区	P743	P141	52	50	1229	円形	SH38　柱痕径20
西浦中区	P744	P142	54	52	1234	円形	SH38
西浦中区	P745	P215	56	44	1229	長方形	SH38
西浦中区	P746	P129	52	50	1226	円形	SH38
西浦中区	P747	—	56	52	1241	円形	
西浦中区	P748	—	42	39	1231	方形	
西浦中区	P749	P188	54	48	1229	長方形	
西浦中区	P750	P93	62	60	1241	方形	
西浦中区	P751	P128	42	38	1223	方形	SH36　柱痕径18
西浦中区	P752	P167	60	54	1198	不整形	SH36　柱痕径34×28
西浦中区	P753	P210	54	54	1216	円形	SH36　柱痕径36×24
西浦中区	P754	—	66	56	1245	楕円形	SH36
西浦中区	P755	P123	50	46	1233	円形	SH36　柱痕径16
西浦中区	P756	P127	36	34	1236	円形	柱痕径19
西浦中区	P757	—	74	62	1232	長方形	柱痕径34
西浦中区	P758	P211	—	66	1211	不整形	柱痕径22
西浦中区	P759	—	54	54	1246	円形	
西浦中区	P760	P121	76	68	1234	楕円形	
西浦中区	P761	P133	64	60	1242	円形	
西浦中区	P762	P117	70	64	1237	円形	
西浦中区	P763	—	62	58	1239	円形	
西浦中区	P764	—	43	43	1244	円形	
西浦中区	P765	P169	102	74	1253	楕円形	
西浦中区	P766	P116	54	50	1244	円形	
西浦中区	P767	—	34	34	1232	方形	
西浦中区	P768	P115	52	50	1233	円形	SH41　柱痕径22×20
西浦中区	P769	P204	64	50	1231	楕円形	SH41　柱痕径28×24
西浦中区	P770	—	42	40	1235	方形	SH41　柱痕径24（方形）
西浦中区	P771	P205	58	53	1225	方形	SH41　柱痕径20
西浦中区	P772	—	32	30	1244	円形	SH41
西浦中区	P773	—	40	38	1251	方形	
西浦中区	P774	P168	52	49	1249	円形	
西浦中区	P775	—	44	42	1235	円形	柱痕径22×20
西浦中区	P776	—	68	56	1240	楕円形	
西浦北区	P777	P223	66	56	1190	長方形	SH43　柱痕径18　段あり
西浦北区	P778	P224	70	50	1179	長方形	SH43　柱痕径20　段あり
西浦北区	P779	P225	—	56	1192	長方形	SH43　柱痕径22×21
西浦北区	P780	P226	—	52	1190	長方形	SH43　柱痕径18×16（方形）
西浦北区	P781	P227	50	37	1176	不整形	SH43
西浦北区	P782	P220	68	44	1195	長方形	SH43　柱痕径16
西浦北区	P783	P221	70	48	1199	長方形	SH43　柱痕径19×18
西浦北区	P784	P222	70	54	1181	長方形	SH43　柱痕径19×18
西浦北区	P785	P230	70	62	1197	楕円形	
西浦北区	P786	—	24	24	1216	方形	
西浦北区	P787	—	42	29	1210	不整形	
西浦北区	P788	—	44	42	1201	円形	柱痕径14
西浦北区	P789	—	27	22	1212	楕円形	
西浦北区	P790	—	30	26	1206	楕円形	
西浦北区	P791	P228	—	66	1167		段あり
西浦北区	P792	P229	84	46	1187	楕円形	
西浦北区	P793	—		33	1212		
西浦北区	P794	—	52	52	1189	方形	SH42　柱痕径30×24　段あり
西浦北区	P795	P217	46	42	1194	方形	SH42　柱痕径30×28（方形）
西浦北区	P796	P218	56	52	1190	方形	SH42
西浦北区	P797	—	38	34	1196	方形	SH42　柱痕径20
西浦北区	P798	—	38	36	1199	円形	SH42　柱痕径26
西浦北区	P799	—	44	38	1210	方形	
西浦北区	P800	—	36	30	1210	楕円形	
西浦北区	P801	—	34	32	1208	円形	
西浦北区	P802	—	20	18	1199	円形	
西浦北区	P803	—	20	18	1196	円形	

第 12 表　小穴一覧表 12

遺構名		出遺構名	入き 3（cm）		底面高（cm）	平面形	備　考
			長径	短径			
西浦北区	P804		65	56	1197	楕円形	
西浦北区	P805	P219	20	20	1211	円形	
西浦北区	P806	—	24	22	1200	円形	
西浦北区	P807	—	36	28	1204	楕円形	柱痕径20
西浦中区北部	P808	—	26	21	1213	楕円形	
西浦中区北部	P809		60	38	1225	長方形	
西浦北区北東部	P810		22	20	1198	円形	
西浦北区北東部	P811	—	62	56	1196	楕円形	
西浦北区北東部	P812		21	22	1195	円形	
西浦北区北東部	P813		20	18	1206	不整形	
西浦北区北東部	P814		24	20	1192	長方形	
西浦北区北東部	P815	—	23	20	1194	長方形	
西浦北区北東部	P816	—	29	26	1180	楕円形	柱痕径12×11（方形）
西浦北区北東部	P817	—	22	16	1190	楕円形	
西浦北区北東部	P818	—	18	15	1193	楕円形	
西浦北区北東部	P819	—	—	17	1199		
西浦北区北東部	P820	—	20	20	1189	円形	
西浦北区北東部	P821	—	20	20	1190	円形	
西浦北区北東部	P822	—	26	24	1190	円形	
西浦北区北東部	P823	—	18	18	1197	円形	
笹井51号線	P824		30	27	1203	円形	
笹井51号線	P825	—	30	26	1203	方形	
笹井51号線	P826	—	23	20	1207	円形	
笹井51号線	P827	—	—	29	1205	円形	
笹井51号線	P828		—	28	1214	円形	集石

第13表　土坑一覧表

遺構名		旧遺構名	大きさ（cm）		底面高	平面形	備　考
			長径	短径	(cm)		
西宮	SF 1	SF42	170	86	1124	不整形	
西宮	SF 2	SF41	182	136以上	1072	不整形	
西宮	SF 3	SX23	173	98	1122	不整形	
西宮	SF 4	SF37	168	120	1129	楕円形	
西宮	SF 5	SX 9	298	163	1142	楕円形	
西宮	SF 6	SX10	140以上	122	1115	楕円形	
西宮	SF 7	SX15		120	1149	不整形	
西宮	SF 8	SX12	259	94	1135	不整形	
西宮	SF 9	SX11	527	395	1147	楕円形	
西宮	SF10	SX17	464以上	410以上	1149		
西宮	SF11	SP124相当	472以上	—	1137		
西宮	SF12	SF29	145	—	1132		
西宮	SF13	SF28	133	125	1143	円形	
西宮	SF14	P125	103	86	1153	楕円形	
西宮	SF15	P127	114	76	1148	不整形	
西宮	SF16	SF35	—	—	1090		
西宮	SF17	SF26	130	98	1089	楕円形	
西宮	SF18	SF27	138以上	112	1095	楕円形	
西宮	SF19		164以上	114	1165	不整形	
西宮	SF20	P40		86	1176		
西宮	SF21	P34	122	115	1165	不整形	
西宮	SF22	SF22	153	122	1111	楕円形	
西宮	SF23	SF31	154	111	1091	楕円形	段あり
西宮	SF24	SF24	286	174	1103	不整形	段あり　土坑重複
西宮	SF25	SX 5	372	176	1105	楕円形	土坑重複
西宮	SF26	SF23	132	126	1098	円形	
西宮	SF27	SF30	163	140	1123	不整形	
西宮	SF28	SF38	254	202	1096	不整形	段あり
西宮	SF29	SF16	162	134	1146	楕円形	
西宮	SF30	SF21	108	96	1146	楕円形	
西宮	SF31	SF20	213	182	1140	方形	
西宮	SF32	SX20	406	276	1148	楕円形	
西宮	SF33	SF15	400	190	1130	不整形	土坑重複？
西宮	SF34	SX22	94	93	1118	不整形	
西宮	SF35	SF14	138	112	1142	楕円形	
西宮	SF36	SF13	188	140	1137	楕円形	
西宮	SF37	SF18	206	116	1134	楕円形	
西宮	SF38	SX21	232	134	1142	楕円形	
西宮	SF39	SX 4	148	128	1104	楕円形	
西宮	SF40	SX 3	204	170	1105	楕円形	
西宮	SF41	P94	83	67	1147	楕円形	
西宮	SF42	—	—	74	1178		
西宮	SF43	SF 2	—	158	1172	不整形	落ち込みあり
西宮	SF44	SF12	320以上	160以上	1187	不整形	
西宮	SF45	P43	126	71	1193	長方形	
西宮	SF46	P54～SF39	106以上	102	1186	楕円形	
西宮	SF47	SF11	146	137	1150	不整形	
西宮	SF48	P84	104	94	1160	円形	
西宮	SF49	SF 9	304以上	256以上	1185	不整形	竪穴住居跡？
西宮	SF50	SF10・SD61	114	—	1185		
西宮	SF51	SF 8	249	208	1157	楕円形	
西宮	SF52	P225	101	83	1164	楕円形	
西宮	SF53	SF 7	276	138	1154	不整形	
西宮	SF54	SD16	100	46	1148	楕円形	
西宮	SF55	SF 6	162	109		長方形	
西宮	SF56	SF 5	144	118	1143	楕円形	
西宮	SF57	SF 3	—	123	1154		段あり
西浦南区	SF58	SF 9	122	78	1217	長方形	
西浦南区	SF59	SF 8	138	134	1194	不整形	段あり
西浦南区	SF60	SX 5	—	79	1219		段あり
西浦中区	SF61	SF11	230	264	1157	楕円形	段あり
西浦中区	SF62	SX16	132	116	1237	楕円形	段あり　焼土
西浦中区	SF63	P164	166	112	1236	不整形	
西浦中区	SF64		176	120	1232	不整形	
西浦北区	SF65	SF20	138	100	1211	楕円形	
西浦北区	SF66	—		72	1215		
西浦北区	SF67	SF18	150	126	1208	不整形	
西浦北区	SF68	SF19	184	158	1189	不整形	
西浦北区	SF69	SF17	90	—	1214		
西浦南区	SF70	SF 1	268	222	1217	不整形	

第14表　新旧遺構名対照表

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
西宮　SB 1	SX 6	西宮　SR11	SD 6
西浦南区　SB 2	SX 6	西宮　SR12	SD44
西浦南区　SB 3	SB 1	西浦南区　SR13	SD15
西浦南区　SB 4	SB 2	西浦南区　SR14	SD18　SD18A　SD18B　SD 1
西浦中区　SB 5	SX17南		
西宮　SE 1	SE 1	西浦南区　SR15	SD16　SX 8
西浦北区　SE 2	SE 2	西浦南区　SR16	SD 2　SD 3　SD 5　SD 6　SD 7　SD12
西浦北区　SE 3	SX23		
西浦北区　SE 4	SE 1	西浦南区　SR17	SR 1　SR 1 A～F
笠井51号線　SE 5	笠井51号線SE 3	西浦南区　SR18	SR 2　SR 2 A～D　SF10
笠井51号線　SE 6	笠井51号線SE 4	西浦南区　SR19	SD 8　SD13　SD 9
西宮　SD 1	SD118	西浦南区　SR20	SD10
西宮　SD 2	SD122	西浦南区　SR21	SD11
西宮　SD 3	SX 7	西浦中区　SR22	SD68
西宮　SD 4	SD46	西浦中区　SR23	SD71
西宮　SD 5	SD77	西浦中区　SR24	SD83
西宮　SD 6	SD70	西浦中区　SR25	SD34　SD95
西宮　SD 7	SD72　SD73　SD78	西浦中区　SR26	SD85
西宮　SD 8	SD63＝SD147	西浦中区　SR27	SD95
西宮　SD 8 B	SD23	西浦中区　SR28	SD92　SD94　SD100
西宮　SD 9	SD57	西浦中区　SR29	SD97A（北側）　SD97B（南側）　上層SD93
西宮　SD10	SD 1		
西宮　SD11	SD 4	西浦北区　SR30	下層SD110　上層SD112
西宮　SD12	SF 1	西浦北区　SR31	SD127
西宮　SD13	SD11	西浦北区　SR32	SD126
西宮　SD14	SD 9	西浦北区　SR33	SD115　SD115B
西宮　SD15	SD13　SD14	西浦北区　SR34	SD105　SD105A
西浦南区　SD16	SD22	西浦北区　SR35	SD104
西浦南区　SD17	SD 4　SD17	西浦北区　SR36	SD124　SD128
西浦中区　SD18	SD70	西浦北区　SR37	SD122　SD113
西浦中区　SD19	SD62	西浦北区　SR38	SD107　SD109
西浦中区　SD20	SD73	笠井51号線　SR39	SD123　笠井51号線SD150
西浦中区　SD21	SD33	西浦中区　SR40	SD134
西浦中区　SD22	SD35　SD88	西浦中区　SR40 B	SD135
西浦中区　SD23	SD57	西浦中区　SR41	SD141
西浦中区　SD24	SD36	西浦中区　SR42	SD142
西浦中区　SD25	SD37	西浦中区　SR43	SD143
西浦中区　SD26	SD31	西浦中区　SR44	SD144
西浦中区　SD27	SD42	西浦中区　SR45	SD145
西浦中区　SD28	SD39　SD32	西浦北区　SR46	SD140
西浦中区　SD29	SD49	西浦北区　SR47	SD129
西浦中区　SD30	SD45	西浦北区　SR48	下層
西浦中区　SD31	SD76 B	西浦北区　SR49	下層
西浦北区　SD32	SD125	西浦北区　SR50	下層SD130
西浦北区　SD33	SD101	笠井51号線　SR51	笠井51号線SD148
西浦北区　SD34	SD111　笠井51号線SD151	西浦南区　SX 1	SX 7
西宮　SR 1	SD124	西浦南区　SX 2	焼土群
西宮　SR 2	SD145	西浦南区　SX 3	SX 1 西
西宮　SR 3	SD134	西浦南区　SX 4	SX 1 東
西宮　SR 4	SD69＝SD48	西浦南区　SX 5	SX 3
西宮　SR 5	SD102	西浦南区　SX 6	SX 3 下層
西宮　SR 6	SD 5	西浦中区　SX 7	SX11　SX15
西宮　SR 7	SD29　SD39　SD40	西浦中区　SX 8	SX19
西宮　SR 8	SD26	西浦中区　SX 9	SX12
西宮　SR 9	SD51	西浦中区　SX10	SX13
西宮　SR10	SD10	西浦中区　SX11	SX17

第Ⅲ章　発見された遺物

第１節　木製品（別冊78～124図）

遺跡から出土する木製品の多くは、原形を保つものはあまりなく、補修、再加工され、転用されている。水田畦畔などに転用されたり、破損品が流路などに投棄され、偶然発見されるものはごく一部であり、ほとんどは燃料などとして焼却されているようである。完形品は洪水などの災害により流されたものや、低湿地に置き忘れ去られたもの、祭祀用や副葬品などに国内では限定される。

今回の出土品には祭祀関連遺物が多いため、比較的原形を保つものが多いが、ほとんどが破損品である。木製品を考える場合は、そのリサイクルシステムを考えることが重要であるが、木製品の利用法は様々で、単純にパターン化できていないのが現状である。祭祀用であるのか、実用品が破損により廃棄されたのかは、遺存状態による区別も可能であろうが、同一種類でも完形品と細片の状態のものがあり、その識別は個々の製品別となり、実体と遊離してしまう可能性が高い。祭祀用であるか否かについては今後の検討課題とし、今回は種別毎の形態の特徴と時期的変遷を中心に考えてみたい。残存部の大きさや樹種などは、一覧表にまとめたのでそちらを参照していただきたい。

県内出土の木製品は、他県と比較するとかなり質量共に充実した内容を誇っている。これは、静岡市登呂遺跡（日本考古学協会編1949・1954）の調査以来、低湿地遺跡の調査件数が多いためで、木製品に関する論考も多岐にわたっている。浜松市伊場遺跡（浜松市教育委員会1978）からは、奈良時代以降の大量の木製品が発見され、用途に応じた分類案が提示され、その後の研究の方向性を示した。当研究所でも神明原・元宮川遺跡（佐藤他1989）や静清バイパス関連の調査により、登呂遺跡と伊場遺跡の間を埋める資料が蓄積され、農具を中心とした変遷案が中山正典氏等によって示されている（中山1994）。静岡県史でも集成がなされ、向坂鋼二氏によってまとめられている（向坂1992）。両氏の変遷案はほぼ同様の結果となっているが、古墳時代中・後期の資料が乏しく、やや曖昧な点を残していた。今回の旧河道内からの出土品は、その間隙を埋める資料として、山ノ花遺跡出土例を含めて非常に重要な資料となるであろう。旧河道の在り方については、第Ⅱ章第３節でも述べているが、上層の河道が最初に形成されたSR45を抉っており、SR45内に存在した木製品を浮き上げ（洗い流し）てしまっている。一部は上層のSR43に伴う可能性もあるが、ほとんどはSR45に伴っていたものと考えて良いと思われる。SR45からは古墳時代中期から後期初頭の土器が出土しているが、木製品と伴出した土器には古墳時代中期のものが多い。

旧河道より出土した木製品には、農工具（鍬・鋤・鎌・大足・竪杵・横槌・田舟・編錘・編台・斧柄など）、容器（組合せ箱・曲物・刳物・桶）、祭祀具（刀形・舟形・鏃形）、狩・漁猟具、武具（弓・矢・靫・刀鞘尻・浮子など）、運搬具（天秤棒・櫂）、紡織具（紡錘車・機台など）、薬器（筑状打弦薬器・琴・ササラ状木製品）、装身具（杖・竪櫛）、建築材（柱・梯子・扉・柵・蹴放し・棟木・壁板・垂木など）があり、これらの他に机・釣瓶・彫刻板・ヘラ状木製品などもある。

これらの中で特徴的なものについては以下に種別毎まとめるが、山ノ花遺跡（鈴木1998）出土資料も同一の旧河道内からのもので、時期もほぼ同様（古墳時代中期であるが、山ノ花遺跡はより古い土器が出土している）であるので、補足的に援用する。農具の呼称は1994年のシンポジウム資料（財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所1994）に準拠する。なお、その他の木製品については、『木器集成図録』（上原1993）を参考にした。

鍬には膝柄（15・16）の付くナスビ型鍬先（６）、ナスビ型二又鍬先（１・２・３）、二又鍬先（８）、

三又鏃先（14）がある。4はナスビ型であったものを再加工し、狭鏃に転用している可能性がある。柄孔が穿たれているものには諸手鏃先（10）、小型鏃先（9）、横鏃先（11）がある。ただし、9・11は針葉樹であり、類例の増加を待って検討したい。これらの他に、山ノ花遺跡からは鉄刃装着用のナスビ型鏃先や藤柄広鏃が出土している。

鏃先はナスビ型がほとんどで、古墳時代前期以前の柄孔鏃先や藤柄又鏃の出土例がわずかである点は注目される。樋上氏が分類する（樋上1994）東海系曲柄鏃先（8）に替わって、畿内系のナスビ型鏃先が普及する背景には、鉄刃装着の影響が大きいものと考えられる。その他、新出の形態には諸手鏃があり、鉄刃が装着される。諸手鏃は打ち引き鏃で、掘削と地ならし兼用で使われる。斉力を利用する馬鏃の出現がどこまで遡るかにもよるが、古墳時代前期以前の柄穴狭鏃や多又鏃の出土量が減少し、諸手鏃が出現してくることには相関関係があるようにも見える。

鋤にはスコップ状のもの（12）とフォーク状のもの（13）があり、山ノ花遺跡では鉄刃装着用の一木鋤が出土している。フォーク状の一木鋤は県内では類例に乏しいが、多又鏃と分類されているものの中に一木鋤が含まれる可能性がある。おそらく、古墳時代を通して一定量存在するものと思われる。その他、組合せ鋤の柄（25）も出土している。

鋤に類するものとして、掘棒とされる樋状木製品（21～23）もあるが、22・23は握部が幅広で、掘棒ではないかもしれない。

18～20は犬足の部材である。犬足は荒山町山木遺跡例（後藤1962）が著名であるが、静岡市曲金北遺跡（藤巻1997）からも所謂登呂層から出土しており、古墳時代前期に遡る可能性がある。犬足は水田跡の調査などにより、田下駄と共に類例が増しつつあるが、遠江地方では田下駄の報告例があまり無い。灌漑技術や水田土壌の質的な差が反映されているのであろうか。

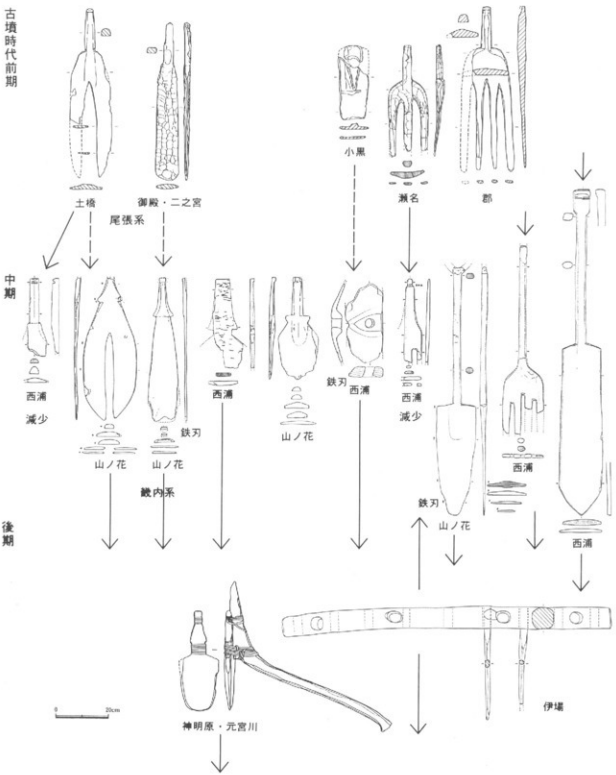
鎌柄（17）も1点出土しているが、同形態のものが山ノ花遺跡から6点も出土している。米の収穫法が穂首刈りであるのか根刈りであるのか意見の分かれるところではあるが、編台（75～83）や編錘（53～74）の出土から藁細工が頻繁に行われていたであろうことは想像に難くない。編台や編錘は、県内では古墳時代中期以降に認められるもので、編台の切り込み部の間隔も様々である。切り込み間隔は、ほとんどが一定では無いが、山ノ花遺跡例も含めると4cm前後（3例）、10cm前後（3例）、15cm前後（3例）、18cm前後（2例）に分けることができ、多様なもじり編み製品を作っていたことが窺える。ただし、間隔の狭いものの中には、76のように切り込み部をふさいでいるものがあり、間隔を自由に変えていたようである。

竪杵には先端部が平坦（41）なものと尖頭形（42）の二者がある。これは脱穀・籾摺り用と製粉用に使い分けられるとされている。山ノ花遺跡例には握部の隆起帯は無く、県内でも古墳時代以降隆起帯は略されるようである。

横槌（43～49）にも、先端部が平坦（44・47・48）なものと尖頭形（43・45・46・49）の二者があり、小型臼を利用した杵への転用が想定されている（上原前掲書）。45の先端部は摩滅しており、擦り潰し用に使われたようである。先端部が平坦なものは、作りが丁寧なものが多く、特別な意識が込められていたように思われる。敲打痕が認められることから形代用とは考えられないが、他のものでは代用できないような用途があり、長期間大切に扱われていた可能性がある。

50～52は田舟で、大きさから134も田舟と考えた。50はクリ材で、全体的に薄く、把手も細く繊細な作りで浅い。他は針葉樹材で、全体的に厚く深く、乗用の可能性もある。51の把手部には紐擦れ状の痕跡が残っている。

86は天秤棒で、両端部は左右に有頭状の紐掛け部が作り出されている。断面形は全体に長方形である。曲金北遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の水田跡からも、紐掛け部が組合せ式の天秤棒が出土してい

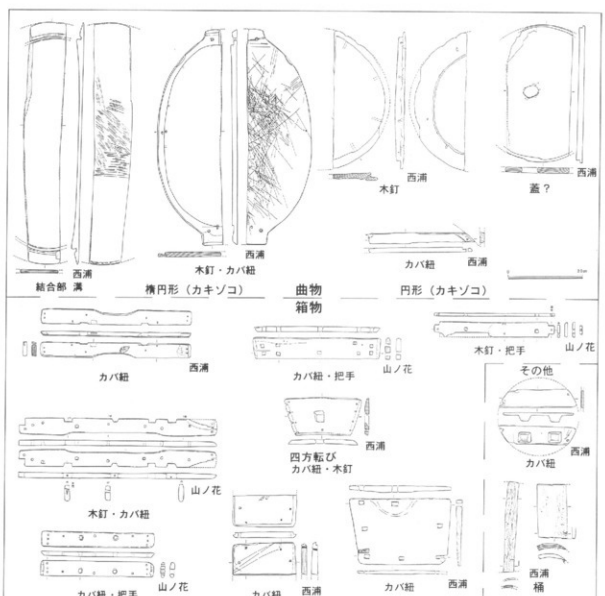


第1図　恒武遺跡を中心とする鍬・鋤先の変遷案

る。断面形は偏平な楕円形である。耕地へ施肥が行われるのがいつ頃からかは、今後の検討課題である。

容器の出土量は58点とかなり多く、組合せ箱（88～98、100・101）、曲物（102～112）、刳物（113～133、135～145）、桶（152・153）がある。

組合せ箱が注目されたのは最近のことであるため、弥生時代まで遡るかは不明な点が多いが、角江遺跡での報告例が無いことからすると、古墳時代以降の所産である可能性が高い。89や92は四方転びの箱の側板である。89は広い方が底で、92は逆に狭い方が底となり、92の木口には釘で補強されたような痕跡も残っている。四方転びの箱の製作には、曲尺を利用した指物技術の新たな伝来も想定されている（上原前掲書）。88は薄い側板で、孔の中に木釘（楔）の痕跡が残る。カバ紐は遺存していないことから、斜めに削られた木口を角の面取りと考えることもできる。90は厚手で、カバ紐により結合されていたと思われるが、底板は木釘により補強されている。93はホゾによる結合も考えられるが、孔が内側に寄り過ぎていることから、カバ紐による結合と考えられる。96～98は結合部に段を作り出している。98の孔の



第２図　恒武遺跡における新出の容器類

中には木質が遺存しており、カバ紐の圧痕が認められることから楔と考えた。96の外面は黒化しており、漆が塗られていた可能性がある。100は細長い側板で、上側縁中央部に浅い抉りがあり、下側縁部には底板結合用の抉りが2ヶ所存在する。この抉りの外側には穿孔が認められ、カバ紐もしくは釘により底板が留められていたと考えられる。山ノ花遺跡例では、底板を木釘とカバ紐の両方で固定しているかのような例がある。また、側板中央部にやや大きめの穿孔が2ヶ所存在し、縄状の把手がつくと思われるものもある。木口側はカバ紐による留縫ぎである。これらは箱物というより、現代の盆のような形状が想定される。101は木口部が平坦で結合方法が不明であるが、中仕切りのような部材が存在しても良いと思われる。

曲物の出現は、県内では瀬名遺跡（中山前掲書）の古墳時代前期の大型品が知られているが、同じ水田層（5区10層）からは、中期的な高坏も報告されていることから、瀬名遺跡例は古墳時代中期に下る可能性もある。何れにしても、普及するのは中期以降であろう。平面形態は楕円形と円形のものがあり、前者は大型品に多い。楕円形のものには、両端に把手が付くもの（102）や底板の側板結合部が溝状に凹むもの（103）がある。底板は全てカキゾコで、底板と側板の結合方法は木釘によるもの（102・105・109）とカバ紐によるもの（102・110）が存在する。107は中央部に穿孔があり、蓋になるかもしれない。146は曲物の底板と考えるとクレゾコになるが、はっきりしない。

刳物にも様々な形態があり、平面形態は長方形、側縁部が外側に弯曲するもの、塵取り形などがあり、大きさも各種存在する。前期以前に多く存在する平面楕円形（片口を除く）の刳物がほとんど認められない点は注目される。また、脚の付く例が多い点も特徴的である。

塵取り形を呈するものの中には、柄の付く例（148～150）もあり、大型品は跳ね釣瓶と考えられている。小型品は柄杓であろう。類例は静岡市川合遺跡（山田1995）の奈良時代の井戸跡から出土している。それには柄が付いており、楔によって留められている。

152・153はその弯曲の状態から桶の側板と考えた。箍圧痕は観察できなかったが、153付近より籠状の製品も発見されている。瓦製作用の桶は紐により結合されているので、カバ紐により結合される場合も想定できる。

机は二脚の例がほとんどで、追入れ縫ぎにより天板と脚を結合させているが、木釘やカバ紐により結合部を補強していると考えられるもの（159・184・196）も存在する。緩みが生じた際に、木釘やカバ紐で補強したのであろうか。四脚の大板例は169のみである。164は踏脚で四脚の可能性が高い。162・163も四脚になるかもしれないが、腰掛の脚の可能性も残る。

机に類するもので、台状の木製品の部材も出土している。99は両側縁中央が大きく抉られており、類例は山ノ花遺跡から3点が発見されている。片方の小口は斜めに削られ、カバ紐による留縫ぎがなされ、3方の板に直交して、中央部に補強用の板がカバ紐により結合されていたものと考えられる。他方の小口中央部の穿孔は、中央部の板材を木釘により留めたものと推定される。

祭祀具には刀形（219～228）、舟形（240～243）、鍬形（253）があり、山ノ花遺跡からはこれらの他に剣形、小型台状品、小型横槌、小型机などが出土している。

刀形の中には小型例（224）があり、刀子形とすべきかもしれない。刀形の形態には、A：柄間部が弯曲するもの（219・220）、B：柄間部は直線的で、端部は四面を削り出して作るもの（225・228）、C：柄間部は直線的で片側面を抉って作り出しているもの（221～224・226・227）の三者がある。Cには柄頭端部が丸いものと平坦なものがあり、AとBの柄頭端部は平坦である。山ノ花遺跡からは3点の刀の木製柄が出土しており、柄頭部の形状は刀形同様に2種類のものが存在し、地方では、そうした木製の柄が刀形のモデルとなっていた可能性がある。A形木製柄の発見に期待したい。これらの前後の時期の類例が県内では乏しいため、不明な点も多いが、時代別では弥生時代には剣形が多く、古墳時代になっ

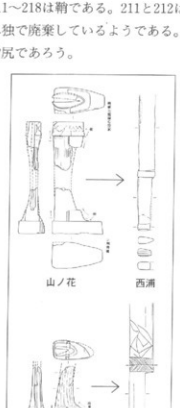
て刀形の比率が増し、奈良時代になると剣・刀形があまり見られなくなるようである。

舟形も弥生時代より出現し、伊場遺跡などでは奈良時代以降も多く存在するようである。形態的特徴として、船首・尾が一段低くなっているもの（240・242）があり（山ノ花例は両端が低い）、243には両端部に穿孔がある。船首・尾が一段低くなる例は、古くは韮山町台遺跡例がある。これは弥生時代のものとされているが、類例は古墳時代以降の例に多い。

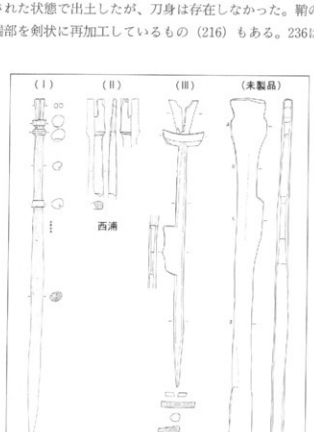
253の鏃形には、逆刺部に重抉があり、茎は欠損している。重抉のある鉄鏃は、磐田市堂山１号墳（磐田市教育委員会1995）や袋井市上石野１号墳（長谷川1997）から出土しており、古墳時代中期的様相を示している。

251・252は矢としているが、実用品であるかは定かではない。254～256は弓と考えたが、255はヒノキ材で弓ではないかもしれない。

211～218は鞘である。211と212は組み合わされた状態で出土したが、刀身は存在しなかった。鞘のみを単独で廃棄しているようである。また、先端部を剣状に再加工しているもの（216）もある。236は刀の鞘尻であろう。



第３図　恒武遺跡出土刀・刀形柄部



第４図　恒武遺跡出土櫛、櫛状木製品

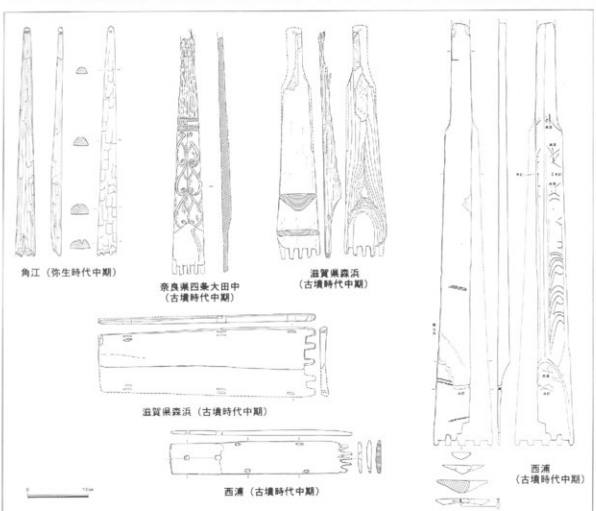
紡織具には紡錘車（247・248）、回転させて糸を巻き取る糸巻（249）、枠（250）、櫛状木製品（244・245）や櫛台（246）がある。その他、山ノ花遺跡からは機織部材が出土している。櫛状木製品は先端部が垂直に立ち、その下部にダンゴ状の突起が作り出されるもの（Ⅰ）と突起の無いもの（Ⅱ）、先端部が「ハ」字状に開くもの（Ⅲ）がある。（Ⅲ）は山ノ花遺跡より出土しており、耳が付き、櫛とされるもの

で未製品も発見されている。(Ⅰ) には耳が無く、杖とも考えられるものである。(Ⅱ) は欠損部が多く不明な点が多いが、軸部が偏平なものは金銅製品にも存在するようである。

装身具には竪櫛 (257) や杖頭 (261) があり、山ノ花遺跡からは蓋、下駄、かんざしなども出土している。竪櫛、蓋や下駄などは、当時のステータスシンボルと考えられており、豪族の居住を示す一つの根拠とされている。

楽器には筑状打弦楽器 (258) (笠原1998)、槽作りの琴 (259)、ササラ状木製品 (262・263) がある。その他、153は桶と考えているが、隅部の穿孔を紐孔とするとクラッパーと考えることも可能である。筑状打弦楽器は国内最大のもので、裏面には蕨手状の文様が彫刻され、赤と黒の漆の痕跡が残る。未貫通の木釘状の木質も残るが、かなり細いもので装飾用の部品の痕跡ではないかと考えている。奈良県橿原市四条大田中遺跡 (橿原市千塚資料館1992) からも、古墳時代中期の蕨手文様のある赤漆塗りの筑状打弦楽器が出土している。県内では弥生時代の角江遺跡 (中川1996) からも小型品が2点発見されているが、4突起で肩部は作出されていない。別系譜の肩部の張る5突起のものが古墳時代以降に伝播した可能性は高く、滋賀県森浜遺跡 (兼康他1978) に類例がある。また、森浜遺跡からは259のような小型長方形状の槽作りの琴も出土しており、筑状打弦楽器と琴は他の祭祀具と共にセットで伝わっているとも考えられる。

259は槽作りの琴の共鳴板で、集弦孔の下にサウンドホールのような方形孔が存在する。ただし、サウンドホールは中央部にあけられるのが本来のようなので、ミニチュア品のため装飾的に付けられている



第5図　恒武遺跡出土琴および筑状打弦楽器の類例

可能性もある。

琴は演奏する埴輪像の存在から、葬送儀礼に使われていたことは知られているが、筑状打弦楽器は埴輪には見られない。祭祀の内容により演奏する楽器が選択されていたのであろうと考えられている。

262・263はその形状よりササラ状としている。古墳時代の類例に乏しく、楽器とすべきかは不明であるが、山ノ花遺跡からはササラ状の刻骨が出土している。

260は彫刻板で、表面は中央部に文様の乱れがあるが、略菱形の陰刻内に略円形の陽刻が配されている。裏面は摩滅により判然としない部分も多いが、格子目状に彫刻されている。様々な見解があるが、卜骨に類するものと版木とする案が有力である。

282は鼠返し状を呈しているが、周縁部には小孔が穿たれている。同形状の例が三重県神部遺跡(駒田1981)にあり、鼠返しでは無いようである。

その他、多種多量の部材などがあるが、紙数の都合上、主な建築材の記述に留める。その他の旧河道出土遺物については稿を改める予定である。

277～281は梯子で、283・284は棟木であろう。264～269は扉材で、264～266は回転軸が下端のみで、上端部は緊縛によって留められていたようで、272が楣になるものと考えられる。他の楣(270など)には軸穴があり、回転軸の長い267・268が組み合わさるのであろう。273～276も楣の可能性もあるが、273・274の軸穴周縁部に凹んだ圧痕があることから蹴放しと考えている。また、273の軸穴が図の下端部に存在したものと考えると軸穴間隔が広過ぎてしまうため、片開きの扉を想定することも可能であろう。270・271の軸穴には明瞭な圧痕は観察できなかったことから蹴放しとしておきたい。270には扉当りがあり、271には無い。270の両端部は辺付と結合する突起が各2本存在するが、271は1本である。271の片方の方立用の溝は、十字に他の溝と重複している。

これらの扉構えと同じものが、古墳時代中期の大阪府北新町遺跡(北新町遺跡調査会1991)から発見されている。畿内の先進的建築技術が、ほぼ同時期に遠江地方でも採用されていたことを示す良好な事例である。

第124図に笠井51号線と恒武西宮遺跡出土資料を掲載した。

479～482は笠井51号線のSE6から出土したもので、調査者によるとSE6は9世紀前半に構築されたものと考えられている。479は顔の表現は無いが、小型の人形であろう。

483～487は西宮遺跡のSE1から出土したもので、近世以降に属するであろう。488は西宮遺跡SR5下層より出土した琴柱で、古墳時代中・後期のものである。

引用・参考文献

日本考古学協会編 1945『登呂　前編』　東京堂出版

日本考古学協会編 1954『登呂　本編』　東京堂出版

後藤守一　1962「弥生時代木製品の研究」『山本遺跡』　築地書館

浜松市教育委員会 1978『伊場遺跡　遺物編1』

兼康保明他 1978『森浜遺跡発掘調査報告書』　滋賀県教育委員会

駒田利治　1981「上野市笠部　神部遺跡」『昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』　三重県教育委員会

佐藤達雄他 1989『大谷川IV(遺物・考察編)』　静岡県埋蔵文化財調査研究所

大東市北新町遺跡調査会 1991『北新町遺跡第2次発掘調査概要報告書』

向坂鋼二　1992「木製品」『静岡県史　考古3』　静岡県

橿原市千塚資料館 1992『古代の琴』

上原真人　1993『木器集成図録　近畿原始篇』　奈良国立文化財研究所
中山正典　1994『瀬名遺跡Ⅲ（遺物編Ⅰ）本文編』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
樋上　昇　1994「木製農耕具の地域色」『古代における農具の変遷』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
磐田市教育委員会 1995『遠江堂山古墳』
山田成洋・河合　修 1995『川合遺跡　八反田地区Ⅱ』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
中川律子　1996『角江遺跡Ⅱ（遺物編Ⅰ）』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
藤巻哲男　1997『曲金北遺跡（遺物・考察編）』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
長谷川　睦 1997『小笠山総合運動公園内遺跡群』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
鈴木敏則　1998『山ノ花遺跡　木器編』　㈶浜松市文化協会
山田光洋　1998『楽器の考古学』　同成社
笠原　潔　1998「出土琴の研究（3）」『放送大学研究年報16号』

第15表　木製品一覧表 I

図番号	写真図版	遺構	出遺構	取上地	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考	
1	78	SR45	SD145	505	98. 9.17	1113	ナスビ型鋤先	516	88	17	アカガシ		6811
2	78	SR45	SD145	612	98.10. 6	1108	ナスビ型鋤先	485	88	16	アカガシ		6728
3	78	SR45	SD145	614	98.10. 6	1060	ナスビ型鋤先	376	76	15	アカガシ		6782
4	78	SR45	SD145	682	98.10. 6	1105	二叉鋤先	515	106	16	アカガシ		6781
5	78	SR45	SD145	463	98. 9.17	1109	二叉鋤先	403	117	15	アカガシ		6810
6	78	SR42	SD142	126	98. 7.23	1101	ナスビ型鋤先	340	115	17	アカガシ		6777
7	78	SR45	SD145	307	98. 9. 9	1092	鋤先	158	76	24	クリ		6756 鈴木先生同定
8	78	SR43	SD143	79	98. 8.31	1066	鋤先	295	71	29	アカガシ		6812
9	78	SR45	SD145	18	98. 8.27	1107	鋤先？	174	84	28	ヒノキ		6819
10	78	SR42	SD142	108	98. 7.23	1100	泥手柄	142	300	40	アカガシ		6791
11	78	SR45	SD145	41	98. 8.27	1105	横鋤先？	154	464	30	ヒノキ		6783
12	79	SR45	SD145	444	98. 9.17	1054	一本鍬	1,240	170	36	アカガシ		6871
13	79	SR45	SD145		H10年度	1087	フォーク状鋤	718	156	20	アカガシ		6915
14	78	SR45	SD145	97	98. 9. 3	1100	二叉鋤先	318	68	12	ヒノキ		6715
15	79	SR45	SD145	620	98.10. 6	1084	鍬柄	218	229	42	サカキ	6942	鈴木先生同定
16	79	SR45	SD145	549	98. 9.18	1046	鍬柄	420	138	34	ヤナギ属	6905	鈴木先生同定
17	79	SR45	SD145	595	98.10. 6	1070	鍬柄	436	50	26	カバノキ属	6718	鈴木先生同定
18	79	SR45	SD145	71	98. 9. 3	1088	大足横桟	80	690	18	ヒノキ	6784	
19	79	SR43	SD143	84	98. 8.31	1080	大足鍬枠	833	56	31	ヒノキ	6868	
20	79	SR45	SD145	130	98. 9. 3	1079	大足横桟	558	48	11	ヒノキ	6809	
21	80	SR45	SD145	131	98. 9. 3	1076	掘棒？	1,376	53	20	ヒノキ	7133	
22	80	SR45	SD145	601	98.10. 6	1082	櫂状	1,260	81	35	ヒノキ	6872	
23	80	SR45	SD145	145	98. 9. 3	1080	掘棒？	885	56	16	ヒノキ	6922	
24	80	SR45	SD145	268	98. 9.10	1074	櫂状	825	135	54	トネリコ属	6924	未製品？ 鈴木先生同定
25	80	SR45	SD145	299	98. 9.10	1075	鋤柄	992	59	46	クリ	6889	
26	80	SR45	SD145	331	98. 9.11	1085	柄	565	34	30	ヒノキ	6886	
27	80	SR45	SD145	11	98. 8.27	1092	柄	638	29	24	アカガシ	7066	
28		SR45	SD145	15	98. 8.27	1110	柄	417	20	15	ヒノキ	6825	
29	80	SR45	SD145	244	98. 9. 9	1070	柄	113	35	20	ウコギ属	6850	輪・厚は断面計測 鈴木先生同定
30	80	SR45	SD145	637	98.10. 6	1075	鋤柄	1,365	29	22	サカキ	7135	鈴木先生同定
31	80	SR45	SD145	433	98. 9.17	1075	柄？	1,020	26	19	ヒノキ	6888	
32	80	SR42～SR45	大溝西トレンチ		97.12. 4		柄？	612	37	32	スギ	6981	
33		SR45	SD145	175	98. 9. 4	1060	柄？	376	43	22	ヒノキ	7017	
34	80	SR45	SD145		98.10.12		柄？	1,044	39	39	ヒノキ	7126	
35		SR45	SD145		98. 9. 2		柄？	572	29	24	ヒノキ	6974	
36	80	SR45	SD145	87	98. 9. 2	1099	柄？		37	28	アカガシ	7169	
37	80	SR43	SD143	69	98. 8.31	1082	大杵棒？	1,148	46	34	モミ属	7101	鈴木先生同定
38		SR45	SD145	258	98. 9. 9	1075	加工丸棒	572	32	28	モミ属	7098	鈴木先生同定
39		SR45	SD145	706	98.10. 6	1100	加工丸棒	390	40	28	ヤナギ属	6790	鈴木先生同定
40	80	SR45	SD145	611	98.10. 6	1117	凝折柄	817	216	42	サカキ	6727	鈴木先生同定
41	81	SR45	SD145	630	98.10. 6	1071	竪杵	550	121	97	ヤマザクラ	6770	鈴木先生同定
42	81	SR45	SD145	479	98. 9.17	1085	竪杵	538	106	83	コナラ属コナラ節	6765	鈴木先生同定
43	81	SR45	SD145	197	98. 9. 4	1070	横槌	493	115	81	コナラ属クヌギ節	6769	鈴木先生同定
44	81	SR45	SD145	317	98. 9.11	1067	横槌	160	97	78	アカガシ	7006	
45	81	SR45	SD145	159	98. 9. 3	1071	横槌	382	88	62	コナラ属クヌギ節	6746	鈴木先生同定
46	81	SR45	SD145	110	98. 9. 3	1091	横槌		95	63	シキミ	6772	鈴木先生同定
47	81	SR45	SD145	571	98. 9.29	1116	横槌	333	77	74	ツガ属	6848	鈴木先生同定
48	81	SR45	SD145	198	98. 9. 4	1065	横槌	470	111	94	アカガシ	6768	
49	81	SR42～SR45	大溝西トレンチ		97.12. 4		横槌	319	69	48	ツガ属	6849	鈴木先生同定
50	81	SR45	SD145		H10年度	1083	田冠	1,486	510	103	クリ	6936	鈴木先生同定
51	81	SR45	SD145	451	98. 9.17	1093	田冠	368	335	129	スギ	6705	
52		SR45	SD145	425	98. 9.16	1078	田冠	221	134	125	スギ	7041	
53		SR45	SD145	648	98.10. 6	1064	鋤鍬	202	82	61	グミ属	6860	鈴木先生同定
54	82	SR45	SD145	319	98. 9.11	1070	鋤鍬	193	73	51	クリ	6853	
55	82	SR45	SD145	580	98.10. 5	1034	鋤鍬	161	69	61	グミ属	6859	鈴木先生同定
56	82	SR43	SD143	222	98. 9. 8	1078	鋤鍬	162	66	63	グミ属	6863	鈴木先生同定
57	82	SR43	SD143	21	98. 8.12	1091	鋤鍬	136	58	51	クルミ？	6851	鈴木先生同定
58	82	SR43	SD143	6	98. 8.12	1082	鋤鍬	147	48	43	クリ	6852	
59	82	SR45	SD145	207	98. 9. 8	1118	鋤鍬	179	63	57	グミ属	6867	鈴木先生同定
60	82	SR43	SD143	14	98. 8.12	1083	鋤鍬	153	67	56	ツガ属	6834	鈴木先生同定
61	82	SR45	SD145	208	98. 9. 8	1097	鋤鍬	163	68	61	グミ属	6865	鈴木先生同定
62	82	SR45	SD145	388	98.10. 6	1083	鋤鍬	182	69	56	グミ属	6864	鈴木先生同定
63	82	SR42	SD142	159	98. 7.27	1109	鋤鍬	201	65	44	クリ	6893	
64	82	SR45	SD145	591	98.10. 6	1083	鋤鍬	153	53	58	グミ属	6861	鈴木先生同定
65	82	SR45	SD145		98. 9.10		鋤鍬	139	86	58	グミ属	6856	鈴木先生同定
66		SR42	SD142	160	98. 7.27	1107	鋤鍬	118	63	50	グミ属	6894	鈴木先生同定
67		SR45	SD145	448	98. 9.17	1104	鋤鍬	189	84	57	スダジイ	6866	鈴木先生同定
68		SR45	SD145	262	98. 9. 9	1077	鋤鍬	158	66	60	スダジイ	6862	鈴木先生同定

第16表　木製品一覧表２

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	取上No.	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
69		SR45	SD145	340	98. 9. 11	1065	編錘	146	63	57	グミ属	6857　鈴木先生同定
70	82	SR45	SD145	596	98. 10. 6	1119	編錘	147	61	53	グミ属	6757　鈴木先生同定
71	82	SR45	SD145	726	98. 10. 6	1145	編錘	135	61	48	イヌマキ	6758　鈴木先生同定
72		SR42	SD142	172	98. 7. 27	1111	編錘	68	73	56	グミ属	6837　鈴木先生同定
73		SR45	SD145	468	98. 9. 17	1110	編錘	72	67	54	グミ属	6858　鈴木先生同定
74	82	SR45	SD145	647	98. 10. 6	1095	編錘	179	71	64	グミ属	未製品？ 6759　鈴木先生同定
75	83	SR45	SD145	657	98. 10. 6	1063	編台	1,670	77	21	ヒノキ	7103
76	83	SR45	SD145	248	98. 9. 9	1078	編台	854	95	29	ヒノキ	7122
77	83	SR45	SD145	784	98. 10. 9	1074	編台	467	72	17	スギ	6775
78	83	SR45	SD145	92	98. 9. 3	1098	編台	301	32	10	ヒノキ	6960
79	83	SR45	SD145	306	98. 9. 10	1065	編台	947	72	30	ヒノキ	6912
80	83	SR45	SD145	352	98. 9. 14	1064	編台	376	58	18	ヒノキ	6776
81	83	SR45	SD145	680	98. 10. 6	1114	編台	447	40	8	ヒノキ	6955
82	83	SR45	SD145	72	98. 9. 2	1113	編台	420	32	16	ヒノキ	6963
83		SR43	SD143	16	98. 8. 12	1089	編行	243	33	22	ヒノキ	6835
84	83	SR45	SD145	582	98. 9. 30	1050	浮子？	80	18	16	ヒノキ	6722
85	83	SR45	SD145	169	98. 9. 3	1086	櫂	1,046	96	34	ヒノキ	6873
86	83	SR45	SD145	676	98. 10. 6	1110	大釋棒	1,103	57	30	イヌガヤ	一部炭化 6930　鈴木先生同定
87	83	SR45	SD145	494	98. 9. 17	1063	天釋棒？	1,065	46	40	ヒノキ	6898
88	83	SR45	SD145	284	98. 9. 10	1091	組合せ箱	354	142	5	スギ	6813　木釘
89	83	SR45	SD145	498	98. 9. 17	1066	組合せ箱	349	100	9	スギ	6778
90	83	SR43	SD143	9	98. 8. 12	1078	組合せ箱	320	78	9	スギ	6794　木釘
91	83	SR45	SD145	60	98. 9. 1	1085	組合せ箱	264	46	12	スギ	6964
92	83	SR45	SD145	320	98. 9. 11	1072	組合せ箱	204	100	14	ヒノキ	6741
93	84	SR45	SD145	98	98. 9. 3	1091	組合せ箱	273	176	18	ヒノキ	6814
94	84	SR45	SD145	133	98. 9. 3	1084	組合せ箱	241	68	13	スギ	6944
95		SR45	SD145	104	98. 9. 3	1086	組合せ箱	151	100	15	トネリコ属	7019　鈴木先生同定
96	84	SR45	SD145	135	98. 9. 3	1073	組合せ箱	264	122	12	スギ	6948　外面一部黒漆？
97	84	SR43	SD143	52	98. 8. 12	1090	組合せ箱	298	87	12	スギ	6975
98	84	SR42	SD142	175	98. 7. 27	1098	組合せ箱	173	87	18	スギ	6845　楔
99	84	SR45	SD145	548	98. 9. 18	1037	台状	299	150	12	ヒノキ	6807
100	84	SR45	SD145	38	98. 8. 27	1089	組合せ箱	403	39	13	ヒノキ	6708
101	84	SR43	SD143	77	98. 8. 31	1078	組合せ箱	571	72	11	ヒノキ	6878
102	84	SR43	SD143	13	98. 8. 12	1084	曲物底板	574	170	17	スギ	6882　木釘
103	84	SR45	SD145	457	98. 9. 17	1102	曲物底板	645	102	19	ヒノキ	6938
104	84	SR45	SD145	606	98. 10. 6	1109	曲物底板	320	139	19	ヒノキ	6906　一部炭化
105	84	SR45	SD145	669	98. 10. 6	1078	曲物底板	366	139	26	スギ	6792
106	84	SR45	SD145	54	98. 8. 27	1118	曲物底板	335	130	17	スギ	6779
107	85	SR45	SD145	111	98. 9. 3	1093	曲物蓋？	368	175	17	スギ	6780
108	85	SR43	SD143	17	98. 8. 12	1096	曲物底板	163	119	21	スギ	6829
109	85	SR45	SD145	342	98. 9. 11	1073	曲物底板	270	68	20	スギ	6800
110	85	SR43	SD143	24	98. 8. 12	1102	曲物底板	291	30	13	スギ	6822
111	85	SR43	SD143	23	98. 8. 12	1088	曲物底板	478	35	14	スギ	7089
112	85	SR42～ SR45	人溝東 トレンチ	A	98. 8. 6	1105	曲物底板	334	28	15	スギ	6999
113	85	SR45 SR42	SD145 SD142	665 176	98. 10. 6 98. 7. 27	1056 1066	刳物	764	369	101	ケヤキ	接合 6900　鈴木先生同定
114		SR45	SD145	341	98. 9. 11	1063	脚付刳物	240	98	66	スギ	6992
115	85	SR45	SD145	237	98. 9. 9	1077	刳物	456	155	74	ヒノキ	未製品 7151　鈴木先生同定
116	85	SR45	SD145	361	98. 9. 16	1108	刳物	746	157	83	ヒノキ	6927
117	85	SR45	SD145	167	98. 9. 3	1087	刳物	688	185	83	スギ	6903
118		SR45	SD145	705	98. 10. 6	1100	刳物	264	58	90	ヒノキ	7043
119		SR45	SD145	704	98. 10. 6	1113	刳物	279	51	83	ヒノキ	7042
120	85	SR45	SD145	609	98. 10. 6	1061	刳物	1,138	283	147	クリ	6894　鈴木先生同定
121	86	SR45	SD145	683	98. 10. 6	1126	脚付刳物	423	98	95	スギ	6766
122		SR45	SD145	56	98. 8. 27	1110	脚付刳物	175	134	33	ケヤキ	6754　鈴木先生同定
123		SR45	SD145	447	98. 9. 17	1112	刳物	201	64	50	スギ	7029
124	86	SR45	SD145	474	98. 9. 17	1079	脚付刳物	402	130	84	スギ	6805
125	86	SR45	SD145	235	98. 9. 9	1076	脚付刳物	533	257	72	ヒノキ	6704
126	86	SR43	SD143	20	98. 8. 12	1093	刳物	504	156	111	ツガ属	6709　鈴木先生同定
127	86	SR45	SD145	701	98. 10. 6	1079	脚付刳物	397	121	79	スギ	6763
128		SR45	SD145	141	98. 9. 3	1086	刳物	408	69	51	スギ	6897
129	87	SR45	SD145	406	98. 9. 16	1078	刳物	561	207	108	スギ	6904
130	87	SR42	SD142	174	98. 7. 27	1094	脚付刳物	420	201	77	スギ	6767
131	87	SR43	SD145	210	98. 9. 8	1109	刳物	423	113	73	スギ	7038
132		SR45	SD145	407	98. 9. 16	1100	刳物	589	109	61	スギ	7084
133	88	SR45	SD145	84	98. 9. 2	1073	脚付刳物	893	218	163	スギ	6870
134	86	SR43	SD143	65	98. 8. 28	1078	田舟	1,217	142	57	ヒノキ	6891
135		SR45	SD145	318	98. 9. 11	1070	刳物	491	90	67	スギ	7039

第17表　木製品一覧表3

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	取上No	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
136	87	SR42	SD142	140	98. 7. 22	1086	脚付刳物	657	357	102	クリ	6914
137	86	SR45	SD145	335	98. 9. 11	1074	刳物	710	71	160	スギ	6895
138	87	SR45	SD145	75	98. 9. 2	1110	脚付刳物	591	80	99	ヒノキ	6874
139		SR42～SR45	大溝中央トレンチ		98. 8. 10		刳物	182	64	70	スギ	6993
140	88	SR45	SD145	85	98. 9. 2	1069	脚付刳物	736	130	123	スギ	6875
141	87	SR45	SD145	168	98. 9. 3	1091	刳物	494	161	54	ヒノキ	6774
142	88	SR45	SD145	94	98. 9. 3	1097	脚付刳物	609	166	107	ヒノキ	6926
143		SR45	SD145	355	98. 9. 16	1122	刳物	216	88	61	スギ	6838
144	89	SR45	SD145	321	98. 9. 11	1068	脚付刳物	378	315	73	スギ	6774　アカクミ状
145		SR45	SD145	358	98. 9. 16	1114	脚付刳物	473	62	32	スギ	6843
146	87	SR45	SD145	403	98. 9. 16	1095	脚付底板	205	48	24	スギ	6797
147	88	SR45	SD145		98. 9. 29		?	803	93	33	スギ	7159
148	88	SR45	SD145	223	98. 9. 8	1077	釣瓶	361	254	80	カヤ	ハネ釣瓶 6773　鈴木先生同定
149	88	SR45	SD145	27	98. 8. 27	1090	柄杓	272	132	64	クリ	6738
150	89	SR45	SD145	147	98. 9. 3	1075	柄杓	233	99	43	ヒノキ	6793
151	89	SR45	SD145	12	98. 8. 27	1089	柄杓状	264	83	86	ヒノキ	側両4穴に木片残存 6844
152	89	SR45	SD143	653	98. 10. 6	1093	棟側板?	241	30	7	イヌガヤ	7000　鈴木先生同定
153		SR43	SD143	53	98. 8. 18	1108	棟側板?	147	84	13	イヌガヤ	6976　鈴木先生同定
154	95	SR45	SD145	649	98. 10. 6	1062	円筒状木製品	69	79	76	スギ	6820
155	89	SR45	SD145	593	98. 10. 6	1101	机の脚	272	422	28	ヒノキ	6737
156	89	SR45	SD145	253	98. 9. 9	1077	机の脚	171	452	27	ヒノキ	6714
157	90	SR45	SD145	213	98. 9. 8	1093	机の脚	174	433	20	ヒノキ	7080　鈴木先生同定
158	89	SR45	SD145	55	98. 8. 27	1116	机の脚	153	325	28	スギ	6896
159	89	SR43	SD143	88	98. 9. 1	1095	机の脚	91	224	21	スギ	6846　木釘
160	90	SR45	SD145	80	98. 9. 3	1105	机の脚?	117	350	18	ヒノキ	6970
161	90	SR45	SD145	267	98. 9. 10	1066	机の脚	169	262	17	ヒノキ	7013
162	90	SR45	SD145	711	98. 10. 6	1113	脚	210	156	22	スギ	6815
163	90	SR45	SD145	165	98. 9. 3	1075	脚	163	133	29	スギ	6816
164	90	SR42	SD142	173	98. 7. 27	1108	脚	258	125	74	カエデ属	7007　鈴木先生同定
165	90	SR43	SD143	22	98. 8. 12	1104	腰掛?	249	237	142	スギ	7044
166	91	SR43	SD143	8	98. 8. 12	1071	机	728	359	24	ヒノキ	6937
167	90	SR45	SD145	187	98. 9. 17	1068	机	668	139	28	スギ	6917
168	91	SR43	SD143	45	98. 8. 27	1092	机	771	174	30	ヒノキ	6929
169	90	SR45	SD145	196	98. 9. 4	1074	机	884	123	18	ヒノキ	6923　樫・カバ組
170	91	SR45	SD145	287	98. 9. 10	1070	机	1,043	150	26	スギ	6910
171	91	SR43	SD143	89	98. 9. 1	1084	机	637	115	26	スギ	6916
172	91	SR45	SD145	183	98. 9. 4	1081	机	725	147	35	ヒノキ	6907　一部炭化
173		SR45	SD145	103	98. 9. 3	1087	机	240	183	36	スギ	7011
174	92	SR45	SD145	224	98. 9. 8	1084	机	738	216	38	ヒノキ	カバ組、一部炭化 6909
175	91	SR45	SD145	255	98. 9. 9	1078	机	672	183	27	スギ	6876
176	92	SR45	SD145	118	98. 9. 3	1089	机	530	324	22	スギ	6839　一部炭化
177	92	SR42	SD142		98. 8. 21		机	369	164	33	スギ	6956
178		SR45	SD145	162	98. 9. 3	1086	机	119	24	16	スギ	7034
179	92	SR45	SD145	497	98. 9. 17	1061	机	571	356	24	ヒノキ	6939
180	93	SR45	SD145	495	98. 9. 17	1078	机	636	192	25	ヒノキ	6918
181		SR43	SD143	241	98. 9. 9	1080	机	163	171	16	ヒノキ	6947
182	93	SR43	SD143	73	98. 8. 31	1088	机	149	201	22	スギ	7023
183		SR45	SD145	142	98. 9. 3	1079	机	179	46	22	ヒノキ	7031
184	93	SR45	SD145	581	98. 10. 5	1043	机	570	280	24	スギ	6940　木釘
185	93	SR45	SD145	122	98. 9. 3	1078	机	373	161	23	スギ	7012
186		SR45	SD145	216	98. 9. 8	1091	机	256	70	29	スギ	7010
187	93	SR45	SD145	107	98. 9. 3	1090	机	505	143	26	スギ	6949　転用
188	94	SR43	SD143	68	98. 8. 31	1092	机	271	165	19	スギ	6808
189		SR45	SD145	365	98. 9. 16	1114	机	134	126	17	スギ	7027
190		SR45	SD145	492	98. 9. 17	1073	机	194	129	24	ヒノキ	6892
191	94	SR45	SD145	303 336	98. 9. 10 98. 9. 11	1062 1073	机	533	313	27	スギ	6919　接合
192	94	SR45	SD145	245	98. 9. 9	1069	机	448	421	30	スギ	6935
193	94	SR45	SD145	67	98. 9. 2	1088	机	189	116	20	イヌマキorヒノキ	7028
194	93	SR45	SD145	29	98. 8. 27	1096	机	517	94	21	スギ	7082
195	93	SR45	SD145	114	98. 9. 3	1087	机	174	201	26	スギ	7009
196	94	SR45	SD145	550	98. 9. 18	1038	机	327	279	26	ヒノキ	6736　木釘
197		SR45	SD145	123	98. 9. 3	1082	机	110	168	20	スギ	7024
198		SR45	SD145	296	98. 9. 10	1089	机	136	110	27	スギ	7026
199		SR45	SD145	103	98. 9. 3	1084	机	156	79	20	スギ	7014　一部炭化
200	94	SR45	SD145	769	98. 10. 9	1095	?	451	39	17	ヒノキ	6717
201	94	SR45	SD145	238	98. 9. 9	1085	加工棒	290	19	15	スギ	6977
202	94	SR45	SD145	662	98. 10. 6	1057	加工棒	273	19	16	ヒノキ	6962

第18表　木製品一覧表４

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	取上No	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
203	94	SR45	SD145	329	98. 9.11	1089	加工棒	237	14	12	ヒノキ	7033
204	94	SR45	SD145	132	98. 9. 3	1077	加工棒	252	14	11	スギ	7035
205		SR45	SD145	136	98. 9. 3	1076	加工棒	230	11	6	イヌガヤ	表面のみ黒漆残存 7036 鈴木先生同定
206		SR45	SD145		98. 9.29		ヘラ状	224	11	5	ヒノキ	7037
207	94	SR43	SD143	2	98. 8.12	1082	ヘラ状	427	25	11	ヒノキ	6823
208	94	SR45	SD145	190	98. 9. 4	1068	ヘラ状	410	28	12	ツガ属	6827 鈴木先生同定
209	94	SR45	SD145	228	98. 9. 9	1079	ヘラ状	437	32	16	ヒノキ	6785
210	94	SR45	SD145	106	98. 9. 3	1089	ヘラ状	537	35	12	ヒノキ	7032
211	95	SR45	SD145	538A	98. 9.17	1119	刀の鞘	796	45	10	スギ	6869
212	95	SR45	SD145	538B	98. 9.17	1119	刀の鞘	795	46	8.5	スギ	6869
213	95	SR45	SD145	249	98. 9. 9	1082	刻の鞘？	272	52	11	ヒノキ	6716 内面黒化
214	95	SR45	SD145	356	98. 9.16	1125	鞘	270	56	10	ヒノキ	6734
215	95	SR45	SD145	249	98. 9. 9	1078	鞘	350	24	11	スギ	7020
216	95	SR45	SD145	640	98.10. 6	1086	鞘	363	24	13	スギ	6895 紙用
217	95	SR45	SD145	226	98. 9. 8	1082	鞘	253	24	10	スギ	6732
218	95	SR45	SD145	23	98. 8.27	1091	鞘	218	60	8	樹皮（スギ）	6801 鈴木先生同定
219	96	SR45	SD145	61	98. 9. 1	1081	刀形	398	30	10	ヒノキ	6712
220	96	SR45	SD145	101	98. 9. 3	1084	刀形	357	30	8	ヒノキ	6750
221	96	SR45	SD145	776	98.10. 9	1083	刀形	504	39	7	ヒノキ	6720 線刻模様
222	96	SR45	SD145	643	98.10. 6	1123	刀形	550	35	17	ヒノキ	6751
223	96	SR45	SD145	260	98. 9. 9	1073	刀形	278	21	10	ヒノキ	6735
224	96	SR45	SD145	140	98. 9. 3	1085	刀形	174	21	8	ヒノキ	6749 鈴木先生同定
225	96	SR45	SD145	125	98. 9. 3	1075	刀形	291	28	13	スギ	6748 刀子形？
226	96	SR43	SD143	15	98. 8.12	1070	刀形	242	38	13	ヒノキ	6752
227	96	SR45	SD145	209	98. 9. 8	1116	刀形	277	30	10	ヒノキ	6713
228	96	SR45	SD145	90	98. 9. 3	1102	刀形	476	27	16	ヒノキ	6719
229	96	SR45	SD145	138	98. 9. 3	1078	刀形？	538	38	16	ヒノキ	7086
230	96	SR45	SD145	778	98.10. 9	1082	刀形？	453	31	6	スギ	6788
231	96	SR45	SD145	587	98.10. 6	1104	刀形？	279	32	14	スギ	6753
232	96	SR43	SD143	76	98. 8.31	1086	刀形？	203	26	9	ヒノキ	6834
233	95	SR45	SD145	265	98. 9. 8	1089	刀形？	214	31	8	ヒノキ	6747
234	95	SR45	SD145	116	98. 9. 3	1082	刀形？	266	32	12	アカガシ	7068
235	95	SR45	SD145	221	98. 9. 8	1069	剣形？	313	40	18	ヒノキ	6721
236	95	SR45	SD145	83	98. 9. 2	1086	刀・鞘帽	74	43	42	ヤブツバキ	6729 鈴木先生同定
237		SR45	SD145	202	98. 9. 8	1083	？	132	19	6	スギ	7001
238		SR45	SD145	681	98.10. 6	1055	？	310	36	7	スギ	6789
239		SR45	SD145	62	98. 9. 1	1082	？	261	22	9	スギ	7023
240	97	SR45	SD145		98. 9.25		舟形	533	67	90	ヒノキ	6771
241	97	SR45	SD145	770	98.10. 9	1079	舟形	283	37	22	ヒノキ	6745
242	97	SR45	SD145	562	98. 9.16	1107	舟形	245	56	32	ヒノキ	6740
243	97	SR45	SD145	327	98. 9.11	1093	舟形	271	52	19	ヒノキ	6739 炭化
244	97	SR45	SD145		H10年度	1071	棺（杖）	723	29	26	サカキ	黒漆残存 6786 鈴木先生同定
245	97	SR45	SD145	82	98. 9. 2	1088	板状	202	25	17	ヒノキ	6742 線刻
246	97	SR45	SD145	35	98. 8.27	1101	板台	285	125	110	スギ	7040
247	97	SR45	SD145	365	98. 9.16	1079	紡錘車	27	38	7	スギ	6723
248	97	SR45	SD145	217	98. 9. 8	1081	紡錘車	68	63	9	ヒノキ	6726
249	97	SR45	SD145	302	98. 9.10	1058	糸巻	271	41	22	スギ	6733
250	97	SR45	SD145	257	98. 9. 9	1068	棒	455	28	23	ヒノキ	6795
251	98	SR45	SD145		98.10. 6		矢	223	21	16	ヒノキ	6799
252	98	SR45	SD145	309	98. 9.10	1094	矢	61	18	16	ヒノキ	6725
253	98	SR45	SD145	310	98. 9.11	1072	鏃形	59	32	5	ヒノキ	6724
254	98	SR45	SD145	569	98. 9.29	1080	弓	396	14	14	イヌガヤ	幅・厚は断面認計測 6818 鈴木先生同定
255	98	SR45	SD145	201	98. 9. 8	1084	弓？	397	15	12	ヒノキ	6798
256	98	SR45	SD145	256	98. 9. 9	1068	弓	351	19	14	イヌガヤ	6817 鈴木先生同定
257	97	SR45	SD145			1066	壁柱	625			竹	黒漆 ムネ長17.5mm ムネ幅20mm 直径45mm 直厚2mm
258	98	SR45	SD145	786	98.10. 9	1057	筒状打撃薬器	1,045	87	31	ヒノキ	6762 赤漆、黒漆、木釘
259	98	SR43	SD143	80	98. 8.31	1089	琴	448	81.5	15	スギ	6707
260	98	SR45	SD145	304	98. 9.10	1086	能剣板	188	104	11	アカガシ	6731
261	98	SR45	SD145	88	98. 9. 2	1097	板部	116	45	23	エノキ属	6730 鈴木先生同定
262	98	SR45	SD145	195	98. 9. 4	1074	ササラ状	119	50	15	ヒノキ	6743
263	98	SR45	SD145	266	98. 9.10	1070	ササラ状	345	49	12	ヒノキ	6744
264	98	SR45	SD145	316	98. 9.11	1073	扉	1,249	172	25	ヒノキ	7111
265	98	SR45	SD145	30	98. 8.27	1094	扉	1,192	114	29	ヒノキ	7110
266	99	SR45	SD145	156	98. 9. 3	1086	部	1,080	209	36	モミ属	根 6902 鈴木先生同定
267	99	SR45	SD145	322	98. 9.11	1064	部	822	122	23	ヒノキ	6931

第19表　木製品一覧表 5

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	取上No	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
268	99	SR45	SD145	431	98. 9.16	1095	屋	797	137	43	ヒノキ	7150 一部炭化
269	99	SR45	SD145	33	98. 8.27	1090	屋	693	208	84	ヒノキ	6925
270	99	SR45	SD145	1	98. 8.21	1106	柵	1,258	247	124	ヒノキ	6913
271	99	SR45	SD145	A	98.11.10	1090	柵	1,416	195	70	クリ	7053 鈴木先生同定
272	99	SR45	SD145	96	98. 9. 3	1095	柵	1,300	196	27	ヒノキ	7129
273	99	SR45	SD145	166	98. 9. 3	1088	獣放し	1,146	143	24	スギ	7147
274	99	SR43	SD143	10	98. 8.12	1086	獣放し	1,118	141	44	ツガ属	7148 鈴木先生同定
275	99	SR45	SD145	404	98. 9.16	1094	獣放し	778	228	35	ヒノキ	6901
276	99	SR45	SD145	14	98. 8.27	1103	獣放し	1,016	111	44	ヒノキ	6921
277	100	SR45	SD145	59	98. 9. 1	1091	柵子	2,188	170	143	ヒノキ	7184
278	100	SR45	SD145	473	98. 9.17	1075	柵子	734	173	115	ヒノキ	6899
279		SR45	SD145	439	98. 9.17	1062	柵子	717	153	63	スダジイ	6896 鈴木先生同定
280	100	SR45	SD145	293	98. 9.10	1075	柵子	618	155	75	ヒノキ	7075
281	100	SR43	SD143	79	98. 9. 3	1104	柵子	586	175	86	ヒノキ	7073
282	100	SR45	SD145	206	98. 9. 8	1112	?	600	381	21	ヒノキ	6938
283	100	SR45	SD145	453	98. 9.17	1097	棟木	927	133	75	スダジイ	7100 鈴木先生同定
284	100	SR45	SD145	74	98. 9. 2	1115	棟木	870	131	56	ヒノキ	7154
285	100	SR45	SD145	343	98. 9.11	1065	枠	175	70	26	ヒノキ	6847
286	100	SR45	SD145	421	98. 9.16	1069	先端抉入棒	1,720	72	66	モミ属	7183 鈴木先生同定
287	100	SR43	SD143	66	98. 8.28	1086	先端抉入棒	1,653	81	70	ヒノキ	7181
288	100	SR45	SD145	446	98. 9.17	1089	先端抉入棒	552	62	62	モミ属	一部炭化 7166 鈴木先生同定
289	100	SR43	SD143	78	98. 8.31	1085	先端抉入棒	1,843	87	66	イヌマキ	一部炭化 7179 鈴木先生同定
290	100	SR45	SD145	77	98. 9. 2	1113	先端抉入棒	1,837	63	67	針葉樹	7185 鈴木先生同定
291	101	SR45	SD145	263	98. 9.17	1079	先端抉入棒	2,864	94	102	ヒノキ	7175
292	101	SR45	SD145	405	98. 9.16	1078	先端抉入棒		56	47	ヒサカキ	7128
293	101	SR45	SD145	783	98.10. 9	1037	先端抉入棒	886	50	50	イヌマキ	7112 鈴木先生同定
294	101	SR45	SD145	624	98.10. 6	1100	先端抉入棒	453	46	32	コジイ	7054 鈴木先生同定
295	101	SR45	SD145	2	98. 8.21	1094	先端抉入棒	2,334	76	58	ヒノキ	7188
296	101	SR45	SD145	408	98. 9.16	1082	先端抉入棒	870	76	53	ヒノキ	7136
297	101	SR45	SD145	575	98. 9.29	1050	先端抉入棒	900	63	53	ヒノキ	7123
298	101	SR45	SD145	4	98. 8.21	1070	先端抉入棒	1,469	111	65	ケヤキ	7131 鈴木先生同定
299	101	SR45	SD145	401	98. 9.16	1080	先端抉入棒	1,368	47	45	ヒノキ	7178
300		SR45	SD145	37	98. 8.27	1089	先端抉入棒	976	70	37	スギ	7139
301	101	SR45	SD145	460	98. 9.17	1091	先端抉入棒	2,930	72	78	ヒノキ	7171
302	101	SR45	SD145	767	98.10. 8	1071	先端抉入棒	1,758	47	61	ヒノキ	7180
303	101	SR45	SD145	540	98. 9.17	1016	先端抉入棒	1,019	60	56	ヒノキ	7113
304		SR43	SD143	67	98. 8.31	1093	先端抉入棒	536	37	38	スギ	6967
305		SR45	SD145	589	98.10. 6	1081	加工棒	344	36	37	ヒノキ	7045 全面炭化
306	100	SR45	SD145				建築材	2,465	103	94	ヒノキ	7172
307	100	SR45	SD145	449	98. 9.17	1109	建築材	1,944	80	69	モミ属	一部炭化、抗状 7191 鈴木先生同定
308	101	SR45	SD145	272	98. 9.10	1073	建築材	812	164	121	ヒノキ	7076
309		SR45	SD145	57	98. 9. 1	1103	建築材	550	132	104	ヒノキ	7074 一部炭化
310	101	SR45	SD145	456	98. 9.17	1111	建築材	404	126	125	クリ	7061
311	101	SR45	SD145	644	98.10. 6	1104	有孔板	1,595	191	25	ヒノキ	7194
312	101	SR45	SD145	488	98. 9.17	1073	有孔板	1,504	158	23	ヒノキ	7192
313	101	SR45	SD145	102	98. 9. 3	1084	有孔板	517	171	41	ヒノキ	7060 鈴木先生同定
314	102	SR45	SD145	482	98. 9.17	1080	有孔板	1,257	150	19	スギ	6965 樋、カバ樋
315	101	SR45	SD145	334	98. 9.11	1075	有孔板	843	158	27	ヒノキ	7149
316		SR45	SD145	461	98. 9.17	1090	加工板	729	173	24	ヒノキ	7143
317	102	SR45	SD145	271	98. 9.10	1072	有孔板	522	120	19	ヒノキ	7079
318	102	SR45	SD145	49	98. 8.27	1100	有孔板	996	153	16	ヒノキ	7142
319		SR45	SD145	43	98. 8.27	1102	有孔板	591	129	20	ヒノキ	7064
320		SR45	SD145	173	98. 9. 4	1076	加工板	910	318	27	ヒノキ	6996
321	102	SR45	SD145	438	98. 9.17	1057	有孔板	654	169	31	ヒノキ	7156 322と接合
322	102	SR45	SD145	437	98. 9.17	1073	有孔板	633	189	23	ヒノキ	7157 321と接合
323	102	SR45	SD145	16	98. 8.27	1111	有孔板	727	190	28	スギ	7137 一部炭化
324	102	SR45	SD145	427	98. 9.16	1065	有孔板	675	308	37	スギ	6998
325	102	SR45	SD145	129	98. 9. 3	1088	有孔板	630	208	78	ヒノキ	7116 一部炭化
326	102	SR45	SD145	618	98.10. 6	1088	有孔板	1,069	156	31	モミ属	6879 鈴木先生同定
327	102	SR45	SD145	100	98. 9. 3	1092	有孔板	309	108	19	スギ	6991
328	102	SR43	SD143	12	98. 8.12	1082	加工板	1,567	165	27	ヒノキ	7174
329		SR45	SD145	412	98. 9.16	1072	加工板	657	108	28	スギ	7160
330	103	SR43	SD143	11	98. 8.12	1088	加工板	1,310	218	32	ヒノキ	7186
331	103	SR45	SD145	484	98. 9.17	1077	加工板	891	150	30	ヒノキ	7145
332	103	SR45	SD145	246	98. 9. 9	1079	加工板	1,510	98	31	ヒノキ	7190
333	103	SR45	SD145	5	98. 8.27	1110	有孔板	1,448	129	48	ヒノキ	7177
334	103	SR45	SD145	233	98. 9. 9	1095	加工板	619	79	35	ヒノキ	7119
335	103	SR45	SD145	434	98. 9.17	1083	加工板	1,336	114	27	ヒノキ	7198
336	103	SR45	SD145	B	98.11.10	1095	加工板	1,077	119	53	ヒノキ	6920 枕

第20表　木製品一覧表 6

図番号	写真図版	遺構	出土遺構	取上No.	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
337	103	SK45	SD145	44	98. 8.27	1089	有孔板	1,271	92	36	ヒノキ	7132
338	103	SK45	SD145	127	98. 9. 3	1083	有孔板	495	60	33	ヒノキ	7015
339	103	SK45	SD145	298	98. 9.10	1075	有孔板	714	91	22	ヒノキ	7118
340	103	SK45	SD145	331	98. 9.10	1071	有孔板	831	122	75	ヒノキ	6877
341	103	SK45	SD145	171	98. 9. 3	1080	建築材	778	132	44	ヒノキ	6928
342	103	SK45	SD145	475	98. 9.17	1071	建築材	868	109	64	ヒノキ	6893
343	103	SK45	SD145	232	98. 9. 9	1103	建築材	614	126	54	モミ属	7077　鈴木先生同定
344	103	SK45	SD145	25	98. 8.27	1088	建築材	738	167	93	ヒノキ	7072　一部炭化
345	104	SK45	SD145	48	98. 8.27	1107	建築材	1,168	181	34	ヒノキ	6880
346	104	SK45	SD145	26	98. 8.27	1092	建築材	359	164	66	ヒノキ	7052
347	104	SK45	SD145	236	98. 9. 9	1075	建築材	1,758	155	72	ヒノキ	7196
348	104	SK45	SD145	508	98. 9.17	1092	建築材	1,874	200	113	ツガ属	7173　鈴木先生同定
349	104	SK45	SD145	93	98. 9. 3	1091	有孔板	1,867	96	22	ヒノキ	7195
350	104	SK45	SD145	172	98. 9. 4	1090	有孔板	671	63	15	ヒノキ	7121
351	104	SK45	SD145	124	98. 9. 3	1085	有孔板	1,218	67	37	ヒノキ	7125
352	104	SK45	SD145	496	98. 9.17	1062	有孔棒	1,066	40	28	モミ属	6887　鈴木先生同定
353	104	SK45	SD145	121	98. 9. 3	1085	有孔棒	1,166	61	26	ヒノキ	7140　木刀
354	104	SK45	SD145	423	98. 9.16	1104	有孔板	617	113	17	ヒノキ	355・356・357と接合 6883
355	104	SK45	SD145	642	98.10. 6	1132	有孔板	595	83	17	ヒノキ	354・356・357と接合 6884
356	104	SK45	SD145	645	98.10. 6	1121	有孔板	179	35	13	ヒノキ	354・355・357と接合 6953
357	104	SK45	SD145	674	98.10. 6	1133	有孔板	229	40	13	ヒノキ	354・355・356と接合 6954
358	104	SK45	SD145	73	98. 9. 2	1113	加工板	1,219	113	16	ヒノキ	7102
359	104	SK45	SD145	283	98. 9.10	1079	有孔板	800	224	20	ヒノキ	7117
360		SK45	SD145	430	98. 9.16	1083	有孔板	657	126	30	ヒノキ	7136
361		SK45	SD145	454	98. 9.17	1088	加工板	480	107	13	ヒノキ	7016
362		SK45	SD145	671	98.10. 6	1084	加工板	823	175	25	ヒノキ	7115
363		SK45	SD145	157	98. 9. 3	1074	加工板	562	40	20	ヒノキ	7095
364		SK45	SD145	292	98. 9.10	1082	有孔板	437	54	12	ヒノキ	6978
365		SK45	SD145	464	98. 9.17	1100	有孔板	565	61	24	スギ	7085
366		SK45	SD145	154	98. 9. 3	1077	加工板	399	74	21	スギ	6968
367		SK45	SD145	192	98. 9. 4	1084	加工板	894	237	22	ヒノキ	7103
368		SK45	SD145	78	98. 9. 3	1105	加工板	606	151	42	トネリコ属	7153　鈴木先生同定
369	104	SK45	SD145	32	98. 8.27	1097	加工板	826	105	40	ヒノキ	7107
370	104	SK45	SD145	344	98. 9.11	1069	加工板	544	50	24	ヒノキ	6973
371	105	SK45	SD145	40	98. 8.27	1100	加工板	667	137	31	ヒノキ	7059
372		SK45	SD145	126	98. 9. 3	1079	加工板	215	63	24	ヒノキ	7051
373	105	SK45	SD145	128	98. 9. 2	1078	加工板	167	69	25	ヒノキ	6950
374		SK45	SD145	227	98.10. 7	1081	加工板	139	25	14	ヒノキ	7022
375		SK45	SD145	631	98.10. 6	1083	加工板	708	35	11	ヒノキ	7087　一部炭化
376		SK45	SD145	646	98.10. 6	1119	加工板	442	23	9	スギ	7088
377	105	SK45	SD145	277	98. 9.10	1074	加工棒	1,088	92	53	ヒノキ	7114
378		SK45	SD145	703	98.10. 6	1094	加工棒	656	86	59	ヒノキ	7106
379	105	SK45	SD145		98. 9.11		加工棒	445	65	39	サカキ	7083　鈴木先生同定
380		SK45	SD145	452	98. 9.17	1075	加工板	113	73	25	コウヤマキ	6946　鈴木先生同定
381		SK45	SD145	264	98. 9.10	1075	加工板	2,021	206	50	ヒノキ	7189
382	105	SK45	SD145	143	98. 9. 3	1083	加工板	1,977	106	29	ヒノキ	7187　一部炭化
383		SK45	SD145	193	98. 9. 4	1079	加工板	1,275	140	26	ヒノキ	6966
384	105	SK45	SD145	672	98.10. 6	1098	加工板	1,344	152	38	ヒノキ	7176
385		SK45	SD145	64	98. 9. 2	1088	加工板	386	154	24	ヒノキ	7078
386		SK45	SD145	402	98. 9.16	1080	加工板	384	123	38	ヒノキ	7165　一部炭化
387	105	SK45	SD145	411	98. 9.16	1080	加工板	1,562	98	54	ヒノキ	7182
388		SK45	SD145	325	98. 9.11	1086	加工板	614	78	17	ヒノキ	7161
389		SK45	SD145	541	98. 9.17	1081	加工板	576	52	18	モミ属	7093　鈴木先生同定
390		SK45	SD145	289	98. 9.10	1096	加工板	131	25	8	ヒノキ	7002
391	105	SK45	SD145	725	98.10. 6	1066	加工板	995	154	31	ヒノキ	6911
392	105	SK45	SD145	52	98. 8.27	1129	加工板	1,402	134	25	ヒノキ	7197
393	105	SK45	SD145	46	98. 8.27	1096	加工板	1,280	160	29	ヒノキ	7108
394	105	SK45	SD145	91	98. 9. 3	1100	加工板	444	91	26	ヒノキ	7090
395		SK43	SD143	82	98. 8.31	1085	加工板	188	36	12	ヒノキ	7032
396		SK45	SD145	348B	98. 9.14	1065	加工板	324	50	16	ヒノキ	7167
397		SK45	SD145	493	98. 9.17	1075	加工板	312	190	41	ヒノキ	7067
398	105	SK42～SK45	大溝西トレンチ		97.12. 4		加工棒	626	34	33	ヒノキ	7092
399	105	SK45	SD145	31	98. 8.27	1095	加工棒	598	62	31	モミ属	7104　鈴木先生同定
400	105	SK45	SD145	99	98. 9. 3	1090	加工棒	1,240	46	34	ヒノキ	7170
401	105	SK45	SD145	24	98. 8.27	1126	加工板	762	172	57	ヒノキ	7152　一部炭化
402	105	SK45	SD145	348A	98. 9.14	1065	加工板	729	154	22	ヒノキ	7158
403	106	SK45	SD145	489	98. 9.17	1076	加工板	808	123	28	ヒノキ	7144

第21表　木製品一覧表 7

図番号	写真図版	遺構	出遺構	取上No.	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
404		SR45	SD145	323	98. 9.11	1082	加工板	1,037	185	20	ヒノキ	7162
405		SR45	SD145	632	98.10. 6	1101	加工板	1,054	179	29	ヒノキ	7109
406		SR45	SD145	289	98. 9.10	1083	加工板	777	191	25	スギ	7146
407	106	SR45	SD145	274	98. 9.10	1086	加工板	1,170	217	38	ヒノキ	7099　楔
408		SR45	SD145	273	98. 9.10	1095	加工板	913	156	45	ヒノキ	7141
409		SR45	SD145	465	98. 9.17	1110	加工板	859	153	48	ケヤキ	7163　鈴木先生同定
410		SR45	SD145	481	98. 9.17	1067	加工板	1,212	156	35	マツ属単維管束亜属	6881　鈴木先生同定
411		SR45	SD145	350	98. 9.14	1087	加工板	743	381	42	ヒノキ	6997
412		SR45	SD145	443	98. 9.17	1090	加工板	374	208	41	ヒノキ	7161
413		SR45	SD145	458	98. 9.17	1101	加工板	439	260	47	ヒノキ	7055
414		SR45	SD145	623	98.10. 6	1099	加工板	179	128	50	コジイ	6855　鈴木先生同定
415		SR45	SD145	667	98.10. 6	1079	加工板	171	122	25	ヒノキ	6760
416		SR45	SD145	621	98.10. 6	1046	加工板	155	76	8	ヒノキ	6828
417		SR45	SD145		98.10. 6		加工板	194	46	25	ヒノキ	6761
418		SR45	SD145	211	98. 9. 8	1101	加工板	180	43	12	コウヤマキ	7004　鈴木先生同定
419		SR45	SD145	200	98. 9. 8	1080	加工板	86	40	20	ヒノキ	6851
420		SR45	SD145	184	98. 9. 4	1085	加工板	98	47	25	サカキ	6802　鈴木先生同定
421		SR45	SD145	583	98.10. 5	1047	加工板	104	45	17	サカキ	6833　鈴木先生同定
422	106	SR45	SD145	158	98. 9. 3	1077	有孔板	383	109	17	スギ	6830
423		SR45	SD145	654	98.10. 6	1093	有孔板	185	32	7	ヒノキ	6836
424	106	SR45	SD145	179	98. 9. 4	1075	有孔板	205	36	5	スギ	7003
425		SR45	SD145	655	98.10. 6	1110	有孔板	264	138	15	ヒノキ	6890
426		SR45	SD143	18	98. 8.12	1107	有孔板	162	46	5	ヒノキ	7005
427		SR45	SD145	590	98.10. 6	1088	有孔板	107	54	6	ヒノキ	6843
428		SR45	SD145	442	98. 9.17	1062	有孔板	214	46	7	スギ	6969
429	106	SR45	SD145	19	98. 8.27	1120	有孔板	214	28	17	スギ	7021
430		SR45	SD145	8	98. 8.27	1113	有孔板	332	91	31	ヒノキ	7081
431		SR45	SD145	119	98. 9. 3	1086	加工板	622	57	36	ヒノキ	一部炭化 7091　鈴木先生同定
432		SR45	SD145	592	98.10. 6	1089	加工板	63	30	24	スギ	6945
433	106	SR43	SD143	74	98. 8.31	1083	加工棒	526	33	19	ヒノキ	7096
434		SR45	SD145	204	98. 9. 8	1061	加工板	434	108	28	ヒノキ	6994
435	106	SR45	SD145	68	98. 9. 2	1082	有頭棒	512	40	32	ヒノキ	6980
436		SR45	SD145	295	98. 9.10	1091	有頭棒	247	55	36	ヒノキ	6971
437		SR45	SD145	570	98. 9.29	1070	有頭棒	117	41	20	スダジイ	6952　鈴木先生同定
438	106	SR45	SD145	152	98. 9. 3	1076	有頭棒	1,118	58	45	ヒノキ	7127
439	106	SR45	SD145	599	98.10. 6	1053	有頭棒	364	33	20	ヒノキ	6826
440	106	SR43	SD143	71	98. 8.31		有頭棒	613	42	18	ヒノキ	7097
441	106	SR45	SD145	22	98. 8.27	1118	有頭棒	357	38	25	ヒノキ	6822
442		SR45	SD145		98.10. 6		有頭棒	180	22	11	スギ	6831
443	106	SR45	SD145	134	98. 9. 3	1076	有頭棒	442	34	17	ヒノキ	6796　編台
444	106	SR45	SD145	476	98. 9.17	1075	先端抉入板	714	56	30	ヒノキ	6932
445	106	SR45	SD145	252	98. 9. 9	1074	先端抉入板	707	54	20	ヒノキ	7120
446	106	SR45	SD145	545	98. 9.18	1058	先端抉入板	251	22	12	ヒノキ	6957
447	106	SR45	SD145	20	98. 8.27	1116	先端抉入板	239	35	17	イヌマキ	6824　鈴木先生同定
448	106	SR45	SD145		98.10. 2		先端抉入板	269	52	24	モミ属	7050　鈴木先生同定
449	106	SR45	SD145	625	98.10. 6	1088	先端抉入板	403	39	17	ヒノキ	7046
450	107	SR45	SD145	641	98.10. 6	1128	先端抉入板	356	52	8	ヒノキ	7049
451	107	SR45	SD145	239	98. 9. 9	1101	先端抉入板	313	66	15	タブノキ	6959　鈴木先生同定
452	107	SR42	SD142	177	98. 7.28	1096	先端抉入板	215	59	11	ヒノキ	6840　糸巻き？
453		SR45	SD145	785	98.10. 9	1081	先端抉入板	235	44	4	スギ	6941
454		SR45	SD145	185	98. 9. 1	1078	先端加工板	920	50	49	ヒノキ	7138
455	107	SR45	SD145	602	98.10. 6	1076	千巻？	751	45	31	クリ	6933
456	107	SR45	SD145	178	98. 9. 4	1075	先端抉入板	564	32	19	スギ	7063
457		SR45	SD145	220	98. 9. 8	1081	加工板	347	34	8	スギ	7168
458		SR45	SD145	165	98. 9. 3	1086	加工板	425	53	21	ヒノキ	6821
459		SR45	SD145	339	98. 9.11	1070	加工板	372	55	26	ヒノキ	6979　一部炭化
460		SR45	SD145	148	98. 9. 3	1070	加工板	380	55	21	クリ	7008　一部炭化
461		SR45	SD145	151	98. 9. 3	1077	加工棒	254	31	21	ヒノキ	6841
462		SR45	SD145	113	98. 9. 3	1089	加工材	124	34	22	ヒノキ	6961
463		SR45	SD145	459	98. 9.17	1079	加工棒	264	38	27	ヒノキ	7018
464	107	SR45	SD145	69	98. 9. 2	1090	加工棒	303	45	39	ヒノキ	6958
465		SR45	SD145	777	98.10. 9	1078	加工板	197	66	11	ヒノキ	7047
466	107	SR45	SD145	261	98. 9. 9	1076	加工板	90	205	27	アカガシ	6755
467	107	SR45	SD145		98. 8.21		加工板	347	37	19	ヒノキ	6885
468	107	SR45	SD145	200	98. 9. 8	1077	加工板	1,133	52	15	コウヤマキ	7124　鈴木先生同定
469		SR45	SD145		98.10. 6		加工板	306	18	13	ヒノキ	6787
470		SR45	SD145	219	98. 9. 8	1086	加工板	565	56	17	ヒノキ	7094　一部炭化
471	107	SR45	SD145	574	98. 9.29	1045	加工板	834	44	11	ヒノキ	7165
472	107	SR45	SD145	573	98. 9.29	1045	加工板	439	31	7	ヒノキ	7030　一部炭化
473		SR45	SD145	259	98. 9. 9	1071	有孔板	269	23	11	ヒノキ	6842
474	107	SR45	SD145	144	98. 9. 3	1079	加工板	658	42	16	ヒノキ	7065

第22表　木製品一覧表 8

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	取上No	取上日	出土標高(cm)	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	樹種	備考
475		SR45	SD145	246	98. 9.13	1061	加工板	391	32	12	ヒノキ	6972
476		SR45	SD145	608	98.10. 6	1117	加工板	1,268	45	32	ヒノキ	7150
477		SR45	SD145	231	98. 9. 9	1108	加工板	1,151	47	24	ヒノキ	7184
478	107	SR45	SD145	181	98. 9. 4	1070	?	21	19	15	ニシキギ属	朱塗り 7069　鈴木先生同定
479	107	SE 6	SE 4	木製品1	98.10.20	1100	人形	74	18	17	ムラサキシキブ属	7068　鈴木先生同定
480	107	SE 6	SE 4	木製品3	98.10.20	1090	横櫛	44	52	8	イスノキ	7070
481	107	SE 6	SE 4	木製品2	98.10.20	1085	横櫛	21	27	10	イスノキ	7071
482	107	SE 6	SE 4			1056	円形曲物側板				ヒノキ	井戸枠に転用　上下に縄　残存 高295mm　内径384mm　側板厚 4～7 mm　厚は柄の断面部計測　6934
483	107	SE 4	SE 1		97. 3.11		鎌柄	436	29	21	アカマツ	6710　鈴木先生同定
484		SE 4	SE 1		97. 3.11		曲物側板				ヒノキ	7056
485	107	SE 4	SE 1	B	97. 3.11	一	桶側板	228	73	11	ヒノキ	7038
486		SE 4	SE 1	A	97. 3.11	二	桶側板	229	78	12	ヒノキ	7057
487	107	SE 4	SE 1		97. 3.11		彩文半	462	77	13	モクレン属	全面黒漆 6711　鈴木先生同定
488	107	SR 5	SD102		97. 1.28	1107	棒柱	33.5	43.5	8.5	カヤ	6706　鈴木先生同定

※備考欄の数字は樹種同定用のプレパラート番号である。

第２節　土器（別冊125～166図）

出土した土器はポリコンテナに約300箱と大量で、古墳時代中期から江戸時代にいたる土器がある。とくに平安時代前期までの土器が多く、平安時代中期以降のものは少ない。平安時代中期以降の土器の中では、比較的山茶碗の出土量が多いが、遺構に伴うものはわずかである。後世の耕作などによる攪乱で、上層の遺構が確認されにくいという条件もあったが、平安時代中期以降の大規模な集落が存在していた可能性は薄い。

平安時代前期以前の土器の多くは旧河道からの出土で、祭祀に関連する土器が多く、直接集落の規模とは結び付かない。しかし、100m離れた山ノ花遺跡の旧河道からもほぼ同時期の大量の土器が出土しており、未調査の旧河道内には、莫大な量の土器が眠っているものと推定される。これらは当遺跡に居住していた人々によって残されたものと思われ、当集落跡が古墳時代中期から奈良時代にかけて、拠点的な地位にあったものと考えられる。

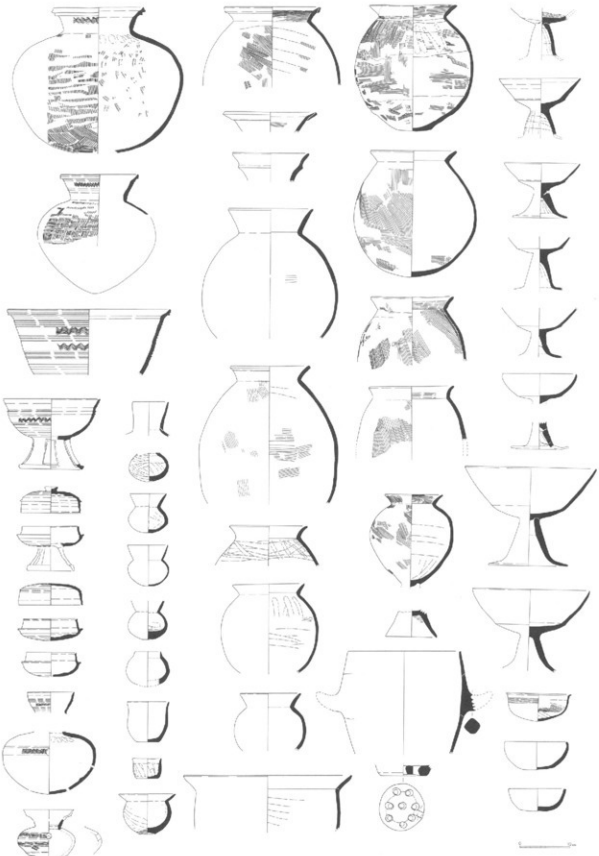
今回は紙数の都合もあるので、量的にまとまりのある古墳時代中期から平安時代前期の遺構内出土土器と特徴的な土器についてのみまとめることとするが、その前に現在問題となっている点を確認しておきたい。

古墳時代中期の土器は、県内では類例に乏しく、山ノ花遺跡の調査によって明らかになった点が多い（鈴木1999）とも言える。恒武遺跡の調査以前の遠江地方では、磐田市見性寺貝塚出土資料（平野1974）が和泉式に並行する基準資料と考えられ、袋井市坂尻遺跡KSD17（松井他1985）、細江町川久保遺跡SB01（栗原1993）、浜松市伊場遺跡Ｋ Ⅰ－１・２、KD４、KT201（漆畑1987）や浅羽町古新田遺跡（柴田稔1993）出土例が見性寺貝塚出土資料に並行もしくは後続するものと考えられていたが、何れも断片的で、伴出した須恵器の編年（田辺1981、以下須恵器は田辺編年を用いる）から前後関係を決めていたような状況であった。古新田遺跡からは、TK208型式の須恵器が多く出土し、これらに伴う土師器群が時間軸上の一定の位置を占めるにいたり（第６図）、型式変化を考えるうえで基準資料となっている。

古墳時代前期の末葉の資料には、袋井市土橋遺跡SK77（永井1985）や浜松市山の神遺跡SD201上層（柴田睦1997）出土例があり、見性寺貝塚に続く古新田遺跡との間を埋める資料が恒武遺跡（とくに山ノ花遺跡）から多く発見されている。

古墳時代中期と後期の画期については諸説があり、流動的である。とくに、土器論による区分はその変動が大きいため、従来の説に従い、横穴石室の導入以後を後期として本書ではまとめている。遠江地方では、磐田市熊塚古墳にその初現があるものと考えられている。その画期の時期は、およそMT15型式に併行するものと考えられている。MT15型式は６世紀初頭に位置付けられてきたが、TK217型式が７世紀後半まで引き下げられる可能性がある（小森1997他）とされたことにより、それ以前の須恵器編年の年代も引き下げられつつある。韓国の武寧王陵（公州大學校1991）に類例のある火熨斗を出土した大阪府高井田山古墳（柏原市教育委員会1996）出土のTK23型式が、520～530年に比定された（小野1999）。飛鳥寺下層出土土器と類似するとされ、587年前後に比定されていたTK43型式は、TK43号窯跡から出土した脚足円形硯の存在から７世紀以降であろう（畑中1999）とされた。これらの他にも、田辺編年の年代的位置付けに対する修正案は枚挙にいとまがない。全てが断片的資料によるため、新たな発見により変動する可能性は十分にある。しかし、全体的傾向として、田辺編年の年代観が引き下げられつつあるのが現状であろう。本稿では、古墳時代中期の下限を西暦500年を前後する時期ととりあえず考えて記述を進める。

奈良時代から平安時代にかけての土器編年上の問題点も先学による多くの指摘がある。この時期の遠江地方の年代の基準資料とされてきたのが、紀年銘遺物を多く出土した伊場遺跡である。伊場遺跡出土



第６図　古新田遺跡出土古墳時代中期土器

土器の詳細は近年報告されたが(太田1994)、現状の大方の年代観を追認するにとどまり、問題点の解決にはいたらなかった。

律令期の土器編年は、遠江地方では須恵器や灰釉陶器の編年に拠るところが未だ大きい。須恵器は形式変化を重視した後藤氏の編年案が広く普及したが（後藤1989）、各形式間の共時性の問題（鈴木1999）や湖西窯での須恵器生産が、9世紀前半段階で終焉を迎えるといった点が批判された。とくに、灰釉陶器と須恵器が共伴する事例が増え、湖西窯の須恵器生産が9世紀後半まで続いていた可能性が指摘されている（贄1997）。

灰釉陶器編年は、猿投窯の編年案（斎藤1994）を参考としているが、遠江地方では浜北市吉名6号窯（久野1989）の製品中には、製作技術は新しいが形態には古い要素を残しているものがあり、猿投窯での編年をストレートに応用できないものがある。また、一般の集落遺跡からのK－14・90号窯式の灰釉陶器の出土量はわずかであり、灰釉陶器生産が県内各地で本格化するまで、須恵器は生産され続けられていた可能性は高いであろう。

上記の点を踏まえた上で、以下、当遺跡出土土器の特徴と時期について、主要な遺構毎に概観してみたい。

(1) 恒武西宮遺跡

SR 3（別冊17図）　北東部の中層より列状に出土した一群（38・39・43・45～48・50・51・53・57）が存在する（別冊126図）。土師器には、偏平な球胴形の長頸壺（51）、中実脚で坏部の浅い高坏（53）、口縁部が内弯気味に開いたやや深い坏（57）がある。須恵器は、胴部外面上半と頸部外面にカキメが施された球胴形の甕（38）と坏がある。坏身は口縁部が垂直気味に立ち上がり、端部に面を有するもの（43）と丸味があるものがある。ヘラ削りの範囲は広いものと狭いものがある。底部内面は回転ナデ整形後に指頭で軽くナデているものが多い。口径は12～13cmの間でまとまっている。39の坏蓋は口径が12cmとやや小振で、口縁部が外反して開く尾張系とされているものである。色調は青味の強い青灰色で、異質な感じを受ける。形態的には、湖西市坪場第1地点Ⅰ・Ⅱ号窯（後藤1992）に類例が存在する。当遺跡でもSX 9（別冊166図）からよく似たものが出土している。SX 9は坏蓋3点がまとまって発見され、1はSR 3の39よりやや器高が低く、口唇部内面には浅い沈線が巡っている。2・3は口唇部内面に浅い段が認められ、ヘラ削りの範囲は稜部まで及んでおり、口径は14cm以上と大きい。これらはヘラ削りの範囲が広い点は気になるが、TK10型式並行と考えられるもので、1は39よりやや新しい。よってSR 3出土の一群はMT15～TK10型式並行にかけてのものとなる。

SF49（別冊19図）　竪穴住居跡であった可能性のある土坑で、他の遺構との重複が著しい。上層には中世の溝が存在していたようで、内耳鍋が列状に出土した（別冊129・130図）。下層からは、古墳時代中期の土器が比較的まとまって出土した。別冊130図の28や別冊131図20のヘラナデ整形の球胴甕、別冊127図12の小型壺もほぼ同じ時期のものと考えられる。壺には二重口縁壺（3）や口縁部が直立するもの（4）があり、甕には台部が内弯する台付甕（12）や平底の長胴甕（13）があり、また、平底の底部（7～11）が多く存在することから平底の甕が多かったものと推定される。高坏は口縁部が大きく開き、坏部下部にシャープな稜を形成し（14・15）、脚部は裾部の折れる屈折脚で、内面は縦位ナデ（絞り痕と報告される場合が多い）整形後に横位ヘラ削りされている。以上が土師器の特徴で、須恵器は混入の可能性も高いが3点（21～23）が出土している。23は口縁部の長い尾張系の坏身で、口唇部には弱い段があり、受部は長くつまみ出され、受部までヘラ削りされている。SX10（別冊166図2）から類例が出土しているが、これは口唇部を外反させ、受部は短い。MT15～TK10型式並行とされるもので、SF49例よりやや新しいものであろう。

SF49出土土師器は、甕はヘラナデ整形で、球胴形を呈するものがあり、高坏脚部は柱状部がやや膨らみ屈曲部内面に突出部があるものが存在し、古新田遺跡出土例と比較すると若干古く、TK216型式併行期頃を想定しておきたい（第7図）。

(2) 恒武西浦遺跡南区

SB 2（別冊45図） 竪穴状遺構の埋積土内出土で、12・13は別遺構内ともとれるが、ここで扱う。南側上層からは4～8・11・14が出土し、北側下層からは3・9・10・12・13の土師器が出土した（別冊132図）。10の高坏脚部内面には絞り痕が残り、その他の脚部内面には縦位のナデ痕が残る。高坏だけを見ると柱状部がやや膨らんだものが多く、SF49に近い時期が想定される。

SB 3（別冊46図） 須恵器坏3点（1～3）と土師器の壺、甕、甑などが出土した。1は口径が14cmの坏蓋で口唇部に沈線が巡っている。2は尾張系の坏蓋で、口径は13cmで、口唇部に内傾面をもつ。3は口径12.4cmの坏身で、口唇部は内傾しているが、摩滅により不明な点も多い。これらは坪場第1地点1号窯に類例があり、MT15型式並行としておきたい。これらに土師器の単口縁の壺（4・5）や口唇部が外方へとつまみ出されたハケメの甕（6・7）などが伴っている（別冊132図）。

SB 4（別冊47図） 竈周辺より2～9が出土した（別冊133図）。3の須恵器瓶は口縁部が開き、TK217～43型式並行と考えられるものである。土師器甕は、口縁部が断面「く」の字状に開く長胴の深甕で、ハケメにより仕上げられている（4・5）。6のような小型平底甕も存在する。9は所謂模倣坏で、7・8は破片のため、この時期まで残るかは疑問である。

SR15（別冊56図） 須恵器は混入品であるが、土師器にはヘラナデ整形の平底甕（61・62）、口縁部が直立した甕（64）や二重裾部の高坏（66）などがあり（別冊136図）、SF49出土例と類似する部分が多い。

SR16B（別冊55～57図） 出土状態より確実性の高いものを挙げると1～3・5・6・10～12・15・18・20・22～24・36～38・51～53・56がある（別冊134・135図）。18は混入品と考えられる。須恵器には、肩部の張った広口壺（1・3）、内面の当て具痕を磨り消した甕（11・12）、器高が高く宝珠状の摘みが付いた坏蓋（15）、所謂「出尻」とされる底部の丸い高台付坏身（20）などがある。土師器には、口縁部断面が「コ」の字状を呈するハケメ整形の甕（37・38）、内外面赤彩された箱形の坏（52）、高台が「ハ」の字状に開いた台付皿（53）などがある。これらの他に21・54も当遺構に伴うものと考えて良い。

須恵器坏は、奈良時代前葉の標識とされる湖西市青平VI号窯（後藤1984）などに類例があり、SR16B出土土器は奈良時代前半段階でもやや古い土器群と考えられる（第8図）。

これらの土器群に伴うものではないが、SR16からは白色粒子を多量に含んだ駿河地方産の甕（35）と坏（47）も出土している。35の駿東型甕は17の坏身と共伴しており、古墳時代のものであるが、駿河地方では駿東型甕が奈良時代以降まで使われている。駿東型甕は須恵器甕の模倣品で、貯蔵形態の土師器であるとされている（平野1991）。奈良時代の煮炊用の深甕は、遠江地方では38のような甕が一般的で遠江型とされている。この遠江型の甕は駿河地方でも多く認められるもので、西から東へと波及し、駿河地方でも定着したものと考えられる。

(3) 恒武西浦遺跡中区

SR41（別冊60・61図） 多くの土器は最下層よりまとまって出土したもので、一括性は高い資料である（別冊139・140図）。しかし、中には明らかに古い属性をもった破片（4・6～9・26・27）があり、とりあえず除外して考える。1・2は灰釉陶器の皿で、2は三日月高台のK－90号窯式に相当するものである。3・5は須恵器で、3はほぼ完形に復原できたもので、底部外面にはタタキメ痕が残り、内面はヘラ削りされている。5は完形の所謂壺Gで、糸切り痕が残る。10以降は土師器で、10・11は高台の付

く碗で、内外面赤彩され、10には内外面に煤が付着している。13～25は坏で、口縁が開き、口唇部は尖るものが多い。内面全面が赤彩され、外面には点状に赤彩痕が残るものも多い。また、輪積み痕が残り、雑な作りである。この時期になると無台坏の法量差が縮小し、口径は小さく、器高は高くなる(第12図)。伊場遺跡の延長二年（924年）銘木簡と伴出した土師器坏に類例が存在する（太田前掲書）ことから、10世紀初頭までは、この種の坏が使われていた可能性は高い。次期には、浜松市椿野遺跡SX201出土土器(柴田睦1994)が続くものと思われる(第10図)。椿野遺跡からは高台付皿が出土しているが、無台皿は無く、無台皿はK－90号窯式頃より著しく減少するものと考えられる。

31～38が甕で、長胴形のものと広口短胴形（38）のものがある。口唇部内面の肥厚は比較的形骸化している。29・30は人面墨書土器で、長胴甕の胴部破片と考えられる。29は雑な印象を受けるが、30は小さな顔が丁寧に描かれている。人面墨書土器は、県内では伊場遺跡（川江1980）、浜松市梶子遺跡（鈴木1994）、細江町井通遺跡（丸杉1999）、磐田市御殿・二之宮遺跡（折原1995）や山ノ花遺跡（鈴木前掲書）などから発見されており、官衙に関連した遺跡の流路跡内から出土している例が多い。伊場遺跡例は平安時代前期の坏内面に「海々屋子女形」の墨書と共に顔が描かれ、井通遺跡例は奈良時代の坏外面に、梶子遺跡例は深甕の外面に、御殿・二之宮遺跡例は奈良時代の深甕、広口浅甕やミニチュアの甕の外面に、山ノ花遺跡例では深甕や球胴壺の外面に描かれている。何れも土師器で、顔は1面のみ描かれ、都の人面墨書土器とは様相を異にし、地方でのアレンジが認められる。その他、2・12・19などにも墨書が認められる。

特殊な器形の須恵器が、K－90号窯式まで残ることはあり得ることであるが、その他の器種が製作されていたかは、もう少し良好な一括資料の増加を待って再検討したい（第9図）。

SR42（別冊62・63図）　SR42は下層のSR43・45を侵食しているため、古墳時代中・後期の土器が混在しているが、SR16Bと似た土器群が下層より発見されていることから、奈良時代前半段階の流路跡である。ここでは、奈良時代の土器についてのみ触れる（別冊141～146図）。

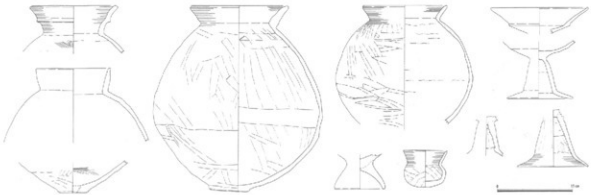
須恵器には壺、甕、高坏、坏蓋、坏身があり、壺頸や大型の甕（19・26）の出土が目立つ。21の高坏は脚部を削り取っており、転用されている。坏蓋は器高が高く、偏平な宝珠状の摘みが付く（35～38）。坏身には「出尻」形の高台坏（48・49・51・53）や底部の丸い碗状坏（57～64）などが存在し、箱形坏はほとんど認められない。56は坏蓋になるかもしれない。

土師器には、壺（84）、台付甕（92）、深甕（79～83）、小型甕（85・86）、口縁部が内弯した暗文のある坏（130・131）、坏蓋（135）、口縁部が外反した暗文のある坏皿類（136～152）や手捏ね土器などが存在する。暗文が施された坏皿類が特徴的で、馬の顎骨の多量出土と併せて祈雨祭祀に関連した土器群と考えられる（第11図）。

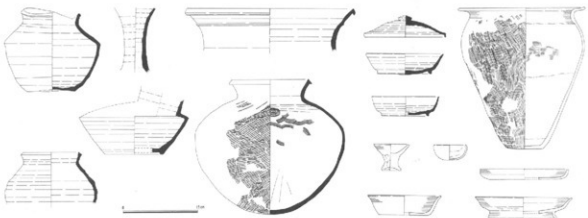
これらの土器群は、古墳時代の土器との分離が難しいが、東端部では比較的まとまりのある一群が出土していることから、その番号を掲載しておく（1・4・6・7・9・13・14・18・19・21・26・35・38・39・43・48～50・52～54・56・60・61・76・83・118・124・130・131・135～137・139・140・142・143・145・147～149・151・152・160・164・167）。

SR43（別冊64・65図）　出土土器はわずかであるが、TK208型式からTK46型式並行の土器が出土している。年代的にはTK46型式期より新しいと考えられる土器も存在する（別冊147・148図）。古墳時代中期の土器は下層のSR45に伴うもので、後期初頭の土器は不分明である。SR45出土としているものの中には、南西部の一群や南側肩部の土器には、実際はSR43に伴うものが含まれているため、SR45が比較的新しくまで存続しているかのように見えるが、およそTK10型式並行までと考えた方が良いであろう。よってSR43はTK10型式並行以降と考えている。

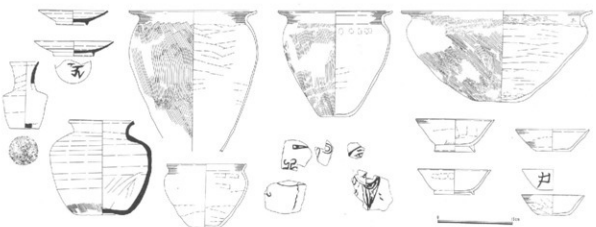
中央部南肩部からまとまった土器が出土したが（7・24・34・45・48・59・62）、同一地点の下層（別



第７図　恒武西宮遺跡SF49出土土器

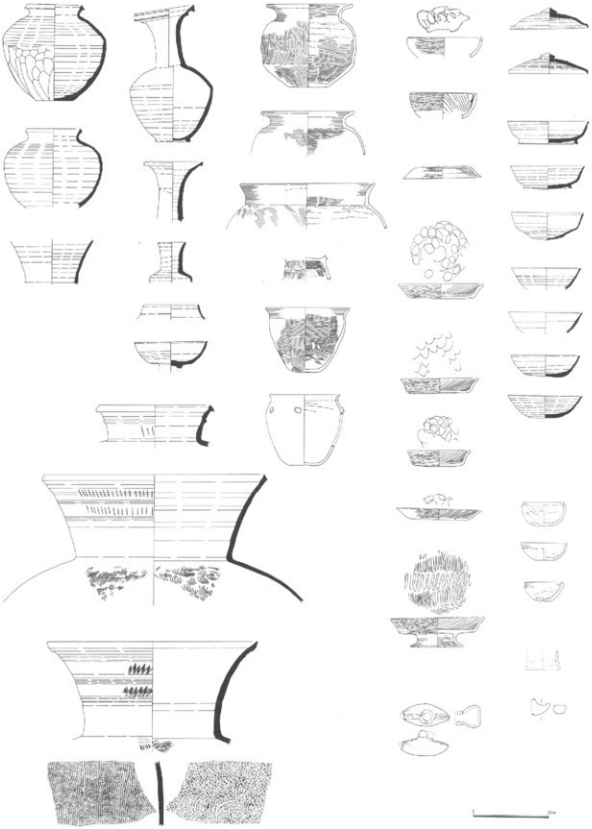


第８図　恒武西浦遺跡SR16Ｂ出土土器



第９図　恒武西浦遺跡SR41出土土器

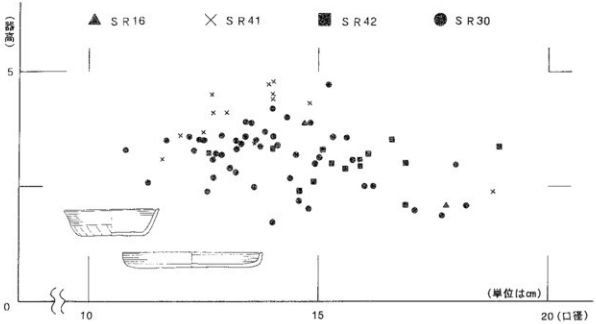
第10図　椿野遺跡Ｓ×201出土土器



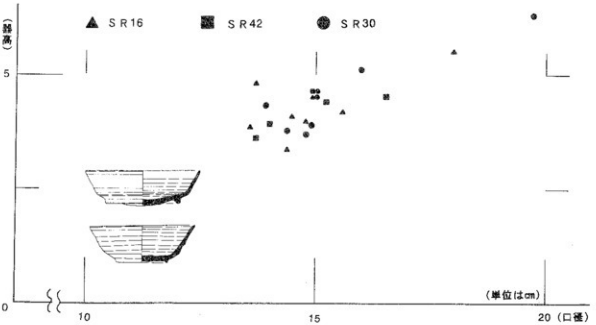
第11図　恒武西浦遺跡SR42出土土器

冊69図左下）から古墳時代中期の土器がまとまっている点は注意されたい。南西端部の土器群（別冊72図下段）は、SR45上部の流路から外れており、SR43に伴うと考えた方が良く、それらの南側より少量の土器が出土している（5・22・23・46・79）。

SR45（別冊66～72図）　SR45の流れの方向については、第II章第3節を参照していただきたいが、SR45は遺物の出土した上部とほとんど遺物が出土しない下部に分けられる。SR45上部は、ほぼ木製品が出土した範囲と一致する。木製品は旧河道の底に近い部分に集中し、土器は南側肩部に集中している。木製品と共伴した土器は、古墳時代中期に属するものが多いが、小型壺といった比較的転がり易い土器が目に付く点は注意が必要であろう。前項のSR43でも触れているが、南側肩部は分層に失敗しており、SR43



第12図　土師器無台坏皿計測値分布図（奈良時代以降）

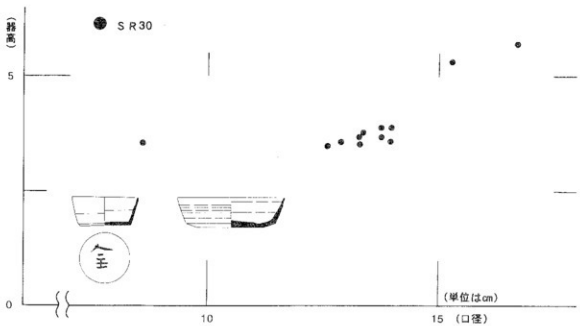


第13図　須恵器有台坏計測値分布図

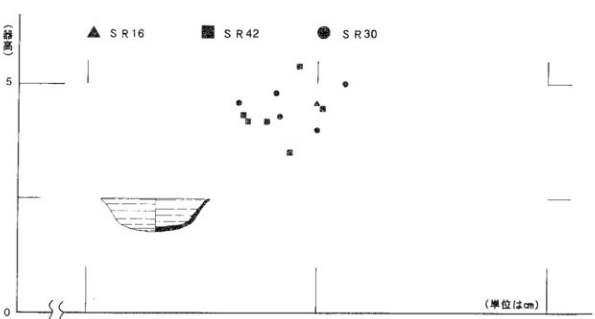
に伴う土器もSR45出土として報告しているものがある点は御容赦いただきたい（別冊149～156図）。

出土した土器は、完形品や使用による磨滅の少ないものも多く、手捏ね土器や小型壺といった祭祀色の強い土器が存在することから、祭祀に関連したものも多いと考えられる。器種構成は、比較的高坏の出土例が目立つ。山ノ花遺跡では、高坏の集中地点が確認されており、高坏が多用された祭祀も想定される。

以下に、出土状況からまとまりのありそうな土器群を列記しておくが、肩部からの出土で混入品が存在する確率も高いことを付記しておく（第16・17図）。



第14図　須恵器無台箱形坏計測値分布図



第15図　須恵器無台碗形坏計測値分布図

A：別冊67図　50・81・128・174・第148図75・第146図183
B：別冊68図　34・86・142・第147図16・第148図76
C：別冊69図　23・49・51・52・69・97・113・114・108・161・187
D：別冊69図　22・36・59・72・73・101・117・130・138・147・148・149・209・第146図174・第146図181・第146図183・第146図184
E：別冊70図　27・35・40・63・65・70・74・82・96・119・第146図195
F：別冊70図　31・35・87・118・121・122・132・133・141・159・176・第146図175・第146図189
G：別冊70図　91・98・105・第146図178・第146図196
H：別冊70図　21・44・46・186
I：別冊70図　5・68・71・76・144・第146図182・第146図190・第146図192
J：別冊70図　11・12・84・123・124・135・188・196・第146図194・第146図197　別冊71図　6・9・66・92・124・125・170・第146図186
K：別冊71図　87・112
L：別冊71図　55・56・58・61・62・75・115・116・126・191
M：別冊71図　89・90・103・200
N：別冊72図　88・179・185・190
O：別冊72図　33・66・110・145・162・163・181・199
P：別冊72図　4・20・41・第146図168
Q：別冊72図　2・79・80・83・100・104・139・152
R：別冊72図　13・14・30・77・99・106・136・143・146・154・168・178・183・197・198・204・第148図73・第148図74・第148図79（SR43に伴う）

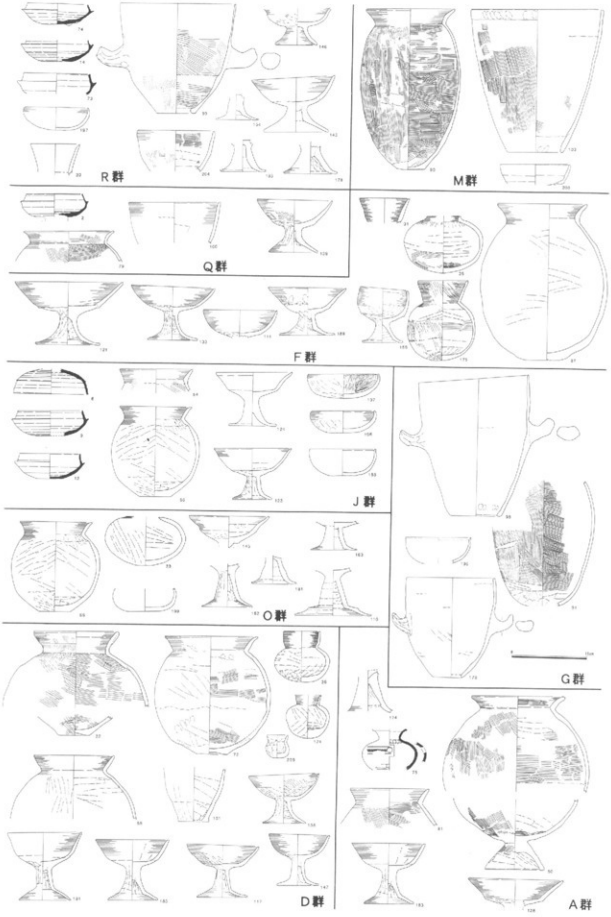
(4)　恒武西浦遺跡北区

SR46　最下層の砂礫層内より、細片の状態で多くの土器が出土した。ほとんどの土器はローリングを受けており、流されているが、6のように完形品も認められる。古墳時代末期の土器群である（別冊140図）。

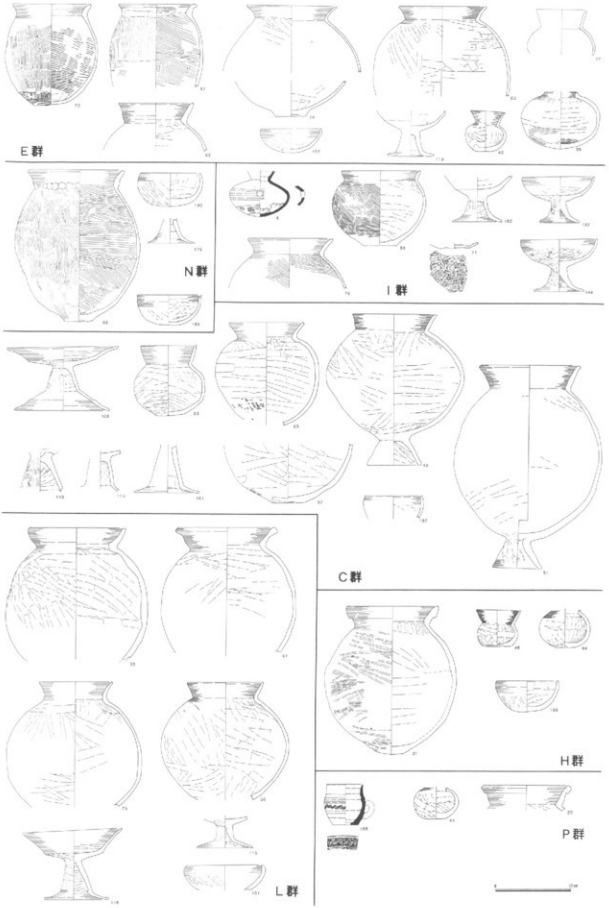
SR30（別冊75・76図）　出土土器は最下層のものと上層のものに出土状態から分離可能であり、出土状況図の朱色のものが上層出土である。上層出土土器の中でも、北西肩部より列状に発見されたものが、6・17・26・37・46・55・70・72・73・79・95・97・101・102・109・120・124～126・138・143・158・162～164・167・177・181～183・186・187・SR32－1で、一括性は高く、SR30中央上層には、144～146のような平安時代にドるような資料が認められる。最下層出土土器は拳大の礫と共に出土しており、他地点より流されてきたものとは考えられないが、古墳時代的な須恵器も少量存在する（別冊157～161図）。

須恵器には、小型の摘みが付き、口縁端部が水平方向に開く坏蓋（26・30）、高台が内側に付き、口唇部が外反した坏身（67）やヘラ切り未調整の碗形坏（51・54・55）があり、無台の箱形坏（36～48）が多く存在するといったことから、SR42よりやや後出的である。箱形坏は口縁部が直立気味に開き、大・中・小に法量分化しており、中型坏は法量にまとまりがあり、これらにはそれほど時期差は無いものと考えられる（第14図）。

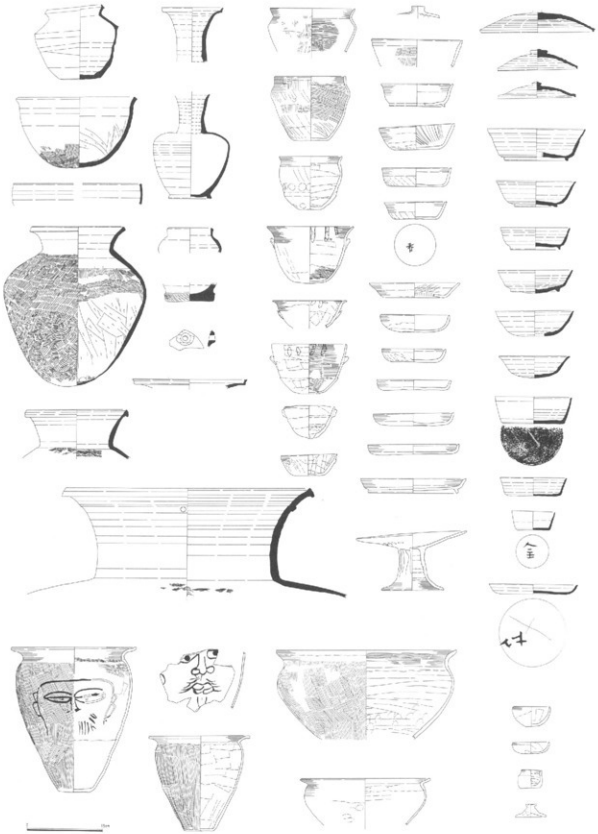
土師器は大量に出土しており、人面墨書土器（70・103～107）や墨書土器（154・158・192・193）があり、ミニチュア品（86～102）や手捏ね土器（111～136）も存在する。人面墨書土器は長胴甕の胴部外面に描かれているようである。ミニチュア品の中には把手を意識した突起が付くものがあり、これらの内面には指による赤彩痕が残っている。形態はA：口縁部が屈曲して外反するもの（94・95・97・98）、B：口唇部が外反するもの（96・99・100）やC：口縁部が内弯気味に開くもの（101・102）がある。Aは把手付の鉢のミニチュアで、B、Cは甑のミニチュアであろう。土師器には煤の付いた甕なども一部



第16図　恒武西浦遺跡SR45出土土器（1）



第17図　恒武西浦遺跡SR45出土土器（2）



第18図　恒武西浦遺跡SR30出土土器

存在するが、全体的に使用による摩滅痕が明瞭に観察できないものが多く、祭祀的行為に関連したものと推定される。

土師器の坏皿類も多く出土しているが、SR42のように外面が丁寧にミガかれ、内面に暗文が施されたものは少ない。坏皿類は法量分化しており、坏と皿の形態的識別は困難である。腰部の形状では区別できないことから、便宜的に器高3cm前後を境界として区別した。無台坏は口縁部が直立気味に開き、法量の分化も認められるが、計測値のまとまりはSR41に近い範囲にあることから、SR42より新しいものと考えている（第12図）。SR42出土無台坏皿は底部外面まで赤彩されているが、SR30出土例の無台坏には底部外面の赤彩が略されるものが多い。ただし、体部外面の赤彩時に底面まで及ぶものがあり、前記の例は底部中央のみが赤彩されていないものである。

SR30出土土器の中には、古墳時代末期や平安時代前期に属する資料も一部認められるが、大半は奈良時代中葉に比定される一群であろう（第18図）。

SD34（別冊77図）　SD34は北区と笠井51号線の各調査区にまたがっており、土器実測図は中段と下段に分かれている（別冊163図）。須恵器には双耳坏（3）、台付皿（4）や口縁部が水平に引き出された高い摘みの付く坏蓋などがある。これらは、湖西市早稲川1号窯（鈴木1989）の製品と類似している。早稲川1号窯からは摘みの無い坏蓋や平底の碗形坏身などが出土しており、奈良時代の後半段階の資料とされている。ただし、別冊166図1がSD34に伴う可能性があり、平安時代に下るかもしれない。

引用・参考文献

平野吾郎　1974『遠江見性寺貝塚の研究』　磐田市教育委員会

川江秀孝　1980『伊場遺跡遺物編２』　浜松市教育委員会

田辺昭三　1981『須恵器大成』　角川書店

後藤建一　1984『青平古窯跡・新古古窯跡発掘調査報告書』　湖西市教育委員会

松井一明他　1985『坂尻遺跡 ―序文・古墳時代編―』　袋井市教育委員会

永井義博　1985『土橋遺跡』　袋井市教育委員会

漆畑　敏　1987『伊場遺跡　遺物編４』　浜松市教育委員会

久野正博　1988『浜北市吉名第５号・第６号古窯跡』　浜北市教育委員会

後藤建一　1989「湖西古窯跡群の須恵器と窯構造」『静岡県の窯業遺跡』　静岡県教育委員会

久野正博　1989「明神池運動場内遺跡群発掘調査報告書」　浜北市教育委員会

鈴木敏則　1989「早稲川地点」『静岡県の窯業遺跡』　静岡県教育委員会

公州大學校・百濟文化研究所 1991『百濟武寧王陵』

平野吾郎　1991「遠江・駿河における歴史時代土器の成立と展開」『古代探叢III』　早稲田大学出版部

川江秀孝　1992「須恵器の編年」『静岡県史　考古３』　静岡県

後藤建一　1992『湖西一ノ宮工業団地内遺跡発掘調査報告書』　湖西市教育委員会

柴田　稔　1993『古新田II』　浅羽町教育委員会

栗原雅也　1993『川久保船渡遺跡』　細江町教育委員会

太田好治　1994『伊場遺跡遺物編６』　浜松市教育委員会

斎藤孝正　1994「東海地方の施釉陶器生産」『古代の土器研究 ―律令的土器様式の西・東３―』　古代の土器研究会

柴田　睦　1994『椿野遺跡』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所

鈴木敏則　1994『梶子遺跡IX』　㈶浜松市文化協会
折原洋一　1995『御殿・二之宮遺跡』　御殿・二之宮遺跡調査会
桑野一幸・安村俊史 1996『高井田山古墳』　柏原市教育委員会
柴田　睦　1997『山の神遺跡』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所
小森俊寛　1997「基調報告」『古代の土器研究 ―律令的土器様式の西・東5　7世紀の土器―』　古代の土器研究会
贄　元洋　1997「東三河と遠江の消費遺跡」『須恵器から灰釉陶器へ』　三河考古刊行会
鈴木敏則　1999「遠江の古墳時代中期土器様式（山ノ花様式）」『東国土器研究第5号』東国土器研究会
鈴木敏則　1999「古墳時代湖西窯編年の再検討」『古墳時代の猿投窯と湖西窯』　三河考古刊行会
小野善裕　1999「古墳時代須恵器の年代観」『古墳時代の猿投窯と湖西窯』　三河考古刊行会
畑中英二　1999「近畿地方の飛鳥・白鳳時代土器編年研究と問題点」『飛鳥・白鳳の瓦と土器 ―年代論―』古代の土器研究会
丸杉俊一郎 1999「引佐郡衙関連遺跡の調査」『静岡県の原像をさぐる』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所

第23表　土器一覧表 1

図番号	写真図版	遺構	出土遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
125－1		SR 1	SD124	—	97. 2.18	須恵器	壺	B 3 区
125－2		SR 1	SD124	1148	97. 2.21	須恵器	坏蓋	内面再調整
125－3		SR 1	SD124	—	97. 2. 6	須恵器	坏蓋	D 6 区南
125－4		SR 1	SD124	1112	97. 2.21	須恵器	坏蓋	97. 2. 6
125－5	45	SR 1	SD124	—	97. 3.10	須恵器	坏蓋	A 1 区　窯印　内面再調整
125－6	45	SR 1	SD124	1114	97. 2.21	須恵器	坏蓋	窯印　内面再調整
125－7		SR 1	SD124	1132	97. 2.21	須恵器	坏身	内面再調整
125－8		SR 1	SD124	—	97. 1.29	須恵器	坏身	C 6 区南東
125－9		SR 1	SD124	1109	97. 2.21	須恵器	坏身	内面当て具痕
125－10		SR 1	SD124	1131	97. 2.21	須恵器	坏身	内面再調整
125－11		SR 1	SD124	1128	97. 2.21	須恵器	坏身	
125－12	45	SR 1	SD124	—	97. 3. 4	須恵器	坏身	B 2 区
125－13		SR 1	SD124	—	97. 2.21	須恵器	坏身	
125－14		SR 1	SD124	1119	97. 2.21	須恵器	坏身	
125－15		SR 1	SD124	—	97. 1.13	須恵器	坏身	C 4 区西側　C 4 区中央　97. 2.13　2.14
125－16		SR 1	SD124	—	97. 3.10	須恵器	高坏	D 6 区　C 6 区
125－17	45	SR 1	SD124	1127	97. 2.21	須恵器	高坏	四方透し
125－18		SR 1	SD124	—	97. 3. 5	須恵器	高坏	A 1 区南側　三方透し
125－19		SR 1	SD124	—	97. 2.21	土師器	甕	97. 1.13
125－20		SF11	SD124	1154	97. 3.17	土師器	小型壺	
125－21		SR 1	SD124	1116	97. 2.21	土師器	小型壺	
125－22		SF11	SD124	1147	97. 3.17	土師器	小型壺	
125－23		SR 1	SD124	1124	97. 2.26	土師器	甕	外面煤付着
125－24		SR 1	SD124	1116	97. 2.21	土師器	甕	
125－25		SR 1	SD124		97. 1.31	土師器	甕	D 6 区北
125－26		SR 1	SD124	1124	97. 2.21	土師器	甕	
125－27		SR 1	SD124	1106	97. 2.21	土師器	高坏	
125－28		SR 1	SD124	—	97. 1.30	土師器	高坏	D 6 区
125－29		SR 1	SD124	1104	97. 2.21	土師器	高坏	
125－30		SR 1	SD124	1126	97. 2.21	土師器	高坏	
125－31		SR 1	SD124	—	97. 2.26	土師器	高坏	C 5 区東
125－32		SR 1	SD124	—	97. 2.14	土師器	高坏	C 5 区
125－33		SR 1	SD124	—	—	土師器	坏	D 6 区北
125－34		SR 1	SD124		97. 1.31	土師器	坏	D 6 区中央
125－35		SR 1	SD124	—	97. 3. 5	土師器	坏	A 0 区
125－36		SR 1	SD124	—	97. 2. 7	土師器	手捏ね	C 5 区
125－37		SR 1	SD124	1151	97. 2.21	土師器	甑	
126－38	45	SR 3	SD134	1128	97. 2.21	須恵器	壺	
126－39	45	SR 3	SD134	1136	97. 2.21	須恵器	坏蓋	口縁部外反
126－40	45	SR 3	SD134		97. 2. 7	須恵器	坏蓋	C 5 区北部　C 6 区南東　C 6 区南　97. 2.17　2.18　2.20
126－41		SR 3	SD134	—	97. 2. 6	須恵器	坏蓋	B 4 区
126－42		SR 3	SD134	1139	97. 2.21	須恵器	坏身	
126－43	45	SR 3	SD134	1134	97. 2.21	須恵器	坏身	白色粒子多い
126－44		SR 3	SD134	1133	97. 2.21	須恵器	坏身	窯印
126－45	45	SR 3	SD134	1129	97. 2.21	須恵器	坏身	窯印
126－46		SR 3	SD134	1134	97. 2.21	須恵器	坏身	内面再調整
126－47	45	SR 3	SD134	1136	97. 2.21	須恵器	坏身	内面再調整
126－48		SR 3	SD134	1132	97. 2.21	須恵器	坏身	
126－49		SR 3	SD134	—	97. 2.12	須恵器	坏身	C 6 区　D 6 区　内面再調整
126－50		SR 3	SD134	1140	97. 2.21	須恵器	坏身	内面再調整
126－51	46	SR 3	SD134	1131	97. 2.21	土師器	壺	
126－52		SR 3	SD134	—	—	土師器	壺	
126－53		SR 3	SD134	1134	97. 2.21	土師器	高坏	
126－54	46	SR 3	SD134	1151	97. 2.21	土師器	高坏	
126－55		SR 3	SD134	1150	97. 2.21	土師器	高坏	
126－56		SR 3	SD134	1145	97. 2.21	土師器	高坏	
126－57	45	SR 3	SD134	1127	97. 2.21	土師器	坏	
126－1		SR 5	SD102	—	97. 1.28	須恵器	坏蓋	C 7 区北東
126－2		SR 5	SD102	—	97. 2.14	須恵器	坏蓋	B 6 区南　窯印
126－3		SR 5	SD102	1133	97. 2.14	須恵器	坏身	C 7 区北東
126－4		SR 5	SD102	—	97. 1.30	須恵器	甕	C 7 区北東
126－5		SR 5	SD102	—	97. 2.14	須恵器	甕	C 7 区東　白斑
126－6		SR 5	SD102	1111	97. 2.14	須恵器	高坏	D 8 区南西
126－7		SR 5	SD102	1147	97. 2.18	須恵器	器台	C 8 区南東　北肩部　97. 1.21　2.13　白斑　同一個体（SR 4　C 8・9 区下層、SR 6　B 8 区、SR12　D11区、SR 1）
126－8		SR 5	SD102	1122	97. 2.14	土師器	鉢	C 7 区北東
126－9		SR 5	SD102	—	97. 1.31	土師器	高坏	D 8 区　段刻
126－10		SR 5	SD102	1102	97. 2.14	土師器	高坏	C 7 区北東
126－11		SR 5	SD102	—	97. 2.17	土師器	高坏	B 6 区西
126－12		SR 5	SD102	—	97. 2.17	土師器	坏	B 6 区西

第24表　土器一覧表 2

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
126—13		SR 5	SD102	—	97. 2. 4	土師器	手捏ね	B 8 区西半　把手
127—1		SR12	SD44	—	97. 2. 4	須恵器	坏身	D10区北西
127—2		SR12	SD44	1171	97. 2. 4	須恵器	高坏	D12区南東　三方透し　内面白斑
127—3		SR12	SD44		97. 1. 23	土師器	壺	D11区南西
127—4		SR12	SD44		97. 1. 16	土師器	手捏ね	D11区
127—5		SR12	SD44		97. 1. 21	土師器	小型壺	D11区南西
127—1		SD 8 B	SD23	1201	97. 1. 22	須恵器	坏蓋	
127—2		SD 8 B	SD23		97. 1. 13	土師器	甕	外面煤付着　輪積み痕跡者
127—3		SD 8 B	SD23	—	97. 1. 22	土師器	高坏	C13区北東
127—1		SD12	SF 1	—	96.11.25	須恵器	坏身	
127—2		SD12	SF 1	1181	97. 1. 14	土師器	坏	
127—3		SD12	SF 1	1185	97. 1. 14	土師器	高坏	
127—1		SD11	SD 4	1184	97. 1. 14	須恵器	坏身	
127—2		SD11	SD 4	1187	97. 1. 14	土師器	坏	
127—3		SD11	SD 4	1174	97. 1. 14	土師器	坏	
127—4		SD11	SD 4	1182	97. 1. 14	土師器	甕	胴部下半外面煤付着
127—5		SD11	SD 4	1182	97. 1. 14	土師器	高坏	
127—6		SD11	SD 4	1182	97. 1. 14	土師器	壺	97. 1. 15
127—7		SD11	SD 4	—	97. 2. 27	土師器	壺	
127—1		SD 3	SX 7	1176	97. 2. 24	山茶碗	椀	糸切り
127—2		SD 4	SD46	—	97. 1. 21	須恵器	坏蓋	
127—3		SD 4	SD46	—	97. 1. 21	須恵器	壺	
127—4		SD 5	SD77	—	97. 2. 21	土師器	高坏	E10区南西　97. 1. 16
127—5		SD 6	SD70	—	97. 1. 15	陶器	鉢鉢形	糸切り
127—6		SD 7	SD73	—	97. 2. 4	土師器	高坏	
127—7		SR 8	SD26	—	97. 2. 21	須恵器	坏蓋	D12区　97. 1. 7　内面
127—8		SR11	SD 6	—	96.12.25	山茶碗	椀	D13区　モミ痕跡
127—9		SR11	SD 6		97. 1. 9	土師器	羽釜	D13区　内外面煤付着
127—10		SD10	SD 1	1186	97. 1. 14	山茶碗	椀	96.12.10　内面釉
127—11		SD10	SD 1	—	96.12.10	土師器	内耳鍋	外面煤付着
127—12		SD 9	SD62	1189	97. 1. 22	土師器	小壺蓋	底部外面ヘラ削り
127—13		SD 8	SD63	1260	97. 1. 22	須恵器	高坏	黒灰色　凸面
127—14		SD15	SD13	—	96.12.19	山茶碗	椀	
127—15		SD13	SD11	—	96.12.19	土師器	壺	
127—16		SD14	SD 9		96.12.19	土師器	内耳鍋	外面煤付着
127—17		SF44	SF12	1215	97. 1. 22	山茶碗	椀	C13区南西　97. 2. 18　糸切り
128—1		SE 1	SE 1	—	96.11.14	須恵器	高坏	四方透し
128—2		SE 1	SE 1	—	97. 1. 7	山茶碗	椀	モミ痕跡
128—3		SE 1	SE 1	—	96.11.26	陶器	擂鉢	97. 1. 8　内外面鉄釉　糸切り
128—4		SE 1	SE 1	—	97. 3.12	陶器	椀	内外面鉄釉　中央部糸切り痕
128—1		SR 2	SD145	—	97. 2.24	須恵器	坏蓋	C 3 区
128—2		SR 2	SD145	1096	97. 3.13	須恵器	坏身	C 2 区中央　内面再調整
128—3		SR 2	SD145	—	97. 3.27	須恵器	坏身	SR 2 東壁横断面　窯印
128—4		SR 2	SD145	—	97. 3.17	須恵器	高坏	C 2 区　二方透し
128—5		SR 2	SD145	—	97. 2.21	土師器	台付甕	C 3 区
128—6		SR 2	SD145	1116	97. 3.13	土師器	台付甕	C 2 区北東　外面煤付着
128—1		SR 4	SD69	—	97. 1.27	須恵器	坏蓋	E12区
128—2		SR 4	SD69	—	97. 2.12	須恵器	坏蓋	E12区南　内面再調整
128—3		SR 4	SD69	1176	97. 2. 4	須恵器	坏蓋	E12区北西
128—4		SR 4	SD69		97. 2.12	須恵器	提瓶	C 9 区南　C 9 区北　C 9 区北半　97. 2.13
128—5		SR 4	SD69	1179	97. 2. 4	須恵器	器台	D11区南東　97. 1.08　黒灰色
128—6		SR 4	SD69	—	97. 2.13	土師器	壺	C 8 区南部
128—7		SR 4	SD69	—	97. 2.14	土師器	壺	B 7 区北西
128—8		SR 4	SD69	—	97. 2.12	土師器	甕	C 9 区南　外面煤付着　宇田型
128—9		SR 4	SD69	—	97. 2. 6	土師器	甕	D12区北　E11区北東　97. 2.18
128—10		SR 4	SD69	1176	97. 2.21	土師器	高坏	E12区北西
128—11		SR 4	SD69	—	97. 2.13	土師器	高坏	C 8 区南部　二方透し
128—12		SR 4	SD69	—	97. 2. 4	土師器	高坏	C10区南東
128—1		SR 6	SD 5	—	97. 1.23	陶器	擂鉢	C 8 区南　内外面鉄釉
128—2		SR 6	SD 5	—	96.12.27	山茶碗	椀	C 8 区
128—3		SR 6	SD 5	—	96.12.10	山茶碗	椀	D 6 区　D 7 区　糸切り
128—1		SR 7	SD29		97. 2.18	山茶碗	椀	C12区　糸切り
128—2		SR 7	SD29	—	97. 1. 9	灰釉陶器	壺	C10区　内外面釉　ハケ刷り
128—3		SR 7	SD29	—	97. 1. 9	土師器	内耳鍋	C10区　外面煤付着
128—1		SD 1	SD118	1167	97. 2.24	土師器	壺	
128—2		SD 1	SD118	1168	97. 2.24	土師器	壺	97. 1.27
128—3		SD 1	SD118	1170	97. 2.24	土師器	壺	C 8 区
128—4		SD 1	SD118	1168	97. 2.24	土師器	甕	
128—1		SR10	SD10	—	97. 1.22	須恵器	坏蓋	C13区
128—2		SR10	SD10	—	97. 1. 7	土師器	坏	D13区　下層
128—3		SR10	SD10	—	97. 3. 3	土師器	小型壺	D15区南東　下層
128—4		SR10	SD10	—	97. 2.18	土師器	壺	B11区南東

第25表　土器一覧表 3

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
128－5		SR10	SD10	－	96.12.27	土師器	高坏	D14・15区　96.12.19
128－6		SR10	SD10	－	97. 2.27	土師器	高坏	D15区南東　上層
128－7		SR10	SD10	－	97. 1. 8	土師器	高坏	C13区　最下層
128－8		SR10	SD10	－	97. 2.21	土師器	台付甕？	D11区
128－9		SR10	SD10	－	96.12.27	土師器	内耳鍋	D14区　外面煤付着
129－1		SF49	SF 9	1199	97. 1.11	土師器	内耳鍋	外面煤付着
129－2		SF49	SF 9	－	96.12.12	土師器	内耳鍋	96.12.16　97. 1.11　外面煤付着　底内面煤付着
129－3		SF49	SF 9	1191	97. 1.10	土師器	壺	
129－4		SF49	SF 9	1203	97. 1.11	土師器	壺	
129－5		SF49	SF 9	1201	97. 1.10	土師器	甕	
129－6		SF49	SF 9	1199	97. 1.11	土師器	甕	
129－7		SF49	SF 9	1186	97. 1.10	土師器	底部	
129　8		SF49	SF 9	1201	97. 1.10	土師器	底部	外面煤付着
129　9		SF49	SF 9	1206	97. 1.11	土師器	底部	内面煤付着
129　10		SF49	SF 9	1201	97. 1.10	土師器	底部	
129－11		SF49	SF 9	1200	97. 1.11	土師器	底部	
129－12		SF49	SF 9	1197	97. 1.10	土師器	台付甕	外面一部煤付着
129－13	46	SF49	SF 9	1192	97. 1.11	土師器	甕	97. 1.10
129－14		SF49	SF 9	1205	97. 1.11	土師器	高坏	外面煤付着
129－15		SF49	SF 9	1191	97. 1.10	土師器	高坏	
129－16		SF49	SF 9	1187	97. 1.10	土師器	高坏	
129－17		SF49	SF 9	1188	97. 1.11	土師器	高坏	
129－18		SF49	SF 9	1197	97. 1.11	土師器	高坏	
129－19		SF49	SF 9	1202	97. 1.11	土師器	高坏	
129－20		SF49	SF 9	－	96.12.27	土製支脚		
129－21		SF49	SF 9		96.12.27	須恵器	壺	
129－22		SF49	SF 9	1198	97. 1.11	須恵器	甕	96.12.25　黒灰色
129－23		SF49	SF 9	1208	97. 1.11	須恵器	坏身	
129　24		SF50	SF10	1205	97. 1.11	須恵器	坏蓋	
129－25		SR10	SD10	1228	97. 1.11	山茶碗	碗	糸切り　モミ殻痕
129－26		SR10	SD10	1193	97. 1.11	土師器	高坏	
129－27		SR10	SD10	1194	97. 1.11	土師器	高坏	
130－28		SR10	SD10	1175	97. 1.11	土師器	甕	96.12.16　外面煤付着
130－29		SF51	SF 8	1189	97. 1.11	土師器	内耳鍋	96.12.19　外面・内底面煤付着
130－1		SF 5	SX 9	－	97. 2. 6	土師器	鉢	
130－2		SF 5	SX 9	1162	97. 2. 6	土師器	甕	97. 2.19　外面煤付着
130－3		SF 5	SX 9	1161	97. 2. 6	土師器	甕	
130－4		SF 5	SX 9	1159	97. 2. 6	土師器	甕	
130－5		SF 5	SX 9	1168	97. 2. 6	土師器	甕	
130－6		SF 5	SX 9	－	－	土師器	底部	
130－7		SF 5	SX 9	1168	97. 2. 6	土師器	底部	
130－8		SF 5	SX 9	1163	97. 2. 6	土師器	台付甕	外面黒煤付着
130－9		SF 5	SX 9	1165	97. 2. 6	土師器	壺	
130－10		SF 5	SX 9	1157	97. 2. 6	土師器	高坏	
130　11		SF 5	SX 9	1167	97. 2. 5	土師器	高坏	
130－12		SF 5	SX 9	1151	97. 2. 6	土師器	高坏	
130－13		SF 5	SX 9	1166	97. 2. 6	土師器	坏	97. 1.31
130　14		SF 5	SX 9	1168	97. 2. 6	土師器	甑	
130　15		SF 5	SX 9	－	97. 1.29	須恵器	高坏	
130－1		SF 9	SX11		97. 2.24	土師器	小型壺	
130－2		SF 9	SX11		97. 2.24	土師器	壺	
130－3		SF 9	SX11	－	97. 2. 6	土師器	高坏	97. 2.24
130－4		SF 9	SX11	－	97. 1.31	土師器	高坏	
130－1		SF 4	SF37	1142	97. 2.18	須恵器	坏身	底外面束調整
130－2		SF17	SF26	－	97. 1.20	土師器	甕	97. 3.26　外面煤付着
130－3		SF23	SF31	－	97. 1.27	須恵器	坏蓋	
130－4		SF24	SF24	－	97. 1.20	白磁	碗	
130　5		SF27	SF30	－	97. 1.23	土師器	壺	
130　6		SF27	SF30	－	97. 1.23	土師器	高坏	坏部内面煤付着
130－7		SF29	SF16	－	97. 1.15	須恵器	坏蓋	
130－8		SF29	SF16		97. 2. 4	須恵器	坏身	
130－9		SF32	SX20	－	97. 3. 3	須恵器	小型壺	
130－10		SF33	SF15	－	97. 1.22	土師器	高坏	
130－11		SF36	SF13	－	97. 1.14	土師器	小型壺	
130－12		SF57	SF 3	1196	97. 3. 3	土師器	甕	外面煤付着
130－13		SF53	SF 7		96.12.25	陶器	天目茶碗	内外面釉
130－14		SF56	SF 5		96.12.24	山茶碗	碗	内面煤？
130－15		SF56	SF 5	1150	96.12.27	山茶碗	小碗	内面煤？
131－1		SF46	P54	1208	97. 1.22	須恵器	甕	格子目状　内面すり消し　白斑
131－2		SF46	P54	1202	97. 1.22	土師器	坏	
131－3		SF46	P54	1202	97. 1.22	土師器	高坏	
131－4		SF46	P54	1200	97. 1.22	土師器	高坏	

第26表　土器一覧表 4

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
131－5		SF48	P84	1160	97. 1. 22	土師器	坏	D14区中央南
131－6		SF48	P84	1171	97. 1. 22	土師器	高坏	D14区中央南
131－7		SF48	P84	1178	97. 1. 22	土師器	甕	D14区中央南
131－8		P95	P186	1143	97. 2. 24	土師器	甕	
131－9		P174	P116		97. 1. 22	土師器	高坏	
131－10		P181	P96		97. 1. 21	須恵器	坏身	
131－11		P181	P96	－	97. 1. 21	土師器	甑	
131－12		P238	P52		97. 1. 10	須恵器	坏蓋	
131－13		P256	P97		97. 1. 16	土師器	高坏	
131－14		P282	P151	1169	97. 2. 4	須恵器	坏身	D14区南東
131－15		P296	P217	－	97. 2. 27	土師器	高坏	
131－16		P296	P217	－	97. 2. 27	土師器	高坏	
131－17		P328	P57	－	97. 1. 13	土師器	小型壺	
131－18		P331	P207	－	97. 2. 27	土師器	小型壺	
131－19		P337	P63	－	97. 1. 14	土師器	高坏	
131－20		P337・SF49	P63・SF9	1176	97. 1. 11	土師器	甕	外面煤付着
131－21		包含層	包含層		97. 1. 10	須恵器	壺	C10区　白斑
131－22		包含層	包含層		96.12.19	須恵器	甕	C14区　黒灰色
131－23		包含層	包含層		96.11.21	須恵器	甕	調査区北東部撹乱坑
131－24		包含層	包含層		97. 1. 8	須恵器	壺	D11区
131－25		包含層	包含層	－	96.12.16	須恵器	壺	D14区北東
131－26		包含層	包含層	－	97. 2.25	須恵器	坏蓋	C14区南東
131－27		包含層	包含層		97. 1.22	須恵器	鉢	D 6区
131－28		包含層	包含層	－	96.11.20	須恵器	鉢	SE1？　D 7区南
131－29		包含層	包含層	－	97. 1.27	須恵器	高坏？	D 7区北
131－30		包含層	包含層	－	96.11.15	須恵器	高坏	調査区北西部撹乱地
131－31		包含層	包含層	－	96.12.12	土師器	鍋付甕	D15区北東
132－1		SB 2	SX 6	1235	97. 9.19	須恵器	高坏	97. 8.29　三方透し
132－2		SB 2	SX 6	－	97. 9.25	土師器	小型壺	
132－3		SB 2	SX 6	1217	97. 10. 1	土師器	壺	
132－4		SB 2	SX 6	1237	97. 8.29	土師器	鉢脚	
132－5		SB 2	SX 6	1237	97. 8.29	土師器	台付甕	内外面一部煤付着
132－6		SB 2	SX 6	1228	97. 8.29	土師器	甕	外面煤付着
132－7		SB 2	SX 6	1236	97. 8.29	土師器	高坏	内外面煤付着
132－8		SB 2	SX 6	1236	97. 8.29	土師器	高坏	
132－9		SB 2	SX 6	1217	97. 10. 1	土師器	高坏	内面煤付着
132－10		SB 2	SX 6	1228	97. 10. 1	土師器	高坏	
132－11		SB 2	SX 6	1235	97. 8.29	土師器	高坏	
132－12		SB 2	SX 6	1218	97. 10. 1	土師器	高坏	
132－13		SB 2	SX 6	1218	97. 10. 1	土師器	高坏	
132－14		SB 2	SX 6	1216	97. 10. 1	土師器	高坏	
132－15		SB 2	SX 6	－	97. 9.25	土師器	高坏	
132－1	46	SB 3	SB 1	1248	97. 10. 2	須恵器	坏蓋	97. 9.29
132－2	46	SB 3	SB 1	1251	97. 10. 2	須恵器	坏蓋	雲印　黒灰色　白斑
132－3	46	SB 3	SB 1	1244	97. 10. 2	須恵器	坏身	97. 9.29
132－4		SB 3	SB 1	1238	97. 10. 2	土師器	壺	
132－5		SB 3	SB 1	1242	97. 10. 2	土師器	壺	
132－6		SB 3	SB 1	1238	97. 10. 2	土師器	甕	外面煤付着
132－7		SB 3	SB 1	1244	97. 10. 2	土師器	甕	97. 9.30
132－8		SB 3	SB 1	1243	97. 10. 2	土師器	甑	
132－9		SB 3	SB 1	－	97. 9.30	土師器	甑	
132－10		SB 3	SB 1	－	97. 9.30	土師器	高坏	
133－1	46	SB 4	SB 2	－	97. 9.12	須恵器	坏蓋	97. 9.29　9.30　10. 2　10.24　内面再調整
133－2	46	SB 4	SB 2	1247	97. 10. 3	須恵器	壺蓋	97. 10. 1
133－3		SB 4	SB 2	1247	97. 10. 3	須恵器	鉢	刺突文　白斑
133－4		SB 4	SB 2	1245	97. 10. 3	土師器	甕	97. 10. 1　外面煤付着
133－5		SB 4	SB 2	1246	97. 9. 3	土師器	甕	97. 10. 3　9.29　9.30　10. 2　10.14　10.16 外面煤付着
133－6	46	SB 4	SB 2	1247	97. 10. 3	土師器	甕	外面一部煤付着
133－7		SB 4	SB 2	1242	97. 10. 3	土師器	高坏	
133－8		SB 4	SB 2	1242	97. 10. 3	土師器	高坏	
133－9		SB 4	SB 2	1252	97. 10. 3	土師器	坏	97. 10. 2　10.16
133－10		SB 4	SB 2	－	97. 10. 1	土師器	甑	
133－1		SB 5 周辺	SX17	1261	97. 11. 18	須恵器	坏蓋	内面再調整
133－2		SB 5 周辺	SX17	－	97. 11. 19	須恵器	高坏	外面白斑
133－3		SB 5 周辺	SX17	1273	97. 11. 18	須恵器	高坏	四方透し　黒灰色　白斑
133－4		SB 5 周辺	SX17	－	97. 11. 14	須恵器	壺	
133－5		SB 5 周辺	SX17	1261	97. 11. 18	土師器	底部	
133－6		SB 5 周辺	SX17	1259	97. 11. 18	土師器	甕	97. 11. 20　内外面煤付着
133－7		SB 5 周辺	SX17	1270	97. 11. 18	土師器	甕	97. 11. 11　外面煤付着
133－8		SB 5 周辺	SX17	－	97. 12. 11	土師器	高坏	
133－9		SB 5 周辺	SX17	1267	97. 11. 18	土師器	高坏	外面赤彩　97. 11. 11　11. 19

第27表　土器一覧表 5

図番号	写真図版	遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
133—10		SB5周辺	SX17	1261	97.11.18	土師器	高坏
133—11		SB5周辺	SX17	1251	97.11.18	土師器	鉢
133—12		SB5周辺	SX17	1283	97.11.18	土師器	坏
134—1	47	SR16	SD5	1223	97. 8.12	須恵器	壺	97. 8. 8　歪あり
134—2		SR16	SD3・SD5	1208	97. 8.25	須恵器	壺	97. 8.12
134—3		SR16	SD5	1225	97. 8.12	須恵器	壺
134—4		SR16	SD5		97. 8. 8	須恵器	壺	G26区　97. 8.12
134—5		SR16	SD3・SD5	1267	97. 8. 6	須恵器	平瓶	97. 8. 8　8.12
134—6		SR16	SD3	1218	97. 8.13	須恵器	壺	茶褐色
134—7		SR16	SD5	1254	97. 8. 8	須恵器	高坏
134—8		SR16	SD5	—	97. 8. 8	須恵器	甕?	E27区
134—9		SR16	SD5・SD12	1254	97. 8. 8	須恵器	壁	97. 8. 4　8.11
134—10		SR16	SD5	1234	97. 8.12	須恵器	壁	97. 8. 8
134—11		SR16	SD3	1227	97. 8.13	須恵器	壁	内面すり消し
134—12	47	SR16	SD3・SD5	1226	97. 8.12	須恵器	壁	97. 8.13　内面すり消し
134—13	47	SR16	SD5	—	97. 8. 8	須恵器	坏蓋	G26区
134—14		SR16	SD5		97. 8. 8	須恵器	坏蓋	G26区
134—15	47	SR16	SD3	1232	97. 8.20	須恵器	坏蓋
134—16	47	SR16	SD3		97. 9.25	須恵器	坏蓋	G26区
134—17	47	SR16	SD5	1229	97. 8.12	須恵器	坏身	97. 8.25　白色石英多い
134—18		SR16	SD3・SD5	1232	97. 8.25	須恵器	坏身	97. 8.13　8.21　内面再調整
134—19		SR16	SD5	—	97. 8. 8	須恵器	坏身	E27区
134—20		SR16	SD3・SD5	1225	97. 8.12	須恵器	坏身	97. 8. 1
134—21	47	SR16	SD3		97. 8. 1	須恵器	坏身	G25区中央
134—22		SR16	SD3	1227	97. 8.20	須恵器	坏身	97. 8.12
134—23		SR16	SD3・SD5	1213	97. 8.25	須恵器	坏身	97. 8.12
134—24		SR16	SD3・SD5	1213	97. 8.25	須恵器	坏身	97. 8.19　8.21
134—25		SR16	SD5	—	97. 8. 7	須恵器	坏身	E27区　97. 8. 8
135—26	47	SR16	SD3	—	97. 8.12	須恵器	碗	G25区
135—27		SR16	SD5	1212	97. 8.12	須恵器	坏身
135—28		SR16	SD3	—	97. 8.12	灰釉陶器	碗	東端　糸切り
135—29		SR16	SD5	—	97. 8. 8	山茶碗	碗	F26区北東　糸切り　スノコ痕　モミ殻痕
135—30		SR16	SD6		97. 8.12	山茶碗	碗	E27区東トレンチ内
135—31		SR16	SD12		97. 8.21	山茶碗	碗	F27区南西
135—32		SR16	SD7	1259	97. 8.20	山茶碗	小皿	糸切り
135—33		SR16	SD5	—	97. 8. 8	土師器	壁	G26区　外面煤付着
135—34		SR16	SD5	—	97. 8.11	土師器	壁	F26区　外面煤付着
135—35		SR16	SD5	1236	97. 8.12	土師器	壁	駿東型　白色粒子多量
135—36		SR16	SD5	1240	97. 8.12	土師器	壁
135—37		SR16	SD5	1225	97. 8.12	土師器	壁	外面煤付着
135—38	47	SR16	SD5	1251	97. 8.12	土師器	壁
135—39		SR16	SD5	1257	97. 8.12	土師器	台付壁
135—40		SR16	SD5	1241	97. 8.11	土師器	甕	97. 8. 8
135—41		SR16	SD5	—	97. 8. 8	土師器	手捏ね	G26区
135—42		SR16	SD5	—	97. 8. 8	土師器	甕	G26区東
135—43		SR16	SD5	1256	97. 8. 8	土師器	甕
135—44		SR16	SD5	—	97. 8.11	土師器	甕	F26区西
135—45		SR16	SD5	—	97. 8. 8	土師器	高坏	G26区
135—46		SR16	SD5	—	97. 8. 8	土師器	高坏	G26区付近
135—47		SR16	SD5	1242	97. 8.11	土師器	坏	白色粒子多量　駿河
135—48		SR16	SD3		97. 8.12	土師器	高坏	G25区
135—49		SR16	SD5	1260	97. 8.11	土師器	高坏	97. 8. 8
135—50		SR16	SD3	—	97. 8.21	土師器	高坏	F26区中央　一方透し（未貫通）
135—51		SR16	SD5	1215	97. 8.25	土師器	手捏ね	白粉
135—52		SR16	SD5	1223	97. 8.12	土師器	坏	97. 8.11　内外面赤彩
135—53		SR16	SD3・SD5	1213	97. 8.25	土師器	皿	97. 8.21（SD3）　内外面赤彩（底外面除く）
135—54		SR16	SD2	—	97. 8. 1	土師器	皿	E27区トレンチ内　内外面赤彩
135—55		SR16	SD5	1232	97. 8.11	土師器	手捏ね
135—56		SR16	SD3	1232	97. 8.13	土師器	手捏ね
135—57		SR16	SD3	—	97. 8.19	土師器	手捏ね	G26区枕周辺
135—58		SR16	SD5	1235	97. 8.25	土師器	かわらけ	完形　内面摩滅無し　灰白色
136—59	47	SR15	SD16	1235	97. 9.19	須恵器	坏蓋	G25区
136—60		SR15	SD16		97. 9.19	須恵器	坏蓋	G25区
136—61		SR15	SD16	1248	97. 9.19	土師器	壁	外面煤付着
136—62	48	SR15	SD16・SX8	1243	97. 9.19	土師器	壁	97. 9. 9　胴部下半外面煤付着
136—63		SR15	SD16	1236	97. 9.19	土師器	壁	内外面煤付着
136—64		SR15	SD16	1226	97. 9.25	土師器	壁	97. 9.18　9.19　外面煤付着
136—65		SR15	SD16	—	97.10. 6	土師器	高坏	F25区北東
136—66		SR15	SD16	1239	97. 9.19	土師器	高坏
136—67		SR15	SD16	—	97. 8.25	土師器	手捏ね	E27区西
136—1		SD17	SD17	—	97. 9.19	古瀬戸	鉢	内外面釉
136—2	48	SR14	SD1	1236	97. 8. 1	灰釉陶器	碗	内外面釉　糸切り

第28表　土器一覧表 6

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
136－3		SR14	SD1	—	97. 7.15	須恵器	坏蓋	SR14東側　上層
136－4		SR14	SD1	1255	97. 8. 6	須恵器	坏身	
136－5		SR14	SD1	1242	97. 8. 6	須恵器	壺	
136－6		SR14	SD1	1260	97. 8. 6	須恵器	高坏	
136－7		SR14	SD18A	1222	97.10. 6	須恵器	坏蓋	
136－8		SR14	SD18A	1228	97.10. 6	須恵器	高坏	
136－9		SR14	SD18	1254	97.10. 6	須恵器	甕	半筒ちヘラ削り　白磁
137－1		SD16	SD22	1224	97.10. 2	土師器	壺	97. 9.30　外面煤付着
137－2		SD16	SD22	1218	97.10. 2	土師器	壺	97. 9.30
137－1		SR17	SR1 E		97.10. 3	須恵器	坏身	E28区南東
137－2		SR17	SR1 A	1241	97.10. 6	須恵器	甕	
137－3		SR17	SR1 C		97.10. 1	土師器	小型壺	E29区南東
137－4		SR17	SR1 C	—	97.10. 1	土師器	坏	E29区南東
137－5		SR17	SR1 E	1204	97.10.28	土師器	鍋	外面煤付着
137－6		SR17	SR1 C	1215	97.10.28	土師器	甕	97.10. 1　外面煤付着
137－7	48	SR17	SR1 B	1228	97.10. 6	土師器	甕	口縁外面に沈線
137－8		SR17	SR1	1217	97.10.28	土師器	高坏	
137－9		SR17	SR1 C	—	97.10. 1	土師器	高坏	E29区南東
137－1		SR19	SD8・SD9	—	97. 8.19	須恵器	坏蓋	97. 8.21（SD8）
137－2		SR19	SD9	1261	97. 8.20	須恵器	坏蓋	ヘラ切り未調整
137－3		SR21	SD11		97. 8.20	須恵器	坏身	G28区北東
137－4		SR19	SD9	—	97. 8.18	山茶碗	碗	G28区トレンチ内
137－5		SR19	SD8	—	97. 8.26	山茶碗	碗	F28区東　モミ殻痕　糸切り
137－6		SR19	SD13	—	97. 9. 9	山茶碗	碗	E27区　E28区　糸切り　東濃系
137－7		SR21	SD11	1258	97. 8.28	土師器	小甕	
138－1		SR22	SD68	1232	97.11.21	土師器	甕	
138－2		SR22	SD68	1245	97.11.21	土師器	鉢	
138－3		SD18	SD70	1236	97.11.21	須恵器	坏身	内面西調整　外面黒灰色
138－4		SD19	SD62	—	97.12.25	須恵器	坏身	
138－5		SD26	SD31	1273	97.11. 5	土師器	甕	
138－6		SD22	SD33	1272	97.11.19	須恵器	甕	
138－7		SD22	SD35	—	97.11. 7	須恵器	高坏	四方透し
138－8		SD24	SD36	—	97.12. 2	土師器	甕	外面煤付着
138－9		SD24	SD36		97.11. 7	須恵器	高坏	
138－10		SD25	SD37	1280	97.11.19	須恵器	甕	
138－11		SD27	SD42	1258	97.11.19	須恵器	坏蓋	
138－12		SD27	SD42	—	97.11.11	須恵器	壺	鳥灰色
138－13		SD29	SD49	—	97.11.11	須恵器	坏身	焼きぶくれ
138－14		SD23	SD57	—	97.11.13	山茶碗	碗	
138－15		SD23	SD57		97.11.21	土師器	甕	
138－16		SD28	SD39	—	97.11.10	土師器	高坏	
138－17		SD30	SD45	—	97.11.21	須恵器	坏蓋	外面タタキメ　歪あり
138－18		SD31	SD76B	—	97.11.21	土師器	甕	
138－19		SR29	SD97	—	98. 6.24	山茶碗	碗	H38区南東トレンチ　モミ殻痕
138－20		SR29	SD97	—	98. 1. 7	陶器	天目茶碗	G36区北西トレンチ内　内外面釉
138－21		SR29	SD97B	—	98. 1. 7	陶器	天目茶碗	G37区北東　内外面釉
138－22		SR29	SD97		98. 6.24	土師器	かわらけ	H38区南東トレンチ　灰白色
138－23		SR40	SD134	—	98.10.12	山茶碗	碗	G36区南東
138－24		SR40B	SD135	—	98. 6.12	山茶碗	小皿	F35区北東
138－25		SF61	SF11		97.11.11	灰釉陶器	碗	
139－1	49	SR41	SD141	1188	98. 7.10	灰釉陶器	皿	98. 7. 9
139－2	49	SR41	SD141	1171	98. 7.10	灰釉陶器	皿	畳帯　外面底線
139－3	49	SR41	SD141	1178	98. 7.10	須恵器	壺	底部外面タタキメ
139－4		SR41	SD141		98. 7. 7	須恵器	壺	H36区
139－5	49	SR41	SD141	1169	98. 7.10	須恵器	壺	糸切り
139－6		SR41	SD141	1197	98. 7.10	須恵器	鉢	
139－7		SR41	SD141	1173	98. 7.10	須恵器	甕	内面すり消し
139－8		SR41	SD141	1216	98. 7.10	須恵器	坏蓋	
139－9		SR41	SD141	1187	98. 7.10	須恵器	坏身	
139－10	49	SR41	SD141	1180	98. 7.10	土師器	鍋	内外面赤彩（底外面除く）　内外面煤付着
139－11		SR41	SD141	1176	98. 7.10	土師器	鍋	内外面赤彩（底外面？）
139－12		SR41	SD141	—	98. 7.10	土師器	底部	G36区南東　畳痕　内面赤彩（外面？）
139－13	49	SR41	SD141	1176	98. 7.10	土師器	坏	98. 7. 8　内面赤彩（外面わずかに赤彩）
139－14	49	SR41	SD141	1176	98. 7.10	土師器	坏	内面赤彩（外面？）
139－15	49	SR41	SD141	—	98. 7.10	土師器	坏	G36区南東　内面赤彩（外面わずかに赤彩）
139－16	49	SR41	SD141	1176	98. 7.10	土師器	坏	内面赤彩（外面わずかに赤彩）
139－17		SR41	SD141	1176	98. 7.10	土師器	坏	内面赤彩
139－18	49	SR41	SD141	1179	98. 7.10	土師器	坏	内面赤彩（外面わずかに赤彩）
139－19	50	SR41	SD141	1158	98. 7.10	土師器	坏	98. 7. 9　畳帯　内外面赤彩（底外面？）　外面煤付着
139－20		SR41	SD141	—	98. 7. 8	土師器	坏	G36区南西・南東　98. 7.10　内外面赤彩（底外面除く）

第29表　土器一覧表 7

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
139-21	50	SR41	SD141	1176	98. 7. 10	土師器	坏	内面赤彩（外面わずかに赤彩）
139-22	50	SR41	SD141	1178	98. 7. 10	土師器	坏	内面赤彩（外面わずかに赤彩）
139-23	50	SR41	SD141	1170	98. 7. 10	土師器	坏	内面赤彩（外面？）
139-24		SR41	SD141	1182	98. 7. 10	土師器	坏	98. 7. 9　内面赤彩　外面と内底面煤付着
139-25		SR41	SD141	—	98. 7. 10	土師器	坏	G36区南東　内面赤彩
139-26		SR41	SD141	—	98. 7. 7	土師器	坏	H36区　内外面赤彩（底外面？）
139-27		SR41	SD141	—	98. 7. 7	土師器	皿	G35区北西トレンチ　内外面赤彩　墨文
139-28	50	SR41	SD141	—	98. 7. 10	土師器	甕	G36区南東
139-29		SR41	SD141	1180	98. 7. 10	土師器	甕	人面墨書
139-30		SR41	SD141	1170	98. 7. 10	土師器	甕	人面墨書
140-31		SR41	SD141	1172	98. 7. 10	土師器	甕	
140-32	50	SR41	SD141	1161	98. 7. 10	土師器	甕	摩滅無し
140-33		SR41	SD141	1168	98. 7. 10	土師器	甕	98. 7. 8
140-34		SR41	SD141	1194	98. 7. 10	土師器	壺	外面赤彩
140-35		SR41	SD141	1193	98. 7. 10	土師器	壺	
140-36		SR41	SD141	1161	98. 7. 10	土師器	壺	98. 7. 9　摩滅無し
140-37		SR41	SD141	1167	98. 7. 10	土師器	壺	98. 7. 9　外面煤付着
140-38	50	SR41	SD141	1163	98. 7. 10	土師器	壺	98. 7. 9　内外面煤付着
140-1	50	SR46	SD140	—	98. 7. 1	須恵器	壺	G38区南西　98.10.13　内面すり消し
140-2	50	SR46	SD140	—	98. 7. 1	須恵器	坏蓋	最下層
140-3		SR46	SD140	—	98. 7. 1	須恵器	坏蓋	最下層
140-4		SR46	SD140	—	98. 6. 29	須恵器	坏蓋	H38区北西
140-5		SR46	SD140	—	98. 6. 30	須恵器	坏身	H39区南端
140-6	50	SR46	SD140	—	98. 7. 1	須恵器	坏身	最下層　完形
140-7	50	SR46	SD140	—	98. 6. 29	須恵器	坏身	H38区北東　H38区中央　H38区北西　98. 6. 30　7. 1　窯印
140-8		SR46	SD140	—	98. 6. 25	須恵器	坏身	H38区南西　内面に沈線
140-9		SR46	SD140	—	98. 6. 30	土師器	手捏ね	H38区中央
140-10		SR46	SD140	—	98. 7. 1	土師器	手捏ね	最下層
140-11		SR46	SD140	—	98. 7. 1	土師器	甕	H39区南東
140-12		SR46	SD140	—	98. 6. 30	土師器	甕	H39区南東
140-13		SR46	SD140	—	98. 6. 30	土師器	高坏	H38区中央
141-1	51	SR42	SD142	1155	98. 7. 14	須恵器	壺	98. 7. 15　7. 23　7. 21　7. 22
141-2	51	SR42	SD142	1138	98. 7. 23	須恵器	壺	98. 7. 21　7. 22　完形
141-3		SR42	SD142	1147	98. 7. 23	須恵器	壺	
141-4	51	SR42	SD142	1131	98. 7. 15	須恵器	壺	
141-5		SR42	SD142	1106	98. 7. 22	須恵器	壺	98. 7. 14　7. 21　スノコ状底
141-6		SR42	SD142	1172	98. 7. 14	須恵器	壺	
141-7	51	SR42	SD142	1153	98. 7. 15	須恵器	壺	底面中央焼成後穿孔
141-8		SR42	SD142	1168	98. 7. 15	須恵器	壺	
141-9		SR42	SD142	1135	98. 7. 15	須恵器	壺	黒灰色
141-10		SR42	SD142	1146	98. 7. 23	須恵器	壺	
141-11		SR42	SD142	1118	98. 7. 28	須恵器	壺	黒灰色
141-12		SR42	SD142	1092	98. 7. 23	須恵器	壺	
141-13		SR42	SD142	1193	98. 7. 15	須恵器	壺	
141-14		SR42	SD142	—	98. 7. 15	須恵器	壺	H37区南東
141-15		SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	壺	H36区北西　黒灰色
141-16		SR42	SD142	1176	98. 7. 15	須恵器	甕	線刻
141-17		SR42	SD142	1089	98. 7. 22	須恵器	甕	
141-18		SR42	SD142	1098	98. 7. 15	須恵器	甕	98. 7. 22　7. 23　7. 21　内面すり消し
141-19		SR42	SD142	1130	98. 7. 15	須恵器	甕	
141-20	51	SR42	SD142	1100	98. 7. 23	須恵器	高坏	黒灰色　手持ちヘラ削り　内面
141-21	51	SR42	SD142	1107	98. 7. 15	須恵器	高坏	転用？
141-22		SR42	SD142	—	98. 7. 15	須恵器	高坏	H36区南西　大溝中央トレンチ
141-23	51	SR42	SD142	1108	98. 7. 23	須恵器	台付坏	
141-24		SR42	SD142	1115	98. 7. 22	須恵器	台部	黒灰色
141-25		SR42	SD142	1101	98. 7. 22	須恵器	高坏蓋	内面再調整
142-26		SR42	SD142	1097	98. 7. 22	須恵器	壺	98. 7. 14　7. 23
142-27		SR42	SD142	1123	98. 7. 27	須恵器	壺	格子目状タタキ
142-28	51	SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏蓋	G36区トレンチ西　SR42中央東　98. 7. 23　窯印　スノコ状圧痕
142-29		SR42	SD142	1107	98. 7. 23	須恵器	坏蓋	
142-30		SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏蓋	H36区西　白色石英多い
142-31		SR42	SD142	—	98. 7. 21	須恵器	坏蓋	G35区北西　黒色粘炭内大溝の土器含む　窯印
142-32	51	SR42	SD142	1100	98. 7. 23	須恵器	坏蓋	98. 7. 22　窯印　スノコ状圧痕　外面黒灰色
142-33		SR42	SD142	1093	98. 7. 23	須恵器	坏蓋	窯印
142-34		SR42	SD142	1110	98. 7. 22	須恵器	坏蓋	
142-35	52	SR42	SD142	1205	98. 7. 14	須恵器	坏蓋	
142-36	52	SR42	SD142	1097	98. 7. 23	須恵器	坏蓋	98. 7. 22
142-37	52	SR42	SD142	1109	98. 7. 23	須恵器	坏蓋	98. 7. 21
142-38	52	SR42	SD142	1203	98. 7. 14	須恵器	坏蓋	
142-39		SR42	SD142	1187	98. 7. 14	須恵器	坏蓋	

第30表　土器一覧表 8

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
142—40		SR42	SD142		98. 7. 22	須恵器	坏蓋	G35区北西　外面黒灰色
142—41	52	SR42	SD142	1087	98. 7. 23	須恵器	坏身	盗掘　カキメ　内面使用痕
142—42	52	SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏身	H36区西　SR42中央土層断
142—43	52	SR42	SD142	1105	98. 7. 22	須恵器	坏身	
142—44	52	SR42	SD142	1178	98. 7. 23	須恵器	坏身	縁部完形
142—45		SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏身	G36区南東
142—46		SR42	SD142	1111	98. 7. 27	須恵器	坏身	
142—47		SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏身	G36区南東　外面黒灰色
142—48	52	SR42	SD142	1186	98. 7. 14	須恵器	坏身	
142—49	52	SR42	SD142	1114	98. 7. 15	須恵器	坏身	
142—50		SR42	SD142	1148	98. 7. 15	須恵器	坏身	98. 7. 14
142—51	52	SR42	SD142	1109	98. 7. 22	須恵器	坏身	黒灰色
142—52	52	SR42	SD142	1121	98. 7. 15	須恵器	坏身	
142—53		SR42	SD142	1114	98. 7. 15	須恵器	坏身	98. 7. 14
142—54		SR42	SD142	1112	98. 7. 15	須恵器	坏身	黒灰色
142—55		SR42	SD142	—	98. 7. 23	須恵器	坏身	G36区中央南　黒灰色
142—56	52	SR42	SD142	1116	98. 7. 15	須恵器	坏身?	98. 7. 22
142—57		SR42	SD142	1105	98. 7. 22	須恵器	坏身	
142—58	52	SR42	SD142	1108	98. 7. 22	須恵器	坏身	スノコ状圧痕
142—59	53	SR42	SD142	1148	98. 7. 23	須恵器	坏身	
142—60	53	SR42	SD142	1105	98. 7. 15	須恵器	坏身	98. 7. 22　7. 23　内面と口縁外面黒灰色
142—61		SR42	SD142	—	98. 7. 14	須恵器	坏身	H37区北東　調査区東の壁面の崩れ内　98. 7. 21 9. 25
142—62	53	SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏身	H36区北西（小型壺の集中域）　98. 7. 23　ヘラ切り 未調整　ノタメ顕著
142—63		SR42	SD142	—	98. 7. 22	須恵器	坏身	H36区北西（小型壺の集中域）　ノタメ顕著
142—64		SR42	SD142		98. 7. 21	須恵器	坏身	G35区北西　黒色粗炭内大鎌の上器含む
143—65		SR42	SD142	1104	98. 7. 28	土師器	壺	煤付着
143—66		SR42	SD142	1102	98. 7. 22	土師器	壺	98. 7. 23
143—67		SR42	SD142	—	98. 7. 22	土師器	壺	G35区北　煤付着
143—68	53	SR42	SD142	1101	98. 7. 22	土師器	小型壺	
143—69		SR42	SD142	1098	98. 7. 22	土師器	小型壺	
143—70	53	SR42	SD142	1105	98. 7. 22	土師器	小型壺	
143—71		SR42	SD142	1100	98. 7. 22	土師器	小型壺	
143—72		SR42	SD142	1099	98. 7. 28	土師器	小型壺	
143—73		SR42	SD142	—	98. 7. 22	土師器	甕	G36区南東　煤付着　布圧式
143—74		SR42	SD142	1109	98. 7. 22	土師器	甕	煤付着
143—75		SR42	SD142	1099	98. 7. 27	土師器	甕	98. 7. 22　7. 21　7. 23　煤付着
143—76		SR42	SD142	1150	98. 7. 22	土師器	甕	煤付着
143—77		SR42	SD142		98. 7. 22	土師器	甕	G35区北西
143—78		SR42	SD142	1129	98. 7. 23	土師器	甕	98. 7. 22　煤付着
143—79		SR42	SD142	1097	98. 7. 23	土師器	甕	98. 7. 22　煤付着
143—80		SR42	SD142	1111	98. 7. 23	土師器	甕	98. 7. 21
143—81		SR42	SD142	1097	98. 7. 23	土師器	甕	98. 7. 21　7. 22　7. 27　煤付着
143—82		SR42	SD142	1098	98. 7. 23	土師器	甕	煤付着
143—83		SR42	SD142	—	98. 7. 15	土師器	甕	H37区北東　北裾部
143—84		SR42	SD142	1119	98. 7. 28	土師器	壺	98. 7. 23　7. 27　摩滅無し
143—85		SR42	SD142	1097	98. 7. 23	土師器	甕	98. 7. 22　摩滅無し
143—86		SR42	SD142	—	98. 7. 22	土師器	甕	G36区南東　摩滅無し
143—87		SR42	SD142	1116	98. 7. 23	土師器	底部	98. 7. 22　煤付着
143—88		SR42	SD142	1129	98. 7. 23	土師器	甕	98. 7. 22　煤付着
143—89		SR42	SD142	1118	98. 7. 22	土師器	甕	摩滅無し
143—90		SR42	SD142	1110	98. 7. 28	土師器	台付甕	煤付着
143—91		SR42	SD142	1102	98. 7. 23	土師器	台付甕	煤付着
143—92		SR42	SD142	1129	98. 7. 22	土師器	台付甕	煤付着
144—93	53	SR42	SD142	1123	98. 7. 23	土師器	高坏	98. 7. 27　一方透し　摩滅無し
144—94		SR42	SD142	1112	98. 7. 27	土師器	高坏	98. 7. 23
144—95	53	SR42	SD142	1101	98. 7. 23	土師器	高坏	98. 7. 22
144—96		SR42	SD142	1097	98. 7. 23	土師器	高坏	98. 7. 22
144—97		SR42	SD142	1111	98. 7. 27	土師器	高坏	
144—98		SR42	SD142	1112	98. 7. 27	土師器	高坏	98. 7. 22　端部尖る
144—99		SR42	SD142	1098	98. 7. 22	土師器	高坏	98. 7. 23
144—100	53	SR42	SD142	—	98. 7. 22	土師器	高坏	G35区北東　G36区南東　G35区北西　98. 7. 28
144—101		SR42	SD142	1108	98. 7. 23	土師器	高坏	
144—102		SR42	SD142	—	98. 7. 22	土師器	高坏	H36区北西（小型壺の集中域）
144—103		SR42	SD142	—	98. 7. 22	土師器	高坏	G36区南東　98. 7. 23　No.166周辺
144—104		SR42	SD142	1105	98. 7. 23	土師器	高坏	
144—105	53	SR42	SD142	1109	98. 7. 23	土師器	高坏	摩滅無し
144—106	54	SR42	SD142	1114	98. 7. 23	土師器	高坏	98. 7. 22　7. 27　摩滅無し
144—107		SR42	SD142	1097	98. 7. 23	土師器	高坏	98. 7. 22　7. 27
144—108		SR42	SD142	1098	98. 7. 23	土師器	高坏	
144—109		SR42	SD142	1101	98. 7. 23	土師器	高坏	

第31表　土器一覧表 9

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
144－110		SR42	SD142	1099	98. 7.23	土師器	高坏	
144－111		SR42	SD142	1166	98. 7.22	土師器	高坏	
144－112		SR42	SD142	1107	98. 7.27	土師器	高坏	
144－113		SR42	SD142	—	98. 7.27	土師器	高坏	G35区北西
144－114		SR42	SD142	1092	98. 7.23	土師器	高坏	
144－115		SR42	SD142	1115	98. 7.23	土師器	高坏	
144－116		SR42	SD142	—	98. 7.22	土師器	高坏	G35区北東　H36区西　G36区トレンチの西　H36区南西トレンチの西　98. 7.23
144－117		SR42	SD142	1106	98. 7.22	土師器	高坏	
144－118		SR42	SD142	—	98. 7.15	土師器	甕	H37区　北側部
144－119		SR42	SD142	1138	98. 7.28	土師器	甕	
144－120		SR42	SD142	1091	98. 7.23	土師器	甕	
144－121		SR42	SD142	—	98. 7.23	土師器	甕	F35区　G35区
144－122		SR42	SD142	—	98. 7.22	土師器	甕	G36区南東
144－123		SR42	SD142	1097	98. 7.23	土師器	甕	
144－124		SR42	SD142	—	98. 7.15	土師器	甕	H37区南東　煤付着
144－125		SR42	SD142	1106	98. 7.28	土師器	坏	
144－126		SR42	SD142	1100	98. 7.28	土師器	坏	
144－127	54	SR42	SD142	1135	98. 7.23	土師器	坏	摩滅無し
144－128		SR42	SD142	—	98. 7.21	土師器	坏	H36区北西　内面煤付着
144－129	54	SR42	SD142	—	98. 7.22	土師器	坏	G36区中央南　98. 7.23
144－130	54	SR42	SD142	1112	98. 7.15	土師器	坏	98. 7.14　暗文　内外面赤彩
144－131		SR42	SD142	1187	98. 7.14	土師器	坏	暗文　内外面赤彩
144－132	54	SR42	SD142	1098	98. 7.22	土師器	坏	摩滅無し
144－133	54	SR42	SD142	1098	98. 7.22	土師器	鉢	98. 7.23　内面摩滅無し
144－134	54	SR42	SD142	1098	98. 7.22	土師器	鉢	98. 7.23
145－135		SR42	SD142	—	98. 7.15	土師器	蓋	H37区南東　SR42東壁　内外面赤彩
145－136	54	SR42	SD142	1124	98. 7.15	土師器	坏	暗文　内外面赤彩
145－137	54	SR42	SD142	1144	98. 7.22	土師器	坏	暗文　内外面赤彩
145－138	55	SR42	SD142	1090	98. 7.23	土師器	坏	98. 7.22　7.27　暗文　内外面赤彩
145－139	55	SR42	SD142	1119	98. 7.15	土師器	坏	98. 7.14　暗文　内外面赤彩
145－140	55	SR42	SD142	1128	98. 7.15	土師器	坏	暗文　内外面赤彩　外面煤付着
145－141	55	SR42	SD142	1103	98. 7.23	土師器	坏	暗文　内外面赤彩
145－142	55	SR42	SD142	1111	98. 7.15	土師器	皿	暗文　内外面赤彩
145－143		SR42	SD142	1095	98. 7.22	土師器	坏	98. 7.14　暗文　内外面赤彩
145－144		SR42	SD142	—	98. 7.21	土師器	坏	G35区北西　黒色粗炭内大溝の土器含む　98. 7.22　7.27　暗文　内外面赤彩
145－145	55	SR42	SD142	—	98. 7.15	土師器	皿	H37区南東　SR42東壁　暗文　内外面赤彩
145－146	55	SR42	SD142	1100	98. 7.23	土師器	坏	98. 7.22　暗文　内外面・底外面赤彩　摩滅無し
145－147	56	SR42	SD142	1095	98. 7.22	土師器	坏	98. 7.15　7.21　7.23　暗文　内外面赤彩　摩滅無し
145－148	56	SR42	SD142	1116	98. 7.15	土師器	坏	98. 7.22　暗文　内外面赤彩　摩滅無し
145－149		SR42	SD142	1124	98. 7.15	土師器	甑	暗文　内外面赤彩　摩滅無し
145－150	56	SR42	SD142	1107	98. 7.23	土師器	脚付皿	98. 7.28　暗文　内外面・脚内面赤彩　摩滅無し
145－151	55	SR42	SD142	1119	98. 7.15	土師器	脚付皿	暗文　木葉痕　内外面赤彩（脚内面除く）
145－152	56	SR42	SD142	1116	98. 7.22	土師器	脚付皿	暗文　木葉痕　内外面赤彩（脚内面除く）
145－153	56	SR42	SD142	1105	98. 7.22	土師器	手捏ね	98. 7.23　摩滅無し
145－154	56	SR42	SD142	1128	98. 7.28	土師器	手捏ね	
145－155	56	SR42	SD142	1128	98. 7.28	土師器	手捏ね	摩滅無し
145－156	56	SR42	SD142	1182	98. 7.28	土師器	手捏ね	
145－157		SR42	SD142	—	98. 7.21	土師器	手捏ね	H36区西　大溝トレンチ内南　内面摩滅無し
145－158	56	SR42	SD142	1163	98. 7.28	土師器	手捏ね	摩滅無し
145－159		SR42	SD142	1101	98. 7.23	土師器	手捏ね	摩滅無し
145－160		SR42	SD142	1131	98. 7.15	土師器	手捏ね	摩滅無し
145－161		SR42	SD142	1103	98. 7.23	土師器	手捏ね	
145－162		SR42	SD142	—	98. 7.14	土師器	手捏ね	H36区北西　煤付着
145－163		SR42	SD142	—	98. 7.21	土師器	手捏ね	H36区西・北西　煤付着
145－164		SR42	SD142	—	98. 7.21	土師器	手捏ね	H37区北東
145－165		SR42	SD142	1099	98. 7.23	土師器	甕	
145－166	57	SR42	SD142	1104	98. 7.23	土師器	手捏ね	線刻　二連蕨形
145－167	57	SR42	SD142	1122	98. 7.15	土師器	皮袋形	
146－168	57	SR42・SR45	SD142・SD145	1105	98.10. 6	須恵器	コップ形	98. 7.28
146－169		SR42・SR45	SD142・SD145	1106	98. 7.23	土師器	甕	98. 9.30　煤付着
146－170		SR42・SR45	SD142・SD145	1106	98. 7.27	土師器	甕	98. 7.28　7.14　7.22　煤付着
146－171		SR42・SR45	SD142・SD145	1125	98. 9.17	土師器	台付甕	98. 7.22　煤付着
146－172		SR42・SR45	SD142・SD145	1098	98. 7.23	土師器	甕	98. 8. 5
146－173		SR42・SR45	SD142・SD145	1127	98. 7.29	土師器	壺	木製品共伴層部の下　土器集中区穀蕨東　98. 9.11　9.22　9.28　9.30　10. 2
146－174		SR42・SR45	SD142・SD145	1145	98. 9.27	土師器	小型壺	98. 7.21　9.28
146－175	57	SR42・SR45	SD142・SD145	1121	98. 9.16	土師器	壺	98. 7.23　9.11　9.14　煤滅無し
146－176	57	SR42・SR45	SD142・SD145	1077	98. 9.16	土師器	壺	98. 7.23　9. 3　9.10　9.29　煤付着
146－177	57	SR42・SR45	SD142・SD145	1098	98. 7.23	土師器	甕	98. 7.28　7.22　7.27　9.11　9.14

第32表　土器一覧表10

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土番号(cm)	取上日	種別	器種	備考
146−178	57	SR42・SR45	SD142・SD145	1129	98. 7.23	土師器	甕	98. 9.14　7.22　9.17
146−179		SR42・SR45	SD142・SD145	1091	98.10. 6	土師器	高坏	G36区南東　SR43線路東下層　G36区南西コーナー　98. 7.22　10. 2　10. 6　10. 9　摩滅無し
146−180		SR42・SR45	SD142・SD145	1103	98. 7.22	土師器	高坏	98. 7.23　7. 6　8.21　9.28　10. 2
146−181	58	SR42・SR45	SD142・SD145	1144	98.10. 6	土師器	高坏	98. 7.22
146−182		SR42・SR45	SD142・SD145	1091	98. 7.23	土師器	高坏	98. 9.17　9.28
146−183		SR42・SR45	SD142・SD145	1077	98. 9. 4	土師器	高坏	98. 9.29　7.22
146−184	58	SR42・SR45	SD142・SD145	1147	98. 9.20	土師器	高坏	98. 7.22　9.17　9.28
146−185		SR42・SR45	SD142・SD145	1132	98. 9.17	土師器	高坏	98. 7.22　9.11　9.14　摩滅無し
146−186		SR42・SR45	SD142・SD145	1145	98.10. 6	土師器	高坏	98. 7.28　9.14　9.18
146−187		SR42・SR45	SD142・SD145	1091	98. 7.23	土師器	高坏	98. 7.13　7.14　7.22
146−188		SR42・SR45	SD142・SD145	—	98. 7.13	土師器	高坏	98. 7.14
146−189	58	SR42・SR45	SD142・SD145	1124	98. 7.23	土師器	高坏	98. 9.16　9.11　9.14
146−190		SR42・SR45	SD142・SD145	1109	98. 7.23	土師器	高坏	98. 9.11　9.17　摩滅無し
146−191	58	SR42・SR45	SD142・SD145	1120	98. 9.17	土師器	高坏	98. 7.23
146−192	58	SR42・SR45	SD142・SD145	1116	98. 9.17	土師器	高坏	98. 7.23　9.11　摩滅無し
146−193		SR42・SR45	SD142・SD145	1127	98. 7.27	土師器	坏	98. 9.14
146−194		SR42・SR45	SD142・SD145	1097	98. 7.23	土師器	坏	98. 9.17
146−195	58	SR42・SR45	SD142・SD145	1128	98. 9.16	土師器	坏	98. 7.28　9.10　9.14
146−196		SR42・SR45	SD142・SD145	1137	98. 9.17	土師器	坏	98. 7.27
146−197		SR42・SR45	SD142・SD145	1146	98. 9.17	土師器	坏	98. 7.15　9.11　内面ミガキ
147−1		SR43	SD143	1100	98. 7.22	須恵器	壺	
147−2	58	SR43	SD143	1093	98. 8.12	須恵器	壺	
147−3		SR43	SD143	—	98. 8.18	須恵器	壺	F35区南東　SR43西端南側部
147−4		SR43	SD143	1084	98. 8.12	須恵器	坏蓋	98. 8. 4　8.11　8.19
147−5		SR43	SD143	1183	98. 8.19	須恵器	坏蓋	98. 8.20　焼きぶくれ
147−6		SR43	SD143	1079	98. 7.10	須恵器	坏蓋	歪あり
147−7	58	SR43	SD143	1161	98. 8.20	須恵器	坏蓋	98. 8.18
147−8		SR43	SD143	—	98. 8. 5	須恵器	坏蓋	H37区南西　大満上層
147−9		SR43	SD143	—	98. 8.10	須恵器	坏蓋	G37区南東
147−10		SR43	SD143	—	98. 8.10	須恵器	坏蓋	G37区南東　G37区中央　98. 8.11
147−11		SR43	SD143	1099	98. 8.12	須恵器	坏蓋	
147−12	58	SR43	SD143	1185	98. 8.20	須恵器	坏蓋	98. 8.18　8.19
147−13	58	SR43	SD143	1109	98. 8.12	須恵器	坏蓋	窯印　調整完形
147−14	59	SR43	SD143	1220	98. 7.10	須恵器	坏蓋	
147−15		SR43	SD143		98. 8.18	須恵器	坏蓋	H36区北東
147−16	59	SR43	SD143	1110	98. 8. 5	須恵器	坏身	大満東側トンチチ　黒灰色
147−17		SR43	SD143	—	98. 8.18	須恵器	坏身	F35区南東　SR43西端南側部
147−18	59	SR43	SD143	1113	98. 8.12	須恵器	坏身	98. 8. 4　8. 6　8. 7　8.11　底外面白斑　白色石英多い
147−19		SR43	SD143	1120	98. 8.12	須恵器	坏身	98. 8. 5
147−20		SR43	SD143		98. 8.12	須恵器	坏身	G35区北　南側部　98. 8.18　口唇部矣る
147−21		SR43	SD143	1085	98. 8.12	須恵器	坏身	白色石英多い
147−22		SR43	SD143	1205	98. 8.20	須恵器	坏身	
147−23		SR43	SD143	1214	98. 8.20	須恵器	坏身	白色石英多い
147−24	59	SR43	SD143	1175	98. 8.18	須恵器	坏身	口縁部薄い
147−25	59	SR43	SD143	1082	98. 8.12	須恵器	坏身	スノコ状圧痕　完形
147−26	59	SR43	SD143	1083	98. 8.12	須恵器	坏身	完形　外面沈線
147−27		SR43	SD143	1101	98. 8.12	須恵器	坏身	窯印
147−28	59	SR43	SD143	1119	98. 8.12	須恵器	坏身	
147−29	59	SR43	SD143	1104	98. 8.12	須恵器	坏身	窯印　完形
147−30		SR43	SD143	—	98. 8.18	須恵器	坏身	H37区南東　大満上層　外面黒灰色
147−31		SR43	SD143	—	98. 8.18	須恵器	鉢?	G35区北　南側部　器?
147−32		SR43	SD143	—	98. 8. 6	須恵器	高坏蓋	H37区大満東トレンチ東　H37区南東　98. 8. 7　8.10　8.11
147−33	59	SR43	SD143	1084	98. 8.12	須恵器	高坏	98. 8. 4　8.10　8.11　三方透し　置載痕
147−34		SR43	SD143	1164	98. 8.20	土師器	甕	
147−35		SR43	SD143	—	98. 7.30	土師器	甕	H37区大満東トレンチ（上層帯内側）　98. 8. 6　底外面ヘラ削り
147−36		SR43・SR45	SD143・SD145	—	98. 8.31	土師器	小型壺	H37区南西（SR43）　G36区北東（SR45）　98. 9.17
147−37		SR43	SD143	—	98. 8.11	土師器	小型壺	H37区大満東トレンチ東　大満東トレンチ西　98. 8.12
147−38		SR43	SD143	1082	98. 8.12	土師器	小型壺	98. 8. 4　8.11
147−39		SR43	SD143		98. 8.10	土師器	小型壺	H37区西机列の北　H37区南西No.50付近の下　98. 8.12　9. 1
147−40		SR43	SD143	1088	98. 8.12	土師器	甕	98. 8. 5
147−41	59	SR43	SD143	1084	98. 8.12	土師器	甕	98. 8.11
147−42		SR43	SD143	—	98. 8.11	土師器	台付甕	H37区北東
147−43		SR43	SD143	—	98. 8.18	土師器	鍋部	F35区南東　SR43西端南側部　外面赤彩
148−44		SR43	SD143	1029	98. 8.12	土師器	鉢	煤付着
148−45		SR43	SD143	1187	98. 8.20	土師器	高坏	98. 8.18

第33表　土器一覧表11

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	器別	器種	備考
148－46		SR43	SD143	1168	98. 8.20	土師器	高坏	98. 8.19
148－47		SR43	SD143	1088	98. 8.12	土師器	高坏	
148－48		SR43	SD143	1213	98. 7.10	土師器	高坏	H36区南西　同層　端部尖る
148－49		SR43	SD143	1086	98. 8.12	土師器	高坏	98. 8.10　8.11
148－50		SR43	SD143	1086	98. 8.12	土師器	高坏	98. 8.10　8.11
148－51		SR43	SD143	1084	98. 8.12	土師器	高坏	98. 8.11　8.31
148－52		SR43	SD143		98. 8.11	土師器	高坏	G37区南東
148－53		SR43	SD143	1219	98. 7.10	土師器	高坏	
148－54		SR43	SD143	1082	98. 8.12	土師器	高坏	
148－55		SR43	SD143	—	98. 8.12	土師器	高坏	G36区北東
148－56		SR43	SD143	1218	98. 7.10	土師器	高坏	
148－57		SR43	SD143	—	98. 8.18	土師器	高坏	G35区南西
148－58		SR43	SD143	—	98. 9. 1	土師器	高坏	H37区中央
148－59		SR43	SD143	1163	98. 8.20	土師器	高坏	
148－60		SR43	SD143	—	98. 8.11	土師器	高坏	G37区南東
148－61		SR43	SD143	1083	98. 8.12	土師器	高坏	
148－62	59	SR43	SD143	1211	98. 8.20	土師器	坏	98. 8.18　底外面ヘラ削り
148－63		SR43	SD143	—	98. 8.18	土師器	坏	G35区北　南同層　底外面ヘラ削り
148－64		SR43	SD143	1098	98. 8.12	土師器	坏	内面摩滅無し
148－65		SR43	SD143	—	98. 8.11	土師器	鉢	H37区中央西　98. 8.12
148－66		SR43	SD143	—	98. 8.18	土師器	甕	F35区南東　SR43西端
148－67		SR43	SD143	—	98. 8.18	土師器	甕	G35区北　南同層
148－68		SR43	SD143	—	98. 8.18	土師器	甕	G35区北　南同層
148－69		SR43	SD143	—	98. 8.19	土師器	甕	G35区北西　南同層
148－70		SR43	SD143	1166	98. 8. 7	土師器		
148－71		SR43・SR45	SD143・SD145	—	98. 8.18	須恵器	甕	G36区中央　本製品層　西端南同層　98. 9.11　9.18　黒灰色　白斑　内面すり消し
148－72		SR43・SR44・SR45	SD143・SD144・SD145	—	98. 8.18	須恵器	坏蓋	G35区中央西　G35区中央　大溝西側トレンチ南　礫群集中土器群の西隅　98. 9.14
148－73		SR43・SR45	SD143・SD145	1161	98.10. 6	須恵器	坏身	98. 8.18　8.19
148－74		SR43・SR45	SD143・SD145	1143	98.10. 7	須恵器	坏身	98.10. 6　8.18　8.19　外面黒灰色
148－75	60	SR43・SR45	SD143・SD145	1072	98. 9. 2	須恵器	鉢	No.50付近の下　98. 9. 1　8. 5　8. 7　8.25
148－76		SR43・SR45	SD143・SD145	1110	98. 8. 6	土師器	台付甕	大溝東側トレンチ内　煤付着
148－77		SR43・SR45	SD143・SD145	1076	98. 8.12	土師器	甕	98. 8.31　9. 1　H37区南西　フォーク状木製品南　木柔痕
148－78		SR43・SR45	SD143・SD145	—	98. 8.19	土師器	甕	G36区南東　SR45南同層　G35区北東　SR43南同層　98. 9.11　煤付着　宇田型
148－79		SR43・SR45	SD143・SD145	1132	98.10. 7	土師器	高坏	F34区北東　SR43西端南同層　98. 8.19
148－80		SR43・SR45	SD143・SD145	1100	98. 8.12	土師器	坏	
148－81		SR43・SR45	SD143・SD145	—	98. 8.18	土師器	坏	G35区　大溝西側トレンチ
149－1	60	SR45	SD145	1111	98. 9.17	須恵器	壺	98. 9.10　9.11　内面すり消し　白斑
149－2		SR45	SD145	1150	98.10. 6	須恵器	高坏	98. 9.17　外面黒灰色
149－3		SR45	SD145	1073	98. 9.14	須恵器	高坏	三方透し　白斑
149－4		SR45	SD145	—	98. 9.30	須恵器	鉢	G35区北西　大溝西トレンチの西
149－5	60	SR45	SD145	1097	98. 9.17	須恵器	鉢	98. 9.11　9.14　外面タタキメ　黒灰色　白斑
149－6	60	SR45	SD145	1157	98.10. 6	須恵器	坏蓋	
149－7	60	SR45	SD145	1153	98.10. 6	須恵器	坏蓋	白色石英多い
149－8		SR45	SD145	1144	98. 9.14	須恵器	坏身	98. 9.17　9.28
149－9		SR45	SD145	1154	98.10. 6	須恵器	坏身	98. 9.11
149－10		SR45	SD145	1151	98. 9.17	須恵器	坏身	98. 9.18　9.21　外面黒灰色
149－11		SR45	SD145	1149	98. 9.17	須恵器	坏身	
149－12	60	SR45	SD145	1105	98. 9.17	須恵器	坏身	ほぼ完形　口唇部尖る　白色粒子多い
149－13		SR45	SD145	1152	98.10. 7	須恵器	坏身	
149－14		SR45	SD145	1160	98.10. 6	須恵器	坏身	口縁部薄い
149－15		SR45	SD145	—	98. 8.21	土師器	壺	H36区北東　大溝中央トレンチ
149－16	60	SR45	SD145	1073	98. 9. 8	土師器	壺	98. 9.11　9. 4　9. 9
149－17	60	SR45	SD145	1110	98.10. 9	土師器	壺	98.10. 2　10. 8　外面煤付着
149－18	61	SR45	SD145	1102	98. 9.16	土師器	壺	
149－19		SR45	SD145	—	98. 9.11	土師器	壺	G35区北東　南同層
149－20		SR45	SD145	1159	98.10. 6	土師器	甕	
149－21	61	SR45	SD145	1045	98. 9.17	土師器	壺	
149－22		SR45	SD145	1130	98.10. 6	土師器	壺	98. 7.14　8.21
149－23	61	SR45	SD145	1075	98. 9. 9	土師器	壺	外面煤付着　摩滅無し
149－24	61	SR45	SD145	1076	98.10. 6	土師器	壺	外面煤付着
149－25	61	SR45	SD145	1100	98.10. 6	土師器	壺	98.10. 2
149－26		SR45	SD145	—	98. 9.11	土師器	壺	G35区中央西　礫群集中土器群の西隅　98. 9.14　9.21　外面煤付着
149－27		SR45	SD145	1148	98. 9.16	土師器	壺	98. 9.11
150－28		SR45	SD145	1063	98.10. 6	土師器	壺	
150－29		SR45	SD145	—	98. 9.18	土師器	壺	G35区北西　南同層　礫群内　大溝西トレンチ東
150－30		SR45	SD145	1173	98.10. 7	土師器	壺	
150－31		SR45	SD145	1126	98. 9.16	土師器	壺	

第34表　土器一覧表12

図番号	写真図版	道構	旧道構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
150-32	61	SR45	SD145	1090	98. 9. 8	土師器	壺	
150-33		SR45	SD145	1135	98.10. 6	土師器	壺	
150-34		SR45	SD145	1087	98. 8.27	土師器	壺	
150-35		SR45	SD145	1124	98. 9.16	土師器	壺	98. 9.11 9.14
150-36	61	SR45	SD145	1136	98. 9.29	土師器	小型壺	
150-37	62	SR45	SD145	1091	98.10. 6	土師器	小型壺	
150-38		SR45	SD145	—	98.10.15	土師器	小型壺	G37区南西コーナー
150-39	62	SR45	SD145	1096	98.10. 6	土師器	小型壺	
150-40	62	SR45	SD145	1103	98. 9.17	土師器	小型壺	
150-41		SR45	SD145	1122	98.10. 6	土師器	小型壺	
150-42		SR45	SD145	1100	98.10. 6	土師器	小型壺	
150-43		SR45	SD145	1090	98. 9. 8	土師器	小型壺	
150-44		SR45	SD145	1029	98.10. 9	土師器	小型壺	底外面煤付着
150-45	62	SR45	SD145	1062	98.10. 6	土師器	小型壺	
150-46		SR45	SD145	1028	98.10. 9	土師器	小型壺	底外周ヘラ削り
150-47	62	SR45	SD145	1055	98.10. 6	土師器	小型壺	
150-48	62	SR45	SD145	1080	98. 9.17	土師器	壺	
150-49	62	SR45	SD145	1092	98. 9.10	土師器	台付甕	98. 9. 4 外面煤付着
150-50		SR45	SD145	1072	98. 9. 2	土師器	台付甕	外面煤付着
150-51	63	SR45	SD145	1090	98. 9.10	土師器	台付甕	98. 9. 3 外面煤付着
150-52		SR45	SD145	1090	98. 9.10	土師器	台付甕	外面煤付着
150-53		SR45	SD145	—	98. 9.17	土師器	台付甕	H36区中央　南同部　外面煤付着
150-54	62	SR45	SD145	1061	98. 9.17	土師器	甕	98. 9.11 外面煤付着
151-55	63	SR45	SD145	1113	98. 9.17	土師器	甕	98.10. 6 10. 2 外面煤付着
151-56	63	SR45	SD145	1122	98.10. 6	土師器	甕	98. 9.22 9.28 9.30 10. 8 外面煤付着
151-57		SR45	SD145	—	98. 9.14	土師器	甕	G35区北東コーナー　G36区南東コーナー　98. 9. 21 9.28 9.30 10. 2
151-58		SR45	SD145	1122	98.10. 6	土師器	甕	外面煤付着
151-59		SR45	SD145	1136	98. 9.29	土師器	甕	外面煤付着
151-60		SR45	SD145	—	98. 8.27	土師器	甕	G37区中央東　用同の下　98. 9. 2 外面煤付着
151-61	63	SR45	SD145	1131	98.10. 6	土師器	甕	98.10. 8 外面煤付着
151-62		SR45	SD145	1122	98.10. 6	土師器	甕	98. 9.17 外面煤付着
151-63		SR45	SD145	1107	98. 9.17	土師器	甕	98. 9.11 外面煤付着
151-64		SR45	SD145	—	98. 9.22	土師器	甕	G36区中央南　礫群北下　98. 9.28 9.29 9.30 外面煤付着
151-65		SR45	SD145	1131	98. 9.16	土師器	甕	98. 9.18 9.19 9.29
151-66	63	SR45	SD145	1135	98.10. 6	土師器	甕	外面煤付着
151-67	63	SR45	SD145	—	98. 9.28	土師器	甕	W134周辺　98.10. 2 10. 5 外面煤付着
151-68	63	SR45	SD145	1111	98. 9.17	土師器	甕	外面煤付着
152-69	64	SR45	SD145	1081	98. 9.10	土師器	甕	98. 9. 2 9. 3 カゴメ
152-70	64	SR45	SD145	1150	98. 9.16	土師器	甕	外面煤付着　カゴメ
152-71		SR45	SD145	1111	98. 9.17	土師器	甕	外面煤付着　カゴメ
152-72	64	SR45	SD145	1144	98. 9.29	土師器	甕	98. 8.21
152-73		SR45	SD145	1136	98. 9.29	土師器	甕	外面煤付着
152-74		SR45	SD145	1137	98. 9.16	土師器	甕	98.10. 9 9.14 9.22
152-75	64	SR45	SD145	1122	98.10. 6	土師器	甕	外面煤付着
152-76		SR45	SD145	1111	98. 9.17	土師器	甕	98. 9.14 外面煤付着
152-77		SR45	SD145	1143	98.10. 7	土師器	甕	
152-78	64	SR45	SD145	1073	98. 9. 3	土師器	甕	98. 8.27 9. 2 外面煤付着
152-79		SR45	SD145	1143	98.10. 6	土師器	甕	
152-80		SR45	SD145	1148	98.10. 6	土師器	甕	
152-81		SR45	SD145	1072	98. 9. 2	土師器	甕	98.10.12 外面煤付着
152-82	64	SR45	SD145	1150	98. 9.16	土師器	甕	98. 9.11 外面煤付着
152-83		SR45	SD145	1147	98.10. 6	土師器	甕	外面煤付着
152-84		SR45	SD145	1142	98. 9.17	土師器	甕	
152-85		SR45	SD145	1072	98. 9.14	土師器	甕	
153-86	65	SR45	SD145	1100	98. 8.27	土師器	甕	
153-87	65	SR45	SD145	1121	98.10. 6	土師器	甕	98.10. 9 外面煤付着
153-88	65	SR45	SD145	1054	98.10. 6	土師器	甕	98. 9.17 外面煤付着
153-89	65	SR45	SD145	1182	98. 9.16	土師器	甕	外面下半煤付着
153-90	65	SR45	SD145	1182	98. 9.16	土師器	甕	98. 9.11 9.14 外面煤（口縁除く）
153-91		SR45	SD145	1097	98. 9.16	土師器	甕	98. 9.17 9.11 外面煤付着
153-92		SR45	SD145	1135	98.10. 6	土師器	甕	98. 9.14 外面煤付着
153-93		SR45	SD145		98. 9.17	土師器	甕	H36区南西　南同部　H36区南　礫群の東　98. 9. 30 外面煤付着
153-94		SR45	SD145		98. 8.21	土師器	鉢?	H36区南西　H37区北内　98. 8.24
153-95		SR45	SD145	1077	98. 9.16	土師器	鉢	98. 9.14 9.17 9.28 外面煤付着
154-96		SR45	SD145	1155	98. 9.16	土師器	底部	外面煤付着
154-97		SR45	SD145	1067	98. 9.11	土師器	底部	98. 9. 3 9. 8 外面煤付着
154-98	65	SR45	SD145	1135	98. 9.17	土師器	甑	98. 9.14 摩滅
154-99		SR45	SD145	1220	98. 7.10	土師器	甑	
154-100		SR45	SD145	1148	98. 9.17	土師器	甑	98. 9.30 10. 6

第35表　土器一覧表13

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
154-101		SR45	SD145	1155	98. 9.29	土師器	甕	
154-102		SR45	SD145	—	98. 9.11	土師器	甕	G36区南東　南肩部　外面煤付着
154-103		SR45	SD145	1201	98. 9.16	土師器	甕	摩滅
154-104		SR45	SD145	1164	98.10. 6	土師器	甕	
154-105		SR45	SD145	1135	98. 9.17	土師器	甕	
154-106		SR45	SD145	1160	98.10. 7	土師器	甕	
154-107		SR45	SD145	—	98. 9. 9	土師器	甕	G36区北西　外面煤付着
154-108	66	SR45	SD145	1081	98. 9.11	土師器	高坏	
154-109		SR45	SD145	1121	98.10. 6	土師器	高坏	98. 9.30　10. 5
154-110		SR45	SD145	1126	98.10. 9	土師器	高坏	98.10. 8
154-111		SR45	SD145	1084	98. 9.17	土師器	高坏	二方透し
154-112		SR45	SD145	1130	98.10. 6	土師器	高坏	二方透し
154-113		SR45	SD145	1048	98.10. 2	土師器	高坏	
154-114		SR45	SD145	1078	98. 9.11	土師器	高坏	98. 7. 6
154-115		SR45	SD145	1139	98.10. 6	土師器	高坏	
154-116	66	SR45	SD145	1119	98.10. 6	土師器	高坏	98. 9.28　9.30
154-117	66	SR45	SD145	1135	98. 9.29	土師器	高坏	
154-118	66	SR45	SD145	1137	98. 9.16	土師器	高坏	98. 9.14
154-119		SR45	SD145	1128	98. 9.16	土師器	高坏	
155-120	66	SR45	SD145	1094	98. 9.17	土師器	高坏	98. 9.10
155-121	66	SR45	SD145	1146	98. 9.16	土師器	高坏	98. 9.11　9.14　摩滅無し
155-122		SR45	SD145	1129	98. 9.16	土師器	高坏	98. 9.11
155-123		SR45	SD145	1134	98. 9.18	土師器	高坏	
155-124		SR45	SD145	1133	98. 9.17	土師器	高坏	98.10. 6　煤付着
155-125		SR45	SD145	1145	98.10. 6	土師器	高坏	
155-126		SR45	SD145	1122	98.10. 6	土師器	高坏	外面煤付着
155-127		SR45	SD145	1074	98. 9.11	土師器	高坏	
155-128		SR45	SD145	1077	98. 9. 3	土師器	高坏	98. 9. 4
155-129		SR45	SD145	1082	98. 8.27	土師器	高坏	
155-130		SR45	SD145	1142	98. 9.29	土師器	高坏	
155-131		SR45	SD145		98.10. 8	土師器	高坏	G38区南東コーナー　南肩部
155-132		SR45	SD145	1140	98. 9.16	土師器	高坏	98. 9.11　摩滅無し
155-133	66	SR45	SD145	1121	98. 9.16	土師器	高坏	98. 9.14　9.18　9.22　摩滅無し
155-134		SR45	SD145	1147	98. 9.17	土師器	高坏	
155-135		SR45	SD145	1138	98. 9.17	土師器	高坏	
155-136		SR45	SD145	1143	98.10. 7	土師器	高坏	98.10. 5
155-137		SR45	SD145	—	97.12. 4	土師器	高坏	G36区　旧両道トレンチ内　摩滅無し
155-138	66	SR45	SD145	1149	98. 9.29	土師器	高坏	
155-139		SR45	SD145	1144	98.10. 6	土師器	高坏	
155-140		SR45	SD145	—	98. 9.14	土師器	高坏	G35区中央　礫群の下
155-141		SR45	SD145	1124	98. 9.16	土師器	高坏	
155-142		SR45	SD145	1127	98. 7.29	土師器	高坏	
155-143		SR45	SD145	1148	98.10. 7	土師器	高坏	
155-144		SR45	SD145	1113	98. 9.17	土師器	高坏	摩滅無し
155-145		SR45	SD145	1068	98.10. 9	土師器	高坏	外面煤付着
155-146		SR45	SD145	1150	98.10. 6	土師器	高坏	
155-147	67	SR45	SD145	1144	98. 9.29	土師器	高坏	摩滅無し
155-148	67	SR45	SD145	1155	98. 9.29	土師器	高坏	98. 9.28　摩滅無し
155-149		SR45	SD145	1145	98. 9.29	土師器	高坏	
155-150		SR45	SD145	—	98. 9. 3	土師器	高坏	H36区北西コーナー
155-151		SR45	SD145	—	98. 9.29	土師器	高坏	F35区北東（盛土内）
155-152		SR45	SD145	1142	98.10. 6	土師器	高坏	
155-153		SR45	SD145	1111	98. 9.17	土師器	高坏	
155-154		SR45	SD145	1152	98.10. 7	土師器	高坏	
155-155		SR45	SD145	—	98. 8.25	土師器	高坏	H37区北西
155-156		SR45	SD145	—	98. 9.10	土師器	高坏	G35区北東　南肩部
155-157		SR45	SD145	—	98. 9.11	土師器	台部	G35区北東コーナー
155-158		SR45	SD145		98. 8.21	土師器	台部	G37区中央　建築材の南
155-159	67	SR45	SD145	1143	98. 9.16	土師器	脚付鉢	98. 9.11　9.18　摩滅無し
156-160		SR45	SD145	1046	98. 9.29	土師器	高坏	
156-161		SR45	SD145	1075	98.10. 2	土師器	高坏	内外面煤付着
156-162		SR45	SD145	1082	98.10. 9	土師器	高坏	
156-163		SR45	SD145	1135	98.10. 6	土師器	高坏	
156-164		SR45	SD145	—	98. 9.30	土師器	高坏	G35区北東　礫群西　南肩部
156-165		SR45	SD145	1134	98.10. 6	土師器	高坏	
156-166		SR45	SD145	—	98. 9.30	土師器	高坏	G36区南東　礫群の東　G35区北東　土器集中区
156-167		SR45	SD145	—	98. 9.30	土師器	高坏	G36区南東　礫群の東　南肩部
156-168		SR45	SD145	1135	98.10. 7	土師器	高坏	
156-169		SR45	SD145	1136	98.10. 6	土師器	高坏	
156-170		SR45	SD145	1159	98.10. 6	土師器	高坏	
156-171		SR45	SD145	1102	98. 9.16	土師器	高坏	
156-172		SR45	SD145	1078	98. 9.16	土師器	高坏	

第36表　土器一覧表14

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
156－173		SR45	SD145	1102	98. 9.17	土師器	高坏	
156－174		SR45	SD145	1177	98. 9. 3	土師器	高坏	
156－175		SR45	SD145	—	98. 7.15	土師器	高坏	H36区南西　大溝中央トレンチ南側
156－176		SR45	SD145	1152	98. 9.16	土師器	高坏	98. 9.14
156－177		SR45	SD145	1130	98. 9.17	土師器	高坏	
156－178		SR45	SD145	1153	98.10. 6	土師器	高坏	
156－179		SR45	SD145	1076	98.10. 6	土師器	高坏	
156－180		SR45	SD145	1042	98. 9.17	土師器	高坏	
156－181		SR45	SD145	1141	98.10. 6	土師器	高坏	
156－182		SR45	SD145	1150	98. 9.17	土師器	高坏	
156－183		SR45	SD145	1151	98.10. 7	土師器	高坏	
156－184		SR45	SD145	—	98.11.10	土師器	高坏	G37区南　木製品層
156－185		SR45	SD145	1071	98.10. 6	土師器	坏	
156－186	67	SR45	SD145	1061	98. 9.17	土師器	坏	完形
156－187		SR45	SD145	—	98. 8.17	土師器	坏	H36区北西コーナー　土層堆中区
156－188		SR45	SD145	1146	98. 9.17	土師器	坏	摩滅
156－189	67	SR45	SD145	1081	98. 9.16	土師器	坏	完形
156－190	67	SR45	SD145	1074	98.10. 6	土師器	坏	完形
156－191		SR45	SD145	1128	98.10. 6	土師器	坏	
156－192		SR45	SD145		98. 9. 9	土師器	坏	G36区北東　G36区中央東　98. 9.10
156－193	67	SR45	SD145	1086	98. 9.17	土師器	坏	完形
156－194	67	SR45	SD145	1071	98. 9.18	土師器	坏	
156－195	67	SR45	SD145	1095	98. 9.16	土師器	坏	口縁外面煤付着
156－196		SR45	SD145	1147	98. 9.17	土師器	坏	
156－197		SR45	SD145	1143	98.10. 7	土師器	坏	98. 9.11　口縁内外面煤付着
156－198		SR45	SD145	1167	98.10. 7	土師器	坏	
156－199		SR45	SD145	1135	98.10. 6	土師器	坏	
156－200		SR45	SD145	1182	98. 9.16	土師器	坏	
156－201	67	SR45	SD145	1102	98. 9. 3	土師器	鉢	外面煤付着
156－202		SR45	SD145	—	98.10. 2	土師器	鉢	G36区中央　南周溝
156－203		SR45	SD145	—	98. 9.11	土師器	鉢	G35区中央北　南周溝　擦滅周辺
156－204		SR45	SD145	1140	98.10. 6	土師器	鉢	
156－205		SR45	SD145	1099	98. 9.16	土師器	手捏ね	
156－206		SR45	SD145	—	98. 9.11	土師器	手捏ね	H36区南西　南周溝
156－207		SR45	SD145	1108	98. 9. 1	土師器	手捏ね	
156－208		SR45	SD145	—	98. 9.14	土師器	手捏ね	G35区北東コーナー
156－209		SR45	SD145	1134	98. 9.29	土師器	手捏ね	復原完形
157－1		SR30	SD110	1109	98. 3.18	須恵器	壺	
157－2	68	SR30	SD110	1109	98. 3.18	須恵器	壺	
157－3		SR30	SD110	1176	98. 3.17	須恵器	壺	
157－4		SR30	SD110	—	98. 3.18	須恵器	壺	H39区北西
157－5		SR30	SD110	1111	98. 3.18	須恵器	壺	
157－6	68	SR30	SD110	1237	98. 3.19	須恵器	壺	完形
157－7	68	SR30	SD110	1084	98. 3.19	須恵器	壺	内面すり消し　白色石英多い
157－8		SR30	SD110	1117	98. 3.18	須恵器	壺	
157－9		SR30	SD110	1123	98. 3.18	須恵器	壺	
157－10		SR30	SD110	—	98. 3.19	須恵器	壺	H39区中央　SR30中央
157－11		SR30	SD110	1118	98. 3.18	須恵器	壺	98. 7. 2　円形浮文
157－12	68	SR30	SD110	1101	98. 3.18	須恵器	鉢	98. 3.17　内面すり消し
157－13		SR30	SD110	—	98. 3.17	須恵器	鉢	H40区南東
157－14		SR30	SD110	1119	98. 3.18	須恵器	高坏	
157－15		SR30	SD110	—	98. 3.13	須恵器	高坏	H39区北東
157－16		SR30	SD110	1137	98. 3.17	須恵器	高坏	
157－17		SR30	SD110	1215	98. 7. 2	須恵器	鉢	底外面タタキメ
157－18		SR30	SD110	—	98. 3.17	須恵器	甕	H39区北西
157－19		SR30	SD110	—	98. 3.17	須恵器	坏蓋	H40区南東
157－20		SR30	SD110	—	98. 3.19	須恵器	坏蓋	H39区北東コーナー
157－21	68	SR30	SD110	1103	98. 3.18	須恵器	坏蓋	98. 3.17　白色粒子多い
157－22		SR30	SD110	—	98. 3.17	須恵器	坏蓋	H39区北東
157－23	68	SR30	SD110	1101	98. 3.18	須恵器	坏蓋	摩滅
157－24		SR30	SD110	1116	98. 3.17	須恵器	坏蓋	
157－25	68	SR30	SD110	1107	98. 7. 2	須恵器	坏蓋	
157－26	68	SR30	SD110	1216	98. 3.16	須恵器	坏蓋	
157－27		SR30	SD110	—	98. 3.18	須恵器	坏蓋	G39区中央西
157－28		SR30	SD110	—	98. 3.18	須恵器	坏蓋	G39区中央西
157－29		SR30	SD110	—	98. 3.13	須恵器	坏蓋	G39区北
157－30	68	SR30	SD110	1101	98. 3.19	須恵器	坏蓋	
157－31	69	SR30	SD110	1117	98. 3.18	須恵器	坏蓋	
157－32		SR30	SD110	1123	98. 3.17	須恵器	坏蓋	
158－33		SR30	SD110	1135	98. 3.18	須恵器	坏身	完形
158－34		SR30	SD110	1111	98. 3.18	須恵器	坏身	
158－35		SR30	SD110	—	98. 7. 1	須恵器	坏身	H40区南東　土層帯の北

第37表　土器一覧表15

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
158－36		SR30	SD110	－	98．3．13	須恵器	坏身	T40区南西　北肩部
158－37	69	SR30	SD110	1244	98．3．10	須恵器	坏身	刻印
158－38		SR30	SD110	1229	98．3．18	須恵器	坏身	
158－39		SR30	SD110		98．3．17	須恵器	坏身	H39区北西　中央やや北
158－40	69	SR30	SD110	1134	98．3．17	須恵器	坏身	
158－41		SR30	SD110	1112	98．3．18	須恵器	坏身	
158－42	69	SR30	SD110	1111	98．3．18	須恵器	坏身	
158－43		SR30	SD110	1113	98．3．18	須恵器	坏身	
158－44		SR30	SD110		98．3．17	須恵器	坏身	G39区東　盛土内　98．3．18　6.25
158－45		SR30	SD110		98．3．17	須恵器	坏身	H39区北西　G39区北東　98．3．18　6.25　白色石英多い
158－46	69	SR30	SD110	1235	98．3．10	須恵器	坏身	
158　47	69	SR30	SD110	1112	98．3．18	須恵器	坏身	完形
158　48	69	SR30	SD110	1148	98．3．17	須恵器	坏身	墨書　完形
158－49	69	SR30	SD110	1121	98．3．19	須恵器	坏身	
158　50		SR30	SD110	－	98．3．18	須恵器	坏身	G39区北東
158　51		SR30	SD110	1115	98．3．18	須恵器	坏身	ヘラ切り未調整
158　52		SR30	SD110		98．3．17	須恵器	坏身	T40区南西　SR30中央
158　53	69	SR30	SD110	1119	98．3．18	須恵器	坏身	
158　54	69	SR30	SD110	1121	98．7．2	須恵器	坏身	ヘラ切り未調整　ほぼ完形
158　55		SR30	SD110	1219	98．3．19	須恵器	坏身	ヘラ切り未調整
158－56	69	SR30	SD110	1101	98．3．18	須恵器	坏身	底外面スノコ状圧痕
158　57		SR30	SD110	1125	98．3．18	須恵器	坏身	
158－58		SR30	SD110	－		須恵器	坏身	
158－59		SR30	SD110	1121	98．3．18	須恵器	坏身	
158－60		SR30	SD110	1135	98．3．19	須恵器	坏身	外面釉
158－61		SR30	SD110	1122	98．3．18	須恵器	坏身	
158－62		SR30	SD110	1123	98．3．18	須恵器	坏身	
158－63		SR30	SD110	1130	98．3．18	須恵器	坏身	
158－64		SR30	SD110	1144	98．3．17	須恵器	坏身	
158－65		SR30	SD110		98．3．16	須恵器	坏身	H39区北　壁印
158－66		SR30	SD110	1143	98．3．17	須恵器	坏身	壁印
158－67	69	SR30	SD110	1117	98．3．18	須恵器	坏身	98．3．16　3.17　3.19
158－68		SR30	SD110	1116	98．3．18	須恵器	坏身	
158－69	69	SR30	SD110	1143	98．3．16	須恵器	皿	刻印　墨書
159－70	70	SR30	SD110	1241	98．3．10	土師器	甕	97.12．9　98．2．9　3．9　人面墨書　摩滅無し
159－71	70	SR30	SD110	1183	98．3．17	土師器	甕	摩滅無し
159－72		SR30	SD110	1226	98．3．13	土師器	甕	
159－73		SR30	SD110	1191	98．7．6	土師器	甕	
159－74		SR30	SD110	－	98．7．2	土師器	甕	H39区西東　東側上層帯　外面煤付着
159－75		SR30	SD110	1126	98．3．18	土師器	甕	98．3．17　外面煤付着
159－76	70	SR30	SD110	1219	98．3．16	土師器	甕	98．3．10　3.12　3.13　摩滅無し
159－77	70	SR30	SD110	1176	98．3．16	土師器	甕	摩滅無し
159－78		SR30	SD110	1260	98．2．12	土師器	甕	
159－79	70	SR30	SD110	1239	98．3．10	土師器	甕	摩滅無し
159－80		SR30	SD110	－	98．7．2	土師器	甕	H39区西東　東側上層帯　外面煤付着
159－81		SR30	SD110	1160	98．3．18	土師器	甕	98．3．19
159－82		SR30	SD110・SD112	－	98．2．17	土師器	甕	G39区南東　H39区南西　98．3．12　外面煤
159－83		SR30	SD110	1128	98．3．17	土師器	甕	98．3．18　外面煤付着
159－84		SR30	SD110	1217	98．3．16	土師器	甕	
159－85	70	SR30	SD110	1207	98．3．13	土師器	甕	98．3．12　外面煤付着
160－86		SR30	SD110		98．3．17	土師器	甕	H39区西　SR30南側
160－87		SR30	SD110		98．3．16	土師器	甕	G39区北東
160　88	70	SR30	SD110	1108	98．3．18	土師器	甕	98．3．17　外面煤付着
160　89	71	SR30	SD110	1131	98．3．17	土師器	甕	
160－90		SR30	SD110	1108	98．3．18	土師器	甕	外面煤付着
160－91	71	SR30	SD110	1120	98．3．17	土師器	甕	
160　92	71	SR30	SD110	1207	98．3．13	土師器	甕	98．3.12
160　93	71	SR30	SD110	1133	98．3．17	土師器	甕	摩滅無し
160－94	71	SR30	SD110	1108	98．3．18	土師器	鉢	摩滅無し
160－95	71	SR30	SD110	1228	98．3．13	土師器	鉢	98．3.16　内面赤彩（指跡）
160－96		SR30	SD110	1146	98．3．17	土師器	甑	内面赤彩（指跡）
160－97		SR30	SD110	1232	98．3．10	土師器	鉢	内面赤彩（指跡）
160－98		SR30	SD110	1107	98．3．18	土師器	鉢	内面赤彩（指跡）
160－99		SR30	SD110	1108	98．3．18	土師器	甑	内面赤彩（指跡）
160－100		SR30	SD110	1113	98．3．18	土師器	甑	98．3.19　内面赤彩
160－101	71	SR30	SD110	1228	98．3．13	土師器	甑	98．3.16　3.10　内面赤彩（指跡）
160－102	71	SR30	SD110	1216	98．3．13	土師器	甑	98．3.16　内外面赤彩（指跡）
160－103	72	SR30	SD112	－	98．3．10	土師器	甕	G39区西西上層　人面墨書
160　104		SR30	SD110	－	98．3．9	土師器	甕	G39区北東　人面墨書
160　105		SR30	SD110	1115	98．3．18	土師器	甕	人面墨書
160－106		SR30	SD110・SD112	－	98．2.12	土師器	甕	G39区　98．2.18　人面墨書

第38表　土器一覧表16

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
160－107		SR30	SD110	1114	98. 3.18	土師器	甕	人面墨書
160－108		SR30	SD110	—	98. 3.17	土師器	甕	H40区埋束
160－109	71	SR30	SD110	1246	98. 2.12	土師器	高坏	内外面赤彩（脚内面除く）　摩滅無し
160－110		SR30	SD110	—	98. 6.11	土師器	高坏	裾上内　内外面赤彩（脚内面除く）
160－111		SR30	SD110	1132	98. 3.18	土師器	手捏ね	
160－112		SR30	SD110	1102	98. 3.19	土師器	手捏ね	
160－113	72	SR30	SD110	1120	98. 3.17	土師器	手捏ね	完形　摩滅無し
160－114	72	SR30	SD110	1136	98. 3.17	土師器	手捏ね	
160－115		SR30	SD110		98. 3. 9	土師器	手捏ね	G39区北西
160－116		SR30	SD112	1217	98. 3.11	土師器	手捏ね	内面赤彩（指跡）　摩滅無し
160－117		SR30	SD110	—	98. 3.17	土師器	手捏ね	No.168付近
160－118		SR30	SD110	1238	98. 3.10	土師器	手捏ね	
160－119		SR30	SD112	1214	98. 3.11	土師器	手捏ね	摩滅無し
160－120		SR30	SD110	1188	98. 3.16	土師器	手捏ね	
160－121		SR30	SD110	1144	98. 3.16	土師器	手捏ね	
160－122	72	SR30	SD110	1101	98. 3.19	土師器	手捏ね	完形　摩滅無し
160－123	72	SR30	SD110	1126	98. 3.18	土師器	手捏ね	完形　摩滅無し
160－124		SR30	SD110	1213	98. 7. 2	土師器	手捏ね	
160－125		SR30	SD110	1216	98. 3.13	土師器	手捏ね	
160－126		SR30	SD110	1213	98. 3.13	土師器	手捏ね	
160－127		SR30	SD110		98. 7. 2	土師器	手捏ね	西側上層帯北
160－128		SR30	SD110	1136	98. 3.17	土師器	手捏ね	
160－129		SR30	SD110	—	98. 3.17	土師器	手捏ね	H39区北西
160－130	72	SR30	SD110	1127	98. 3.18	土師器	手捏ね	ほぼ完形　摩滅無し
160－131	72	SR30	SD110	1136	98. 3.17	土師器	手捏ね	
160－132		SR30	SD110	1114	98. 7. 2	土師器	手捏ね	
160－133	72	SR30	SD110	1250	98. 3.10	土師器	手捏ね	内面赤彩（指跡）　外面一部指跡　摩滅無し
160－134	72	SR30	SD110	1135	98. 3.17	土師器	手捏ね	ほぼ完形　摩滅無し
160－135		SR30	SD110		98. 3.17	土師器	手捏ね	H39区北東
160－136		SR30	SD110		98. 3.16	土師器	手捏ね	G39区中央
161－137		SR30	SD110	1174	98. 3.18	土師器	坏	内外面赤彩
161－138		SR30	SD110	1222	98. 3.13	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－139		SR30	SD110	—	98. 3.17	土師器	坏	H39区西　外面赤彩
161－140	73	SR30	SD110	1106	98. 7. 2	土師器	坏	完形　内面摩滅無し　外面煤？
161－141	73	SR30	SD110	1140	98. 3.17	土師器	坏	内外面赤彩
161－142	73	SR30	SD110	1174	98. 3.18	土師器	坏	内外面赤彩
161－143	73	SR30	SD110	1132	98. 3.18	土師器	坏	98. 7. 6　7. 3　内外面赤彩
161－144		SR30	SD112	—	98. 2.26	土師器	坏	H39区北西　98. 3.16　内面赤彩
161－145		SR30	SD112	—	98. 2.19	土師器	坏	H40区南東　内面赤彩
161－146		SR30	SD112	1257	98. 2.18	土師器	坏	摩滅無し
161－147	73	SR30	SD110	1110	98. 3.18	土師器	坏	暗文　内外面赤彩（底外面？）　ほぼ完形
161－148	73	SR30	SD112	1254	98. 2.18	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）　ほぼ完形　摩滅無し
161－149	73	SR30	SD110	1146	98. 3.17	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）　内面黒彩
161－150	73	SR30	SD110		98. 3. 9	土師器	坏	G40区トレンチ内　内外面赤彩（底外面？）
161－151	73	SR30	SD110	1150	98. 3.16	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－152	73	SR30	SD110	1107	98. 3.19	土師器	坏	内外面赤彩　暗文
161－153	73	SR30	SD110	1150	98. 3.16	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－154	73	SR30	SD110	1164	98. 3.16	土師器	坏	墨書　内外面赤彩（底外面除く）　完形
161－155	74	SR30	SD110	1274	98. 2.13	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－156		SR30	SD110	1121	98. 7. 2	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－157		SR30	SD110		98. 3.17	土師器	坏	G39区東　SR30中央　内外面赤彩
161－158	74	SR30	SD110	1222	98. 3.11	土師器	坏	98. 3.13　墨書　内外面赤彩（底外面除く）
161－159	74	SR30	SD112	1244	98. 2.18	土師器	坏	摩滅無し
161－160	74	SR30	SD112	1254	98. 2.18	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－161		SR30	SD110	—	98. 3.16	土師器	坏	H40区南　北縁部　内外面赤彩（底外面？）
161－162	74	SR30	SD110	1240	98. 3.10	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）　摩滅無し
161－163	74	SR30	SD110	1217	98. 3.10	土師器	坏	内外面赤彩（底外面？）
161－164		SR30	SD110	1209	98. 3.10	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－165	74	SR30	SD110	1110	98. 3.18	土師器	坏	内外面赤彩
161－166		SR30	SD110	1111	98. 3.18	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－167	74	SR30	SD110	1240	98. 3.10	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－168	74	SR30	SD110	1155	98. 3.17	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）
161－169		SR30	SD110	1254	98. 2.18	土師器	坏	内外面赤彩（底外面除く）　摩滅無し
161－170	74	SR30	SD110	1222	98. 3.16	土師器	坏	内外面赤彩
161－171		SR30	SD110	1113	98. 3.18	土師器	坏	内面赤彩　内面果漆　外面黒色
161－172	74	SR30	SD110	—	98. 3.11	土師器	皿	G39区北西　内外面赤彩
161－173		SR30	SD110	1121	98. 3.18	土師器	皿	内面赤彩　外面口縁部赤彩
161－174	74	SR30	SD110	1255	98. 2.12	土師器	皿	内外面赤彩
161－175	74	SR30	SD110	1117	98. 3.17	土師器	皿	内外面赤彩（底外面？）
161－176		SR30	SD110	—	98. 3.16	土師器	皿	H39区北・北西　98. 3.17　内外面赤彩
161－177	74	SR30	SD110	1218	98. 7. 6	土師器	皿	98. 7. 3　内外面赤彩
161－178	74	SR30	SD110	1153	98. 3.16	土師器	皿	内外面赤彩（底外面？）

第39表　土器一覧表17

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
161－179		SR30	SD110	1183	98．3．13	土師器	皿	内外面赤彩
161－180	75	SR30	SD110	—	98．7．2	土師器	皿	G39区南東　西土壙南半分　内外面赤彩
161－181		SR30	SD110	1208	98．3．16	土師器	皿	内外面赤彩
161－182	75	SR30	SD110	1181	98．7．6	土師器	皿	内外面赤彩
161－183	75	SR30	SD110	1213	98．7．2	土師器	皿	内外面赤彩
161－184		SR30	SD110	—	98．3．18	土師器	皿	H39区北西　内外面赤彩　暗文
161－185		SR30	SD110	1123	98．3．17	土師器	皿	98．3．18　内外面赤彩
161－186	75	SR30	SD110	1219	98．2．12	土師器	皿	内外面赤彩（底外面除く）　完形
161－187	75	SR30	SD110	1246	98．2．12	土師器	皿	内外面赤彩　内面摩滅無し
161－188	75	SR30	SD110	1129	98．3．18	土師器	皿	内外面赤彩（底外面？）
161－189		SR30	SD110	—	98．2．12	土師器	坏	G39区　暗文　内外面赤彩（底外面？）
161－190	75	SR30	SD110	1127	98．3．19	土師器	坏	暗文　内外面赤彩
161－191		SR30	SD110	1134	98．3．17	土師器	坏	暗文
161－192	75	SR30	SD110	1168	98．3．18	土師器	坏	墨書　内外面赤彩（底外面除く）
161－193		SR30	SD112		98．3．2	土師器	底部	G39区東　凸面　内外面赤彩（底外面除く）
161－194		SR30	SD110	—	98．3．16	土師器	底部	G39区北西　最下層　98．3．27　内外面赤彩　線刻
161－195		SR30	SD110	1155	98．3．17	土師器	底部	暗文　内外面赤彩
161－196		SR30	SD110	1111	98．3．18	土師器	蓋	外面赤彩
161－197		SR30	SD110	—	98．3．18	土師器	蓋	G39北東　外面赤彩
162　1		SR33	SD115	1243	98．2．26	須恵器	壺	
162　2		SR33	SD115B	1220	98．3．23	須恵器	壺	西端轆轤内
162　3	75	SR33	SD115B	1218	98．3．6	須恵器	壺	
162－4	75	SR33	SD115B	1238	98．3．23	須恵器	坏身	西端轆轤内
162－5		SR33	SD115	—	98．2．23	須恵器	坏身	H41区北確認面
162－6		SR33	SD115B	—	98．3．4	須恵器	坏身	H41区
162　7		SR33	SD115B	1222	98．3．5	土師器	壺	内面口辺部・外面赤彩
162　8	75	SR33	SD115B	1266	98．3．23	土師器	坏	西端轆轤内　内外面赤彩
162－9	75	SR33	SD115B	—	98．4．22	土師器	坏	SR33西端　内外面赤彩（底外面？）
162－10		SR33	SD115	1238	98．3．23	須恵器	皿	西端轆轤内
162－11		SR33	SD115B	—	98．3．9	土師器	手捏ね	H41区
162　1	75	SR36	SD124		98．1．29	土師器	壺	
162　2	76	SR36	SD124	1253	98．3．6	土師器	壺	
162　3		SR36	SD124	1220	98．3．10	土師器	甕	98．3．11
162－4		SR36	SD124	1225	98．3．10	土師器	甕	
162－5		SR36	SD124	1225	98．3．10	土師器	甕	
162－6	76	SR36	SD124	1212	98．3．9	土師器	甕	内面口辺部・外面赤彩
162－7	76	SR36	SD124	1220	98．3．11	土師器	甕	内面口辺部・外面赤彩
162－8	76	SR36	SD124	1220	98．3．10	土師器	甕	内面口辺部・外面赤彩　98．3．11
162　9		SR36	SD124	1227	98．3．6	須恵器	坏身	
162－10		SR36	SD124	1238	98．3．10	土師器	甕	
162－11		SR36	SD124	1245	98．3．10	土師器	甕	
162　12	76	SR36	SD124	1257	98．3．4	土師器	皿	内外面赤彩
162　13		SR36	SD124	—	98．3．5	土師器	脚部	H41区北西　内外面赤彩（脚内面除く）
162　14		SR36	SD124	1245	98．3．10	土師器	手捏ね	
162－15		SR36	SD124	—	98．3．9	土師器	手捏ね	G41区北東
162－16		SR36	SD124	—	98．3．6	土師器	手捏ね	H41区北西
163－1	76	SR32・SR32	SD110・SD126	1244	98．3．10	須恵器	坏身	98．2．26　墨書（内面に「一」）
163－2		SR32	SD126	1241	98．3．10	須恵器	坏身	蓋口
163－3	76	SR32	SD126	—	98．3．5	須恵器	坏	H40区北東　内外面赤彩（底外面除く）
163－4		SR32	SD126	1250	98．3．10	土師器	皿	内外面赤彩
163－1		SD32	SD125	1224	98．3．23	須恵器	壺	H41区南
163－2	76	SD32	SD125	1242	98．3．23	土師器	壺	H41区南　木染痕
163－1		SD34	SD111	1230	98．2．19	須恵器	壺	
163－2		SD34	SD111	—	98．2．18	須恵器	坏蓋	
163－3		SD34	SD111	1215	98．2．19	須恵器	双耳坏	
163－4		SD34	SD111	1211	98．2．19	須恵器	皿	98．2．16
163－5		SD34	SD111		98．2．18	須恵器	坏身	
163－6		SD34	SD111	1221	98．2．19	土師器	坏	内面口縁部・外面煤付着
163－7		SD34	SD111	—	98．2．16	土師器	坏	内外面赤彩（底外面？）
163－8		SD34	SD111	1224	98．2．19	土師器	坏	内外面赤彩（底外面？）
163－9		SD34	SD111	1218	98．2．19	土師器	坏	内面赤彩（外面？）
163－10		SD34	SD111	1206	98．2．19	土師器	甕	
163－11		SD34	SD111	—	98．2．19	土師器	甕	
163－12		SD34	SD111	—	98．2．16	土師器	手捏ね	
163－1		SR37	SD122		98．3．3	山茶碗	碗	H42区南東　糸切り　東遺系
163－2		SR37	SD122		98．3．3	土師器	かわらけ	H42区北東
163　3		SR35	SD104		98．3．4	山茶碗	碗	H41区北西　糸切り
163　4		SR34	SD105A	—	98．2．10	山茶碗	碗	H42区　未上釉
163　5		SR34	SD105A	—	98．2．10	山茶碗	小皿？	H42区　高台重ね焼き痕
163－6		SE 3	SX23	—	97.12.26	須恵器	坏身	
163－1		SR51	SD148	—	98．9．17	山茶碗	碗	J46区南内　笠井51号線
163－2		SR51	SD148		98．9．16	山茶碗	碗	I45区北東　笠井51号線

第40表　土器一覧表18

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
163－3		SR51	SD148		98. 9. 24	山茶碗	小皿	Ⅰ44区北西　笠井51号線
163　4		SR51	SD148		98. 9. 25	灰釉陶器	碗	笠井51号線　縁付変り
163　1		SD34	SD151	1208	98. 10. 8	須恵器	坏蓋	98. 10. 9　笠井51号線
163　2		SD34	SD151	—	98. 10. 6	山茶碗	碗	上層　底外面赤茶　笠井51号線
163－1		SE 6	SE 4	1073	98. 10. 21	灰釉陶器	碗	曲物の外側より　歯痕　笠井51号線
163－1		SR39	SD150		98. 10. 9	山茶碗	碗	Ⅰ45区北東　Ⅱ44区南西　98. 10. 12　10. 13　笠井51号線
163－2		SR39	SD150	—	98. 10. 6	山茶碗	碗	Ⅱ44区北東　笠井51号線
163－3		SR39	SD150	1195	98. 10. 6	山茶碗	碗	上層　笠井51号線
163－4		SR39	SD150	—	98. 10. 6	山茶碗	碗	Ⅱ44区北東　笠井51号線
163－5		SR39	SD150		98. 10. 9	山茶碗	碗	SR39覆土　笠井51号線
163－6		SR39	SD150	1173	98. 10. 6	山茶碗	小皿	馬出　笠井51号線
163－7		SR39	SD150		98. 10. 12	須恵器	脚	下層　笠井51号線
163－8		SR39	SD150	1173	98. 10. 9	土師器	鍋	伊勢型鍋　笠井51号線
164－1		SF60	SX 5	1240	97. 8. 28	土師器	壺	
164－2		SF60	SX 5	1551	97. 8. 28	土師器	甕	97. 8. 29　外面煤付着
164　1		P684	P153	—	97. 11. 21	須恵器	坏蓋	
164　2		P684	P153	1249	97. 11. 25	須恵器	坏身	
164　3		P697	P152	1241	97. 11. 25	土師器	高坏	
164　4		P697	P152	1253	97. 11. 25	土師器	高坏	
164　5		P570	P151	1232	97. 11. 21	土師器	高坏	
164　6		P570	P151	1219	97. 11. 21	土師器	高坏	
164－7		P610	P196		97. 12. 10	須恵器	高坏	透しあり
164－8		P652	P186		97. 12. 3	土師器	高坏	
164－9		P777	P223	1222	98. 4. 20	灰釉陶器	皿	内面釉　トチン痕
164　10		P765	P169	1268	97. 11. 25	土師器	甕	外面煤付着
164－1		SX 4	SX 1	1274	97. 8. 12	須恵器	坏蓋	
164－2		SX 4	SX 1	—	97. 7. 30	須恵器	坏身	
164－3		SX 4	SX 1	1262	97. 8. 12	須恵器	坏身	口縁部矢る
164－4		SX 4	SX 1	1264	97. 8. 12	須恵器	高坏	
164　5		SX 4	SX 1	1274	97. 8. 12	土師器	高坏	四方透し
164　6		SX 4	SX 1	—	97. 8. 11	土師器	高坏	
164　7		SX 4	SX 1	1273	97. 8. 12	土師器	高坏	
164　8		SX 4	SX 1	1274	97. 8. 12	土師器	坏	
164　9		SX 4	SX 1	1272	97. 8. 12	土師器	坏	
164　10		SX 4	SX 1	1272	97. 8. 12	土師器	坏	
164　11		SX 4	SX 1	—	97. 7. 30	土師器	手捏ね	焼成前穿孔
164　12		SX 4	SX 1	1261	97. 8. 12	土師器	甕	平田型
164　13		SX 4	SX 1	1268	97. 8. 12	土師器	甕	97. 8. 11　外面煤付着
164－1		SX 3	SX 1	1275	97. 8. 12	土師器	甕	外面胴部下半煤付着
165－3		SF60	SX 5	1245	97. 8. 28	須恵器	甕	97. 8. 27
165－4		SF60	SX 5	1265	97. 8. 29	土師器	壺	97. 8. 27
165　1		SX 1	SX 7	1250	97. 9. 9	土師器	甕	口縁部内面・外面煤付着
165　2		SX 1	SX 7	1250	97. 9. 9	土師器	甕	
165－3		SX 1	SX 7	1257	97. 9. 9	土師器	台付甕	
165－4		SX 1	SX 7	1253	97. 9. 9	土師器	武蔵	外面煤付着
165　5		SX 1	SX 7	1253	97. 9. 9	土師器	高坏	
165－6		SX 1	SX 7	1259	97. 9. 9	土師器	高坏	
165－7		SX 1	SX 7	1259	97. 9. 9	土師器	坏	
165　8		SX 1	SX 7	1257	97. 9. 9	土師器	坏	
165　1		SX 2	南区焼土内	—	97. 9. 5	須恵器	壺	97. 9. 18
165　2		SX 2	南区焼土周辺	1255	97. 9. 30	土師器	鉢	
165　1		SX 5	SX 3	1280	97. 8. 13	須恵器	甕	
165　2		SX 5	SX 3	1268	97. 8. 13	須恵器	壺	97. 9. 13
165－3		SX 5	SX 3	—	97. 9. 30	須恵器	甕	
165　4		SX 5	SX 3	1271	97. 9. 12	須恵器	坏蓋	97. 9. 11　生物付
165　5		SX 5	SX 3	1282	97. 8. 13	須恵器	坏身	97. 8. 12　9. 11
165－6		SX 5	SX 3	1281	97. 8. 13	須恵器	坏身	
165－7		SX 5	SX 3	1280	97. 8. 13	須恵器	坏身	
165－8		SX 5	SX 3	—	97. 9. 29	須恵器	坏身	
165－9		SX 5	SX 3	—	97. 10. 1	土師器	坏	
165－10		SX 5	SX 3	1267	97. 9. 30	土師器	手捏ね	
165－11		SX 5	SX 3	—	97. 9. 12	土師器	手捏ね	
166－1		南区包含層	南区包含層	1255	97. 10. 6	須恵器	甕	97. 9. 11　内面すり消し
166－2		南区包含層	SX10	1247	97. 9. 25	須恵器	坏蓋	墨印
166－3		南区包含層	SX 4	1265	97. 8. 29	須恵器	坏蓋	
166－4		南区包含層	南区包含層	—	97. 7. 16	須恵器	坏蓋	
166－5		南区包含層	S T 13	1232	97. 10. 6	須恵器	坏身	
166－6		南区包含層	南区包含層		97. 8. 4	須恵器	坏身	外面格子目タタキ
166－7		南区包含層	南区包含層		97. 7. 28	須恵器	高坏	内外面黒色
166－8		南区包含層	SX 6 外北	—	97. 9. 9	土師器	甕	97. 9. 3　外面煤　内面線刻
166－9		南区包含層	SX10	1241	97. 9. 25	土師器	甕	

第41表　土器一覧表19

図番号	写真図版	遺構	出遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	器種	備考
165　10		南区包含層	SX 9	1261	97. 9.12	土師器	甕	外面煤付着
165　11		南区包含層	SX10	1237	97. 9.25	土師器	高坏	内外面煤付着
165　12		南区包含層	南区包含層	1240	97. 8. 6	土師器	底部	南起　中央部焼上周辺　内外面赤彩
166　1		SX 7	SX11	1267	97.10.23	須恵器	壺	外面黒灰色
166　2		SX 7	SX11	—	97.10.22	須恵器	坏身	
166－3		SX 7	SX11	1258	97.10.23	土師器	壺	外面煤付着
166　4		SX 7	SX11	1258	97.10.23	土師器	甕	外面煤付着
166　5		SX 7	SX11	1261	97.10.23	土師器	甕	
166　6		SX 7	SX11	1260	97.10.23	土師器	甕	
166－7		SX 7	SX13	—	97.11.11	土師器	高坏	
166－8		SX 7	SX11	1260	97.10.23	土師器	高坏	
166－9		SX 7	SX11	1259	97.10.23	土師器	高坏	
166－10		SX 7	SX11	1255	97.10.23	土師器	高坏	
166－11		SX 7	SX11	—	97.11.18	土師器	鉢	
166－12		SX 7	SX11	1275	97.10.23	土師器	手捏ね	
166－13		SX 7	SX11		97.11.18	土師器	小型壺	
166　14		SX 7	SX11	1254	97.10.23	土師器	甕	
166　1	48	SX 9	SX12	1271	97.10.23	須恵器	坏蓋	内面再調整　口縁部外反
166　2	48	SX 9	SX12	1275	97.10.23	須恵器	坏蓋	内面再調整　口縁部外反
166　3	48	SX 9	SX12	1272	97.10.23	須恵器	坏蓋	内面再調整　窯出
166－1	48	SX10	SX13	1273	97.11. 5	須恵器	坏蓋	内面再調整
166－2	48	SX10	SX13	1275	97.11. 5	須恵器	坏身	内面再調整　口縁部外反
166　1		中区包含層	中区包含層		97.11.25	須恵器	壺	G31区南東
166　2		中区包含層	中区包含層	1283	97.11.19	須恵器	壺	G31区北西
166　3		中区包含層	中区包含層	1268	97.11.19	須恵器	甕	G31区中央
166　4		中区包含層	中区包含層		97.10.15	須恵器	坏蓋	調査区西西部
166　5	48	中区包含層	SX19	1253	97.11.21	須恵器	坏身	F30区南西　口縁部外反
166　6		中区包含層	中区包含層	1270	97.11.19	須恵器	高坏	F32区北西　G33区北西　四方透し
166　7		中区包含層	中区包含層	1271	97.11.19	須恵器	高坏	G33区北西
166－8		中区包含層	中区包含層		97.11. 6	須恵器	高坏	G32区南東
166－9		中区包含層	中区包含層		97.10.21	須恵器	甕	G31区北東
166－10		中区包含層	中区包含層		97.10.15	須恵器	甕	調査区南西部
166－11		中区包含層	中区包含層	1253	97.10.28	須恵器	壺	H33区北東・南東　手持ちヘラ削り
166－1		北区包含層	北区包含層	—	97.12.12	灰釉陶器	碗	SD34？
166－2		北区包含層	北区包含層	—	97.12.18	灰釉陶器	鉢	H31・42区　97.12.24　1.28　3.5　ヘラ削り
166　3		北区包含層	北区包含層	—	98. 2.16	土師器	底部	I 44区南西　内外面赤彩
166　1		51号包含層	51号線包含層	—	98. 9.30	須恵器	壺	I 45区杭南3m　糸切り

第3節　土製品（別冊167・168図）

土製品には形代類や手捏ね土器などのミニチュア品（土器実測図版に掲載）といった祭祀具と鞘羽口、紡錘車、支脚や土錘がある。

形代類には人形と動物形、丸玉形がある。人形の形態は簡略化され、足の付いた棒状の土製品に目と口のみが表現されている。SR33のみから検出されている。動物形には陶製（7・35）と土製のものがある。35はSR30に伴っていた可能性が高い。土製のものの多くは破片で出土しており、種を確定し難いが、尾が上がり鞍の表現があるものが多いため、ここでは土馬と一括する。形代類のほとんどは流路跡内から出土しており、ここでは主なものについて出土遺構別に説明する。

北区SR30南西上層からは、土馬1～6がまとまって土師器坏などと伴出した（別冊75図）。8もその周辺上層から出土した。浜松市西畑屈遺跡（太田1999）では、土馬が手捏ね土器で飲食をしているかのような状況で発見されており、坏や手捏ね土器の中には、神人用だけではなく、土馬用の飼葉桶であったものも含まれているようである。周辺からは墨書土器（別冊158・161図69・154）や牛の顎骨も出土している。牛の顎骨は、SR33の土馬出土地点の上層からも出土している。馬の顎骨が多数出土したSR42からは土馬は2点のみで、土馬を祭祀に用いる場合には牛が選択されていた可能性もある。時期的な問題があり、類例も乏しいため今後の検討課題である。獣骨と土馬は共伴状態ではなかったが、ほぼ同一地点よりそれほど時期を違わずして遺棄されており、雨乞いなどの儀礼の際に両者が使われていた状況を示す資料として興味深い。土馬3・8は偶然かもしれないが表面が黒色で、人為的に焼き色を変えたとすると、『続日本紀』の中の祈雨のため黒毛馬が奉納された光仁朝の記事と関係するかもしれない。SR30北肩部上層からは、土製丸玉形が甑のミニチュア品（別冊160図101）と共伴した。土器は細く砕かれたかのような状態で出土しており、丸玉が内部にあったかは不明である。最下層からは9・11・14～17の土馬と7の陶馬が奈良時代の多量の土器と共に出土した。陶馬には手綱が刻まれているが、その他の馬具は表現されていない。

SR33（別冊77図）からは、鞍が表現された細身の土馬と人形3点が同一地点より出土した（23～32）。人形は当遺跡からはこの3点のみで、他遺跡例と同様に土馬の数と比べると非常に少ない。破片ではあるが赤彩された土師器壺が伴出しており、SR36の在り方と類似する。出土した土器の多くがSE4と重複した西端部からのものであり、時期は確定できないが平安時代初頭頃と思われる。

SR36からも、使用による摩滅の認められない土師器壺と小型の土馬2点が上層より出土した（別冊77図）。出土土器から、奈良時代から平安時代にかけてのものと考えられる。

土馬の形態は様々であり、遺跡間でも違いが認められ、その形態分類は困難である。しかし、当時の人々が馬を十分に知っていたであろうことは馬骨の出土から明らかであり、あまりにも写実性に欠ける点は注意すべきである。土馬のモデルは、実際の馬よりむしろ陶馬や土馬自体ではなかったかと考えている。陶馬（7）と部分的ではあるが、よく似た形態の土馬（8・14・15）があり、恒武山ノ花遺跡（鈴木1998）の胴部が弯曲した土馬を介して、尾が水平で顔の表現の無い1・2・6などへ変遷したと考えることも可能である。小型の土馬は、当遺跡では大型例と共存しており、当初は大型例の土馬と似た作りをしていたのではないかと考えている。その後、脚部を別々に作り張り付けるものから、粘土塊や貼付した粘土紐より脚部をつまみ出して作るものになると、脚部は短く細部の作りも雑となり、33・34のように頭か尾かもわからなくなるほど形骸化し、胴部は偏平化するものと考えている。作り手の個人差と時期差などのように分けるかは今後の課題であるが、陶馬7を祖形とする系列の変遷案を第19図に示しておく。

42～48は鞴の羽口で、42のトーン範囲は黒化部分で、その他のトーン範囲は赤化部分である。42はSR43

最下層（18層）出土で、7世紀以前のものである。43は南区北東部の集水桝設置の際に発見されたもので、5・6世紀の土器と共に出土した。44・45はSD21の下の溝から出土している。

50・51は丸玉で、中区南東部の包含層から検出された。

49は比較的厚みのある紡錘車で、裾部は不明瞭ではあるが面取りされている。周辺からは古墳時代中・後期の土器が多く出土しており、当該期のものと考えれられる。

52～66は漁撈網用の錘である。

これらの他に、SR16からは臼型土製品（別冊135図51）が、奈良時代のSR42からは皮袋形土製品（別冊145図167）や古墳時代中期のSF49からは土製支脚（別冊129図20）が出土している。

手捏ね土器は多数出土している。その多くは坏状を呈するものが大半で、次いで甑形が多い。その他に、壺形や蓋形なども存在する。SR45からは古墳時代中・後期の手捏ね土器（別冊156図205～209）なども認められるが、ほとんどは奈良時代以降のものである。

坏状の手捏ね土器は、内面はヘラにより整形されているが、外面は粘土紐痕が残る雑な作りのものが多い。完形に復元できたものも多く、使用による摩滅痕が認められないものがあることから、祭祀用と考えられる。

これらの手捏ね土器は、奈良時代の旧河道からは多量に発見されているが、平安時代前期のSR41（別冊139・140図）からは出土していない。この時期より、手捏ね土器が多用されなくなる可能性がある。

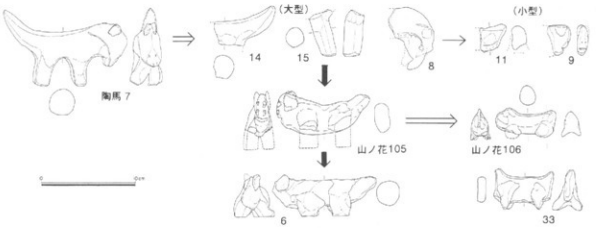
引用・参考文献

小笠原好彦　1975「土馬考」『物質文化』25

水野正好　1983「馬・馬・馬　―その語りの考古学―」『奈良大学文化財学報』第2集

鈴木敏則　1998『山ノ花遺跡　遺物図版編』　㈶浜松市文化協会

太田好治　1999『西畑屋遺跡』　㈶浜松市文化協会



第19図　土馬の形態変遷案

第42表　土製品一覧表

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高(cm)	取上日	種別	備考
167－1	77	SR30	SD112	1255	98．2.18	土馬	上層
167－2	77	SR30	SD112	1259	98．2.18	土馬	上層
167－3		SR30	SD112	1228	98．2.24	土馬	上層
167－4		SR30	SD112	1226	98．2.24	土馬	上層
167－5		SR30	SD112	1227	98．2.24	土馬	上層
167－6		SR30	SD110	1264	98．2.12	土馬	上層
167－7	77	SR30	SD110	1112	98．3.18	陶馬	最下層
167－8	77	SR30	SD110	—	98．2.12	土馬	G39区南東下層　No.1～6周辺
167－9		SR30	SD110	—	98．3.17	土馬	I 40区南西　最下層
167－10		SR30	SD110	—	98．3.18	土馬	G39区北西　北辺上層
167－11		SR30	SD110	—	98．3.18	土馬	G39区東　最下層
167－12		SR30	SD110	—	98．3.10	土馬	H40区南西　北辺上層
167－13		SR30	SD110	1229	98．7．2	土馬	上辺
167－14		SR30	SD110		98．3.17	土馬	H39区北西　最下層
167－15		SR30	SD110	1132	98．3.19	土馬	最下層
167－16		SR30	SD110	1147	98．3.17	土馬	最下辺
167－17		SR30	SD110	—	98．3.19	土馬	G39区北東　最下辺
167－18	77	SR30	SD110	—	98．3.11	丸玉形	G39区西東　中辺
167－19	77	SR30	SD110	1228	98．3.13	丸玉形	上層
167－20	77	SR30	SD110	1228	98．3.13	丸玉形	上層
167－21	77	SR30	SD110	1228	98．3.13	丸玉形	上層
167－22	77	SR30	SD110	1228	98．3.13	丸玉形	上層
167－23		SR33	SD115B	1203	98．3．5	土馬	
167－24		SR33	SD115B	1203	98．3．5	土馬	
167－25		SR33	SD115B	1203	98．3．5	土馬	
167－26		SR33	SD115B	1235	98．3．5	土馬	
167－27		SR33	SD115B	1218	98．3．5	土馬	
167－28		SR33	SD115B	1222	98．3．5	土馬	
167－29		SR33	SD115B	1219	98．3．5	土馬	
167－30	77	SR33	SD115B	1235	98．2.26	人形	
167－31		SR33	SD115B	1203	98．3．5	人形	
167－32		SR33	SD115B	1234	98．3．5	人形	
168－33		SR36	SD124	1237	98．3．9	土馬	
168－34	77	SR36	SD124	1253	98．3．5	土馬	
168－35		SR37	SD122	—	98．3．6	陶馬	I 41区南西　SR30？
168－36		SR41	SD141	1188	98．7.10	土馬	
168－37		SR42	SD142	1120	98．7．5	土馬	
168－38		SR42	SD142	—	98．7.22	土馬	G35区北西
168－39		SR16	SD3	—	97．8.11	土馬	F26区
168－40		SR19	SD9	—	97．8.21	土馬	G28区
168－41		南区包含層	南区包含層		97．7.18	土馬	E26区北西
168－42	108	SR43	SD143	1156	98．8．7	鞍羽口	
168－43	108	—	—	—	97．7．9	鞍羽口	南区北東部集水桝
168－44		SD21外下	SD90	—	97.12.11	鞍羽口	
168－45		SD21外下	SD90	—	97.12．9	鞍羽口	
168－46		SR28	SD92	1213	98．1.23	鞍羽口	H36区北西
168－47		中区包含層	中区包含層	—	97.11．7	鍛冶	E 8区
168－48		包含層	包含層	—	96.12.12	鍛冶	調査区中央北端部
168－49		南区包含層	SX 4外北	1267	97．8.28	鋳鉄滓	
168－50	カラー10	中区包含層	中区包含層	1264	97.11．4	土玉	
168－51	カラー10	中区包含層	中区包含層	1237	97.11．6	土玉	
168－52		SR 1	SD124	1120	97．2.21	土錘	
168－53		SE 1	SE 1		96.11.25	土錘	最上層
168－54		SR 6	SD 5	—	96.12.27	土錘	E 8区
168－55		SF15	P127	—	97．1.23	土錘	E 8区南東
168－56				—	97．7.23	土錘	F26区南東
168－57		南区包含層	南区包含層	—	97．7.16	土錘	調査区南西部
168－58		南区包含層	南区包含層	—	97．7.18	土錘	調査区南西部
168－59		南区包含層	南区包含層	1267	97．7.18	土錘	調査区南西部
168－60		南区包含層	南区包含層	1277	97．8．7	土錘	E27区
168－61		南区包含層	南区包含層	1260	97．7.25	土錘	F27区南西
168－62		中区包含層	中区包含層	1278	97.10.22	土錘	H33区北西
168－63		北区包含層	SX20	1252	98．2.12	土錘	H42区南西
168－64		SR30	SD110	—	98．3.17	土錘	H39区北東
168－65		SR30	SD110	1235	98．3.13	土錘	
168－66		SR39	SD150	1187	98.10．5	土錘	竪#51付近

第4節　ガラス製品と石製品（別冊169図）

ガラス製品は恒武西浦遺跡のSR45より、コバルトブルーのガラス玉が2点出土している（81・82）。竪櫛の周辺から出土したもので、数量はもう少し多かった可能性は高い。上層のSR42出土の勾玉（75）も近距離からの出土であり、装身具がまとめて投棄されたのかもしれない。

石製品のほとんどは石製模造品である。恒武西宮遺跡からは306点、西浦遺跡からは83点が検出された（原形不明の破片を含む）。山ノ花遺跡（鈴木1998）からは2638点が検出されており、恒武遺跡からは合計で3027点の石製模造品が出土していることになる。浅羽町古新田遺跡（柴田稔1992）からは2775点以上が検出されており、豪族居館からの出土量に匹敵する。

山ノ花遺跡は大量の土壌を水洗しており、参考までに臼玉以外の石製模造品の種別毎の割合を示すと、勾玉形0.3%（7点）、円板0.8%（双孔19点、単孔3点）、剣形0.2%（4点）、管玉形0.3%（7点）である。古新田遺跡でも水洗していることから比較資料として挙げると、勾玉形0.7%（20点）、管玉形0.2%（5点）、剣形0.04%（1点）となり、円板は出土していない。剣形が少ない点は恒武遺跡と共通するが円板が認められない点は注意したい。祭祀の内容が異なる可能性がある。何れにしても、臼玉以外は総数の1％未満と非常に少なく、1回の祭祀行為に対して、必ずその組成の中に一定の割合が占められていたとは考えられない。

恒武西宮遺跡のSF9からは比較的まとまった資料が得られている。280点の石製模造品があり、勾玉形1.4%（4点）、円板3.6%（10点）、剣形0.4%（1点）である。TK208型式前後の古新田遺跡例の勾玉形が三日月形を呈するものが多いのに比して、SF9にはC字形の勾玉形が多く、1点丁寧に研磨された角の丸い古式の例も認められる。よって、SF9はTK208型式期より古く、臼玉以外の種類も多く用いられていたのかもしれない。臼玉も側面中位に稜を有するもの、もしくは、やや膨らんでいる古式の例が比較的多い。

臼玉以外の石製模造品はその実測図の掲載に努めたが、整理期間の関係上、臼玉の実測は全てには及ばなかった。恒武西宮遺跡出土の臼玉は、中村智子（元当研究所技術作業員）によってその形態別の計測が行われており、第21図はその計測値を柴田が再編集したものである。中村によると、SF9出土例が大半を占める173個の内、側面中位に稜のある例が14%（24個）、稜の無い例が47%（82個）であり、形態の差による分布の偏りは無く、最大径は4～5mmの間、最大厚は2～3mmの間に分布の中心があるとされている。当初は、型式学的に有稜から無稜へと変遷するものと考え、形態別に計測値のまとまりがあり、無稜のものは大量生産による計測値の縮小があるのではないかと考えたが、結果は形態毎の大きさのバラつきの方が目立つことになった。これは、特定工人（集団）の手によるものと考えるより、不特定多数の一般成員によってつくられた結果と考えたい。当遺跡からは、石製模造品より軟質の滑石片が微量発見されている（第20図）が、石製模造品の製作に関わる遺物は出土していないため、集落内で作られたのかは不明と言わざるを得ないが、割れ面の古い欠損品や作りが雑なものが多いなど、一部は集落内で作られた可能性がある。

SR4北東端中層からは紡錘車形石製品も出土している。濃緑色の硬質の滑石製と思われるもので、裾広がりの側面には線刻があり、端部は丁寧に面取りされている。

恒武西浦遺跡からも多数の石製模造品が出土したが、SF9のように多数が集中する地点は無く、耕作による攪乱などの影響もあろうが、むしろ散在して出土しているかのような状況で（別冊58・73図）、北区からは検出されなかった。

南区からは勾玉形が4点、円板が6点、剣形が1点、管玉形が1点、臼玉が30点検出された。勾玉形の中には小型で作りの丁寧な古式のものが存在する。

中区からは勾玉形が4点、円板が1点、臼玉が32点検出された。これらの多くは北側の旧河道内からの出土である。SR45からは11点と少ないが、これは部分的な土壌水洗の結果、それほど多くが出土しなかったため途中で水洗を断念したことによるためで、本来はかなり多かったものと考えられる。

第22図に恒武西宮遺跡と同様の手法で、56点の臼玉計測値のグラフを掲載したので参照していただきたい。

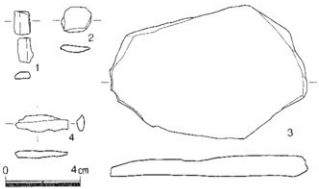
石製模造品の他に、砥石、石斧、管玉、石筆や碧などの石製品がある。砥石は多数出土したが、時間的余裕がなく図化できていないものが多い。ほとんどは河原石を転用したものであるが、携帯用のものが1点出土したので掲載した（57）。石斧も1点のみ出土した（74）。一部擦痕も観察されるが、全体に敲打により仕上げられ、刃部は欠損している。縄文時代晩期から弥生時代中期のものであろう。古墳時代中・後期の管玉は2点が近くから出土している。69は緑色の碧玉で両端部の角が敲打によって潰されており、70は黒褐色の凝灰岩で欠損が著しい。

引用・参考文献

白石太一郎 1985「神まつりと古墳の祭祀　―古墳出土の石製模造品を中心として　」『国立歴史民俗博物館研究報告　第7集』　国立歴史民俗博物館

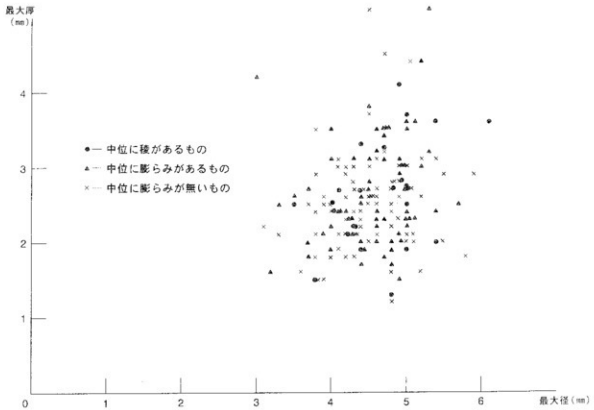
柴田　稔　1992『古新田Ⅰ』　浅羽町教育委員会

鈴木敏則　1998『山ノ花遺跡　遺物図版編』　㈶浜松市文化協会

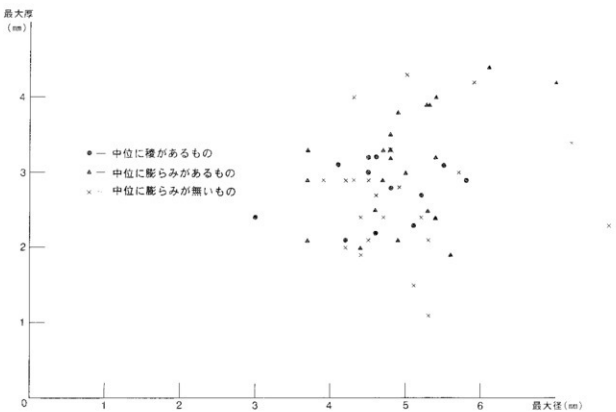


1：恒武西宮遺跡Ｐ206、２：南区ＳＢ２上層
３：南区Ｆ26区包含層、４：中区ＳＤ25

第20図　恒武遺跡出土滑石片



第21図　恒武西宮遺跡出土臼玉計測値分布図



第22図　恒武西浦遺跡出土臼玉計測値分布図

第43表　石製品一覧表 1

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高 (cm)	取上日	石材	種別	備考
169－1	カラー10	SF 9	SX11	1164	97. 2.21	滑石	勾玉形	
169－2	カラー10	SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	勾玉形	
169－3		SF 9	SX11	1155	97. 2.21	滑石	勾玉形	
169 4	カラー10	SF 9	SX11	1163	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169 5	カラー10	SF 9	SX11	1158	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169 6	カラー10	SF 9	SX11	1153	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169－7	カラー10	SF 9	SX11	1161	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169 8		SF 9	SX11	1158	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169 9	カラー10	SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石		
169－10		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－11		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－12		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－13		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－14		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－15		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－16		SF 9	SX11		97. 2.21	滑石	臼玉	
169－17		SF 9	SX11		97. 2.21	滑石	臼玉	
169 18		SF 9	SX11		97. 2.21	滑石	臼玉	
169 19		SF 9	SX11	1167	97. 2.21	滑石	臼玉	
169 20		SF 9	SX11	1165	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－21		SF 9	SX11	1165	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－22		SF 9	SX11	1167	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－23		SF 9	SX11	1164	97. 2.21	滑石	臼玉	
169 24		SF 9	SX11	1165	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－25		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－26		SF 9	SX11	－	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－27		SF 9	SX11		97. 2.21	滑石	臼玉	
169－28		SF 9	SX11	1165	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－29		SF 9	SX11	1163	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－30		SF 9	SX11	1167	97. 2.21	滑石	臼玉	
169 31		SF 9	SX11	1167	97. 2.21	滑石	臼玉	
169 32	カラー10	SR 3	SD134	1144	97. 2.21	滑石	剣形	
169 33	カラー10	SR 3	SD134	1144	97. 2.21	滑石	勾玉形	
169－34	カラー10	SR 3	SD134		97. 2.21	滑石	双孔円板	
169－35	カラー10	SR 3	SD134	1159	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169－36	カラー10	SR 3	SD134	1157	97. 2.21	滑石	双孔円板	
169－37	カラー10	SR 3	SD134	1146	97. 2.21	滑石	無孔円板	
169－38	カラー10	SR 3	SD134	－	97. 2.21	滑石	単孔円板	未研磨　作りは雑
169－39		SR 3	SD134	1149	97. 2.21	滑石	臼玉	
169 40		SR 3	SD134	1153	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－41		SR 3	SD134	1161	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－42		SR 3	SD134	1153	97. 2.21	滑石	臼玉	
169－43		SR 3	SD134	1149	97. 2.21	滑石	臼玉	
169 44	カラー10	SD 2	SD122	－	－	滑石	双孔円板	
169 45	カラー10	SF47	SF11	－		滑石	勾玉形	
169－46	カラー10	P 377	P 6		－	滑石	勾玉形	
169－47	カラー10	SR 4	SD69		－	滑石	紡錘車形	SR 4 北端
169－48		SF 8	SX12		－	滑石	臼玉	
169－49		SF49	SF 9	－		滑石	臼玉	
169－50		SF32	SX20			滑石	臼玉	
169－51		SR 5	SD102	－		滑石	臼玉	SR 5 確認面
169－52		SR10	SD10	－	97. 1.11	滑石	臼玉	D14区
169－53		P 215南の細溝	SD94	－	－	滑石	臼玉	
169 54		SD 9	SD57	－	－	滑石	臼玉	
169 55		SF49	SF 9			滑石	臼玉	
169 56		P 107	P 194			滑石	臼玉	
169－57		包含層	包含層	－	96.12.13	流紋岩質凝灰岩	砥石	E12区
169 58	カラー10	SR14	SD1	1245	97. 7.31	滑石	勾玉形	
169 59	カラー10	SR21	SD11	1256	97. 8.20	滑石	勾玉形	
169 60	カラー10	南区包含層	南区包含層	1230	97. 9.25	滑石	勾玉形	F23区北西
169－61	カラー10	SR17	SR 1	1239	97.10. 3	滑石	勾玉形	E28区中央南
169－62	カラー10	SR14	SD 1	1251	97. 8. 3	滑石	双孔円板	
169－63	カラー10	南区包含層	南区包含層	1239	97. 9. 3	滑石	単孔円板	F23区北西
169－64	カラー10	南区包含層	南区包含層	1236	97. 9. 4	滑石	双孔円板	G25区南西
169－65	カラー10	SX 2	南区修土周辺	1255	97. 9.29	滑石	双孔円板	
169－66	カラー10	南区包含層	南区包含層	－	97. 7.23	滑石	双孔円板	E29区中央南
169－67	カラー10	南区包含層	南区包含層	－	97.10. 3	滑石	双孔円板	F24区北東
169－68		SR 4	SR 2	－	97.10. 1	滑石	剣形	G29区
169－69	カラー10	SX 4	SX 1	1273	97. 8.12	銅玉	管玉	
169－70	カラー10	SB 3 ?	SB 1 ?	1273	97. 8.18	黒褐色凝灰岩	管玉	F26区北東　SB 1 確認面の上
169－71	カラー10	SR19	SD 9	1243	97. 8.21	滑石	管玉形	
169－72	カラー10	南区包含層	南区包含層	1242	97. 9.30	滑石	臼玉	F25区北西　大型
169－73	カラー10	南区包含層	南区包含層	1265	97. 9.18	滑石	臼玉	G29区南東　大型

第44表　石製品一覧表 2

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高 (cm)	取上日	石材	種別	備考
169—74		SR16	SD3		97. 8. 1	硬質砂岩	石斧	F26区南東
169—75	カラー10	SR42	SD142	1103	98. 7.22	メノウ	勾玉	
169—76	カラー10	SR42	SD142	1110	98. 7.28	滑石	勾玉形	
169—77	カラー10	SR43	SD143	1106	98. 8.12	滑石	勾玉形	
169—78	カラー10	SR45	SD145	1082	98. 9.18	滑石	勾玉形	
169—79	カラー10	中区包含層	中区包含層	1270	97.10.23	滑石	勾玉形	G31区中央南
169—80	カラー10	SR45	SD145	1154	98.10. 6	滑石	双孔円板	
169—81		SR45	SD145	1070	98. 9.10		ガラス玉	
169—82		SR45	SD145	1070	98. 9.10		ガラス不	
169—83	108	SR24	SD83	1225	98. 1. 9	頁岩	石錘	H35区北東
169—84	108	SD33	SD101	1218	98. 2.13	頁岩	石錘	I42区北東コーナー
169—85	108	北区包含層	北区包含層		98. 1.23	粘板岩	砥	H42区北西

第45表　鉄製品一覧表

図番号	写真図版	遺構	旧遺構	出土標高 (cm)	取上日	器種	備考
170—1	108	SR 5	SD102	1114	97. 2.18	鉄鏃？	C 8区南東北肩部
170—2	109	SR 4	SD69	—	97. 1.23	鉄斧	C 8区南西
170—3	108	包含層	包含層		96.11. 3		調査区北東部
170—4	109	SR16	SD 3	1260	97. 8.13	鎌	
170—5	109	SR16	SD 5	1216	97. 8.21	鎌	
170—6	109	SR16	SD 5	1255	97. 8.25	鎌	
170—7	109	SR16	SD 5	—	97. 8. 8		F27区杭付近
170—8	109	SR16	SD 5	1243	97. 8.12		
170—9	109	SR19	SD 9	1249	97. 8.20		
170—10	109	SR19	SD 9	1253	97. 8.21		
170—11	109	SR19	SD 8	—	97. 8.27	刀子？	G28区西
170—12	109	SR19	SD13	—	97. 9.10	鉄鏃	E27区北東
170—13	110	SR29	SD67	—	98. 6. 8	鉄鏃	H38区南西
170—14	110	SR30	SD110	1178	98. 3.16		
170—15	110	SR30	SD110	1124	98. 3.18	鉄滓	
170—16	108	SR30	SD110	1136	98. 3.17	鉄滓	
170—17	110	SR30	SD110	1242	98. 3.10	鉄滓	
170—18	110	SR30	SD110	1242	98. 3.10	鉄滓	
170—19	110	SR31	SD127	1239	98. 3.13	刀子	170—20と同一個体か？
170—20	110	SR31	SD127	1238	98. 3.13	刀子	170—19と同一個体か？
170—21	110	SR33	SD115B	1130	98. 2.26	鉄滓	
170—22	111	SR36	SD124	1209	98. 3.11	鉄滓	
170—23	108	SR45	SD145	1068	98. 9.17	鉄鏃	
170—24	110	SR46	SD140	1235	98. 6.17	刀子	G38区南東確認面
170—25	110	SR46	SD140	1238	98. 6.17	刀子	G38区南東確認面
170—26	111	SD33	SD101	1226	98. 2.13	鎌	I42区北東コーナー
170—27	111		SD116	1223	98. 2.23	鉄斧	J44区南西　細溝内
170—28	111	P677	P88	—	97.11.10		
170—29	111	SX 6	SX 3	1268	97. 9.12		
170—30	111	SX 8	SX19 SD68		97.11.19		
170—31	111	南区包含層		1271	97. 8. 5	飾金具	
170—32	111	南区包含層		—	97. 9.10	鉄鏃	

第５節　鉄製品と鉄滓（別冊170図）

鉄製品と鉄滓は流路跡や包含層から多くが発見されており、その他の遺構に伴う例はあまり無い。鍛冶遺構は確認できなかったが、羞羽口や鍛冶滓が出土しており、遅くとも７世紀段階には集落内で鍛冶が行われていたと考えられる。

恒武西宮遺跡からは鉄製品が２点、鉄滓が１点出土し、恒武西浦遺跡では鉄製品が南区43点、中区18点、北区21点、鉄滓と思われるものが南区12点、中区29点、北区12点（明らかに現代のものは除く）発見されている。これらのほとんどは、原形がわからないほど錆が進行し、中は空洞化している。そのため、鉄製品はＸ線写真によって形状を図化しており、実際の大きさとは多少異なるものがある点は注意していただきたい。

恒武西宮遺跡では、SR５罰部より小型の鎌（１）とSR４より大型の鉄滓（２）が出土した。古墳時代中・後期のものである。

恒武西浦遺跡からは、流路跡などから比較的多くの資料が出土した。

南区SR16からは端部を折り曲げた鎌と思われる破片が３点出土し（４～６）、４は奈良時代の土器と伴出した。８も奈良時代で、何かの止め金であろうか。７はＦ27杭周辺上層から発見されたもので、円環に鉄芯が巻かれている。

南区SR19からは４点出土し（９～12）、原形をとどめているものは12の鉄鏃のみである。この鉄鏃の頸部断面形態は円形で、中世の所産であろう。

中区SR29からも、混入品であろうが片刃の長頸鏃（13）が出土している。

23も中区SR45出土の片刃長頸鏃で、茎は当初より折れていた可能性が高い。古墳時代中期の祭祀具も周辺より出土しているが、祭祀用か漁撈用であるかは不明である。

奈良時代から平安時代の初めにかけての北区SR30からは、鉄滓が多く出土した（15～18）。SR31出土の刀子（19・20）もSR30との合流部より出土しており、当該期のものと考えて良いであろう。茎部には柄の木質が一部遺存している。鉄滓は碗状の鍛冶滓で、細く破砕された土器や土玉と共に出土している点は注目される。

北区SR33・36からも鉄滓が出土している（21・22）。21はSR33の外側に位置しているが、遺物集中域に近いため、SR33に帰属するものと考えた。SR33・36も奈良時代から平安時代の初めにかけてのもので、祭祀色の強い遺物に伴って鉄滓が発見されており、鍛冶滓が祭祀行為の中である意味を持っていたと推測される。

北区SR46確認面に鉄製品の集中地点が存在した。時期的には不明な点も多いが、SR30の最上層に近い標高からの出土であり、奈良時代から平安時代前期にかけてのものと思われる。24は刃部がやや長いが両関の刀子であろうか。25の茎端部には木質が遺存している。

北区SD33出土の鎌（26）は江戸時代以降のものであろう。

その他、SX６出土の29は古墳時代後期の土器と伴出し、31・32は南区包含層より発見されたもので、31は飾金具のようで、32は有茎の逆刺のある三角形鏃である。

第６節　動・植物遺存体

動物遺存体については、付載４の松井論文でまとめられているので、そちらを参照していただきたい。第46表は松井先生による鑑定結果をまとめ直したものであるが、通し番号は収納容器の数を示している（松井論文中の取り上げ単位）。現地では密集したものに１つの取り上げ番号を付したが、大型のものは枝番を付けて収納容器を分けたため、実際の取り上げ番号より数量が多くなっている。表中の３・４、６～８、13・14、16・17、29・30はまとまって出土したものである。

植物遺存体については、第47・48表にグリッド別にまとめたので、細かな内容についてはそちらを参照していただきたい。植物遺存体は、調査時に偶然発見されたものや石製模造品検出のため土壌水洗した際に見つかったもので、定量的・層位的なサンプリングはしていない。そのため、時期別の量的変遷については不明であるが、桃の種子が異常に多い点は注目される。桃の種子の多くは古墳時代中期～後期初頭のSR45から検出されたが、奈良時代のSR30や平安時代前期のSR41などからも少量出土している。

古代の神話には、悪神を追い払うために桃の実が使われたことを示すものがあり、桃が祭祀に用いられていたものと考えられている。SR45からは、他に瓢箪や栗の実、サルノコシカケなどが微量出土し、G35区の礫が集中する地点からは梅？と夕顔？の種子が多く検出された。

種子の同定に際しては、静岡大学の佐藤先生と津田吉晃氏より多くの御教示をいただいた。両氏によると、桃の種子には先端の尖るものと丸いものの２系統があり、金原正明氏が指摘しているように両者は伝来の時期が異なる可能性があるとのことであった。第47・48表の「尖」と「丸」は、両氏による形態分類を示したものである。なお、植物遺存体は、静岡大学において継続して分析をお願いしている。

（柴田）

第46表　動物遺存体一覧表

図番号	種別	遺構	旧遺構	層位	取上番号	標高(cm)	取上日	グリッド	備考
1	不明	SR16B	SD5		62		97. 8. 25	—	エナメル質破片
2	不明	SR28	SD92	—		—		H37南西	エナメル質破片
3	ウシ	SR41	SD141	最下層	イ－1	1188	98. 7. 10	G36	下顎臼歯［左］P_4～M_3　後臼歯列長75mm 壮齢
4	ウシ	SR41	SD141	最下層	イ－2	1188	98. 7. 10	G36	下顎臼歯［左］P_3～P_4　老齢
5	ウシ／ウマ	SR41	SD141	最下層	15	1190	98. 7. 10	H37南西	上顎臼歯［左］
6	ウマ	SR42	SD142	最下層	A－1	1114	98. 7. 15	H37南東	下顎臼歯［右］P_2～M_3　M_3欠損　P_4・M_2 萌出間もない　若齢
7	ウマ	SR42	SD142	最下層	A　2	1115	98. 7. 15	H37南東	下顎臼歯［右］成～壮齢
8	ウマ	SR42	SD142	最下層	A－3	1112	98. 7. 15	H37南東	下顎臼歯［左］P_3～M_3　壮齢
9	不明	SR42	SD142	最下層	B	—	98. 7. 15	H37南東	
10	ウマ	SR42	SD142	下層	C	1174	98. 7. 15	H37南東	下顎［左］M_2～M_3　M_3欠損　H　52mm
11	ウシ	SR42	SD142	下層	D	1162	98. 7. 15	H37南東	下顎臼歯［右］P_4～M_2　老齢
12	ウマ	SR42	SD142	最下層	E	1124	98. 7. 21	H37南西	上顎臼歯［左］M_3萌出中（未摩耗）
13	ウマ	SR42	SD142	最下層	F－1	1124	98. 7. 21	H36北西	上顎臼歯［右］M_2　H－77mm、上顎臼歯［左］P_2～M_3　前臼歯列長92mm P_4が萌出して間もない　2～2.5歳位？
14	ウマ	SR42	SD142	最下層	F－2	1124	98. 7. 21	H36北西	切歯　上下左右不明
15	ウマ	SR42	SD142	最下層	G	1121	98. 7. 22	H36西	下顎臼歯［右］M_2・M_3　M_3未萌出　2.5～3歳、上顎臼歯［左・右］壮齢
16	ウマ	SR42	SD142	最下層	H－1	1114	98. 7. 23	G35北西	上顎臼歯［右］H－70mm　壮齢
17	ウマ	SR42	SD142	最下層	H　2	1114	98. 7. 23	G35北西	上顎臼歯［左］P_4他　未摩耗　2～2.5歳
18	ウマ	SR42	SD142	最下層	I	1099	98. 7. 23	G36	下顎臼歯［右］P_4～M_3　P_4・M_3萌出して間もない　後臼歯列長75mm
19	ウシ／ウマ	SR42	SD142	最下層	J	1099	98. 7. 23	G36南	エナメル質のみ
20	ウマ	SR42	SD142	最下層	K	1105	98. 7. 23	G36東	上顎臼歯［左］P_2～M_3　P_4・M_3萌出途　H　75mm　2.5～3歳？
21	ウマ	SR42	SD142	最下層	L	1115	98. 7. 23	G36東	上顎臼歯［右］P_2～M_3　壮齢
22	ウマ	SR42	SD142	最下層	M	1121	98. 7. 28	G35北西	上顎臼歯［右］、下顎切歯［左・右］、下顎臼歯　上顎臼歯と下顎臼歯とが重なり合っている。頭蓋がそのまま存在したのが腐食によりくずれたもの　老齢
23	ウマ	SR42	SD142	最下層	N	1107	98. 7. 28	G35北西	上顎臼歯　H—50mm
24	シカ	SR45	SD145	木層の下	—	1027	98. 10. 8	G36中央	上顎臼歯［右］M_1・M_2？
25	シカ	SR45	SD145	木層の下	—	1036	98. 10. 8	G36南西	落角［左］
26	シカ／イノシシ	SR45	SD145	木層の下	—	—	98. 10. 9	G37南西	宜骨？
27	シカ	SR45	SD145	最下層	—	—	98. 10. 29	—	上顎臼歯　南側十層帯
28	シカ	SR45	SD145	木層の下	—	—	98. 10. 9	G36南西	蹄骨［左］
29	ウシ	SR30	SD112	上層	19－1	1249	98. 2. 19	G39南西	下顎切歯、上顎臼歯［左］、上顎臼歯［右］P_2～M_3、下顎臼歯［右］P_4～M_3　M_1の高さ16mm　壮齢、下顎臼歯［左］M_1～M_3 斜めに倒れている
30	ウシ	SR30	SD112	上層	19－2	1249	98. 2. 19	G39南西	上顎臼歯［左］P_4～M_3　老齢
31	ウマ	SR33	SD115B	下層	4	1242	98. 2. 26	G41南東	上顎切歯［右］I_1～I_3、［左］I_1・I_2、下顎切歯［右］I_1・I_2、［左］I_1・I_2、上顎臼歯［右］P_2～M_3　臼歯列長159mm(小型)、下顎臼歯［右］P_2～M_3、下顎臼歯［左］P_2～M_3　P_4の摩耗がある程度進む　M_3萌出途　壮齢
32	不明	SR39？	SD150？		—	—	98. 9. 25		
33	ウマ	SR39	SD150	中層	A	1175	98. 10. 6	I45南西	上顎切歯［右］I_3、上顎犬歯［右］、上顎臼歯［右］P_2・P_3、頭蓋骨　老齢　オス
34	ウマ	SR39	SD150	中層	B	1183	98. 10. 6	I45南西	下顎臼歯［左］P_2～M_3　臼歯列長155±mm 老齢
35	ウシ	—		包含層		—	98. 6. 5	G37北東	臼歯破片

第47表　植物遺存体一覧表 I

遺構名	グリッド	取り上げNo・位置	層位	取上日	種類（個数）
西宮 P377		線柱建物跡　SH12		96.12.24	栗の実（1）
西浦 SR45	F34区北東	勺頭の下	最下層	98.10. 9	桃（2）尖1 丸1
西浦 SR45	F34区北東コーナー			98.10. 5	桃（2）尖2
西浦 SR45	F35区	No758		98.10. 7	桃（1）尖1
西浦 SR45	F35区	No759		98.10. 7	桃（4）尖4
西浦 SR45	F35区中央南	十器集中区		98.10. 5	桃（1）丸1
西浦 SR45	F35区南東コーナー			98.10. 5	桃（1）丸1
西浦 SR45	F35区南東コーナー	勺頭の下	最下層	98.10. 9	桃（5 1/2）尖2 丸3
西浦 SR45	F35区北東	ナスビ形獣列辺共伴		98. 9.29	桃（3）丸3　梅？（1）
西浦 SR45	F35区北東	ナスビ形獣列辺共伴		98. 9.30	桃（8 1/2）尖5 丸4
西浦 SR45	G35区	No737		98.10. 6	梅？（1）
西浦 SR45	G35区西	人溝西トレンチの西コップ形須恵器共伴		98. 9.29	桃（2 3/4）尖1 丸2
西浦 SR45	G35区中央西	礫群集中土器群の西隣		98. 9.14	桃（1 3/4）梅？（3 1/2）
西浦 SR45	G35区中央西		木製品層　礫群周の下の層	98. 9.14	桃（3）尖3　梅？（3）
西浦 SR42	G35区北		最下層	98. 7.27	桃（1/2）尖1
西浦 SR45	G35区中央北	礫群集中区		98. 9.14	桃（1）丸1
西浦 SR45	G35区中央北	No327		98. 9.17	桃（1）尖1
西浦 SR45	G35区中央北	礫群のやや下と西	最下層	98.10. 8	桃（3/4）丸1
西浦 SR42	G35区北西		最下層	98. 7.22	桃（1 1/2）尖2
西浦 SR42	G35区北西		最下層	98. 7.27	桃（1 1/2）尖1 丸1
西浦 SR45	G35区北西		木製品層底の方	98. 9.14	桃（6）尖5 丸1
西浦 SR45	G35区北西	No716		98.10. 6	桃（3）尖2 丸1　梅？（2）
西浦 SR45	G35区北西	No716		98.10. 6	瓢箪？（破片）
西浦 SR45	G35区北西	人溝西トレンチの東礫群の西		98. 9.18	桃（10）尖6 丸4
西浦 SR45	G35区北西	礫群周辺　洗い土内		98. 9.18	桃（2 1/2）尖2 丸1 梅？（137）夕顔？（76）不明（9）
西浦	G35区北西			98. 9.11	桃（1）尖1
西浦 SR42	G35区北東	馬の歯付近	最下層	98. 7.22	桃（2）尖2
西浦 SR42	G35区北東		最下層	98. 7.22	桃（2 1/2）尖1 丸2
西浦 SR45	G35区北東	No689		98.10. 6	桃（3 3/4）尖1 丸4
西浦 SR45	G35区北東			98. 9.11	桃（1）尖1
西浦 SR45	G35区北東	礫群の東		98. 9.18	桃（1）尖2
西浦 SR45	G35区北東	礫群と礫群東の土器集中区		98. 9.22	桃（27 1/4）尖12 丸16
西浦 SR45	G35区北東	礫群の西		98. 9.30	桃（1 3/4）尖2
西浦 SR45	G35区北東	礫群の下層やや北		98.10. 5	桃（1）尖1
西浦 SR45	G35区北東	十器集中区		98.10. 5	桃（1 2/3）尖1 丸1
西浦 SR45	G35区北東コーナー	十器集中区		98. 9.28	桃（8）尖8
西浦	G35・36区	道路側溝（攪乱）		98. 5.27	桃（1）丸1
西浦 SR45	G36区中央		木製品層下部(ラミナ層上面位)	98. 9.18	桃（7）尖6 丸1
西浦 SR45	G36区中央		木製品層上面　黒灰色粘土層	98. 9. 3	桃（4）尖1 丸3
西浦 SR42	G36区中央南		最下層	98. 7.23	桃（1）尖1
西浦 SR42	G36区中央南	ナスビ形木製品西辺	最下層	98. 7.23	桃（2）尖1 丸1
西浦 SR45	G36区中央南		木製品層下端	98.10. 2	桃（1）尖1
西浦 SR45	G36区中央南		木製品層	98. 9.11	桃（26）尖12 丸14　梅？（3）
西浦 SR45	G36区中央東	底の木製品層と共存	木製品層	98. 9.10	桃（7 1/2）尖4 丸4 梅？（2）軍（破片）瓢箪（破片）
西浦 SR45	G36区南西		木製品層　黒灰色粘土下部	98. 9.10	桃（22）尖13 丸9
西浦 SR45	G36区南西		木製品層下部	98. 9.17	桃（4）尖4　梅？（2）
西浦 SR45	G36区南西コーナー		木製品層下面	98.10. 9	桃（1）尖1
西浦 SR42	G36区南東		上層	98. 7.15	桃（1 1/2）尖1 丸1
西浦 SR42	G36区南東		中央中層　粘土層西が多い	98. 7.21	桃（41）尖21 丸20
西浦 SR42	G36区南東		中央中層　粘土層西が多い	98. 7.21	梨（破片）
西浦 SR42	G36区南東		最下層	98. 7.22	桃（1）尖1
西浦 SR42	G36区南東	土器の周辺	中央最下層	98. 7.23	桃（1）尖1
西浦 SR42	G36区南東	No167		98. 7.27	桃（1）尖1
西浦 SR42	G36区南東	木製品No176周辺	最下層	98. 7.27	桃（2 1/2）尖2 丸1
西浦 SR45	G36区南東	木製品層共伴　層部の下		98. 9.11	桃（1）尖1
西浦 SR45	G36区南東	No431の下		98. 9.17	桃（9 1/2）尖5 丸4
西浦 SR45	G36区南東		木製品層	98. 9.14	桃（1）丸1
西浦 SR45	G36区南東		木製品層	98. 9.14	梅？（1）
西浦 SR45	G36区南東		木製品層	98. 9.14	栗（1）尖1
西浦 SR45	G36区南東			98. 9.11	桃（5）尖3 丸2
西浦 SR45	G36区南東	礫群の東		98. 9.30	桃（25）尖23 丸2
西浦 SR45	G36区南東コーナー	十器集中区		98. 9.14	桃（4 1/2）尖4 丸1
西浦 SR45	G36区南東コーナー			98. 9.21	桃（7）尖6　丸1
西浦 SR45	G36区南東コーナー			98. 9.29	桃（1 1/4）尖1 丸1
西浦 SR45	G36区南東コーナー			98.10. 8	桃（5 1/4）尖2 丸4
西浦 SR45	G36区南東コーナー		最下層	98.10. 8	桃（3/4）
西浦 SR43	G36区北東			98. 8.11	桃（1 1/2）尖2
西浦 SR43	G36区北東		最下層	98. 8.12	桃（1）丸1
西浦 SR45	G36区北東		黒灰色粘土　木製品層	98. 9. 2	桃（3）尖3

第48表　植物遺存体一覧表 2

遺構名	グリッド	取り上げNo・位置	層位	取上日	種類（個数）
西浦 SR45	G36区北東	中央西トレンチ西	木製品層　黒灰色層	98. 9. 4	桃（5）尖4 丸1
西浦 SR45	G36区北東		木製品層	98. 9.14	瓢（1）
西浦 SR45	G36区北東		木製品層	98. 9.14	栗（破片）
西浦 SR45	G36区北東	土層帯	木製品層下面	98. 10. 8	瓢類（1）
西浦 SR45	G36区北東	No230		98. 9. 9	瓢類（上部破片）
西浦 SR45	G37区		ラミナ層	98. 9.16	不明（1）
西浦 SR43	G37区中央		下層	98. 8.11	桃（1）尖1
西浦 SR45	G37区中央東		木製品層	98. 9. 1	桃（1）丸1
西浦 SR43	G37区南		下層	98. 8.11	瓢類？（1）
西浦 SR43	G37区南西			98. 8.10	桃（1）丸1
西浦 SR43	G37区南東			98. 8.10	桃（6）尖3 丸3
西浦 SR43	G37区南東		下層	98. 8.11	桃（4）尖1
西浦 SR43	G37区南東		下層	98. 8.11	桃（1）　梅？（2）　不明（1）
西浦 SR45	G37区南東	No180　琴の橋 土師器壺と共伴	木製品層	98. 9. 2	桃（1 7/8）尖2
西浦 SR45	G37区南東	杖付近	黒灰色粘土　木製品層	98. 9. 4	桃（1）尖1
西浦 SR45	G37区北東	No34	黒灰色粘土　木製品層	98. 8.27	桃（1）尖1　梅？（1）
西浦 SR45	G37区北東		黒灰色粘土　木製品層	98. 8.27	桃（2）尖1 丸1　梅？（2）
西浦 SR45	G37区北東		木製品層	98. 9. 8	桃（1）尖1
西浦 SR45	G37区北東	No188		98. 9. 4	サルノコシカケ（1）
西浦 SR46	G38区南西		最下層	98. 7. 1	桃（1）尖1
西浦 SR46	G38区東　H38区西		最下層	98. 7. 1	桃（3/4）尖1
西浦 SR30	G39区北東		最下層の下	98. 3.19	桃（1）丸1
西浦 SR45	G39区北東		黒灰色粘土　木製品層	98. 8.28	桃（2）尖1　丸1
西浦 SR42	H38区北西		最下層	98. 7.23	桃（1）尖1
西浦 SR45	H36区中央	大溝中央トレンチ東		98. 9.17	桃（1）尖1
西浦 SR45	H36区中央東	木製品共伴（肩部の下）		98. 9.11	桃（2 1/2）　尖1 丸2
西浦 SR42	H36区南西	トレンチの西	最下層	98. 7.23	桃（1）尖1
西浦 SR45	H36区南西			98. 9.11	桃（1 3/4）尖2
西浦 SR45	H36区南西	大溝トレンチ西　土器集中区		98. 9.14	桃（10 1/2）尖6　丸5
西浦 SR45	H36区南西	No377		98. 9.16	冬瓜・夕顔？（2）
西浦 SR45	H36区南東	木製品共伴		98. 9.11	桃（1）丸1
西浦 SR42	H36区北西		下層　（最下層多い）	98. 7.14	桃（1）尖1
西浦 SR42	H36区北西		中央の最下層	98. 7.23	桃（1）丸1
西浦 SR45	H36区北西		黒灰色粘土　木製品層	98. 9. 2	桃（1）丸1　瓢類？（破片）
西浦 SR45	H36区北西コーナー	十器集中区	黒灰色粘土　木製品層	98. 9. 3	桃（18 1/2）尖7　丸12
西浦 SR42	H36区北東	黒色泥炭大溝の十器含む	中央の最下層	98. 7.23	桃（3 7/8）尖4 丸1 梅？（1）
西浦 SR41	H37区	大溝トレンチ内南側		98. 7.13	桃（2）尖2
西浦 SR43	H37区		上層粗砂	98. 8.10	桃（9）尖4 丸5
西浦	H37区	大溝東側トレンチ		98. 8. 4	桃（1）尖1
西浦 SR43	H37区中央	大溝東トレンチの東	下層	98. 8.11	桃（5 1/2）尖3 丸3
西浦 SR43	H37区中央	大溝東トレンチの西 十器集中区	最下層	98. 8.11	桃（3）尖2 丸1
西浦 SR43	H37区中央西	杭列の北　土器集中区	最下層	98. 8.11	桃（1）尖1
西浦 SR45	H37区中央西	楕円形中型壺のまわり	黒灰色粘土　木製品層	98. 9. 4	桃（1）尖1　クルミ（1）
西浦 SR45	H37区中央やや北		木製品層	98. 9. 8	瓢類（破片）
西浦 SR43	H37区南西			98. 8.13	桃（3）尖2 丸1
西浦 SR43	H37区南西	No45付近の下		98. 9. 1	桃（3/4）丸1
西浦 SR45	H37区南西	木製品集中	黒灰色粘土　木製品層	98. 9. 4	桃（1）丸1
西浦 SR45	H37区南西	ツルベの周辺	木製品層	98. 9. 8	桃（2）尖1　クルミ（2）
西浦 SR45	H37区南西	ツルベの周辺	木製品層	98. 9. 9	桃（2）
西浦 SR42	H37区南東		下層　灰色粘土	98. 7.14	桃（7）尖7
西浦 SR42	H37区南東		最下層　粗砂層	98. 7.15	桃（6）尖6
西浦 SR42	H37区南東		最下層　粗砂層	98. 7.15	桃（1/2）丸1
西浦 SR45	H37区南東		砂層内	98. 8.27	不明（2）
西浦 SR45	H37区北西		黒灰色粘土下層　木製品上層	98. 8.24	桃（1 3/4）尖2　不明（1/2）
西浦 SR45	H37区北西		黒灰色粘土上層　木製品層	98. 8.25	桃（2）尖2
西浦 SR42	H37区北東	調査区東の壁面の崩れ内		98. 9.25	瓢類？（破片）
西浦 SR43	H37区北東			98. 8.10	桃（3）尖1 丸2
西浦 SR43	H37区北東		下層	98. 8.11	桃（1 1/2）尖2
西浦 SR45	H37区西			98. 8.10	桃（17 1/2）尖8 丸10
西浦 SR43	H37区西	杭列の北　十器集中区	最下層	98. 8.12	桃（2）尖1 丸1
西浦 SR45	H38区南西		黒灰色粘土下層	98. 8.21	桃（1）丸1
西浦 SR45	H38区南西		黒灰色粘土	98. 8.24	不明（1）
西浦 SR30	H39区中央		最下層	98. 3.17	桃（1）丸1
西浦 SR30	H39区北西	No223ⓧD	最下層の下	98. 3.19	桃（1）丸1
西浦 SR30	H40区南東		最下層	98. 3.17	桃（2 1/2）尖3　栗（1）
西浦 SE 3	H41区北東	井戸		98. 2.18	瓜（13）糸瓜・ヒメジカラスウリ？
西浦 SE 3	H41区北東	井戸		98. 2.19	瓜（多数）モミジカラスウリ？
西浦 SR30		No124	最下層	98. 3.18	桃（1）丸1
西浦 SR30		排土内		98. 6. 4	桃（1）丸1
西浦 SR30			最下層		桃（1）丸1

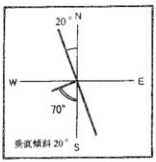
第Ⅳ章　まとめ

第１節　恒武西浦遺跡における土層観察所見

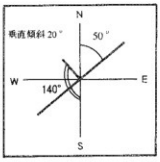
恒武西浦遺跡北区で調査した遺構について、加藤芳朗先生の現地指導を得て、若干の土層観察を試みた結果をまとめてみたい。なお、クロスラミナの計測は加藤先生によるものである。

1　SR30について

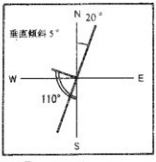
SR30の断面に見える粗砂層のクロスラミナの方向を６カ所計測し、その平均値を求めた。クロスラミナの傾斜方向は水流方向と一致するため、SR30の流れの方向を決める判断材料とした。それぞれの方向は以下のとおりである。クロスラミナの計測位置は第24図を参照されたい。



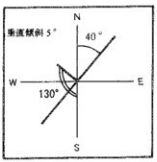
1－①　N 20°　W 20°　W



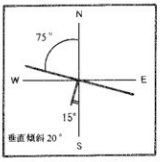
1－②　N 50°　E20°　NW



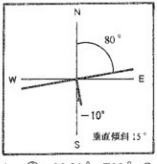
1－③　N 20°　E5°　NW



1－④　N 40°　E5°　NW



1－⑤　N 75°　W 20°　SW



1－⑥　N 80°　E20°　S

以上のようにクロスラミナの方向は計測された。この結果をもとに以下の手順によってSR30の流れの方向を判断した。

a　多くの計測値におけるクロスラミナの傾斜方向は南から西の間に集中する傾向があるため、南を基準とし、西方向に向かってクロスラミナの傾斜方向の角度をそれぞれ求める。

b　クロスラミナの傾斜方向は水流と一致するため、それぞれの角度の平均値を求めることにより水流方向を推定する。

この方法により、各調査ポイントの傾斜方向は以下のとおりとなる。

1－①　S 70°W

1－②　S 140°W

1－③　S 110°W

1－④　S 130°W

1－⑤　S 15°W

1－⑥　S 10°E（S－10°W）

これらの平均値はS76°Wとなり、ほぼ西南方向に水流が向いていたことがわかる。

2　恒武西浦遺跡北区中央の東西方向噴砂について

北区中央に地震によると見られる噴砂跡が確認されており、それについて以下観察所見を記す。

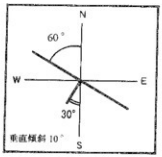
噴砂の確認状態であるが、噴砂跡は北区測査区中央やや南より付近で確認され、切れてしまっていたり、枝分かれするなど不定形であった。

また、SR36内の噴砂跡付近では当時かなり水位が高い状況にあったと推測している。噴砂は水が飽和した土壌で起こりやすいとされており、これは遺構の土層断面におけるグライ化層の管鉄の発達状況からも裏付けられる。

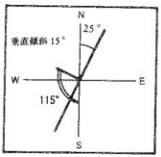
SR36で確認している噴砂は断面観察によれば、SR36が埋没する中途段階の堆積層を切る形で噴出しているようである(第41図参照)。SR36は出土遺物から判断して奈良時代から平安時代前期にかけての遺構であるため、この時期に噴砂を起こした可能性のある地震としては、白鳳地震(天武天皇13年　684年)と和銅地震（和銅８年〈霊亀元年〉　715年）があげられる（宇佐見1987)。

3　SR39について

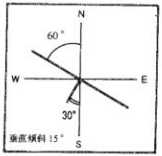
SR30と同様にクロスラミナの方向を４カ所計測し、やはり平均値を求めることで流れの方向を確認した。計測箇所については第23図を参照されたい。それぞれの方向は以下のとおりである。



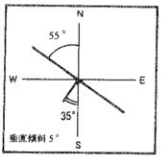
３－①　N 60°　W 10°　SW



３－②　N 25°　E15°　NW



３－③　N 60°　W 15°　SW



３－④　N 55°　W 5°　SW

以上のような計測結果を前述のSR30と同様の手順にしたがってクロスラミナの傾斜方向を求める。

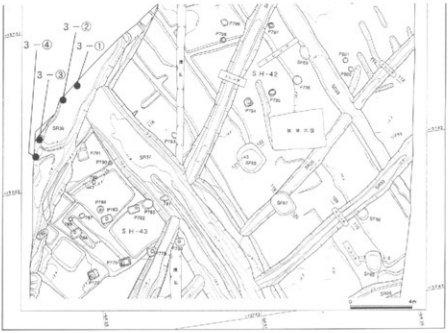
３　①　S 30°W

３－②　S 115°W

３－③　S 30°W

３－④　S 35°W

上記計測値の平均値はS 52°Wであった。よって、水流はやはり西南方向に向かっている。



第23図　北区SR39クロスラミナ計測地点

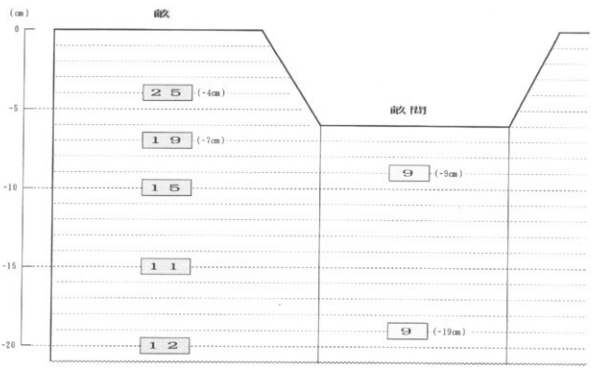
第24図　北区SR30クロスラミナ計測地点、畑跡・噴砂確認地点

4　北区南西部の畑状遺構について

北区南西部のSR30北側で、南北方向に溝状遺構が並行している、畑の痕跡と思われる遺構を発見した。畑である可能性を探るため、仮に確認された溝状遺構を畝間、その溝の間を畝として、それぞれにおける根跡の観察と一定面積内の根跡の計測を実施した。

根跡の観察は畝及び畝間から取り出した土塊を垂直または水平に割り、断面を観察するという手法をとった。垂直に割った場合は屈曲した孔を、水平に割った場合は円孔をそれぞれ確認できた。これは、やはり畑状遺構において同様の観察を試みた、北神馬土手遺跡の事例と類似した結果である。

次に一定面積内の根跡の密度計測を行った。畝及び畝間の断面において、上層から順次約7 cm²のプラスチック筒を突き刺し、引き上げた後にその断面に見える円孔の数を計測した。結果は第25図のとおりである。作物の根は畝、畝間ともに見られるが、作土であった場合、多くなるといわれる。畝間とした部分に較べ、畝とした部分における根跡の数が多いという結果から、この遺構は畑として利用されていた可能性がある。



第25図　北区畑跡の根跡数

5　まとめ

SR30、39については土層に見えるクロスラミナの傾斜方向を観察計測し、いずれも東北方向から西南方向に向かって流れていたということを推定することができた。

確認された噴砂の原因となった地震は白鳳地震と和銅地震が考えられるが、確証は得られてはおらず、今後の類例の増加を待って改めて検討する必要があろう。

畑状遺構に関しては、根跡の断面観察及び計測結果から畑であったことをある程度裏付ける資料が得られた。しかし、本来数地点の観察、計測結果を平均しなければならないところ、1カ所のみ観察に終わってしまったため、明確な証拠とはいえず、周辺地域での資料の増加を待って検討すべきであろう。

なお、所見をまとめるにあたっては、加藤芳朗先生の懇切なる教示をいただいた。　　（溝口）

引用・参考文献
宇佐見龍夫 1987『新編日本被害地震総覧』　東京大学出版会
加藤芳朗　1997『北神馬土手遺跡の畑状遺構土層の土壌学的検討」『北神馬土手遺跡他Ⅰ』　㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所

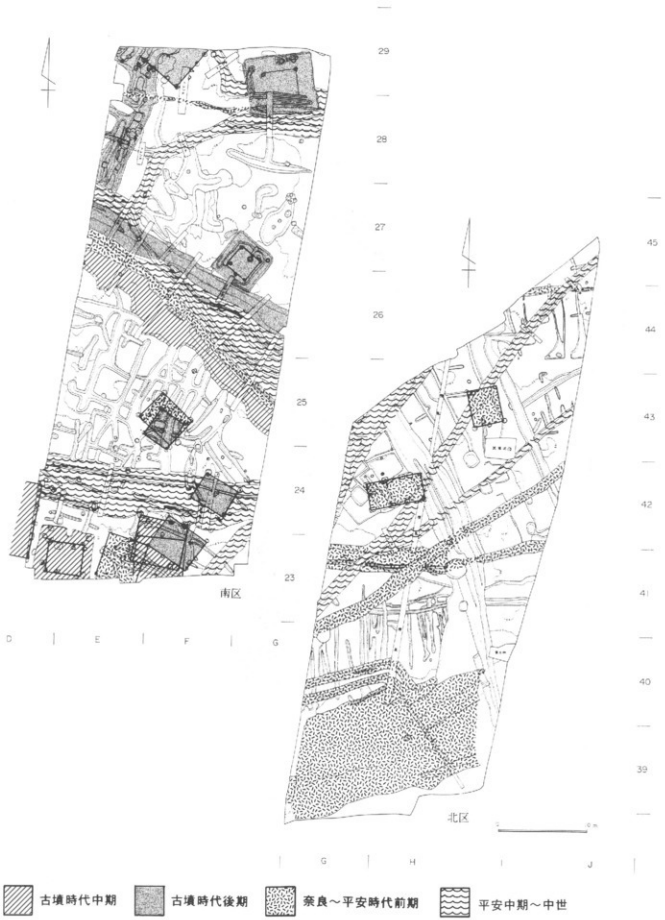
第2節　遺構の変遷

恒武遺跡からは、古墳時代中期と奈良～平安時代前期の遺物の中に、一般的な集落跡からはあまり出土しない威信財や祭祀具などが発見されており、当該期の豪族居館跡や官衙関連施設が存在する可能性が指摘されている。

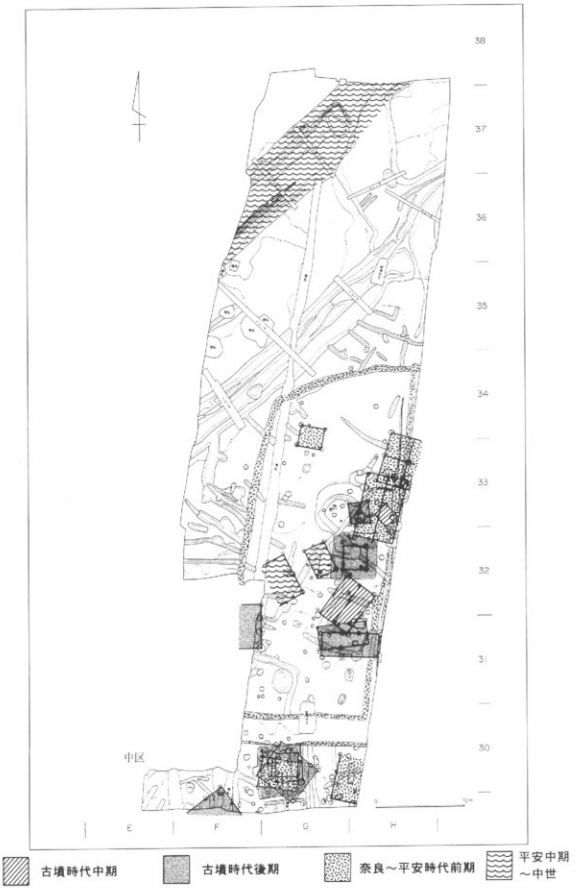
今回の調査では、恒武西浦遺跡の旧河道内出土遺物がそうした考えを補強したものと思われるが、残念ながら遺構としては明瞭な解答を出すまでにはいたらなかった。本来ならば、整然と配列された大型掘立柱建物跡群が存在しても良いと思われる。

最後に主要な遺構の時期別の変遷案を後頁にまとめたので参照していただきたい。流路跡は出土土器より埋没の時期を表したが、実際の存在期間は多時期に及ぶものがある。建物跡の所属時期の分析は第2章を参照していただきたい。ただし、確証の無いものも、各時期に振り分けていることをご容赦願いたい。

第26図　恒武西宮遺跡主要遺構変遷案



第27図　恒武西浦遺跡主要遺構変遷案（南・北区）



第28図　恒武西浦遺跡主要遺構変遷案（中区）

付載１　恒武西宮遺跡・山ノ花遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．恒武西宮遺跡・山ノ花遺跡における植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

２．試料

調査地点は、恒武西宮遺跡のＮ地点、Ｌ地点（別冊11図）、SR１、SR３（別冊９図）、および山ノ花遺跡の５世紀大溝とSD10の６地点である。試料は、１層～４層および溝内から採取された計９点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
２）試料約１gに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加
　（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）
３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理
４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
５）沈底法による20μm以下の微粒子除去
６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
７）検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。試料１gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料１g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48である。

４．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を

行い、その結果を表１および図１に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（図版１）を示す。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族型

〔イネ科―タケ亜科〕

機動細胞由来：ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、未分類等

〔イネ科―その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

表１　恒武西宮・山ノ花遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

	N地点				L地点	SR1	SR3	山ノ花、旧河道内	
	7	8	9	10	11	12	13	14	16
分類群 ＼ 試料	ⅠA層	ⅠB層	ⅡA層上	ⅢA層下	ⅠB層	2層	4層	SD10	Ⅳ層下
イネ科									
イネ	20				8				
ヨシ属							15		
ススキ属型	7	8					8		8
ウシクサ族型	7		15				8		15
タケ亜科									
ネザサ節型	7				8	23			8
未分類等	13			15			8		
その他のイネ科									
表皮毛起源					8				
棒状珪酸体	53	15			30	30	30		30
未分類等	167	38		15	53	38	38	15	45
（海綿骨針）						8			
植物珪酸体総数	274	60	15	31	105	91	107	15	105

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	0.59				0.22				
ヨシ属							0.96		
ススキ属型	0.08	0.09					0.09		0.09
ネザサ節型	0.03				0.04	0.11			0.04

５．考察

(1)　イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネが検出された。

イネは、N地点のＩＡ層（試料№７）とL地点のＩＢ層（試料№11）から検出された。このうち、前者では密度が2,000個/g、後者でも800個/gといずれも比較的低い値である。したがって、これらの層準で稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層もしくは他所からの混入の危険性も否定できない。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畠作物は分析の対象外となっている。

(2)　植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、部分的にススキ属型、ウシクサ族型、ネザサ節型、棒状珪酸体などが検出さ

れたが、いずれも少量である。このことから、当時の遺跡周辺は、河川の影響など何らかの原因で、イネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったものと推定される。

6．まとめ

植物珪酸体分析の結果、N地点のＩＡ層とＬ地点のＩＢ層では、少量ながらイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。その他の試料からは、イネ科栽培植物に由来する植物珪酸体は検出されなかった。

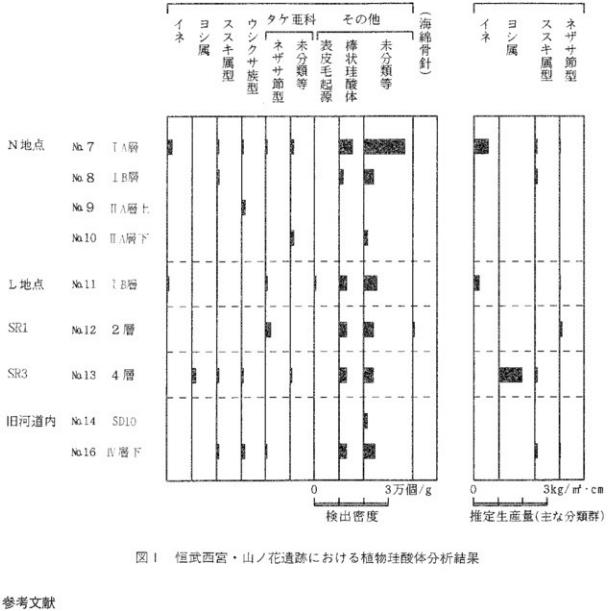


図１　恒武西宮・山ノ花遺跡における植物珪酸体分析結果

参考文献

杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第２号，p.27-37.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 ―．考古学と自然科学，９，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―．考古学と自然科学，17，p.73-85.

藤原宏志・佐々木章・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(6)―プラント・オパール分析による畑作農耕址の検証―．考古学と自然科学，第18号，p.111-125.

図版Ⅰ　植物珪酸体の顕微鏡写真

（倍率はすべて400倍）

No.	分　類　群	試料名
1	イネ	7
2	イネ（側面）	7
3	ヨシ属	13
4	ススキ属型	8
5	ネザサ節型	16
6	棒状珪酸体	16

Ⅱ．恒武西宮遺跡・山ノ花遺跡における花粉分析

ここでは、恒武西宮遺跡と山ノ花遺跡において採取された試料について花粉分析を行い、農耕および植生について検討を行った。

(1) 恒武西宮遺跡

1．試料

試料は、基本土層BのⅠE（試料1），ⅡA（試料2），ⅣB（試料3），ⅤA（試料4）、基本土層HのⅡA（試料5），ⅣB（試料6），畑跡の（試料8）と（試料11）、SR1の2層（試料12），SR3の4層（試料13）の計10点である（別冊9～11図）。

2．方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

1）5％水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
2）水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
3）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
4）水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
5）再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
6）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

3．結果

出現した分類群は、恒武西宮遺跡では樹木花粉13、樹木花粉と草本花粉を含むもの1、草本花粉11、シダ植物胞子2形態の計27である。これらの学名と和名および粒数を表2に示す。主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

マツ属複維管束亜属、スギ、イチイ科　イヌガヤ科―ヒノキ科、サワグルミ、カバノキ属、クマシデ属―アサダ、クリ　シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ、エノキ属―ムクノキ、トチノキ、ニワトコ属―ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科―イラクサ科

〔草本花粉〕

イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科―ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

4．花粉群集の特徴と推定される植生と環境

1）断面ポイントB

試料3（ⅣB）より花粉がやや検出されたが、他はほとんど花粉が検出されなかった。試料3では草本のヨモギ属が極めて優占し、イネ科、樹木のクリーシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が伴われる。

ⅣB層（試料3）の時期はヨモギ属を主にイネ科が生育し、ヨモギ属の好む陽当たりのよい比較的乾燥した環境であったと推定される。イネ科には雑穀類等が含まれるが花粉では形態分類できず、不明である。森林植生はシイ類、カシ、シイを主な要素としていた。なお、花粉のほとんど検出されなかった試料1、試料2、試料4では、花粉が分解された可能性が高く、分解の行われる比較的乾燥した環境が推定される。

2）断面ポイントH

試料5（ⅡA層）は花粉が検出されなかった。試料6（ⅣB層）では草本花粉のヨモギ属が極めて優占し、イネ科が伴われる。樹木花粉は極めて低率である。

ⅣB層（試料6）の時期はヨモギ属を主にイネ科が生育し、ヨモギ属の好む陽当たりのよい比較的乾燥した環境であったと推定される。なお、樹木花粉が極めて少なく、周囲には樹木がほとんど生育していなかったと推定される。

3）N地点、L地点

試料8（畑跡）、試料11（畑跡）は、ほとんど花粉が検出されないか出現しなかった。分解される乾燥した堆積環境によって分解されたと推定される。

4）SR1、SR3

試料12（2層）、試料13（4層）は、ほとんど花粉が検出されなかった。分解される乾燥した堆積環境によって分解されたと推定される。

以上、恒武西宮遺跡の堆積物の花粉分析を行ったが、花粉はあまり検出されなかった。花粉の分解する比較的乾いた堆積環境が推定され、試料によってはヨモギ属が優占するため、畑などの乾燥した人為改変地の環境が推定される。なお、花粉分析からは明らかな栽培植物を検出することができなかった。

⑵ 山ノ花遺跡

1．試料

試料は、SD10（8世紀，試料14）、5世紀大溝内の泥炭質Ⅲ層（5世紀末～6世紀？，試料15）、砂層の上のⅣ層下部（5世紀，試料16）、V層最下層（試料17）の4点である。

2．方法

恒武西宮遺跡と同様である。

3．結果

表 2　恒武西宮遺跡における花粉分析結果

分類群		断面ポイントB			断面ポイントH			N地点	L地点	SR1	SR3
学名	和名	1	2	3	4	5	6	8	11	12	13
Arboreal pollen	樹木花粉										
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属		1	2						1	1
Cryptomeria japonica	スギ	1		1			1				
Taxaceae-Cephalotaxaceae	イチイ科-イヌガヤ科		1	2							
-Cupressaceae	-ヒノキ科										
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1					1				
Betula	カバノキ属			1							
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ			1							
Castanea crenata-Castanopsis	クリ-シイ属			8			3	4		2	1
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属			6				3			
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属			4						1	1
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ							1			
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ	1									
Aesculus turbinata	トチノキ			1							
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属			1							
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉										
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科			1				2			1
Nonarboreal pollen	草本花粉										
Gramineae	イネ科	1		15			24	11		3	5
Cyperaceae	カヤツリグサ科			2			1	2			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科							1		1	
Caryophyllaceae	ナデシコ科										1
Ranunculus	キンポウゲ属							1			
Cruciferae	アブラナ科			1				1		1	
Impatiens	ツリフネソウ属							1			
Apiodeae	セリ亜科			2			1	1			
Lactucoideae	タンポポ亜科			1				1			2
Asteroideae	キク亜科						3	1			
Artemisia	ヨモギ属			114			145	7		1	2
Fern spore	シダ植物胞子										
Monolate type spore	単条溝胞子			39		8	27	16		4	4
Trilate type spore	三条溝胞子			17	1		2	1		1	
Arboreal pollen	樹木花粉	3	2	27	0	0	5	8	0	4	3
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	0	135	0	0	174	27	0	6	10
Total pollen	花粉総数	4	2	163	0	0	179	37	0	10	14
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1
Fern spore	シダ植物胞子	0	0	56	1	8	29	17	0	5	4

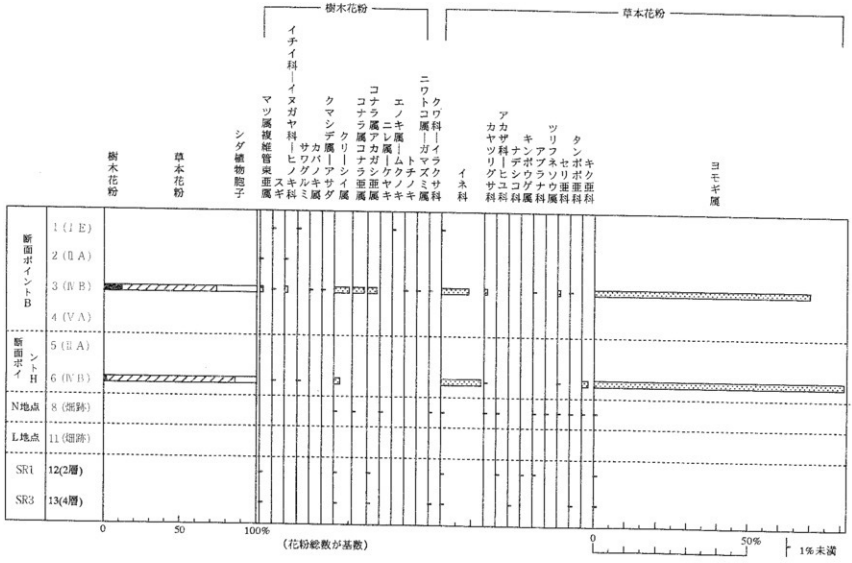


図2　恒武西宮遺跡における花粉ダイアグラム
（花粉総数が100以上の試料を参考に表示）

出現した分類群は、樹木花粉30、樹木花粉と草本花粉を含むもの３、草本花粉19、シダ植物胞子２形態の計54である。これらの学名と和名および粒数を表３に示す。主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、ヤマモモ属、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属―アサダ、クリ―シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ、エノキ属―ムクノキ、アカメガシワ、サンショウ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ムクロジ属、ブドウ属、モクセイ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科―イラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属―ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、カラハナソウ属、タデ属、アカザ科―ヒユ科、ナデシコ科、ツリフネソウ属、ノブドウ、アリノトウグサ属―フサモ属、セリ亜科、シソ科、ナス科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

４．花粉群集の特徴と推定される植生と環境

試料17（Ⅴ層最下層）ではニワトコ属－ガマズミ属が優占し、コナラ属アカガシ亜属、クリ―シイ属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属、カバノキ属、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、ツガ属の樹木花粉も比較的多く出現する。草本花粉はカナハナソウ属を主にイネ科、ヨモギ属などが出現する。優占するニワトコ属―ガマズミ属とカラハナソウ属は生態的にニワトコとカナムグラが考えられ、改変された裸地を好む樹木ないし草本である。ハンノキ属やカバノキ属も同様の傾向をもつ樹木である。このことから、周囲はニワトコやカナムグラが主に生育し、人為的などで改変された裸地が多く分布していたと推定される。コナラ属アカガシ亜属やクリ―シイ属の出現率も比較的高く、近隣にカシやシイを主とする森林が分布していたと推定される。

試料16（Ⅳ層下部）ではイネ属型を含むイネ科とカラハナソウ属の出現率が高くなる。他にヨモギ属も微増する。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属の出現率が高く、エノキ属―ムクノキ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、コナラ属コナラ亜属、クリ―シイ属が伴われる。試料16（Ⅳ層）の属する５世紀には、周囲で水田が営まれ、カナムグラなどの生育する改変された裸地も多く分布していたと推定される。コナラ属アカガシ亜属を主に樹木花粉の割合も比較的高く、近隣にカシを主とする森林が分布していたとみなされる。

試料15（Ⅲ層）ではイネ属型を含むイネ科の出現率がやや高くなり、カラハナソウ属の出現率も高い。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属、クリ―シイ属、エノキ属―ムクノキの広葉樹、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、スギの針葉樹が主に出現する。試料16の時期と植生はほとんど変化しないが、水田がやや拡大したと考えられる。

試料14（８世紀溝）はほとんど花粉が出現せず、植生の復元はできない。

５．小結

山ノ花遺跡旧河道内の堆積物の花粉分析から推定される植生を以下にまとめる。

表3　山ノ花遺跡における花粉分析結果

分類群		試料			
学名	和名	14	15	16	17
Arboreal pollen	樹木花粉				
Podocarpus	マキ属			1	
Abies	モミ属				1
Tsuga	ツガ属		1		12
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	1	4	4	2
Cryptomeria japonica	スギ		17	10	4
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ				1
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科		28	29	19
Myrica	ヤマモモ属				1
Juglans	クルミ属		1	1	
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		1		3
Alnus	ハンノキ属		4	2	17
Betula	カバノキ属		1		17
Corylus	ハシバミ属		1		
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ		1	2	6
Castanea crenata-Castanopsis	クリ-シイ属		24	18	32
Fagus	ブナ属		1	1	10
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属		8	16	28
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属		34	66	38
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ		1	2	8
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ		16	35	1
Mallotus japonicus	アカメガシワ			2	
Zanthoxylum	サンショウ属			2	
Ilex	モチノキ属			1	4
Celastraceae	ニシキギ科		3	4	24
Acer	カエデ属			1	4
Aesculus turbinata	トチノキ			1	10
Sapindus	ムクロジ属		1		
Vitis	ブドウ属		1	4	6
Oleaceae	モクセイ科		5	7	
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属			6	120
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		14	16	4
Leguminosae	マメ科		1		
Araliaceae	ウコギ科				1
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属		1	2	1
Sagittaria	オモダカ属		4		
Gramineae	イネ科		77	65	19
Oryza type	イネ属型		17	13	
Cyperaceae	カヤツリグサ科		12	11	10
Monochoria	ミズアオイ属		9		
Humulus	カラハナソウ属		44	88	33
Polygonum sect.	タデ属		1	1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		3	4	1
Caryophyllaceae	ナデシコ科			1	
Impatiens	ツリフネソウ属		2		
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ			1	2
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属-フサモ属			1	2
Apiodeae	セリ亜科		1		
Labiatae	シソ科				1
Solanaceae	ナス科		1	1	
Asteroideae	キク亜科		1	1	
Xanthium	オナモミ属		3	2	
Artemisia	ヨモギ属		31	36	14
Fern spore	シダ植物胞子				
Monolate type spore	単条溝胞子			4	17
Trilate type spore	三条溝胞子		1		3
Arboreal pollen	樹木花粉	1	153	215	368
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	15	16	5
Nonarboreal pollen	草本花粉	0	207	227	84
Total pollen	花粉総数	1	375	458	457
Unknown pollen	未同定花粉	0	2	4	6
Fern spore	シダ植物胞子	0	1	4	20

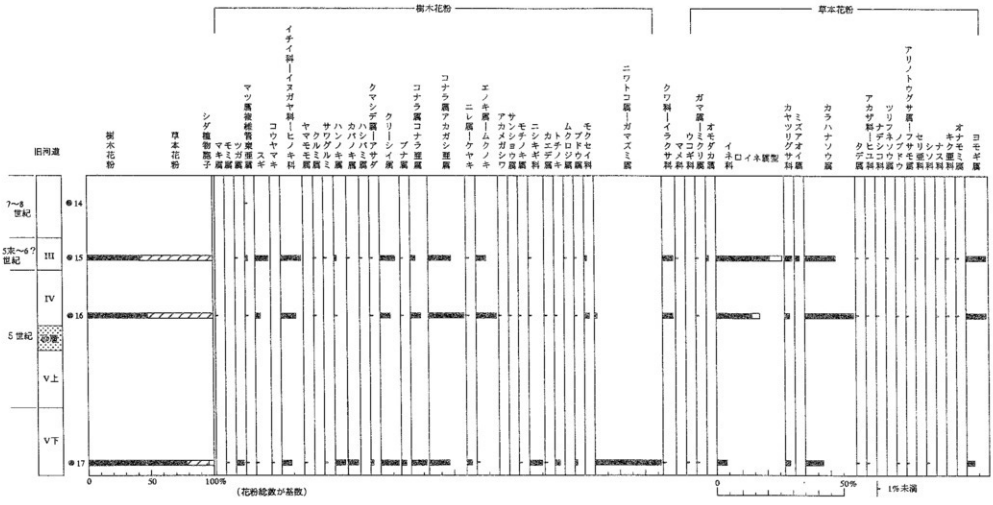


図3　山ノ花遺跡における花粉ダイアグラム

1）V層最下層の時期（試料17）

周囲はニワトコやカナムグラが主に生育し、人為的などで改変された裸地が多く分布し、近隣にカシやシイを主とする森林が分布していた。

2）IV層の時期（5世紀、試料16）

周囲で水田が営まれ、カナムグラなどの生育する改変された裸地も多く分布し、近隣にカシを主とする森林が分布していた。

3）III層の時期（試料15）

水田がやや拡大するが、前時期と植生はほとんど変化しない。

4）8世紀溝の時期（試料14）

ほとんど花粉が出現せず、植生の復元はできなかった。

参考文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

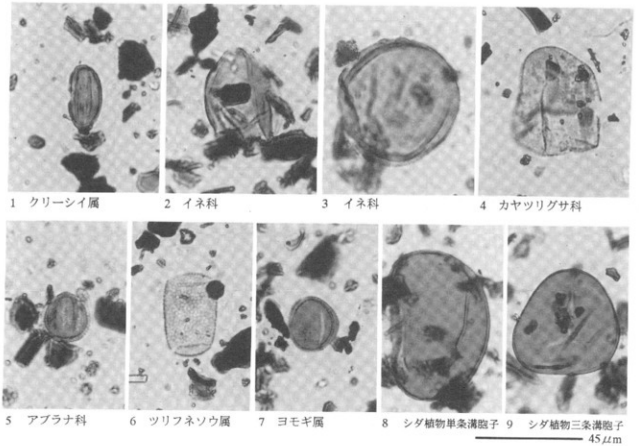
島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集，60p.

中村純（1980）日本産花粉の標微．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

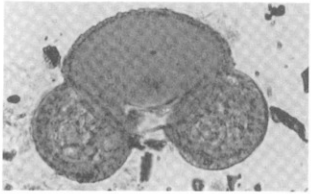
中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

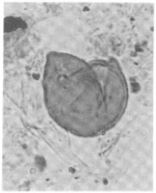
図版2　恒武西宮遺跡の花粉・胞子遺体



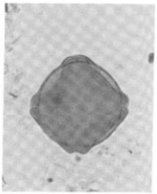
図版3　山ノ花遺跡の花粉遺体



1　マツ属複維管束亜属

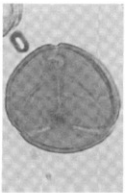


2　スギ



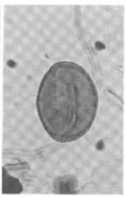
3　ハンノキ属

4　クマシデ属―アサダ

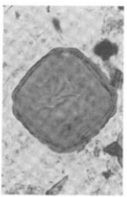


5　ブナ属

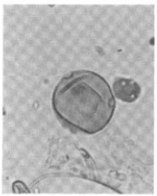
6　コナラ属コナラ亜属



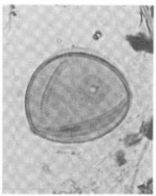
7　コナラ属アカガシ亜属



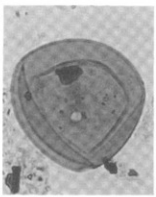
8　ニレ属―ケヤキ



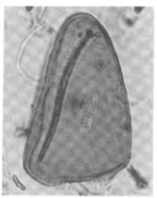
9　クワ科―イラクサ科



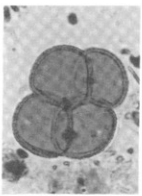
10　イネ科



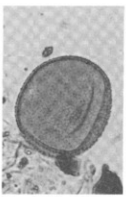
11　イネ属型



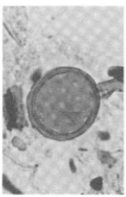
12　カヤツリグサ科



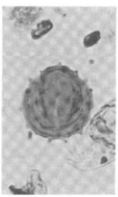
13　ガマ属



14　ガマ属―ミクリ属



15　アカザ科―ヒユ科



16　キク亜科

17　ヨモギ属

45 μm

Ⅲ．恒武西宮遺跡・山ノ花遺跡における珪藻分析

ここでは、珪藻化石の環境指標種群を用いて、恒武遺跡と山ノ花遺跡の堆積物について堆積環境の検討を行った。

(1) 恒武西宮遺跡

1．試料

検討した堆積物は、基本土層Bの3試料、基本土層Hの2試料（別冊10図）、SR1の2層およびSR3の4層（別冊9図）の合計7試料である。

2．処理方法

これらの試料は、以下の方法で処理を行い、珪藻用プレパラートを作成した。

1）試料から湿潤重量約1g程度取り出し、秤量した後ビーカーに移し30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行う。

2）反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返す。

3）残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させる。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作成する。

作成したプレパラートは顕微鏡下1000倍で観察し、珪藻化石200個体前後について同定・計数した。なお、珪藻化石が少ない試料については、プレパラート全面について精査した。

3．珪藻化石の環境指標種群について

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種として、また海水～汽水種は不明種としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明として扱った。以下に、小杉（1988）が設定した汽水～海水域における環境指標種群と安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

［外洋指標種群（A）］：塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

［内湾指標種群（B）］：塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

［海水藻場指標種群（C1）］：塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。

［海水砂質干潟指標種群（D1）］：塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

［海水泥質干潟指標種群（E1）］：塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

［汽水藻場指標種群（C2）］：塩分濃度が4～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

［汽水砂質干潟指標種群（D2）］：塩分濃度が5～26パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。

［汽水泥質干潟指標種群（E2）］：塩分濃度が2～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

［上流性河川指標種群（J）］：上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらにはAchnanthes属が多く含まれるが、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

［中～下流性河川指標種群(K)］：中～下流部、すなわち河川沿いに河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

［最下流性河川指標種群（L）］：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種は、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになる。

［湖沼浮遊生指標種群(M)］：水深が約1.5m以上で、水生植物は岸では見られるが、水底には生育していない湖沼に出現する種群である。

［湖沼沼沢湿地指標種群（N）］：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい。

［沼沢湿地付着生指標種群(O)］：水深１m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地で、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

［高層湿原指標種群（P）］：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

［陸域指標種群（Q）］：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。

４．珪藻化石の特徴と堆積環境

試料から検出された珪藻化石は、海水～汽水種３分類群３属３種、淡水種25分類群15属16種２亜種である。これらの珪藻化石からは、６環境指標種群が設定され、大きく３帯が設定された。以下では、各珪藻帯の珪藻化石の特徴とその環境について述べる。

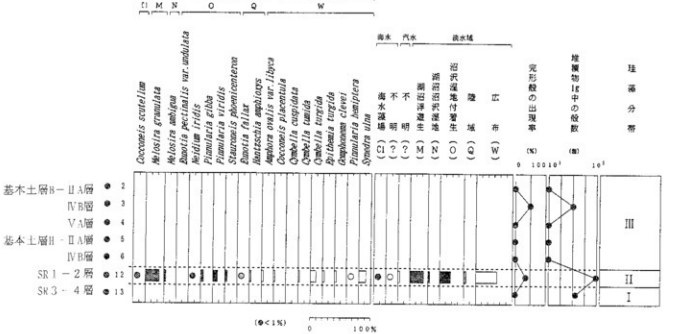


図４　珪藻化石分布図（すべての分類群を表示）

Ⅰ帯（試料№13）

検出された珪藻化石は少なく、淡水種のみである。沼沢湿地付着生指標種群のEunotia pectinalis var. undulataが検出されるものの１個体のみである。検出された珪藻化石は水生種であることから、再堆積の可能性があるものの水域であることが予想される。ただし、十分珪藻が生育するほどの安定した水域ではないことが考えられる。

Ⅱ帯（試料№12，SR１の２層）

堆積物１g中の珪藻殻数は約7.78×10^4個、完形殻の出現率は約35％である。湖沼浮遊生指標種群のMelosira granulataや沼沢湿地付着生指標種群のPinnularia viridisなどが検出される。

こうしたことから、水深のある沼沢地環境が推定される。

Ⅲ帯（試料№２～６）

試料は、遺跡の基本土層堆積物である。№３の試料以外は、いずれの試料からも珪藻化石は検出されない。また、№３においても珪藻化石は２個体と少ない。

これら遺跡の基本土層の堆積物は、珪藻化石が検出されないことから乾いた陸域であることが理解される。なお、№３の堆積時には、多少水域が存在したことも予想される。

表４　珪藻化石産出表

（種群は、主に安藤（1990）の環境指標種群に従う）

分類群	種群	2	3	4	5	6	12	13
Cocconeis scutellum	Cl	-	-	-	-	-	1	-
Diploneis interrupta	?	-	-	-	-	-	1	-
Achnanthes brevipes	?	-	-	-	-	-	4	-
Amphora ovalis var.libyca	W	-	-	-	-	-	4	-
Cocconeis placentula	W	-	-	-	-	-	3	-
Cymbella cuspidata	W	-	-	-	-	-	-	1
C. tumida	W	-	-	-	-	-	3	-
C. turgida	W	-	-	-	-	-	12	-
C. spp.	?	-	-	-	-	-	5	1
Epithemia turgida	W	-	1	-	-	-	4	-
Eunotia fallax	Q	-	-	-	-	-	1	-
E. pectinalis var.undulata	O	-	-	-	-	-	-	1
E. spp.	?	-	-	-	-	-	2	-
Gomphonema clevei	W	-	-	-	-	-	4	-
Gyrosigma spp.	?	-	-	-	-	-	4	-
Hantzschia amphioxys	Q	-	-	-	-	-	4	-
Melosira ambigua	N	-	-	-	-	-	4	-
M. granulata	M	-	-	-	-	-	31	-
Navicula spp.	?	-	1	-	-	-	1	-
Neidium iridis	O	-	-	-	-	-	1	-
Pinnularia gibba	O	-	-	-	-	-	7	-
P. hemiptera	W	-	-	-	-	-	1	-
P. viridis	O	-	-	-	-	-	11	-
P. spp.	?	-	-	-	-	-	2	-
Rhopalodia spp	?	-	-	-	-	-	1	-
Stauroneis phoenicenteron	O	-	-	-	-	-	5	-
Synedra ulna	W	-	-	-	-	-	16	-
S. spp.	?	-	-	-	-	-	1	-
海水藻場	(Cl)	-	-	-	-	-	1	-
不定または不明	(？)	-	-	-	-	-	1	-
不定または不明	(？)	-	-	-	-	-	4	-
湖沼浮遊生	(M)	-	-	-	-	-	31	-
湖沼沼沢湿地	(N)	-	-	-	-	-	4	-
沼沢湿地付着生	(O)	-	-	-	-	-	24	1
陸域	(Q)	-	-	-	-	-	5	-
広布	(W)	-	1	-	-	-	47	1
不明	(？)	-	1	-	-	-	16	1
珪藻殻数		0	2	0	0	0	133	3

(2) 山ノ花遺跡

１．試料

検討した堆積物は、８世紀のSD10内堆積物（試料14）、５世紀大溝内のⅣ層下部（試料16）およびⅤ層最下層（試料17）の合計３試料である。

２．珪藻化石の特徴と堆積環境

試料から検出された珪藻化石は、海水～汽水種４分類群３属３種，淡水種54分類群24属40種３亜種である。これらの珪藻化石からは、６環境指標種群が設定され、大きく２帯が設定された。以下では、各珪藻帯の珪藻化石の特徴とその環境について述べる。

Ⅰ帯（試料№16，17）

堆積物１g中の珪藻殻数は約1.81×10⁶個と約5.93×10⁶個、完形殻の出現率は約75%と約53%である。検出された珪藻化石は、水生の広布種（付着生種）の出現率が高く、沼沢湿地付着生指標種群のPinnularia viridisなどが比較的高率で検出される。

こうしたことから、多少流れのある沼沢地環境が考えられる。

II帯（試料№14）

堆積物１g中の珪藻殻数は約3.52×10⁴個、完形殻の出現率は約49%である。中～下流性河川指標種群のCymbella turgidulaが高率で出現し、湖沼浮遊生指標種群のMelosira granulataや湖沼沼沢湿地指標種群のFragilaria pinnataなどが随伴する。なお、海水種もわずかながら随伴する。

こうしたことから、河口部上流域のような水深のある河川環境が推定される。

引用文献

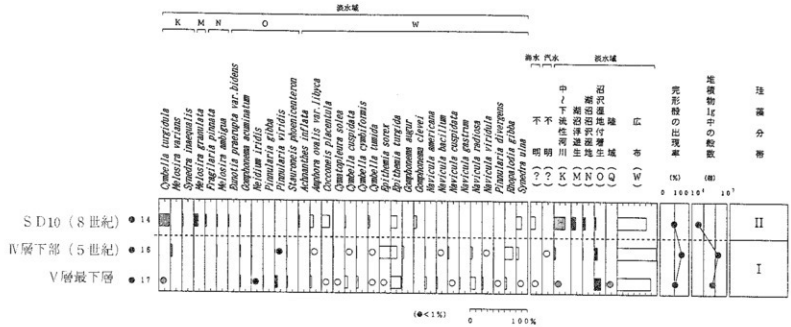
安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73-88．

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，p.1-20．

表５　珪藻化石産出表

（種群は、主に安藤（1990）の環境指標種群に従う）

分類群	種群	14	16	17
Actinocyclus ehrenbergii	?	1	-	-
A. spp.	?	2	-	-
Diploneis interrupta	?	2	-	1
Thalassiosira bramaputrae	?	-	1	-
Achnanthes inflata	W	1	-	-
Amphora ovalis var. libyca	W	4	2	6
Caloneis spp.	?	-	1	2
Cocconeis placentula	W	9	-	1
Cymatopleura solea	W	-	3	2
Cymbella cuspidata	W	1	1	11
C. cymbiformis	W	-	3	7
C. tumida	W	2	2	2
C. turgidula	K	12	-	1
C. spp.	?	-	3	10
Diploneis ovalis	W	-	-	1
Epithemia adnata	W	-	1	2
E. sorex	W	-	38	2
E. turgida	W	7	22	39
E. spp.	?	-	24	18
Eunotia lunaris	W	-	1	1
E. pectinalis var. undulata	O	-	1	2
E. praerupta var. bidens	O	1	-	-
E. spp.	?	-	-	2
Fragilaria pinnata	N	2	-	-
Frustulia spp.	?	2	-	-
Gomphonema acuminatum	O	1	5	5
G. augur	W	-	7	-
G. clevei	W	3	-	-
G. constrictum	W	-	2	-
G. spp.	?	-	3	4
Gyrosigma spp.	?	-	-	7
Hantzschia amphioxys	Q	-	-	1
Melosira ambigua	N	1	3	-
M. granulata	N	5	-	-
M. varians	K	-	6	-
Navicula americana	W	-	3	7
N. bacillum	W	-	1	4
N. cuspidata	W	-	5	1
N. elginensis	O	-	-	1
N. gastrum	W	-	-	4
N. pupula	W	-	2	2
N. radiosa	W	-	6	19
N. viridula	W	-	2	5
N. spp.	?	1	2	3
Neidium iridis	O	-	3	1
Nitzschia spp.	?	-	-	3
Pinnularia braunii	W	-	-	1
P. divergens	W	-	3	1
P. gibba	O	-	-	3
P. sudetica	W	-	-	1
P. viridis	O	-	1	11
P. spp.	?	1	6	6
Plagiotropsis lepidoptera	W	-	1	1
Rhopalodia gibba	W	-	26	6
Stauroneis phoenicenteron	O	-	3	4
Surirella spp.	?	-	2	4
Synedra ineequalis	K	1	-	-
S. ulna	W	6	8	2
Unknown	?	-	-	1
不定または不明　（？）		5	-	1
不定または不明　（？）		-	1	-
中～下流性河川　（K）		13	6	1
湖沼浮遊生　（M）		5	-	-
湖沼沼沢湿地　（N）		3	3	-
沼沢湿地付着生　（O）		2	13	27
陸域　（Q）		-	-	1
広布　（W）		33	141	128
不明　（？）		4	41	60
珪藻殻数		65	205	218


SD10（8世紀）
Ⅳ層下部（5世紀）
Ⅴ層最下層
14
16
17
K
M
N
O
W
淡水域
海水
汽水
淡水域
Cymbella turgidula
Melosira varians
Synedra ulnaeformis
Melosira granulata
Pinnularia gibba
Melosira undulata
Eunotia praerupta var. bidens
Gomphonema acuminatum
Navicula iridis
Pinnularia gibba
Pinnularia viridis
Staurosirella pinnata var. intercalaris
Achnanthes inflata
Amphora ovalis var. libyca
Cocconeis placentula
Cymbella sinica
Cymbella cymbiformis
Cymbella cymbiformis
Cymbella tumida
Epithemia sorex
Epithemia turgida
Gomphonema angustatum
Gomphonema parvulum
Navicula americana
Navicula bacillum
Navicula cuspidata
Navicula gastrum
Navicula pupula
Navicula viridula
Pinnularia divergens
Rhopalodia gibba
Synedra ulna
不明
不明
（－）
（－）
海性
淡水
（×）
（×）
（×）
（○）
（○）
（◎）
中～下
潮間帯
潮間帯
潮間帯
沼
沼
沼

図版4　珪藻化石（Ⅰ）

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

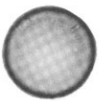
12

13

14

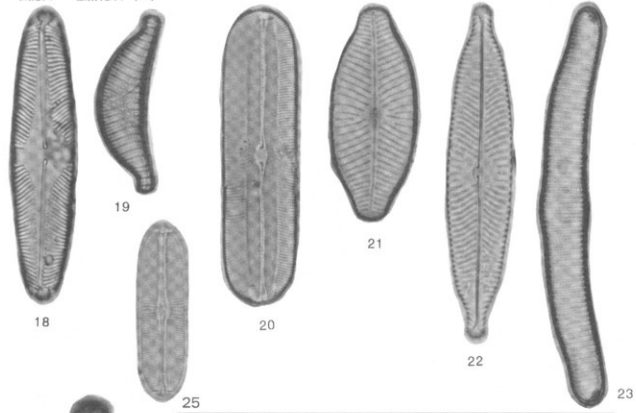
15

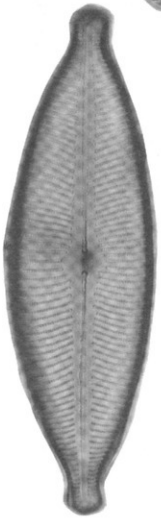
16


17

スケール（1目盛は20μm）

図版5　珪藻化石（2）





No.	分類群	試料No.
1	Amphora ovalis var.lybica	No.12
2	Achnanthes brevipes	No.12
3	Cocconeis placentula	No.12
4	Epithemia turgida	No.12
5	Hantzschia amphioxys	No.12
6	Melosira granulata	No.12
7	Pinnularia viridis	No.12
8	Melosira granulata	No.12
9	Gomphonema acuminatum	No.16
10	Rhopalodia gibba	No.16
11	Cymbella cymbiformis	No.16
12	Navicula radiosa	No.16
13	Epithemia turgida	No.16
14	Cocconeis placentula	No.16
15	Stauroneis phoenicenteron	No.16
16	Gomphonema augur	No.16
17	Melosira varians	No.16
18	Pinnularia divergens	No.16
19	Epithemia sorex	No.16
20	Navicula americana	No.17
21	Navicula gastrum	No.17
22	Navicula viridula	No.17
23	Eunotia pectinalis var.undulata	No.17
24	Cymbella cuspidata	No.17
25	Navicula bacillum	No.17

付載２　恒武西浦遺跡における自然科学分析

株式会社 古環境研究所

Ⅰ．恒武西浦遺跡における花粉分析

１．はじめに

花粉は、有機質の生物遺体のなかで最も分解しにくく、堆積物中に残存しやすい。堆積物中より検出される花粉は、主に広域に分布する風媒花植物が多いことから、花粉分析は、植生、環境、農耕の変遷の推定に利用される。

ここでは、恒武西浦遺跡において採取された堆積物について花粉分析を行った。

２．試料

分析試料は、次表に示すNo.１～No.７の７点である（別冊30・32・41図）。

試料No.	遺構	グリッド	層位	時代
1	南区SR16B	E27	下層	奈良時代
2	中区SR29	G37	最下層（２層）	中世
3	中区基本土層	F32	ⅣA層	古墳時代前期以前
4	北区SR30	G39	最下層	奈良時代
5	北区SR30	H40	最下層	奈良時代
6	北区北東壁	J45	黄白色シルト質粘土（２層）	奈良・平安時代
7	北区北東壁	J45	黒褐色シルト質粘土（３層）	奈良時代以前

３．方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

1）５％水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
2）水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
3）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
4）水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：１濃硫酸のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を施す。
5）再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
6）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、２分間）の後、上澄みを捨てるという操作を３回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベル

によって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

4．結果

(1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉32、樹木花粉と草本花粉を含むもの３、草本花粉21、シダ植物胞子２形態の計58である。これらの学名と和名および粒数を表１に示し、主要な分類群を写真（図版１）に示す。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、ヤマモモ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属―アサダ、クリ―シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属―ケヤキ、エノキ属―ムクノキ、サンショウ属、キハダ属、モチノキ属、ニシキギ科、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、モクセイ科、クサギ科、トネリコ属、ツツジ科、ニワトコ属－ガマズミ属、マンサク科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科―イラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属―ミクリ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、カラハナソウ属、タデ属サナエタデ節、アカザ科―ヒユ科、ナデシコ科、アブラナ科、ノブドウ、チドメグサ亜科、セリ亜科、ナス科、オオバコ属、ゴキヅル、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属、ベニバナ

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

試料３では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、イネ属型を含むイネ科が優占する。草本花粉では他にコモギ属やカヤツリグサ科などが主に出現する。樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属を中心に、コナラ属コナラ亜属、クリ－シイ属（生態上からシイ類が中心とみなされる）、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、スギ、マツ属複維管束亜属などが出現する。他にシダ植物胞子の占める割合がやや高い。

試料４と試料５では、樹木花粉と草本花粉がほぼ同程度の割合を占める。試料４では、ブドウ属、クサギ、クリ―シイ属、コナラ属アカガシ亜属の樹木花粉、イネ属型を含むイネ科、ヨモギ属、カラハナソウ属の草本花粉、クワ科－イラクサ科、ウコギ科の出現率がやや高い。試料５では、樹木花粉ではコナラ属アカガシ亜属が比較的優占し、草本花粉ではイネ属型を含むイネ科が優占する。

試料１、２、６、７では、花粉がほとんど検出されなかった。

5．花粉分析から推定される植生と環境

中区基本土層ⅣA層（古墳時代前期以前）の堆積当時は、遺構周辺で稲作が行われていたと考えられ、周辺地域にはカシ類（コナラ属アカガシ亜属）を主に、シイ類、ナラ類（コナラ属コナラ亜属）、イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科、スギ、ニヨウマツ類（マツ属複維管束亜属）などの森林が分布していたも

表1　恒武西浦遺跡における花粉分析結果

分類群		試料						
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7
Arboreal pollen	樹木花粉							
Podocarpus	マキ属				2			
Abies	モミ属			3		5		
Tsuga	ツガ属			2	4	1		
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属			11	7	19		
Cryptomeria japonica	スギ			9	3	12		
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ				4	1		
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科			18	5	12		
Myrica	ヤマモモ属			1				
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ			1	1	3		
Alnus	ハンノキ属				2	1		
Betula	カバノキ属			4	4	3		
Corylus	ハシバミ属					1		
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ				3			
Castanea crenata-Castanopsis	クリ-シイ属			11	29	32		
Fagus	ブナ属			3	2			
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	1		13	5	4		
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属			45	20	95	1	
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ				1	1		
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ			1	1	6		
Zanthoxylum	サンショウ属				1	5		
Phellodendron	キハダ属				2	4		
Ilex	モチノキ属				1			
Celastraceae	ニシキギ科				2	1		
Acer	カエデ属				1	1		
Aesculus turbinata	トチノキ			1	1	4		
Vitis	ブドウ属				37	16		
Oleaceae	モクセイ科					1		
Clerodendrum trichotomum	クサギ				28	1		
Fraxinus	トネリコ属				1			
Ericaceae	ツツジ科			1				
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属			1	1	1		
Hamamerideaceae	マンサク科			1				
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉							
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科			1	28	9		
Leguminosae	マメ科				8	1		
Araliaceae	ウコギ科				18	7		
Nonarboreal pollen	草本花粉							
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属							1
Gramineae	イネ科	1	1	144	45	81	1	3
Oryza type	イネ属型			20	11	11		
Cyperaceae	カヤツリグサ科			11	14	15		
Monochoria	ミズアオイ属			2	2	1		
Humulus	カラハナソウ属			5	31	6		
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節			2				
Chenopodiacease-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科				9	15		
Caryophyllaceae	ナデシコ科			1	1			
Cruciferae	アブラナ科			4	1	1		
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ				1	2		
Hydrocetyloideae	チドメグサ亜科				3	1		
Apioideae	セリ亜科			2	1	3		
Solanaceae	ナス科				2			
Plantago	オオバコ属				2	3		
Actinostemma lobatum	ゴキヅル					1		
Lactucoideae	タンポポ亜科			1	1	3		
Asteroideae	キク亜科			1	2	1		
Xanthium	オナモミ属				2			
Artemisia	ヨモギ属			26	41	18		8
Carthamus tinctorius	ベニバナ					1		-
Fern spore	シダ植物胞子							
Monolate type spore	単条溝胞子	12	1	47	12	19	6	26
Trilate type spore	三条溝胞子	1	1	23	2	6		3
Arboreal pollen	樹木花粉	1	0	126	168	230	1	0
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	0	1	54	17	0	0
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	1	219	169	163	1	12
Total pollen	花粉総数	2	1	346	391	410	2	12
Unknown pollen	未同定花粉	0	0	2	10	4	0	0
Fern spore	シダ植物胞子	13	2	70	14	25	6	29
Helminth eggs	寄生虫卵							
Trichuris	鞭虫卵				1	2		
Diphyllobothoyium mansoni	マンソン裂頭条虫卵				1			
	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

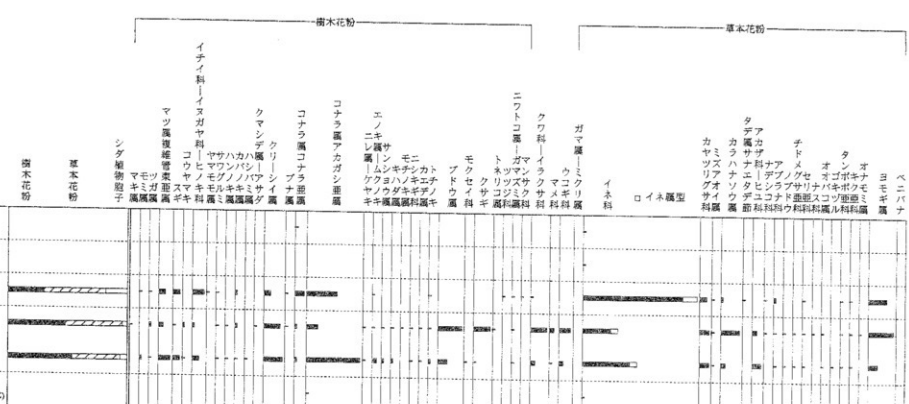
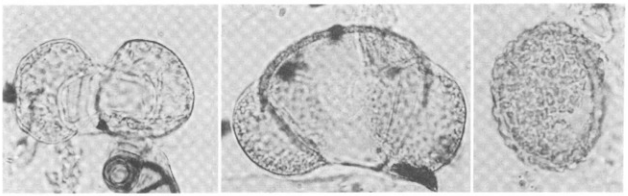
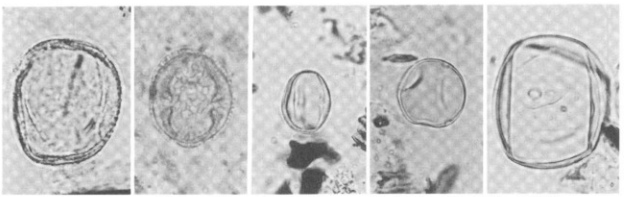


図1　恒武西浦遺跡における花粉ダイアグラム

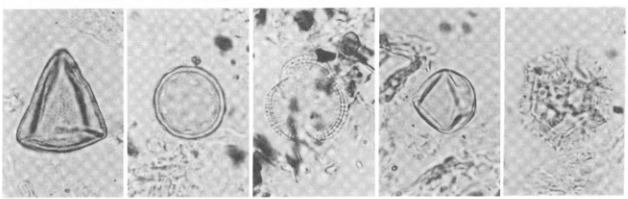
図版Ⅰ　恒武西浦遺跡の花粉・寄生虫卵・胞子遺体



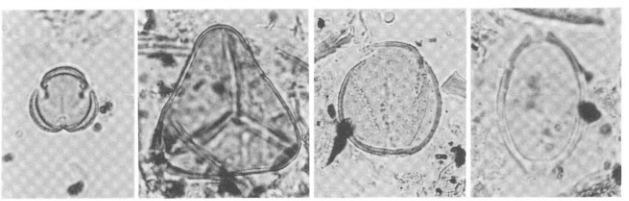
1　マキ属　　2　マツ属複維管束亜属　　3　コウヤマキ



4　コナラ属コナラ亜属　　5　サンショウ属　　6　ブドウ属　　7　クワ科―イラクサ科 8　イネ属型



9　カヤツリグサ科　　10　アカザ科-ヒユ科　　11　アブラナ科　　12　ナス科　　13　タンポポ亜科



14　ヨモギ属　　15　シダ植物三条溝胞子　　16　クサギ　　17　鞭虫卵

45 μm　　45 μm　　45 μm

のと推定される。

奈良時代とされる北区ＳＲ30の堆積当時も、おおむね同様の環境であったと考えられるが、遺構の周囲にはブドウ属、クサギ、クワ科－イラクサ科、ウコギ科、カラハナソウ属、ヨモギ属などが多く生育していたものと推定される。これらの植物は、林縁および人為地の縁辺などのやや乾燥したところに二次植生として生育する植物である。

文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院，p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集，91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，第10号，p.21-30.

Ⅱ．恒武西浦遺跡における植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する分析であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。

２．試料

分析試料は、花粉分析に用いられたものと同一試料の７点である。

３．分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

１）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

２）試料約１gに対して直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加
（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）

３）電気炉灰化法（550℃・６時間）による脱有機物処理

４）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

５）沈底法による20μm以下の微粒子除去

６）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

７）検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相

当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、メダケ節は1.16、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。

4．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表2および図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真（図版2）を示す。

〔イネ科〕

イネ、ヨシ属、ススキ属型（おもにススキ属）、ウシクサ族A（チガヤ属など）、ウシクサ族B（大型）

〔イネ科―タケ亜科〕

メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属）、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節）、未分類等

〔イネ科―その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

〔樹木〕

クスノキ科、その他

5．考察

(1) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネをはじめオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはイネが検出された。

イネは、試料1（南区SR16B、奈良時代）、試料2（中区SR29、中世）、試料3（中区基本土層、古墳時代前期以前）、試料5（北区SR30、奈良時代）、試料7（北区北東壁、奈良時代以前）から検出された。密度は700～1,500個/gといずれも低い値であり、稲作跡の検証や探査を行う場合の判断基準としている5,000個/gを下回っている。このことから、各遺構の周辺では稲作が行われていたと考えられ、そこから何らかの形でイネの植物珪酸体が混入したものと推定される。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

(2) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、部分的にススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、ネザサ節型、クマザサ属型、クスノキ科などが検出されたが、いずれも少量である。このことから、当時の遺構周辺は、何らかの原因でイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったものと推定される。

6．まとめ

植物珪酸体分析の結果、試料1（南区SR16B、奈良時代）、試料2（中区SR29、中世）、試料3（中区基本土層、古墳時代前期以前）、試料5（北区SR30、奈良時代）、試料7（北区北東壁、奈良時代以前）からイネが検出され、それぞれ周辺で稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

杉山真二(1987)遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第2号，p.27-37.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)　数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一．考古学と自然科学，9，p.15 29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―．考古学と自然科学，17，p.73 85.

表2　恒武西浦遺跡における植物珪酸体分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群	学名 ＼ 地点・試料	1	2	3	4	5	6	7
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	15	7	14		7		7
ヨシ属	*Phragmites* (reed)			7				
ススキ属型	*Miscanthus* type		21					7
ウシクサ族A	Andropogoneae A type		14	7			7	29
ウシクサ族B	Andropogoneae B type		7					
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	7	7					
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	7					7	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	7	7		7			
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*						7	
未分類等	Others	15	7			7	7	
その他のイネ科	Others							
表皮毛起源	Husk hair origin		14					15
棒状珪酸体	Rod-shaped	36	28	100			22	15
未分類等	Others	51	98	143	7		29	80
樹木起源	Arboreal							
クスノキ科	Lauraceae		7				7	
その他	Others			14				
（海綿骨針）	Sponge		7					
植物珪酸体総数	Total	138	217	286	15	15	87	153

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	0.43	0.21	0.42		0.22		0.21
ヨシ属	*Phragmites* (reed)			0.45				
ススキ属型	*Miscanthus* type		0.26					0.09
メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	0.08	0.08					
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	0.03					0.03	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	0.05	0.05		0.05			
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*						0.02	

タケ亜科の比率（%）

メダケ節型	*Pleioblastus* sect. *Medake*	49	61					
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa*	20					62	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*)	31	39		100			
ミヤコザサ節型	*Sasa* sect. *Miyakozasa*						38	

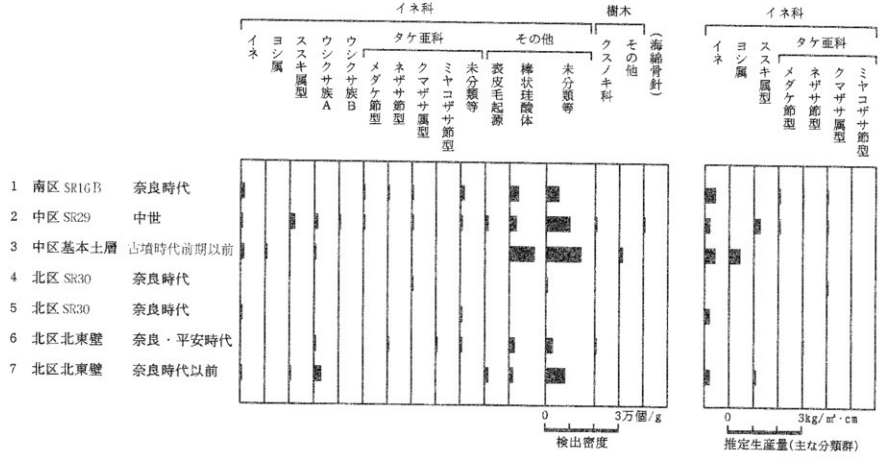
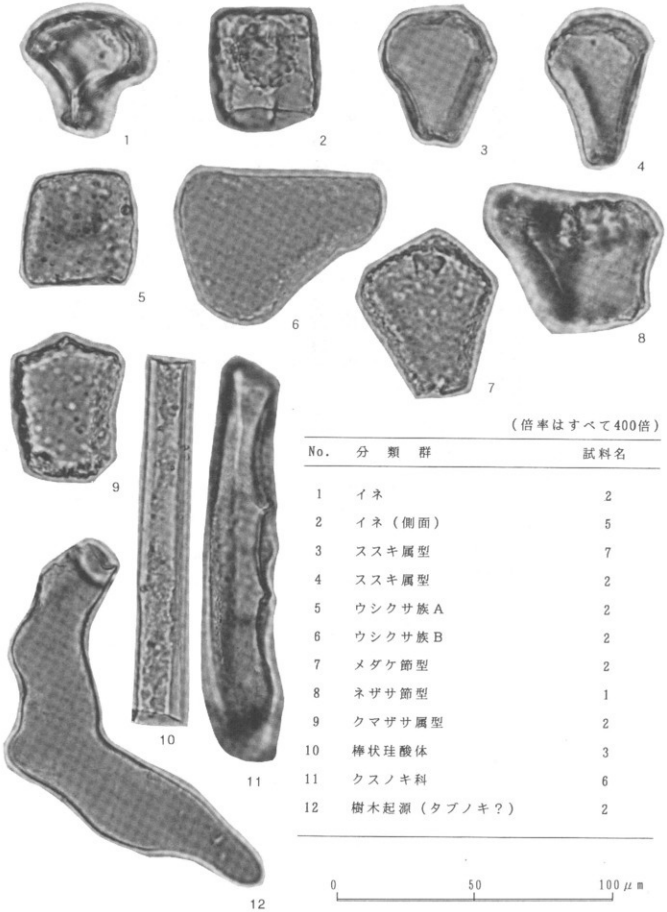


図2　恒武西浦遺跡における植物珪酸体分析結果

図版２　植物珪酸体の顕微鏡写真



（倍率はすべて400倍）

No.	分　類　群	試料名
1	イネ	2
2	イネ（側面）	5
3	ススキ属型	7
4	ススキ属型	2
5	ウシクサ族Ａ	2
6	ウシクサ族Ｂ	2
7	メダケ節型	2
8	ネザサ節型	1
9	クマザサ属型	2
10	棒状珪酸体	3
11	クスノキ科	6
12	樹木起源（タブノキ？）	2

Ⅲ．恒武西浦遺跡における珪藻分析

1．はじめに

珪藻は、10～500μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられている。また、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群も設定されている（小杉，1988、安藤，1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地、池あるいは水成環境以外の陸地（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）で生育する珪藻種（陸生珪藻）も知られている。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質を利用して、過去の堆積物中の珪藻化石の解析から、堆積物の堆積環境について知ることが可能である。

2．試料

試料は、奈良時代とされる北区SR30の最下層の堆積物である。

3．処理方法

(1) 試料から約1g程度（湿潤重量）を取り出し、秤量した後にビーカーに移して30％過酸化水素水を加える。その後、加熱・反応させて、有機物の分解と粒子の分散を行う。

(2) 反応終了後、水を加えて1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返す。

(3) 残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量を取り、カバーガラスに滴下して乾燥させる。乾燥後は、マウントメディアで封入してプレパラートを作成する。

作成したプレパラートは1000倍の顕微鏡下で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。なお、200個未満の試料はプレパラート全面を精査した。

4．珪藻化石の特徴

検出された珪藻化石は、表3に示す2分類群2属2種である。

5．珪藻分析から推定される堆積環境

堆積物1g中の珪藻殻数は約1.01×10^{4}個、完形殻の出現率は0％である。珪藻化石は、海水種のDiploneis interrupta 1個体と淡水広布種のSynedra ulna 2個体のみである。このように、検出された珪藻化石が非常に少ないことから、溝内が水成環境であったと断定することは困難である。珪藻化石が少ない原因の一つとして、堆積後に珪藻化石が溶出したことが考えられる。

表3　恒武西浦遺跡から検出された珪藻化石

※種群は、安藤（1990）に従う

分類群	種群	1
Dploneis interrupta	?	1
Synedra ulna	W	2
海水種	W	1
淡水広布種	W	2
合　計		3

文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73-88.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，p.1-20.

Murakami T. (1996) Silicious Remains Dissolution at Sphagnum-bog of Naganoyama Wetland an Aich Prefecture, Central Japan. 第四紀研究，35(1)，p17-23.

付載３　　恒西浦遺跡の古環境変遷

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

恒武西浦遺跡は、天竜川下流域に広がる沖積低地の自然堤防上からその後背地にかけて立地し、古墳時代中・後期の遺構・遺物が検出されている。また、北区の旧河道では奈良時代の律令的祭祀に関わると推定される遺物が、南区と中区では大型の掘立柱建物跡が検出されており、注目されている。さらに周辺遺跡との関係から、本遺跡は官衙的な性格を持っていた可能性があるとされている。

ところで、今回の調査区では古墳時代以降の溝が多数検出されており、腐植を多く含む堆積物により埋積されるものも認められた。このような埋積物中には、過去の環境（古植生や堆積環境）を明らかにするための情報が、豊富に包含されている可能性がある。そこで、本遺跡周辺の古環境について検討するために、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を実施する。

１．試料

試料は、SR45・SR42・SR41で採取された溝埋積土、７点（試料名Ａ～Ｇ）である（図１）。

これらの試料は、試料名Ｇ・Ｆが灰色シルトと粘土の互層、試料名Ｅ～Ｂが植物遺体を多量に含む黒灰色粘土、試料名Ａがラミナが形成される黒灰色シルト質粘土である。各試料の時代等は、表１に示した。採取された７試料全点について、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析を実施する。

表１　分析試料の一覧

試料名	層位	土　質	遺構名	時代性
A	2	黒灰色シルト質粘土（ラミナ形成）	SR41	平安時代
B	4	黒灰色粘土（植物遺体多量に含む）	SR42	奈良時代
C	24	黒灰色粘土（植物遺体多量に含む）	SR45	上部が５～６世紀前半
D				
E	27	黒灰色粘土（植物遺体多量に含む）		
F	28	灰色シルトと粘土の互層（下部に植物遺体を多量に含む）		
G	29	灰色粘土とシルトの互層（植物遺体をわずかに含む）		

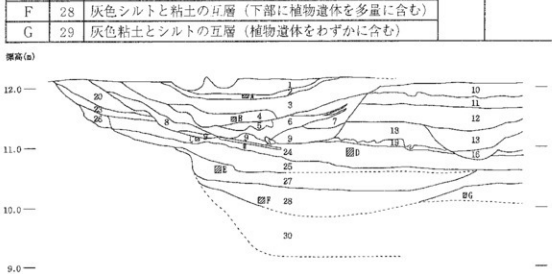


図１　試料採取地点の土層断面

□ が試料採取位置を、アルファベットが試料名を示す

2．分析方法

(1) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し、乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージで任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に、200個体以上同定・計数する。種の同定は、K. Krammer (1992)、K. Krammer and Lange-Bertalot (1986, 1988, 1991a, 1991b) などを用いる。

同定結果は、海水～汽水生種、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類はアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種についてはさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度（pH）・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種については、その内容を示す。

そして、産出個体数100個体以上の試料については、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出した化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求め、考察の際に考慮する。堆積環境の解析にあたって、海水生種については小杉（1988）、淡水生種については安藤（1990）、陸生珪藻については伊藤・堀内（1991）、汚濁耐性については、K. Asai & T. Watanabe (1995) の環境指標種を参考とする。

(2) 花粉分析

試料を湿重で約10g秤量し、水酸化カリウム処理、篩別、重液分離（臭化亜鉛，比重2.3）、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理（無水酢酸：濃硫酸＝9：1）の順に物理・化学的な処理を施して、花粉・胞子化石を分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入して、プレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について、同定・計数を行う。

結果は、同定・計数結果の一覧表および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の各種類の出現率は、木本花粉が木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子が総数より不明花粉を除いた数をそれぞれ基数とした、百分率で算出する。なお、図表中で複数の種類をハイフォン（—）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

(3) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入し、プレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）、および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。

3．結果

(1) 珪藻分析

結果を表2・図2に示す。珪藻化石は、何れの試料も淡水生種が産出する。産出分類群数は、合計で35属167種類である。珪藻化石群集は、試料名G・F、試料名E、試料名D・C、試料名B、試料名Aで違いがある。

試料名G・Fは、完形殻の出現率が約70%と高い。淡水生種の生態性的特徴は、貧塩不定性種（少量の塩分には耐えられる種）、真＋好アルカリ性種（アルカリ性水域に生育する種）、真＋好流水性種（流

表2　珪藻分析結果（Ⅰ）

種類	生態性 塩分	生態性 pH	生態性 流水	環境指標種	SR31 2層 A	SR32 4層 B	SR32 24層 C	SR32 24層 D	SR45 1層 E	SR45 28層 F	SR45 29層 G
Diploneis interrupta (Kuetz.) Cleve	Euh-Meh				–	–	–	–	–	–	4
Navicula peregrina (Ehr.) Kuetzing	Meh				–	–	–	–	–	–	–
Thalassiosira lacustris (Grun.) Hasle	Meh				–	–	–	1	–	–	–
Cyclotella meneghiniana Kuetzing	Ogh-Meh	al-il	l-ph	L, S	–	–	–	3	–	–	–
Fragilaria brevistriata Grunow	Ogh-Meh	al-il	l-ph	U	–	16	–	1	–	–	–
Rhopalodia gibberula (Ehr.) O. Muller	Ogh-Meh	al-il	ind		–	1	–	–	2	–	1
Achnanthes convergens H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	r-ph	T	–	–	–	–	–	3	–
Achnanthes crenulata Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	–	–	–	–	–	3	1
Achnanthes exigua Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	S	–	–	–	–	–	–	1
Achnanthes inflata (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	3	–	1	3	1
Achnanthes lanceolata (Breb.) Grunow	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	–	–	1	–	–	–	2
Achnanthes laterostrata Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	–	–	–	1	–
Achnanthes minutissima Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	1	–
Achnanthes oblongella Ostrup	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	4	–	–	–
Achnanthes subhudsonis Hustedt	Ogh-ind	ind	r-ph	T	–	–	–	–	–	2	1
Achnanthes tropica Hustedt	Ogh-ind	ind	ind		–	–	–	–	–	1	–
Amphora affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	1	2	10	1	4	–	14
Amphora inariensis Krammer	Ogh-unk	unk	unk		–	1	–	–	–	–	–
Amphora montana Krasske	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	1	–	–	–	–	1
Amphora normanii Rabenhorst	Ogh-ind	ind	ind	RB	–	–	1	–	2	–	–
Amphora ovalis (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	–	1	–	–	1
Amphora pediculus (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	T	–	–	–	–	–	–	1
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	N	–	1	–	29	–	1	1
Aulacoseira crenulata (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph		52	1	1	1	–	–	–
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M, U	–	1	18	5	–	3	2
Aulacoseira granulata var. angustissima (Mull.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M, U	–	–	1	–	–	–	–
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	5	1	2	11	–	–	–
Caloneis angustivalva Petit	Ogh-unk	unk	unk	RI	–	–	1	–	–	–	–
Caloneis bacillum (Grun.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	–	–	–	–	–	–	2
Caloneis leptosoma Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	–	1	–	–	–	–	–
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		–	1	1	1	1	1	–
Caloneis tenuis (Greg.) Krammer	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	1	–	–	–
Ceratoneis arcus Kuetzing	Ogh-hob	ind	r-bi	K, T	–	–	–	–	–	1	–
Ceratoneis arcus var. hattoriana Meister	Ogh-ind	ind	r-bi	J	–	1	–	–	–	–	–
Cocconeis placentula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	5	4	3	3	10	8
Cocconeis placentula var. euglypta (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	–	–	–	–	3	1
Craticula cuspidata (Kuetz.) D. G. Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	–	1	–	–	2	–	–
Craticula perrotettii Grunow	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	1	–	–
Craticula spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	1	–	–
Cymatopleura solea (Breb.) W. Smith	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	1	1	–	–	–
Cymbella affinis Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	1	–	–	–	–	1
Cymbella amphioxys (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	ac-il	l-ph		–	1	–	–	–	–	–
Cymbella aspera (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O, T	–	–	2	–	3	–	–
Cymbella cistula (Ehr.) Kirchner	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, T	–	–	1	2	–	–	1
Cymbella cuspidata Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind		–	1	–	–	–	–	4
Cymbella ehrenbergii Kuetzing	Ogh-ind	ind	l-ph	O	–	–	–	–	–	–	1
Cymbella lacustris (Ag.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	–	–	–	–	1
Cymbella leptoceros (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	–	–	1	–	–	–	–
Cymbella minuta Hilse ex Rabh.	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	–	1	–	–	–	–	–
Cymbella naviculiformis Auerswald	Ogh-ind	ind	ind	O	1	1	1	–	–	–	2
Cymbella silesiaca Bleisch	Ogh-ind	ind	ind	T	1	2	4	1	2	9	11
Cymbella sinuata Gregory	Ogh-ind	ind	r-ph	K, T	–	–	–	–	1	4	3
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	3	1		3	4
Cymbella turgidula Grunow	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	–	7	–	1	1	12	26
Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	–	2	1		1	3	12
Diatoma hyemale var. mesodon (Ehr.) Kirchener	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	–	–	–		1	1	3
Diatomella balfouriana (W. Smith) Grevil	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–	–	–		1
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		–	2	1	–	1	–	–
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		–	–	33	22	1	1	1
Epithemia sorex Kuetzing	Ogh-ind	al-bi	ind	T		–	19	40	1	–	–
Epithemia turgida (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	–	–	2	1	10	2	1
Epithemia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	1	–	–
Eunotia bilunaris (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	17	–	2	–	–	
Eunotia biseriatoides H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	ind	RA	–	–	–		1	1	–
Eunotia duplicoraphis H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		–	–	–	–	–	1	–

表2　珪藻分析結果（2）

種類	生態性 塩分	生態性 pH	生態性 流水	環境指標種	SR41 2層 A	SR41 4層 B	SR42 24層 C	SR42 24層 D	SR43 27層 E	SR43 28層 F	SR43 29層 G
Eunotia flexuosa (Breb.) Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	1	-	-	-	-	-
Eunotia implicata Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	3	-	-	-	-	-	1
Eunotia incisa W. Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	1	-	-	-	1	-	-
Eunotia monodon var. undulata Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		1	1	2	-	-	-	-
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	31	1	8	1	-	-	-
Eunotia pectinalis var. undulata (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	13	-	6	1	-	-	-
Eunotia praerupta Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O, T	6	-	-	-	-	-	-
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB, O	7	-	3	-	1	-	-
Eunotia pseudotridentula H. Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		-	-		-	1	-	-
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		2		-	-	1	-	-
Fragilaria capucina var. gracilis (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-		2	-	1	-	1
Fragilaria capucina var. mesolepta (Rabh.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	5	-	-	-
Fragilaria construens fo. binodis (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	2	-	-	-	-	-
Fragilaria construens fo. venter (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	6	1	6	-	1	1
Fragilaria construens var. triondulata Reichelt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-			-	-	1	-
Fragilaria parasitica (W. Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	1		2	-	-	-
Fragilaria pinnata Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	S	-	-	-	1	-	-	2
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		-	2	5	2	3	3	5
Fragilaria ulna var. arcus (Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	2	-	-	-
Fragilaria vaucheriae (Kuetz.) Petersen	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	-	1	-	-	-	2	1
Frustulia vulgaris (Thwait.) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	2	-	-	-	-	-
Gomphonema acuminatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	1	1	1	1	-	-
Gomphonema acutiusculum (O. Müller) Cleve-Euler	Ogh-ind	al-il	l-ph		6	-	2	1	-	-	-
Gomphonema angustum Agardh	Ogh-ind	al-il	ind			2	-	1	-	-	1
Gomphonema augur var. gautieri V. Heurck	Ogh-ind	ind	ind		-	-	7	3	-	-	-
Gomphonema christensenii Lowe et Kociolek	Ogh-unk	unk	r-ph	T		-	-	-	-	1	-
Gomphonema clevei Fricke	Ogh-ind	al-bi	r-ph	T			1	1	2	3	8
Gomphonema contraturris Lange-B. & Reichardt	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	2	2		1		
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O, U	13	8	2	3	1	1	3
Gomphonema minutum (Agardh) Agardh	Ogh-ind	al-il	r-ph	U		-	-	-	1	1	-
Gomphonema oxycephalum Cleve	Ogh-unk	unk	unk		-	-	1	-	-	-	-
Gomphonema parvulum Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	12	26	5	1	-	4	7
Gomphonema parvulum var. lagenula (Kuetzing) Frenguelli	Ogh-ind	ind	r-ph	S	-	-	-	-	-	-	1
Gomphonema pumilum (Grun.) Reichardt & Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind		2	3	-	-	-	3	-
Gomphonema sarcophagus Gregory	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	1	-	-	-	-
Gomphonema sphaerophorum Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	2	-	-	-	-
Gomphonema subtile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind					-	1		
Gomphonema sumatorense Fricke	Ogh-ind	ind	r-bi	T					3	3	
Gomphonema truncatum Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T		1	7	2	2	-	-
Gomphonema vibrio Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	r-ph				-	-	4	-	-
Gyrosigma scalproides (Rabh.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph		-	1	-	-	1	-	-
Gyrosigma spencerii (W. Smith) Cleve	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	1	-	-	-		
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA, U	3	6	4	-	2	1	1
Martyana martyi (Heribaud) Round	Ogh-ind	al-il	ind		-	1	-	-	-	-	-
Melosira varians Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K, U	-	-	-	2	-	-	1
Meridion circular var. constrictum (Ralfs) V. Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K, T	-	-	2	-	-	-	-
Navicula capitatoradiata Germain	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, T	-	-	-	-	-	-	1
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB, S	12	-	4	1	-	-	-
Navicula contenta fo. biceps (Arnott) Hustedt	Ogh-ind	al-il	ind	RA, T	-	-	1	-	-	-	1
Navicula cryptocephala Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	1			
Navicula decussis Oestrup	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	-	-	-	-	-	2	2
Navicula elginensis (Greg.) Ralfs	Ogh-ind	al-il	ind	O, U	3	1	-	1			1
Navicula elginensis var. neglecta (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-						1
Navicula gastrum (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	2	1	1		
Navicula hasta var. gracilis Skvorizow	Ogh-ind	al-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	1
Navicula ignota var. palustris (Hust.) Lund	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	-	-	-	-	1	-
Navicula leptostriata Joergensen	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	-	-	-
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA, S	2	1	1		1	2	2
Navicula pseudolanceolata Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	U				1		1	1
Navicula radiosa Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	T				2	1	1	1
Navicula tokyoensis H. Kobayasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	-	-	1	-	-
Navicula tuscula (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-bi		-	1	-	2	-	1	10
Navicula viridula (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	r-ph	K, U	-	-			1		
Navicula viridula var. linearis Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	2	1	-	1
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	1	-	1

表２　珪藻分析結果（３）

種　類	生態性 塩分	生態性 pH	生態性 流水	環境指標種	SR41 2層 A	SR42 1層 B	24層 C	24層 D	SR45 27層 E	28層 F	29層 G
Neidium ampliatum (Ehr.)Kraemer	Ogh-ind	ind	l-ph		-	-	1	1	-	-	-
Neidium bisulcatum (Lagerst.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	RI	1	-	-	-	-	-	-
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	-	-	2	2	1	-	-
Nitzschia denticula (Kuetz.)Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RA, U	-	-	-	-	-	1	-
Nitzschia linearis W.Smith	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	1
Nitzschia sinuata var. tabellaria (Grun.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	1	-
Orthoseira roeseana (Rabh.)O'Meara	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	-	-	-	-	1
Pinnularia acrosphaeria var. undulata Skvortzow	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia borealis Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	RA	-	-	1	-	1	-	-
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind		4	-	-	-	-	-	-
Pinnularia divergens W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	1	-	-	-	1
Pinnularia gibba Ehrenberg	Ogh-ind	ac-il	ind	O	6	20	2	1	3	-	1
Pinnularia gibba var. dissimilis H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia gibba var. linearis Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind		-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia mesolepta (Ehr.)W.Smith	Ogh-ind	ind	ind	S	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia microstauron (Ehr.)Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	1	-	-	-	-	-	-
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia ornata H.Kobayasi	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	-	-	-	-	-	-
Pinnularia schoenfelderi Kraemer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	1	-	-	-	-	-
Pinnularia schroederii (Hust.)Kraemer	Ogh-ind	ind	ind	RI	-	-	-	-	3	-	-
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB, S	-	-	-	1	-	1	-
Pinnularia ueno Skvortzow	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	1	-	-	-	-
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	3	2	1	-	-	-	2
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	6	-	1
Rhoicosphenia abbreviata (Ag.)Lange-B.	Ogh-hil	al-il	r-ph	K, T	-	1	-	-	-	2	3
Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	4	5	-	-	3
Rhopalodia gibba var. ventricosa (Kuetz.)H.&M.Peray	Ogh-ind	al-il	ind		-	-	2	-	-	-	-
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind		-	1	-	-	1	1	4
Sellaphora americana (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	l-ph		6	-	-	1	-	-	-
Sellaphora bacillum (Ehr.)Mann	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	2	1	1	-	-
Sellaphora laevissima (Kuetz.)Mann	Ogh-ind	ind	ind		-	-	-	2	2	-	-
Sellaphora pupula (Kuetz.)Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S	-	30	1	12	-	1	-
Sellaphora pupula fo. capitata (Skvortzow & Mayer)	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	1	-	-	-
Stauroneis anceps Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	T	-	1	-	-	2	-	-
Stauroneis anceps var. siberica Grunow	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-	-
Stauroneis kriegeri Patrick	Ogh-ind	ind	unk	T	-	-	-	-	1	-	1
Stauroneis nobilis Schumann	Ogh-hob	ac-il	ind		2	5	-	-	-	-	-
Stauroneis phoenicenteron var. hattorii Tsumura	Ogh-ind	ind	ind	O	-	1	1	-	2	-	-
Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister	Ogh-ind	ind	ind		-	-	1	-	-	-	-
Stauroneis tenera Hustedt	Ogh-ind	ind	ind	RB	-	1	-	-	-	-	1
Surirella ovata var. pinnata (W.Smith)Hustedt	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	1	-	-	-	-	-
Tabellaria flocculosa (Roth)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-bi	T	-	-	-	-	-	-	1
海水生種合計					0	0	0	0	0	0	0
海水－汽水生種合計					0	0	0	0	0	0	4
汽水生種合計					0	0	0	2	0	0	0
淡水－汽水生種合計					0	17	0	4	2	0	1
淡水生種合計					205	194	210	202	99	114	196
珪藻化石総数					205	211	210	208	101	114	201

凡例

H.R.:塩分濃度に対する適応性
- Esh-Meh:海水生種-汽水生種
- Meh　:汽水生種
- Ogh-Meh:淡水生種-汽水生種
- Ogh-hil:貧塩好塩性種
- Ogh-ind:貧塩不定性種
- Ogh-hob:貧塩嫌塩性種
- Ogh-unk:貧塩不明種

pH:水素イオン濃度に対する適応性
- al-bi:真アルカリ性種
- al-il:好アルカリ性種
- ind :pH不定性種
- ac-il:好酸性種
- unk :pH不明種

C.R.:流水に対する適応性
- l-bi:真止水性種
- l-ph:好止水性種
- ind :流水不定性種
- r-ph:好流水性種
- r-bi:真流水性種
- unk :流水不明種

環境指標種
- J:上流性河川指標種　K:中～下流性河川指標種　L:最下流性河川指標種　M:湖沼浮遊性種
- N:湖沼沼沢湿地指標種　O:沼沢湿地付着生種（以上は安藤，1990）
- S:好汚濁性種　U:広適応性種　T:好清水性種（以上はSasai,K. & Watanabe,T.1995）
- R:陸生珪藻（RA:ABF,RB:BdF,RI:未区分陸生珪藻，伊藤・堀内，1991）

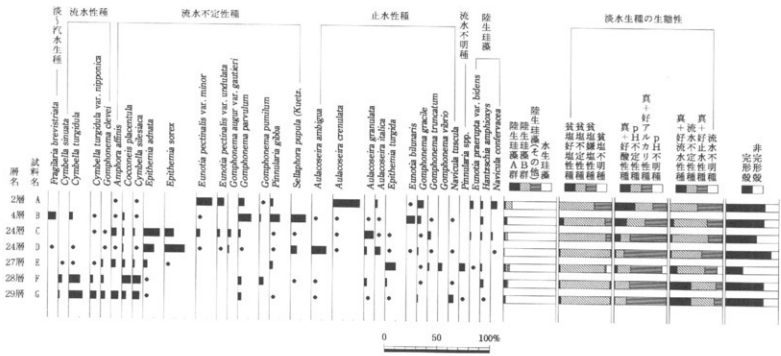
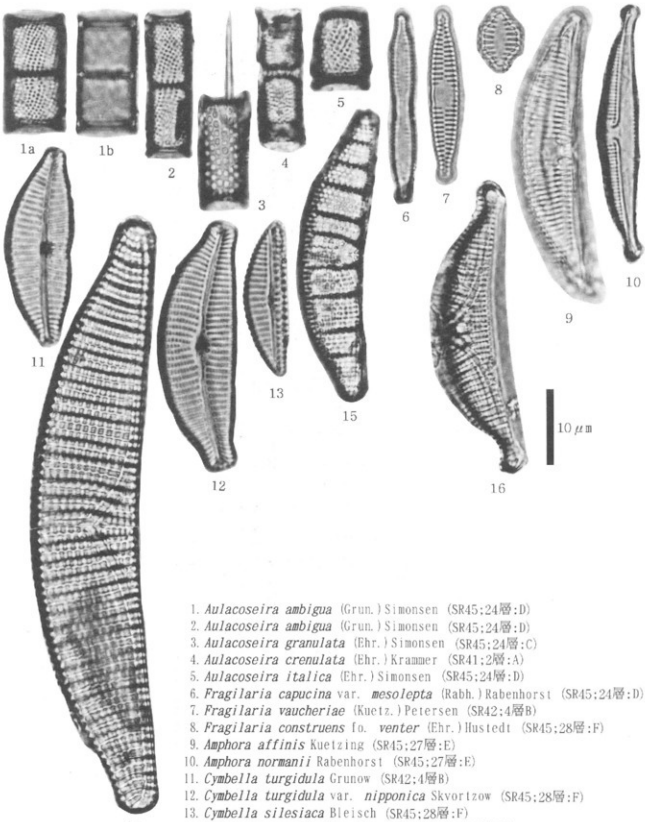


図２　主要珪藻化石群集の層位分布

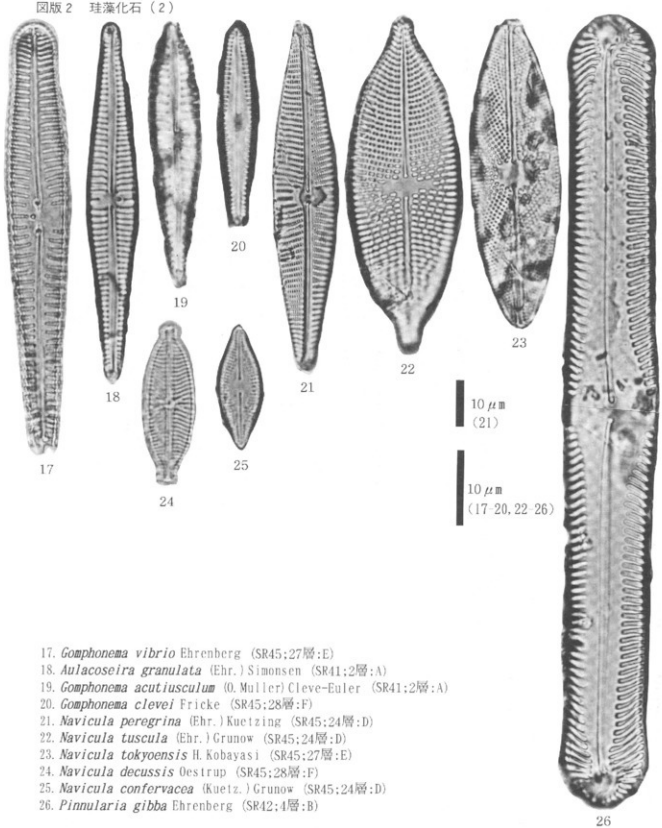
海水-汽水-淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は１％未満を示す。

図版Ⅰ　珪藻化石（Ⅰ）



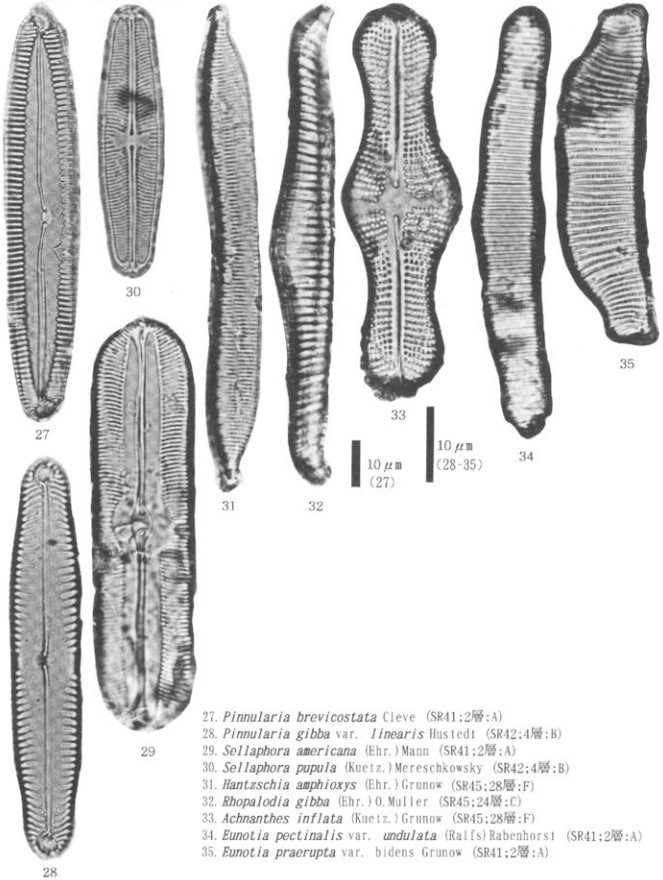
1. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen (SR45;24層:D)
2. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen (SR45;24層:D)
3. *Aulacoseira granulata* (Ehr.) Simonsen (SR45;24層:C)
4. *Aulacoseira crenulata* (Ehr.) Krammer (SR41;2層:A)
5. *Aulacoseira italica* (Ehr.) Simonsen (SR45;24層:D)
6. *Fragilaria capucina* var. *mesolepta* (Rabh.) Rabenhorst (SR45;24層:D)
7. *Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.) Petersen (SR42;4層B)
8. *Fragilaria construens* fo. *venter* (Ehr.) Hustedt (SR45;28層:F)
9. *Amphora affinis* Kuetzing (SR45;27層:E)
10. *Amphora normanii* Rabenhorst (SR45;27層:E)
11. *Cymbella turgidula* Grunow (SR42;4層B)
12. *Cymbella turgidula* var. *nipponica* Skvortzow (SR45;28層:F)
13. *Cymbella silesiaca* Bleisch (SR45;28層:F)
14. *Epithemia turgida* (Ehr.) Kuetzing (SR45;24層:D)
15. *Epithemia adnata* (Kuetz.) Brebisson (SR45;24層:C)
16. *Epithemia sorex* Kuetzing (SR45;24層:C)

図版2　珪藻化石（2）



17. *Gomphonema vibrio* Ehrenberg (SR45;27層:E)
18. *Aulacoseira granulata* (Ehr.) Simonsen (SR41;2層:A)
19. *Gomphonema acutiusculum* (O. Muller) Cleve-Euler (SR41;2層:A)
20. *Gomphonema clevei* Fricke (SR45;28層:F)
21. *Navicula peregrina* (Ehr.) Kuetzing (SR45;24層:D)
22. *Navicula tuscula* (Ehr.) Grunow (SR45;24層:D)
23. *Navicula tokyoensis* H. Kobayasi (SR45;27層:E)
24. *Navicula decussis* Oestrup (SR45;28層:F)
25. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (SR45;24層:D)
26. *Pinnularia gibba* Ehrenberg (SR42;4層:B)

図版3　珪藻化石（3）



27. *Pinnularia brevicostata* Cleve (SR41;2層:A)
28. *Pinnularia gibba* var. *linearis* Hustedt (SR42;4層:B)
29. *Sellaphora americana* (Ehr.) Mann (SR41;2層:A)
30. *Sellaphora pupula* (Kuetz.) Mereschkowsky (SR42;4層:B)
31. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (SR45;28層:F)
32. *Rhopalodia gibba* (Ehr.) O. Muller (SR45;24層:C)
33. *Achnanthes inflata* (Kuetz.) Grunow (SR45;28層:F)
34. *Eunotia pectinalis* var. *undulata* (Ralfs) Rabenhorst (SR41;2層:A)
35. *Eunotia praerupta* var. bidens Grunow (SR41;2層:A)

水域に生育する種）と流水不定性種（流水にも止水にも生育する種）とが、優占または多産する。産出種の特徴は、好流水性で中～下流性河川指標種群（安藤，1990）の一種のCymbella turgidulaが10%と多産し、好流水性で付着性のCymbella turgidula var. nipponica、Gomphonema clevei、流水不定性で付着性のCocconeis placentula、Cymbella silesiacaなどを伴う。

試料名Eは、生態的にみると真－好流水性種が減少する以外、大きな変化がない。産出種の特徴は、好止水性で付着性のEpithemia turgidaが10%と多産し、流水不定性で付着性のAmphora affinis、Epithemia adnata、Pinnularia gibba、好止水性で付着性のGomphonema vibrioを伴うことである。この内、Pinnularia gibbaは、沼沢湿地指標種群（安藤，1990）の一種である。

試料名D・Cは、流水性種がほとんど産出しなくなり、真＋好止水性種が増加することが特徴である。流水不定性で付着性のEpithemia adnata、E. sorexが10～20%と多産し、同じ生態性で好汚濁性種（K. Asai & T. Watanabe，1995）のSellaphora pupulaを伴う。なお、試料名Dで真止水性で浮遊性のAulacoseira ambigua、試料名Cで真止水性で浮遊性のAulacoseira granulataが、10%前後と多産する。

試料名Bは、前試料と比較して真＋好アルカリ性種が減少し、真＋好酸性種が増加する点で異なる。流水不定性で付着性のGomphonema parvulum、Pinnularia gibba、Sellapholla pupula、好止水性で付着性のEunotia bilunaris、塩分濃度に対する適応性の広い広域塩性種のFragilaria brevistriataが15%前後と多産する。

試料名Aは、真＋好酸性種、真＋好止水性種が前試料に引き続き増加する。流水不定性で付着性のEunotia pectinalis var. minor、好止水性で浮遊性のAulacoseira crenulataが20%前後と多産し、流水不定性で付着性のEunotia pectinalis var. undulata、Gomphonema parvulum、好止水性で付着性のGomphonema gracile、水域に陸域にも生育する陸生珪藻B群（伊藤・堀内，1991）のNavicula confervaceaを伴う。この内、Eunotia pectinalis var. minor、Eunotia pectinalis var. undulata、Gomphonema gracileは沼沢湿地指標種群、Navicula confervaceaは好汚濁性種である。

(2) 花粉分析

結果を表３・図３に示す。試料名Aでは、花粉化石がほとんど検出されない。また、わずかに検出される花粉化石も保存状態が悪く、外膜が溶けて薄くなっていたり、壊れている。それ以外の６試料では、比較的良好に花粉化石が検出される。

主な木本花粉の出現傾向は、基本的にコナラ属アカガシ亜属が多産し、この他にモミ属・ツガ属・マツ属・イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科・ヤナギ属・ヤマモモ属・クマシデ属－アサダ属・コナラ属コナラ亜属・ニレ属－ケヤキ属・エノキ属－ムクノキ属などを伴う。ただし、試料名G・Fでツガ属が、試料名Eでハンノキ属・ニシキギ属が、試料名D・Cでクリ属　シイノキ属・イボタノキ属・ガマズミ属が、試料名Bでウコギ科が比較的多く検出される傾向にある。これらのうち、試料名D・Cで検出されるクリ属－シイノキ属は、しばしば塊状（花粉塊）として検出される。

一方、草本花粉・シダ類胞子ではイネ科が検出され、この他にガマ属・ミクリ属・カヤツリグサ科・クワ科・バラ科・フサモ属・ヨモギ属・サンショウモなどが検出される。これらの種類のうち、クワ科・バラ科が上位に向かい増加する。また、試料名Fでガマ属・フサモ属が、また試料名D・Cでサンショウモが比較的多く検出される。

表3　花粉分析結果（1）

種　類	SR41 2層	SR42 4層	24層		SR45 27層	28層	29層
試料名	A	B	C	D	E	F	G
木本花粉							
マキ属	1	4	2	3	1	3	13
モミ属	2	1	9	9	5	13	11
ツガ属	5	8	3	7	15	34	44
トウヒ属	–	–	–	–	–	1	–
マツ属単維管束亜属	–	–	–	–	–	2	–
マツ属複維管束亜属	–	21	3	6	1	8	1
マツ属（不明）	8	21	8	13	6	14	12
コウヤマキ属	4	2	1	–	2	2	5
スギ属	–	3	1	1	2	3	4
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	–	6	5	8	7	5	11
ヤナギ属	–	–	3	18	5	7	–
ヤマモモ属	–	2	2	1	9	7	1
サワグルミ属－クルミ属	–	1	–	1	2	10	4
クマシデ属－アサダ属	–	7	4	4	4	11	7
カバノキ属	–	1	1	1	3	–	–
ハンノキ属	–	1	2	–	81	10	1
ブナ属	–	7	4	4	8	11	2
コナラ属コナラ亜属	–	9	15	19	28	18	8
コナラ属アカガシ亜属	–	71	39	51	74	57	60
クリ属－シイノキ属	–	27	58	76	17	6	9
ニレ属－ケヤキ属	–	2	2	4	5	8	11
エノキ属－ムクノキ属	–	3	7	14	5	1	1
カツラ属	–	–	–	–	–	1	–
カラスザンショウ属	–	2	1	–	–	–	1
コクサギ属	–	2	–	1	–	–	–
キハダ属	–	–	–	–	–	1	2
アカメガシワ属	–	1	1	–	1	–	1
ウルシ属	–	–	–	1	–	–	–
モチノキ属	–	–	–	–	–	1	–
ニシキギ属	1	–	1	1	19	–	–
カエデ属	–	–	–	–	–	2	–
トチノキ属	–	–	–	2	–	8	3
クロウメモドキ科	–	–	1	1	1	–	1
ブドウ属	–	–	2	1	3	–	–
ツタ属	–	2	–	2	–	1	–
ノブドウ属	–	5	1	2	–	–	–
ツバキ属	–	–	–	–	1	–	–
グミ属	–	–	–	–	–	1	2
ウコギ科	–	24	2	4	1	–	–
ミズキ属	–	–	–	–	–	–	1
カキ属	–	–	–	–	1	1	–
ハイノキ属	–	–	–	–	1	1	–
イボタノキ属	–	4	24	13	1	–	1
トネリコ属	–	–	1	–	–	4	–
ガマズミ属	–	–	26	5	1	–	1
スイカズラ属	–	1	–	–	–	–	–

表3　花粉分析結果（2）

種　類	SR41 2層	SR42 4層	SR45 24層		27層	28層	29層
試料名	A	B	C	D	E	F	G
草本花粉							
ガマ属	−	1	1	−	4	40	1
ミクリ属	−	−	3	2	2	3	−
ヒルムシロ属	−	1	−	−	−	−	−
オモダカ属	−	−	1	−	−	−	−
クロモ属	−	−	−	1	−	−	−
イネ科	−	48	38	52	37	79	3
カヤツリグサ科	−	7	9	6	4	21	4
クワ科	−	43	33	10	4	4	−
ギシギシ属	−	−	1	−	1	−	−
サナエタデ節－ウナギツカミ節	2	6	−	1	−	−	−
タデ属	−	−	−	1	−	−	−
アカザ科－ヒユ科	−	2	1	2	−	−	−
ナデシコ科	−	1	−	−	1	−	−
キンポウゲ科	−	−	−	−	1	−	−
タケニグサ属	−	−	−	−	1	−	−
アブラナ科	−	1	1	1	2	−	−
ユキノシタ科	−	−	1	−	−	−	−
バラ科	−	10	4	1	2	−	−
マメ科	−	1	−	−	−	−	−
トウダイグサ科	−	−	−	1	−	−	−
ヒシ属	−	−	−	−	−	1	−
フサモ属	−	−	1	−	2	25	−
セリ科	−	2	−	−	1	−	−
クサギ属	−	1	−	−	−	−	−
オオバコ属	−	2	−	−	−	−	−
ゴキヅル属	−	2	−	1	−	1	−
キュウリ属	−	−	1	−	−	−	−
ヨモギ属	1	9	22	22	17	19	2
オナモミ属	−	1	−	−	−	−	−
キク亜科	−	1	3	1	2	2	−
不明花粉	−	12	5	−	5	4	1
シダ類胞子							
サンショウモ	−	−	6	14	2	−	−
他のシダ類胞子	112	24	10	6	31	65	11
合　計							
木本花粉	21	238	229	273	310	255	218
草本花粉	3	142	120	102	81	195	10
不明花粉	0	12	5	0	5	4	1
シダ類胞子	112	24	16	20	33	65	44
総計（不明を除く）	136	404	365	395	424	515	272

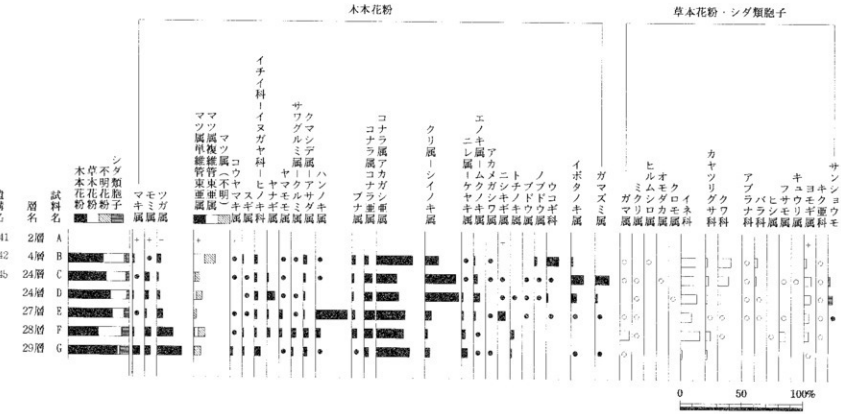
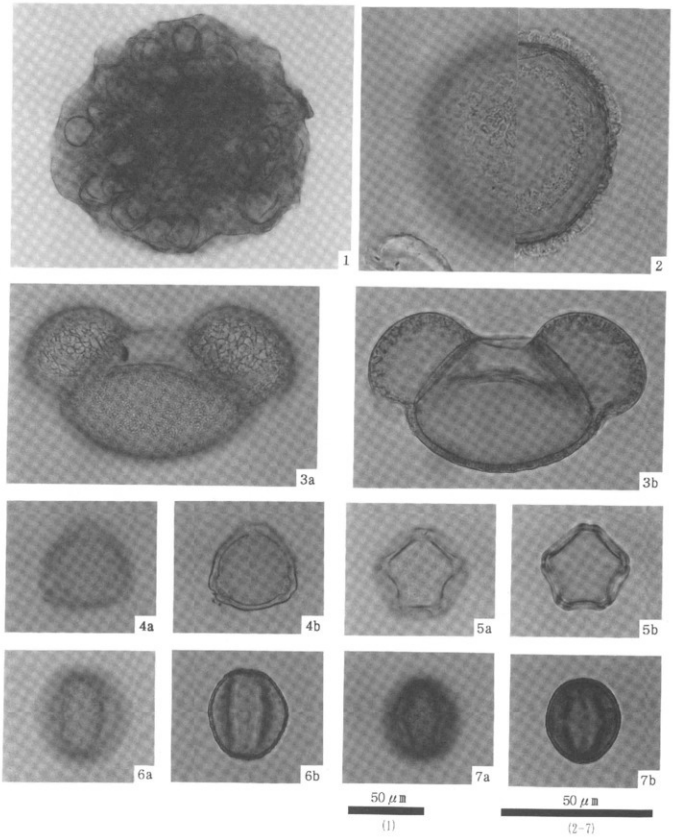


図3　主要花粉化石群集の層位分布

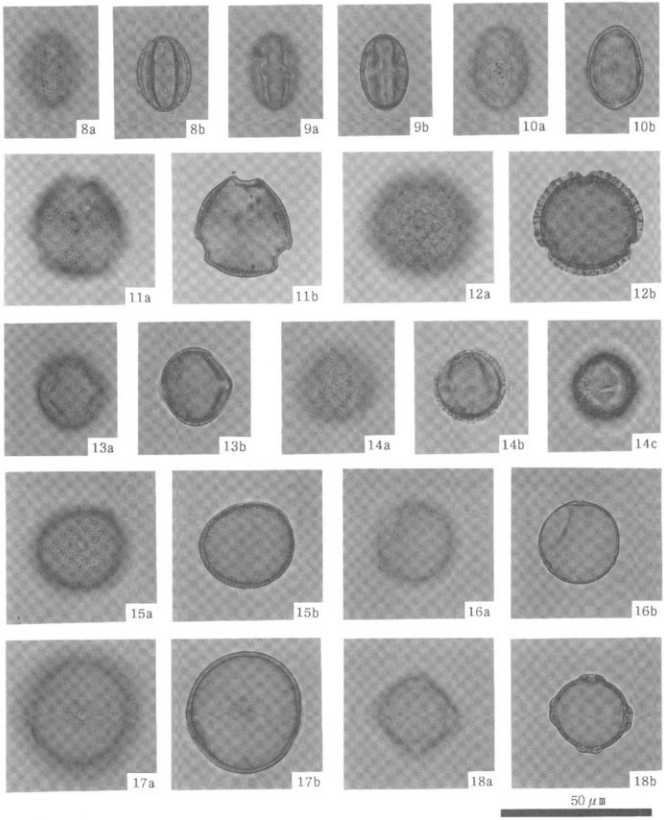
出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、○●は1％未満、＋は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

図版4　花粉化石（Ⅰ）



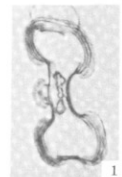
1. サンショウモ（SR45;24層:D）
2. ツガ属（SR45;24層:D）
3. マツ属複維管束亜属（SR45;24層:D）
4. ヤマモモ属（SR45;24層:D）
5. ハンノキ属（SR45;28層:F）
6. コナラ属コナラ亜属（SR45;24層:D）
7. コナラ属アカガシ亜属（SR45;24層:D）

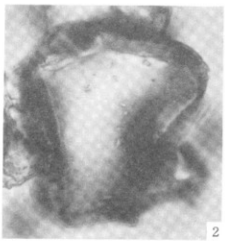
図版5　花粉化石（2）

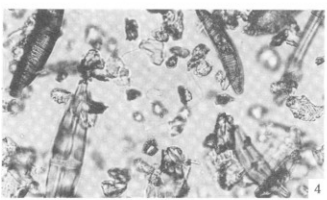


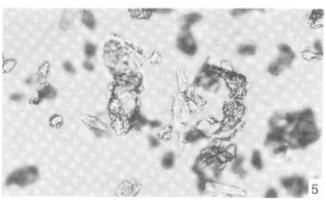
8. ヤナギ属（SR45;24層:D）
9. シイノキ属（SR45;24層:D）
10. トチノキ属（SR45;28層:F）
11. ニシキギ属（SR45;24層:D）
12. イボタノキ属（SR45;24層:C）
13. ウコギ科（SR42;4層:B）
14. ガマズミ属（SR45;24層:C）
15. ガマ属（SR45;24層:C）
16. クワ科（SR45;24層:C）
17. イネ科（SR45;24層:D）
18. フサモ属（SR45;28層:F）

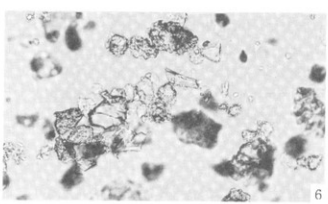
図版6　植物珪酸体

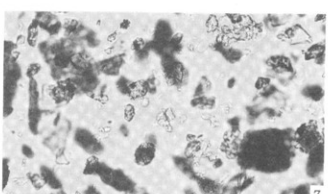












50 μm　　50 μm

(1-3)　　(4-7)

1. ススキ属短細胞珪酸体　(SR41;2層:A)
2. タケ亜科機動細胞珪酸体　(SR41;2層:A)
3. ヨシ属機動細胞珪酸体　(SR41;2層:A)
4. プレパラート内の状況　(SR45;24層:D)
5. プレパラート内の状況　(SR45;27層E)
6. プレパラート内の状況　(SR45;29層:G)
7. プレパラート内の状況　(SR45;28層F)

(3) 植物珪酸体分析

結果を表4に示す。試料名G～Cからは、植物珪酸体がわずかに検出される程度で、保存状態も悪い。検出される種類は、タケ亜科、ヨシ属、ウシクサ族などである。

試料名B・Aでは、試料名G～Cと比較して検出個数が多い。検出される種類は、試料名G～Cと同様にタケ亜科、ヨシ属、ススキ属などである。これらの種類の中では、タケ亜科・ヨシ属の検出個数が多い傾向にある。

表4　植物珪酸体分析結果

種類	SR41 2層	SR42 4層	SR45 24層		27層	28層	29層
試料名	A	B	C	D	E	F	G
イネ科葉部短細胞珪酸体							
タケ亜科	14	24	3	1	1	1	1
ヨシ属	8	21	1	1	1	-	1
ウシクサ族ススキ属	10	12	1	1	1	-	1
イチゴツナギ亜科	-	1	-	-	-	-	-
不明キビ型	6	29	-	2	1	1	-
不明ヒゲシバ型		13		1	-	-	1
不明ダンチク型	2	23	1	1	1		1
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
タケ亜科	22	27	3	1	1	1	1
ヨシ属	41	29	-	3	-	2	1
ウシクサ族	12	33	-	-	1	-	-
不明	40	45	1	-	-		-
合計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	40	123	6	7	6	2	5
イネ科葉身機動細胞珪酸体	115	134	4	4	2	3	2
総計	155	257	10	11	7	5	7

4．考察

(1) 森林植生

今回調査対象とした溝埋積物の花粉化石群集は、基本的にアカガシ亜属が多産し、針葉樹のマキ属・マツ属、広葉樹のクマシデ属―アサダ属・コナラ亜属・クリ属―シイノキ属などを伴うものであった。これらの種類のうちアカガシ亜属は、暖温帯常緑広葉樹林の主要構成要素である。したがって、当時本遺跡周辺は暖温帯に属しており、アカガシ亜属を中心とする暖温帯林が成立していたと思われる。また、低地の河道沿いなどには、ヤナギ属・サワグルミ属―クルミ属・ハンノキ属・ニレ属―ケヤキ属・エノキ属―ムクノキ属・トチノキ属・ガマズミ属などの種類が、分布していたのであろう。

ところで、今回の溝埋積物では、多産するクリ属―シイノキ属がしばしば花粉塊として検出された。また、層位により低木類やツル性木本類のニシキギ属・ブドウ属・ノブドウ属・ウコギ科・イボタノキ属などの種類が、特徴的に検出されている。このような産状は、比較的局地的な植生を反映していると考えられ、溝周辺にこれらの種類が生育していた可能性がある。

本遺跡と同様天竜川右岸に南側に立地する笠輪遺跡で当社が実施した花粉分析によると、縄文時代後・晩期以降、本地域は基本的に暖温帯常緑広葉樹林が成立していたことが明らかにされている。また、浜名湖畔および浜名湖底で行われた完新世の調査成果によると、浜名湖周辺地域の古植生は、落葉広葉樹林期・照葉樹林期・マツ林期に区分されており、南部が約7,500年前に、北部が約5,000年前に照葉樹林が発達するとされている（Mathushita and Sanukida, 1988）。したがって、本遺跡周辺にみられたアカガシ亜属を中心とする暖温帯林は、本地域の普遍的な古植生を反映しているとみられる。

(2) 低地の堆積環境

溝の断面図によれば、5世紀～6世紀前半までに埋積したSR45を削剝して、奈良時代のSR42が形成され、さらにSR42を削剝して、平安時代前期のSR41が形成されている。

SR45の29層・28層では、中～下流性河川指標種群を含む流水性種、流水域に生育したと見られる流水不定性種が多産する。また、27層は特に多産する種類がなく、様々な環境を指標する珪藻化石が検出される。さらに本層では、珪藻化石の保存が悪く、二次堆積した珪藻化石が多く含まれる。したがって、29層～27層は流水の影響を受けて堆積したと考えられる。また、本層準で検出される花粉化石や植物珪酸体の産状から、溝の内部などにはガマ属、ヨシ属、フサモ属などが、周辺にタケ亜科・ススキ属などのイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属などの草本類、ハンノキ属やニシキギ属などの木本類が生育していたと考えられる。

24層になると流水性種がほとんど産出しなくなり、止水性種が増加するとともに、浮遊性種が産出す

る。これより、5世紀～6世紀前半頃になると、SR45の内部は水が停滞する安定した状態に変化し、ミクリ属・オモダカ属・クロモ属・ヨシ属・サンショウモなどの水生植物が生育していたと考えられる。また、周辺の低地には、タケ亜科・ススキ属などのイネ科、カヤツリグサ科、クワ科、ヨモギ属などの草本類が生育していたと思われる。また、上述したとおり周辺には、ヤナギ属・クリ属・シイノキ属・イボタノキ属・ガマズミ属などの木本類も生育していた可能性がある。

SR42の4層では、弱酸性を呈した沼沢や湿地などの環境を指標する種や、有機汚濁の進んだ窪栄養水域に一般的な好汚濁性種が多産する。したがって、奈良時代のSR42は、砂によって埋積が進み、水深が浅くなると流れが弱くなり、窪栄養化したと考えられる。そして、溝内にはガマ属、ヒルムシロ属、ヨシ属などが、また低地にはタケ亜科・ススキ属などのイネ科、カヤツリグサ科、クワ科、ヨモギ属などの草本類とともに、木本類のウコギ科も生育していた可能性がある。

SR41の2層になると、浮遊性種や沼沢湿地指標種群が多産する。よって、平安時代前期のSR41は、水の流れがあまりない状態であったと考えられる。ただし、堆積物にラミナ構造が認められることから、一時的に流水の影響を受けたと思われる。一方、この溝埋積物からは、花粉化石が検出されないが、植物珪酸体でタケ亜科・ヨシ属・ウシクサ属などが検出されることから、これらの種類が溝の内部あるいはその周辺に生育していたと推定される。

このような堆積環境の変化は、周辺低地の環境変化と連動している可能性がある。すなわち、本低地は、古墳時代以前たびたび流路が変更するなど不安定な環境であったが、奈良～平安時代になると流路が安定化したと推定される。今後、さらに資料を蓄積して、地域的に比較・検討を重ね、改めて本遺跡の古環境を再検討したい。

引用文献

安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，p.73-88．

K. Asai & T. Watanabe (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p.35-47.

伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌，6，p.23-45.

近藤錬三・佐瀬　隆 (1986) 植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25，p.31-64.

K. Krammer (1992) PINNULARIA, eine Monographie der europaischen Taxa. BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26. p.1-353., BERLIN・STUTTGART.

K. Krammer & H. Lange-Bertalot (1986) Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae, Band 2/1 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 876p., Gustav Fischer Verlag.

K. Krammer & H. Lange-Bertalot (1988) Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae, Band 2/2 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 536p., Gustav Fischer Verlag.

K. Krammer & H. Lange-Bertalot (1991a) Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae, Band 2/3 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 230p., Gustav Fischer Verlag.

K. Krammer & H. Lange-Bertalot (1991b) Bacillariophyceae, Teil 4, Achnanthaceae, Kritsche Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema, Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, 248p., Gustav Fischer Verlag.

Mariko Mathushita and Satoshi Sanukida (1988) Holocene Vegetation History around Lake Hamana on the Pacific Coast of Central Japan. The Quaternary Research, 26, p.393-399.

付載４　恒武西浦遺跡出土の動物遺存体

奈良国立文化財研究所
松井　章

１．はじめに

恒武遺跡の溝および自然河川の埋土より出土した動物遺存体を報告する。

出土したのはウシ、ウマの歯のエナメル質の部分が大部分で、わずかにニホンジカの歯のエナメル質、および脚角、距骨が存在する[1]。これは動物の骨格の中でも歯のエナメル質がもっとも腐食に強く、遺跡で残りやすいからであろう。同じく歯を構成するセメント質や象牙質は腐食して消失していたことも、さらに脆弱な骨格が消失したことを暗示する。

出土した遺物は、袋またはポリエチレンケースに入れて取り上げた単位で35点（遺構内34点、包含層内１点）あり、その中には複数の歯や骨格が含まれる場合もある。それぞれの取り上げ単位の中に複数の資料が存在する場合は、その中に左右の連続する切歯や臼歯の組み合わせが多いことから、元来同一個体のものが並んで出土したと考えられる。

２．遺構ごとの出土例

出土した動物遺存体が最も多く出土したのは、流路SR42で、35単位の取り上げ資料のうち、このSR42からだけで18単位を占める。

SR16B、SR28からは、ウシ、またはウマに相当する臼歯のエナメル質の破片が出土しているのみである。種名はいずれとも判別できなかった。

SR41

９世紀後半（調査担当者による）の流路SR41からはウシの下顎臼歯が２点出土した。この２点はいずれも左側の臼歯列で、相互に重複する部分があり、さらにエナメル質の摩耗の進行が異なることから別個体であることがわかる。表の№３はエナメル高から推定すると壮齢で、大臼歯列長（第１大臼歯M_1から第３大臼歯M_3の歯槽間の距離）が75.0mmである[2]。この値は現生の口之島牛、見島牛の値に比べてもはるかに小さい。

SR42

流路SR42から出土したのはウマが15単位、ウシ１単位、ウシ・ウマ不明のもの２単位であった。この溝は５世紀から８世紀の土器が多く出土することから８世紀のものと考えられる（調査担当者による）。取り上げ番号13のウマの上顎臼歯は、第２前臼歯（P^2）前縁から第４前臼歯（P^4）後端間の歯槽長、92mmをはかり、この値は西中川らによるトカラ馬（♂8.26±0.16cm、♀8.71±0.68cm）、与那国馬（♂8.12cm、♀8.46cm）、宮古馬（♀8.20cm）などの値よりも明らかに大きく、御崎馬（♂9.00±0.41cm、♀8.58±0.49cm）、木曽馬（♂8.67cm、♀9.89±0.25cm）などの中型馬の値に近いか、さらに大きい[3]。同遺跡から出土した他の歯を見ても、この試料より明らかに大きさの異なる試料は見られず、このことから恒武遺跡で出土したウマは、中型馬に相当すると言えよう。注目すべき所見は、このウマの上顎骨の右臼歯列のうち、第２後臼歯が他の臼歯に対して上下逆に植わっていたことである。この上顎骨は現場で土ごと切り取ったままで持ち帰ったもので、その間に動いた痕跡はなく、発掘中に入れ替わったとも思えない。ウマの臼歯が顎骨に植わっている時に骨を破損せずに臼歯を抜くことは不可能である。そしてこの臼歯列には顎骨が破損した際に生じる並び方の乱れがない。したがってこの上顎骨が含まれる

頭蓋骨が腐食して崩壊していく途中で、人為的に第2後臼歯を抜いた後、再び臼歯列に戻そうとした際に、意図的にか、あるいは単純に間違えたかして上下を違えたものである。なぜこのようなことをしたのか意味は不明であるが、人間の行為には違いない。

ニホンジカ

上顎骨、鹿角、距骨などがSR45から出土している。いずれも骨中のリン分が地下水に含まれる鉄イオンと結合して藍鉄鋼（ビビアナイト）を析出して深藍色を呈している。鹿角は、前頭骨につながる角座より下の基部が丸く摩滅したようになっており、これは人間が切り取ったものでなく、落角であった可能性が高い。伴出遺物から5世紀のものとされている。

SR30から出土したのは、取り上げ単位29のウシの下顎切歯及び臼歯、取り上げ単位30のウマ上顎臼歯などで、その他は単独、または散乱状態で臼歯およびその破片が出土している。

SR33から出土したのは、ウマの上下の切歯から臼歯である（取り上げ単位31）。元来、一対の上顎骨と下顎骨がかみ合っていたようである。歯槽間の臼歯列長は159mmで、中型馬の代表である木曽馬（♂161.3mm、♀168.9mm）よりも若干小さく、やはり中型馬である御崎馬（♂155.4mm、♀157.8mm）よりもやや大きい。SR30・33出土例は9世紀初頭頃のものではないかと担当者は考えているようである。

SR39から出土したウマの下顎臼歯列長は、155mmで、この値も御崎馬クラスで、中型馬であったといえる。

3．考察

3－1．ウシ、ウマの比率

ウマが18単位、ウシが6単位（包含層を含む）、シカが5単位という比率で出土している。破片比でウマがウシの3倍程度という傾向は、従来、畿内で見てきた比率に近い。『和漢三才圖絵』には、「大抵、関東には馬多く牛少なし。京師には天子、皇后、三公の御車を牽き、市中の車牛は米穀、薪木などを運送す。皆、特牛を用う。農牛は田を耕して、人力を助く。関東には則ち馬を以てこれに代う。」とあり、一般には東日本では馬が使われ、西日本では牛が使われると謂うが、実際の個体数としては東日本でも西日本でも、各時代を通じて馬が多かったことが遺跡から出土する資料からわかる。

3－2．年齢について

4才未満の乳歯段階の幼齢馬が見られず、5－10才の壮齢馬と10才以上の老齢馬が多いことは、この遺跡から出土したのが牧などのウマの生産にかかわるものでなく、使役された後に死亡してこの場所に廃棄されたか、殺されて遺棄されたものであろう。

3－3．頭蓋骨、下顎骨に対する扱い

本遺跡で出土した動物遺存体は、ウシ、ウマの頭蓋骨および顎骨がほとんどで、椎骨、四肢骨の出土がほとんどなかった。このことから、この場所に頭蓋、顎のみが存在したのか否かについて考えなければならない。それは、出土したのが頭蓋骨、下顎骨そのものでなく、そこに植わっていた臼歯、切歯のエナメル質の部分だけで、歯を構成する象牙質、セメント質や、頭蓋骨、下顎骨の骨質部もまた腐朽して消失しているからである。従来、遺跡からウシ、ウマの歯、および上下顎骨が出土した場合、安易に祭祀行為と結びつけて解釈される傾向が強かったが、元来、遺跡に四肢骨ほかの胴部の骨が存在したかどうかについて、まず考えねばならないのである。しかし、発掘担当者によると、発掘中は骨粉のような痕跡も見られなかったということで、この遺跡には、頭蓋骨および下顎骨が元来、多かったという前提で、以下の考察を行う。

頭部が多いということについては、「首を切る」という言い方にあるように、人間および動物に関して、頭部を胴部から切り離すことが、生命を奪う、あるいは神に捧げるための生命そのものの象徴と考える

ことができる。民俗学の上からも、ウマないしはウシの首、ないしは骨を雨乞に用いる例が多く報告されている。たとえば高谷重夫の『雨乞習俗の研究』（法政大学出版会1982）では、静岡県内で次のような例を引いている。

静岡県庵原郡西奈村（現静岡市）の北方にある竜爪山の薬師神社の境内に夜、牛の首を置いて逃げて帰ると大風雨が連日続きその首を流すという（小山桔梁『駿河の伝説』P.167）。

『駿国雑誌』（巻24）に安倍郡浅畑村池の雨乞について、「伝云、此池に牛の頭を沈めて雩すれば、いかなる旱にも忽雨ふる。此事、秘すべし。人もしこの企を知る時は降らず。」

その他の地域においても、同様の民俗例が、江戸時代にも明治以降にも各地に存在したことをこの著作は示してくれる。

石山英一郎も次のような興味深い例を報告している[5]。

勿論私の村ばかりではないが、昔は馬が死ぬと其の首を切り取って家々のカドグチに、杭の端に懸けてて立てて置くと謂ふ風習があった。これは私の少年の時分には五十軒の部落の三分の一、或ひは其の半分位まではさうしてゐた。或家には三つも四つもの馬の頭骨が雨晒しになって大きな空眼が空を睨み歯並びの揃った上顎を見せてゐた。

近世でもウマを埋葬する際、頭蓋骨をはずして、胴部と下顎骨のみを土坑に収める例が千葉県マミヤク遺跡で確かめられている[6]。このウマの頭蓋骨も備蓄され、雨乞などの儀式で必要なときに取り出して使われたものと思われる。

文献の上からは、16世紀の初め、前関白慈眼院九条政基の記録が、広く知られている。九条政基は、和泉国日根野荘を自ら管理するためにこの地を訪れ、『政基公旅引付』と題する日記を残した。そこの習俗で、旱魃にあたっては七宝滝に「不浄之物鹿骨或頭風情物」を入れれば必ず雨が降るということを記しているのである。

このようにウシ、ウマの頭、ないし骨を雨乞に使うことは歴史的、民俗学的にも各地で一般的に見られ、発掘でもこのような特別の扱いを反映した出土状況が数多く存在することは十分予測できる。本発掘で出土したウシ、ウマの頭蓋骨、下顎骨も、四肢骨を伴わないという特徴が元来のものであるとするならば、雨乞、または水にかかわる祭祀の痕跡と考えてもよいだろう。ただ、何度も繰り返すように溝、あるいは河川で行われる祭祀は、遺棄された後の水の作用を受けやすく、その埋没過程で元来の位置関係が失われることも多々あって、祭祀そのものの行為を明らかにできる出土状況は非常に少ないことは事実である[7]。いずれにせよ、発掘にあたって担当者が精細な記録を取りながら調査を進めた結果、このような出土状況を明かにすることができ、今後の研究に資するところ大である。

[1] 表１．出土動物種名表

和名	学名
ニホンジカ	*Cervus nippon*
ウシ	*Bos taurus*
ウマ	*Equus cabalus*

[2] 計測は、臼歯を元来、植わっていたように配置して30cm定規で略測したため、±２，３mmの誤差を伴う。

[3] 計測値は、西中川駿ほか、1991「古代遺跡出土骨から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関す

る研究』平成２年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書による。以下同じ。

[4] 西中川駿ほか、1991『古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成２年文部省科学研究費補助金（一般Ｂ）研究成果報告書

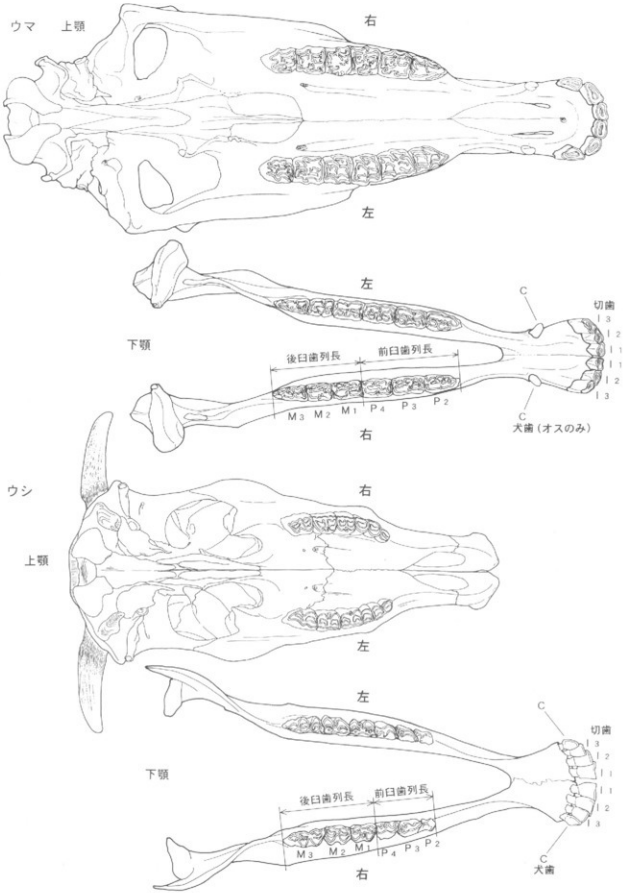
[5] 石田英一郎　1970（1966初）「新版河童駒引考」『石田英一郎全集』第５巻所収、筑摩書房　pp.3-270。ただし、この箇所は佐々木喜善　1931「馬首農神譚」『郷土研究』５巻３号　p.21を引いている。

[6] 松井章　1993「マミヤク遺跡出土のウマについて」『千葉県木更津市　小浜遺跡群Ⅴ　俵ヶ谷古墳群・マミヤク遺跡』君津郡市文化財センター　pp.208 210。

[7] 反面、古墳の周濠、集落の土坑や井戸に配置された動物遺存体は、当時の人々の動物にかんする行為をそのまま残している例が多く、筆者も集落の井戸や水田の畦畔に掘られた土坑に収められたウシ、ウマの頭蓋骨をもとに、古代・中世の動物祭祀を取り上げたことがある。松井章　1995「古代・中世の村落における動物祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』第61集　国立歴史民俗博物館　pp.55-71　ほか。

表 2

取り上げ		部分	左右		M3	M2	M1	P4	P3	P2	C	I3	I2	I1	i1	i2	i3	c	p2	p3	p4	m1	m2	m3	計測	年齢など
1	SR16B	ウシ／ウマ		エナメル質破片																						
2	SR28	ウシ／ウマ		エナメル質破片																						
3	SR41	ウシ	左	下顎臼歯	P3-M3	○	○	○	○	○															後臼歯列長75mm	壮齢
4	SR41	ウシ	右	下顎臼歯	P2-P4					○	○															老齢
5	SR41	ウシ／ウマ	左	上顎臼歯	?																					
6	SR42	ウマ	右	下顎臼歯	P3-M3															○	○	○	○	○	M3一部欠	若齢
7	SR42	ウマ	右	下顎臼歯	?																					壮齢
8	SR42	ウマ	左	下顎臼歯	P2-M3	○	○	○	○	○	○															壮齢
9	SR42	ウシ／ウマ	右	臼歯	?	破片																				
10	SR42	ウマ	左	下顎臼歯	M1-M3	○	○	○																		壮齢
11	SR42	ウシ	右	下顎臼歯	P2-M2														○	○	○	○	○			老齢
12	SR42	ウマ	上顎臼歯	左	?																					
13	SR42	ウマ	上顎臼歯	右	M2始																			○	M2高77mm	M2が他の歯に比べて上下逆に配置
13	SR42	ウマ	上顎臼歯	左	P2-M3	○	○	○	○	○	○															壮齢、P4萌出直後
14	SR42	ウマ	切歯	?	上下左右?																					
15	SR42	ウマ	下顎臼歯	右	M2,M3（未）	○	○																			若齢
15	SR42	ウマ	上顎臼歯	左右	?																					壮齢
16	SR42	ウマ	上顎臼歯	右	?																					壮齢
17	SR42	ウマ	上顎臼歯	左	P27-P4				○	○																P4未摩耗、若齢
18	SR42	ウマ	下顎臼歯	右	P4-M3																○	○	○	○	後臼歯列長75mm	P4,M3萌出直後
19	SR42	ウシ／ウマ	エナメル質破片	?	?																					
20	SR42	ウマ	上顎臼歯	左	P2-M3	○	○	○	○	○	○															P4,M3萌出済、若齢
21	SR42	ウマ	上顎臼歯	右	P2-M2														○	○	○	○	○			壮齢
22	SR42	ウマ	下顎切歯	左	I1-I2								○	○												老齢
22	SR42	ウマ	下顎切歯	右	I1-I2											○	○									老齢
22	SR42	ウマ	上顎臼歯	右																						老齢
22	SR42	ウマ	下顎臼歯	?	?																					老齢
23	SR42	ウマ?	上顎臼歯	?	?																					
24	SR45	ニホンジカ	上顎臼歯	左	M1-M2?		○	○																		
25	SR45	ニホンジカ	枝角	左																						落角か?
26	SR45	シカ／イノシシ?	寛骨	?																						
27	SR45	ニホンジカ	上顎臼歯	?																						
28	SR45	ニホンジカ	踵骨	左																						
29	SR30	ウシ	上顎臼歯	右	P3-M2															○	○	○	○			下顎、上顎がならぶ
29	SR30	ウシ	上顎臼歯	左	?																					
29	SR30	ウシ	下顎臼歯	左	M1-M3	○	○	○																		
29	SR30	ウシ	下顎臼歯	右	P4-M3																○	○	○	○	M1高16mm	壮齢
29	SR30	ウシ	下顎切歯	?	破片																					
30	SR30	ウシ	上顎臼歯	左	P3-M2		○	○	○	○																老齢
31	SR33	ウマ	下顎臼歯	右	P2-M3														○	○	○	○	○	○	臼歯列長159mm	
31	SR33	ウマ	下顎臼歯	左	P2-M3	○	○	○	○	○	○															M3萌出済、P2の摩耗進む。壮齢
31	SR33	ウマ	上顎臼歯	右	P3-M1															○	○	○				
31	SR33	ウマ	上顎切歯	右	I1-I3											○	○	○								
31	SR33	ウマ	上顎切歯	左	I1-I2								○	○												
31	SR33	ウマ	下顎切歯	右	I1-I2											○	○									
31	SR33	ウマ	下顎切歯	左	I1-I2								○	○												
32	SR39	??	?	?																						
33	SR39	ウマ	上部骨	右	I2-C-P3												○		○	○	○					オス、老齢、頑丈骨
34	SR39	ウマ	下顎骨	左	P2-M3	○	○	○	○	○	○														臼歯列長155±mm	老齢、小形馬



付図　馬・牛顎骨の部位名称図（L. Pales et M. A. Garcia 1981 Atlas Ostologique des Mammiferes Centre National de Recherche Scientifique. Paris）を参考に作成

図　　版

(写 真)

1.恒武遺跡遠景（南より）

2.恒武西宮遺跡全景（北東より）

1.恒武西浦遺跡南区全景（西より）

2.恒武西浦遺跡中区全景（西より）

1.恒武西浦遺跡北区全景（東より）

2.恒武西浦遺跡ＳＲ43全景（北東より）

1.恒武西浦遺跡ＳＲ45全景（東より）

2.ＳＲ45遺物出土状況（北より）

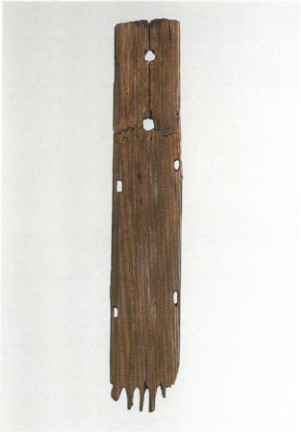
1．ＳＲ45遺物出土状況（南東より）

2．ＳＲ45遺物出土状況（東より）

1.ＳＲ45遺物出土状況（東より）

2.ＳＲ45遺物出土状況（北より）

ＳＲ45出土筑状打弦楽器（表裏）



1．S R43出土琴

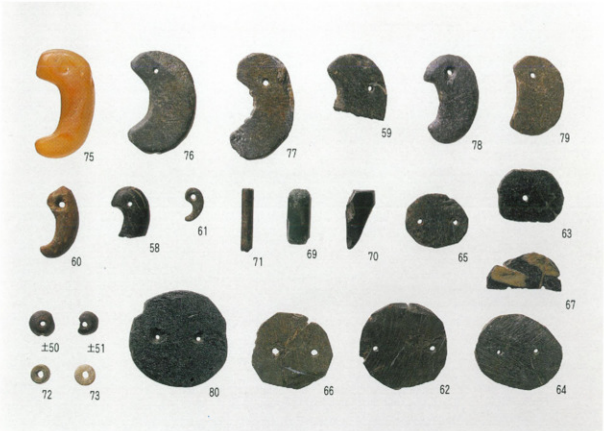
2．S R45出土竪櫛

3．S R45出土彫刻された木板

1.ＳＲ45出土舟形木製品

2.ＳＲ45出土刀形木製品

1.恒武西宮遺跡出土石製品



2.恒武西浦遺跡出土土・石製品

1．ＳＲ42～45出土古式須恵器

2．ＳＲ30・36出土動物形土製品

1．ＳＲ30出土人面墨書土器

2．ＳＲ41出土人面墨書土器

1.ＳＲ30出土土器

2.ＳＲ41出土土器

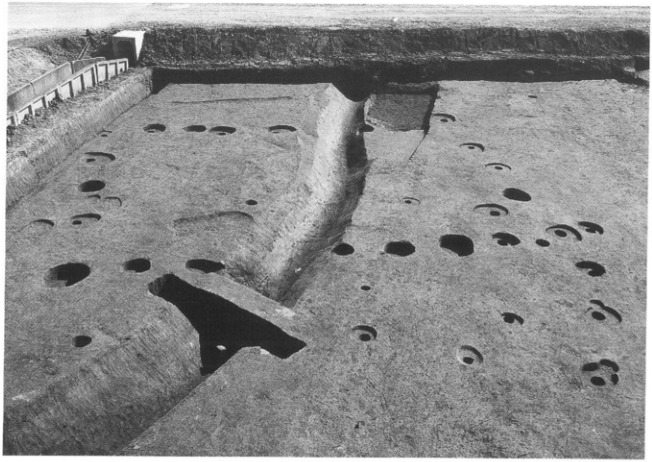
1.ＳＲ30遺物出土状況（西より）

2.恒武西浦遺跡南区北東東壁土層

3.恒武西浦遺跡中区中央西壁土層

1.恒武西宮遺跡全景（南より）

2.恒武西宮遺跡全景（北東より）



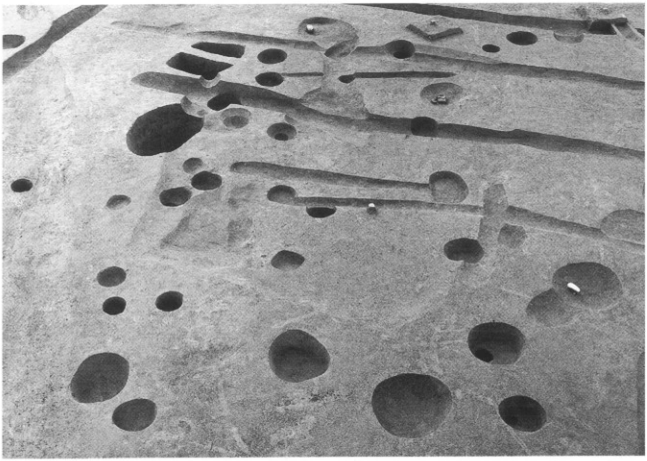
1.SH1・2（北より）

2.恒武西宮遺跡南端部（南西より）

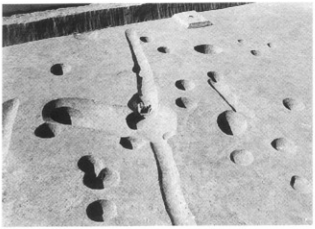
3.恒武西宮遺跡中央部（北西より）

4.恒武西宮遺跡全景（北より）

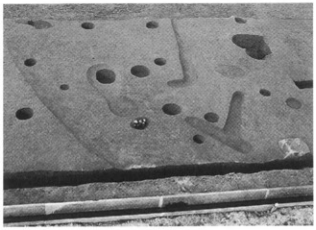
5.恒武西宮遺跡土坑群（北より）



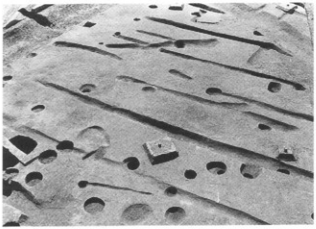
1.SB1、SH6（北より）



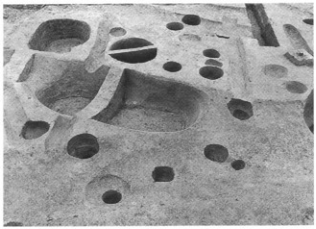
2.SH3・4（南東より）



3.SH7（東より）

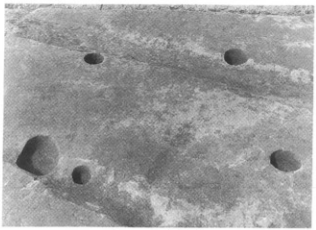


4.SH5（北より）

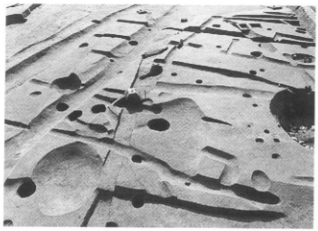


5.SF25周辺（西より）

1.ＳＨ12（南より）

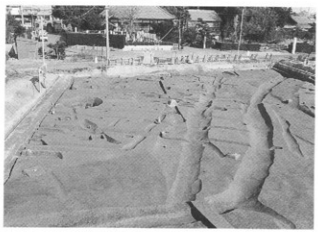


2.ＳＨ８（東より）



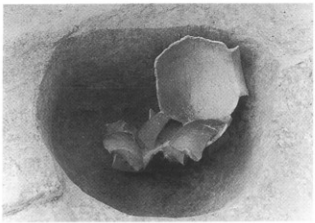
3.ＳＨ10・11（北より）

4.ＳＦ49～51遺物出土状況（南西より）



5.恒武西宮遺跡北西部（南より）

1.ＳＦ49遺物出土状況（西より）

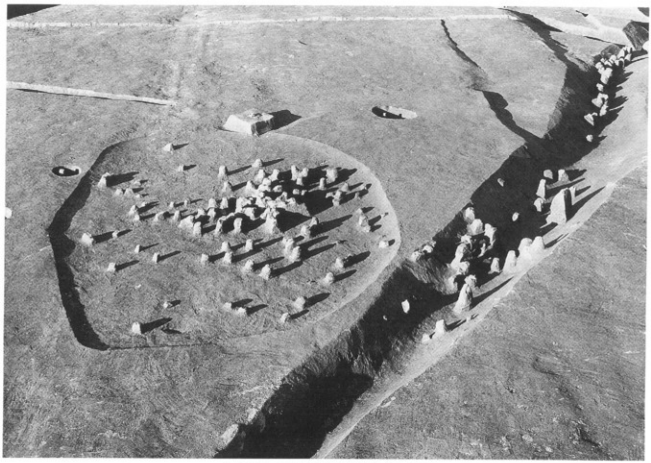


2.Ｐ337遺物出土状況（北東より）

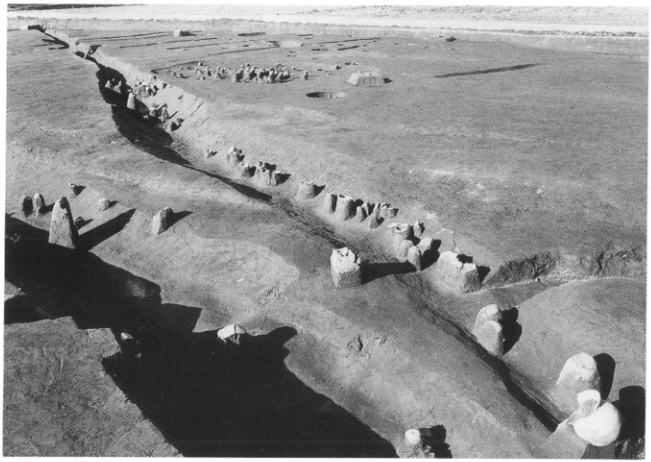
3.ＳＦ５遺物出土状況（南東より）

4.ＳＦ46遺物出土状況（北東より）

5.ＳＦ48遺物出土状況（北東より）



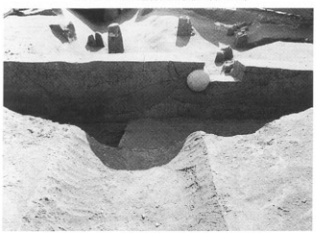
1.ＳＦ９、ＳＲ３遺物出土状況（南西より）



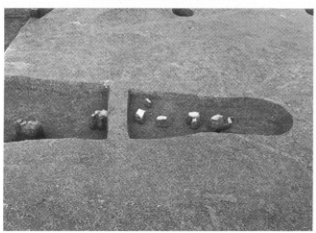
2.ＳＲ１・３遺物出土状況（北東より）

1.ＳＲ１・３遺物出土状況（北より）

2.ＳＲ３遺物出土状況（東より）



3.ＳＲ１・３（7～8）土層断面（北東より）



4.ＳＤ１遺物出土状況（南より）

5.Ｐ282遺物出土状況（南西より）

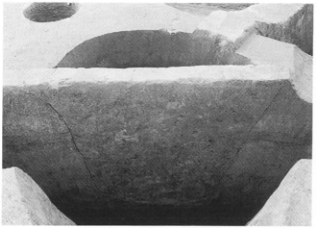
6.ＳＥ１上層（北より）

7.ＳＥ１下層（北東より）

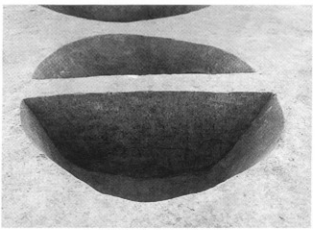
8.ＳＦ56遺物出土状況（北より）

図版8

1.ＳＦ33～39（北西より）

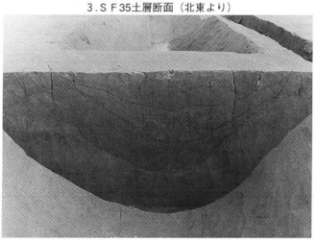


2.ＳＦ26土層断面（東より）

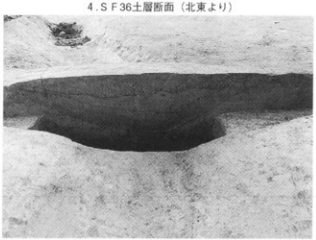


3.ＳＦ35土層断面（北東より）

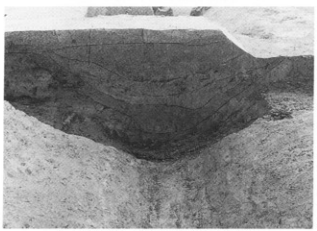
4.ＳＦ36土層断面（北東より）



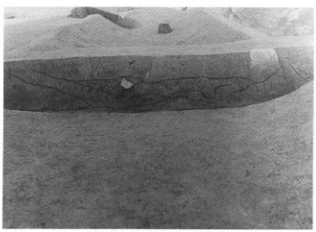
5.ＳＲ１（１～２）土層断面（南西より）



6.ＳＲ５（13～14）土層断面（北東より）



7.ＳＲ４（19～20）土層断面（北東より）

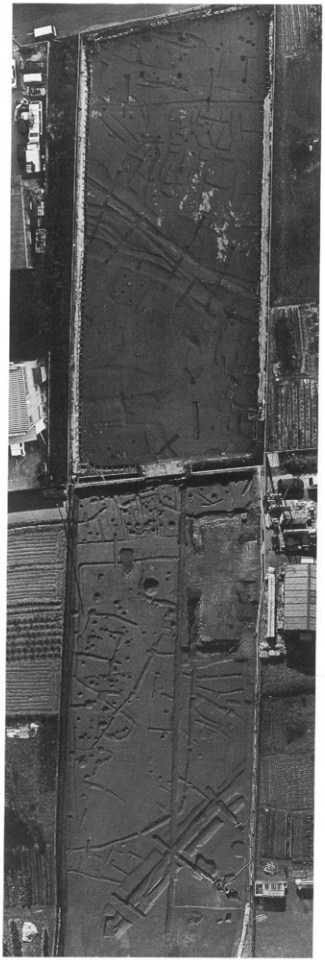


8.ＳＲ12（33～34）土層断面（南西より）

1.恒武西浦遺跡南区全景（南より）

2.恒武西浦遺跡南区全景（北より）

図版10



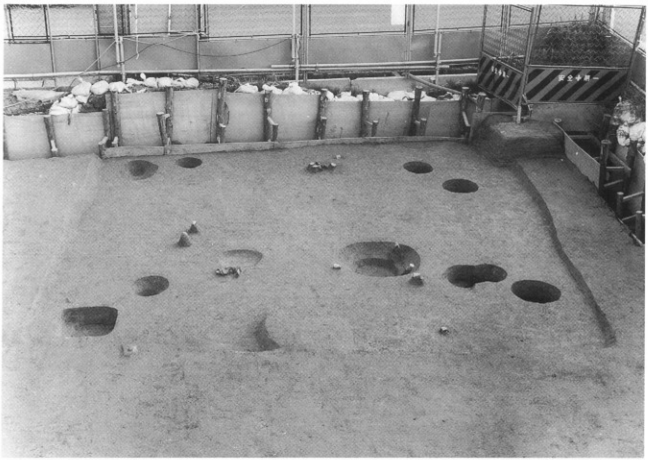
1.恒武西浦遺跡南・中区垂直写真

2.恒武西浦遺跡南区上面全景（北東より）

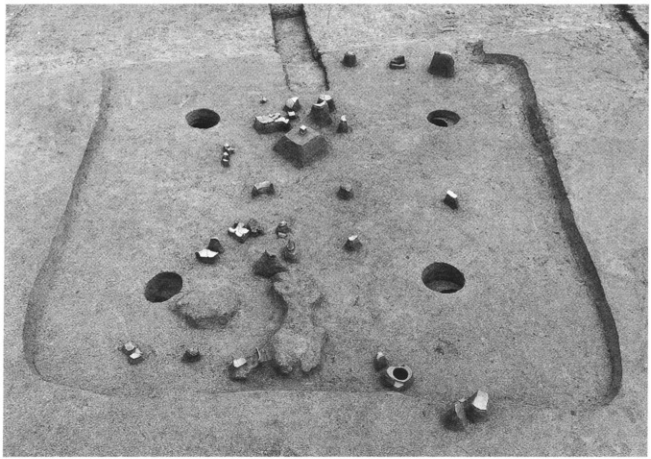
3.恒武西浦遺跡南区下面全景（北東より）

4.ＳＲ16（北より）

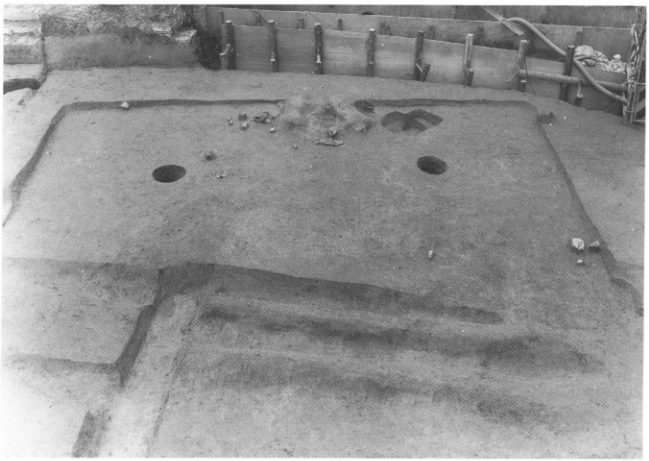
5.恒武西浦遺跡南区南（南西より）



1.ＳＢ２（北より）



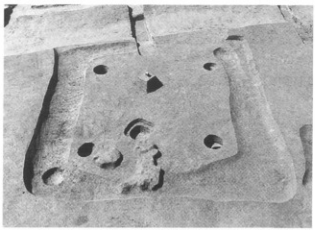
2.ＳＢ３（北東より）



1.ＳＢ４（南より）

2.ＳＢ４竈（南より）

1.ＳＢ２上層遺物出土状況（東より）

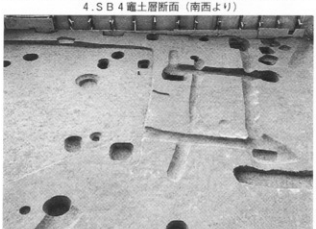


2.ＳＢ３掘り方（北東より）

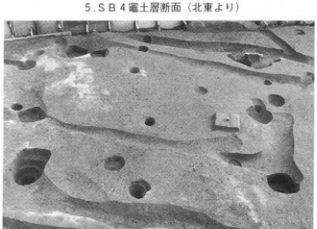
3.ＳＢ４竈土層断面（南東より）

4.ＳＢ４竈土層断面（南西より）

5.ＳＢ４竈土層断面（北東より）



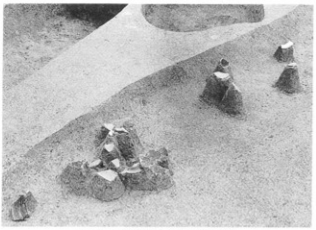
6.ＳＢ２周辺小穴（東より）



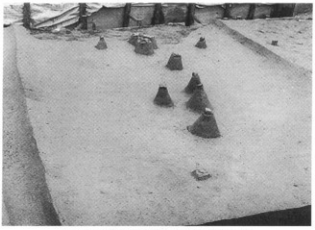
7.ＳＨ17・18（北より）

8.ＳＨ22・23（南東より）

1.ＳＨ24（南東より）



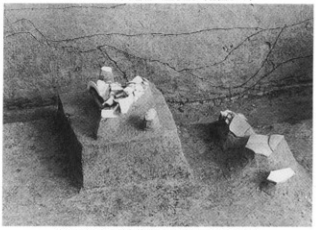
2.ＳＤ16遺物出土状況（南より）



3.ＳＲ14東上層遺物出土状況（西より）

4.ＳＲ16中央遺物出土状況（北西より）

5.ＳＲ16東遺物出土状況（北より）



6.ＳＲ16Ｂ中央遺物出土状況（北西より）

7.ＳＲ16Ｂ中央遺物出土状況（南西より）

8.ＳＲ16Ｂ西遺物出土状況（南より）

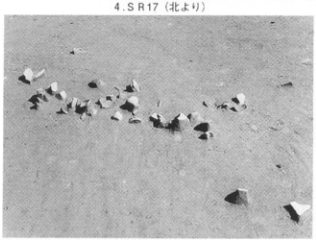
1.ＳＲ16Ｂ中央遺物出土状況（南より）

2.ＳＲ16Ｂ東遺物出土状況（南より）

3.ＳＲ16Ｂ中央遺物出土状況（南東より）

4.ＳＲ17（北より）

5.ＳＸ２（北東より）

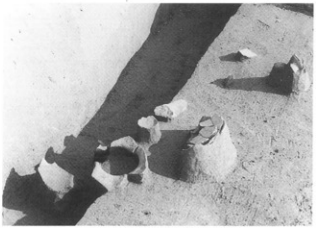

6.ＳＸ５（北西より）

7.ＳＸ６（東より）

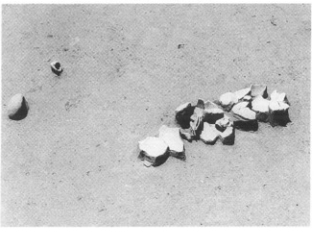
8.ＳＲ17遺物出土状況（南東より）

図版16

1.ＳＸ１（南東より）



2.ＳＦ60遺物出土状況（北西より）

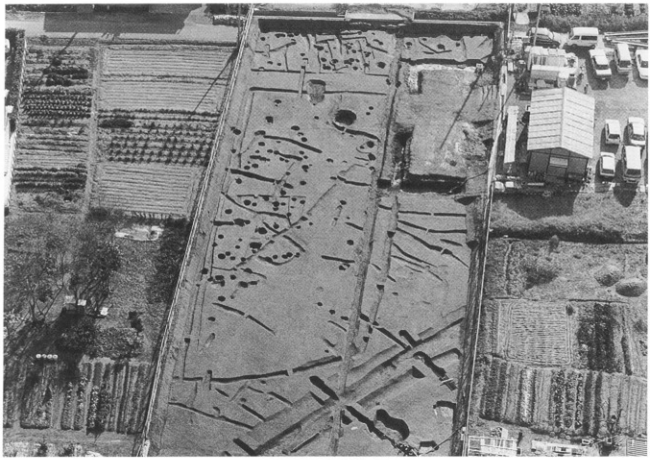


3.ＳＸ３（北東より）

4.ＳＸ４（北西より）

5.恒武遺跡遠景（北より）

1.恒武西浦遺跡中区全景（南より）



2.恒武西浦遺跡中区全景（北より）

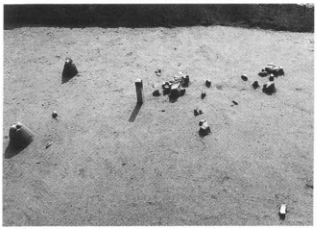
1.恒武西浦遺跡中区北部（南より）

2.恒武西浦遺跡中区南部（北より）

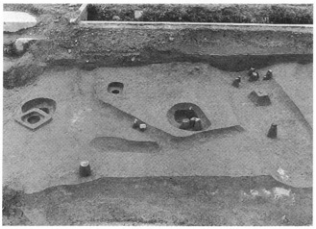
1．SH26～30（北西より）

2．SH26～30（北より）

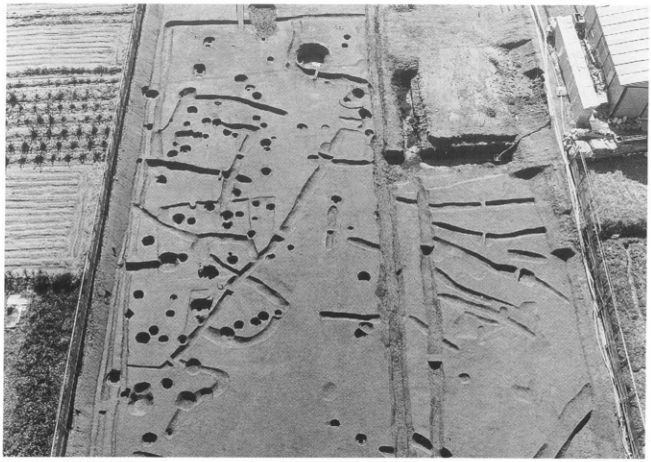
3．SH26～29（北より）



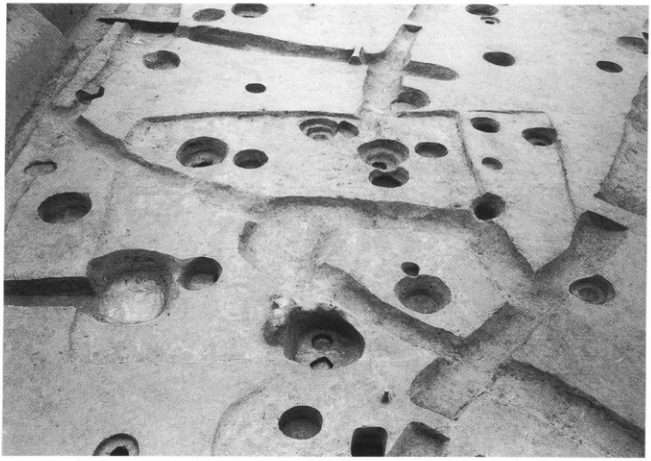
4．SX7（北より）



5．SH25周辺（北より）

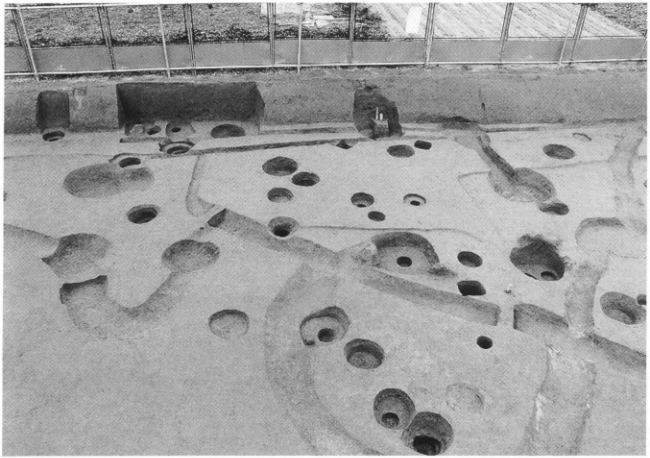


1.恒武西浦遺跡中区中央部（北より）



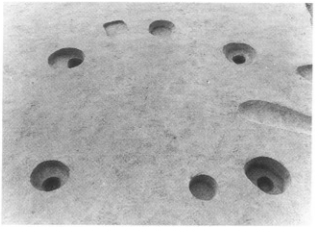
2.SB5（北より）

1.ＳＢ５周辺建物跡（西より）

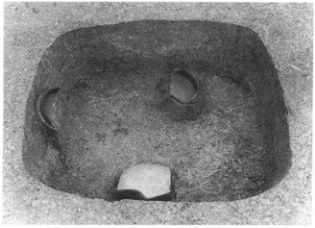


2.ＳＨ35（西より）

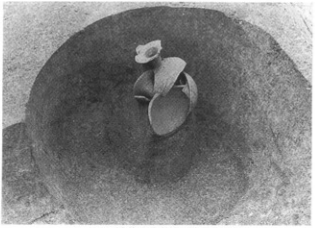
1.SH31・32（南より）



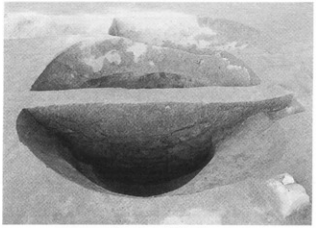
2.SH41（北東より）



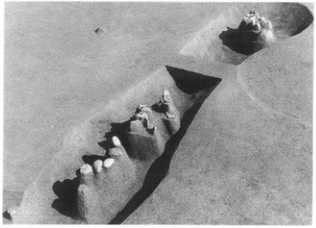
3.P684遺物出土状況（北西より）



4.P697遺物出土状況（南東より）

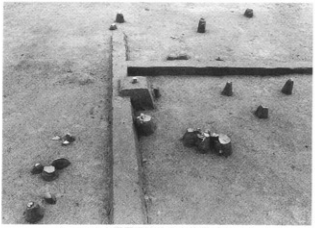


5.SF61（南より）



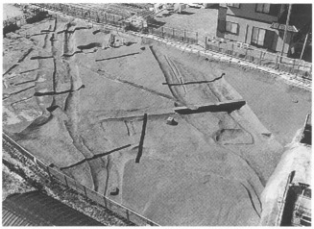
6.SD26遺物出土状況（西より）

7.SX9（北西より）



8.SB5上層周辺遺物出土状況（西より）

1．S X10（南東より）



2．恒武西浦遺跡中区北部（北東より）

3．恒武西浦遺跡中区北部下層A（北東より）

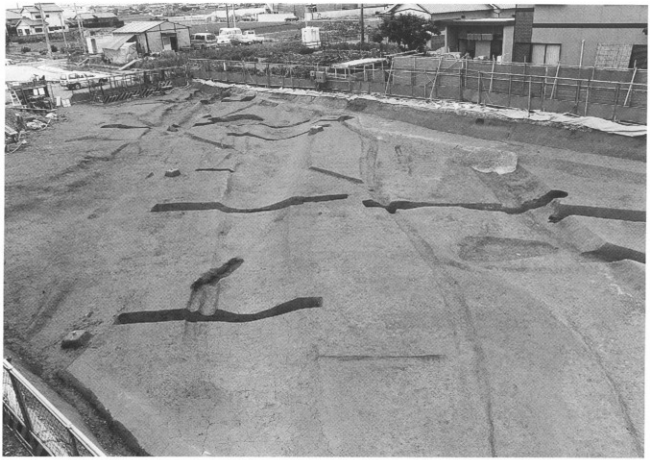
4．S R29（91～92）土層断面（北東より）

5．恒武西浦遺跡中区北部下層B（北東より）

6．S R24～26（87～88）土層断面（南西より）

7．中区北東東壁（89～90）土層断面（西より）

8．S R25・26（南西より）



1.ＳＲ41（北東より）

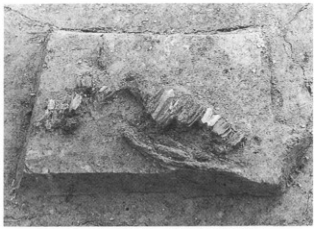
2.ＳＲ41土層断面（北東より）

3.ＳＲ41東端遺物出土状況（南西より）

4.ＳＲ41中央遺物出土状況（北東より）

5.ＳＲ41西遺物出土状況（北東より）

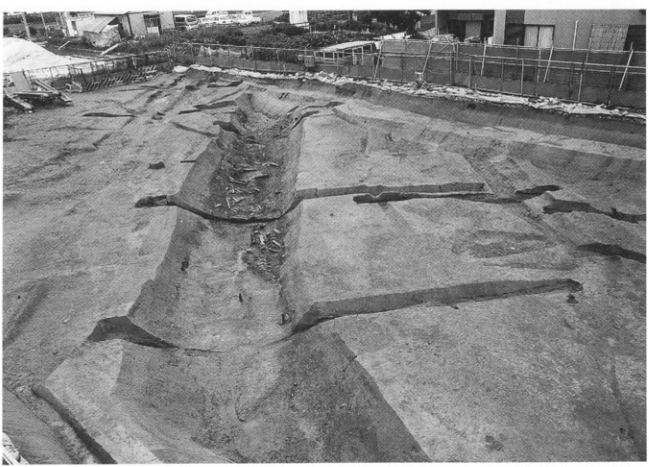
1.ＳＲ41中央遺物出土状況（北より）



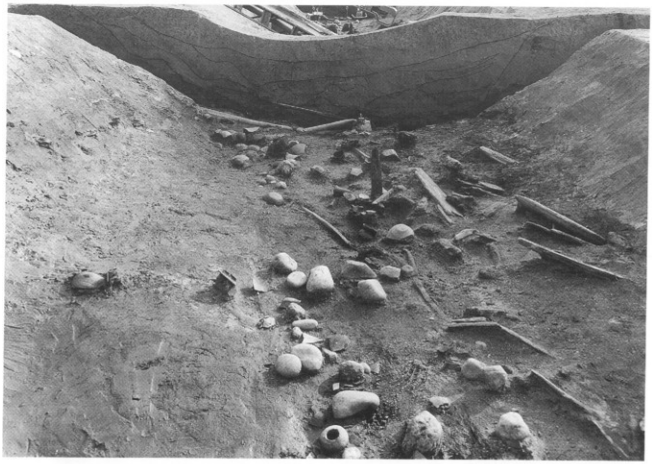
2.ＳＲ41中央顎骨３・４出土状況（東より）

3.ＳＲ41西端遺物出土状況（北東より）

4.ＳＲ42東端遺物出土状況（北東より）



5.ＳＲ42（北東より）



1.ＳＲ42中央遺物出土状況（北東より）

2.ＳＲ42西端遺物出土状況（北より）

3.ＳＲ42中央遺物出土状況（南東より）

4.ＳＲ42中央遺物出土状況（南東より）

5.ＳＲ42中央遺物出土状況（西より）

1.ＳＲ42中央遺物出土状況（南東より）

2.ＳＲ42西遺物出土状況（北東より）

3.ＳＲ42西遺物出土状況（北より）

4.ＳＲ42西遺物出土状況（南東より）

5.ＳＲ42西遺物出土状況（東より）

6.ＳＲ42東顎骨６～８出土状況（南西より）

7.ＳＲ42顎骨13・14出土状況（北より）

8.ＳＲ42西顎骨22出土状況（南東より）

1.ＳＲ43中央遺物出土状況（北西より）

2.ＳＲ43全景（北東より）

3.ＳＲ43東端遺物出土状況（北西より）

4.ＳＲ43東遺物出土状況（北東より）

5.ＳＲ43中央南遺物出土状況（南より）

1.ＳＲ43剝物出土状況（南東より）

2.ＳＲ43刀形出土状況（北西より）

3.ＳＲ43曲物出土状況（西より）

4.ＳＲ43机出土状況（北西より）

5.ＳＲ43大足出土状況（南より）

6.ＳＲ43琴出土状況（南より）

7.ＳＲ45（北東より）

8.ＳＲ45北遺物出土状況（北より）

1．ＳＲ45（南より）

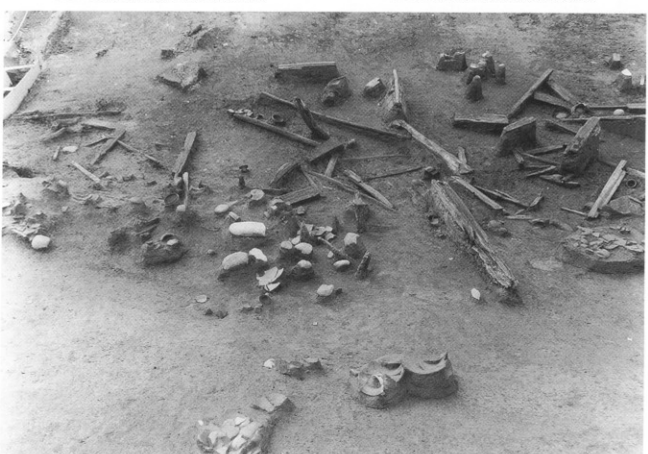
2．ＳＲ45北遺物出土状況（北西より）

1.ＳＲ45南下層遺物出土状況（北東より）

2.ＳＲ45南遺物出土状況（東より）

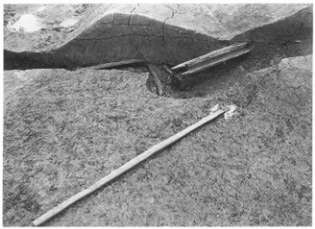
3.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南東より）

4.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南東より）

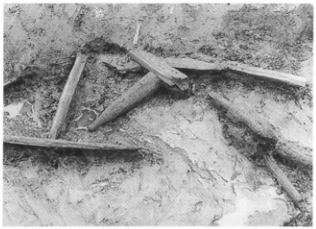


5.ＳＲ45南上層遺物出土状況（南東より）

1.ＳＲ45南下層遺物出土状況（東より）



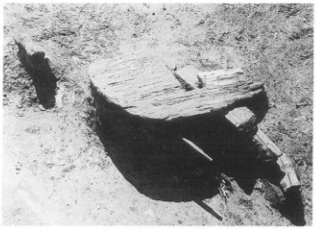
2.ＳＲ45北遺物出土状況（北東より）



3.ＳＲ45北遺物出土状況（東より）

4.ＳＲ45中央下層遺物出土状況（南東より）

5.ＳＲ45中央下層遺物出土状況（東より）



1.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南東より）

2.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（北より）

3.ＳＲ45北遺物出土状況（北西より）

4.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南西より）

5.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南東より）

6.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（北より）

7.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南西より）

8.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（北東より）

1．ＳＲ45南下層遺物出土状況（東より）

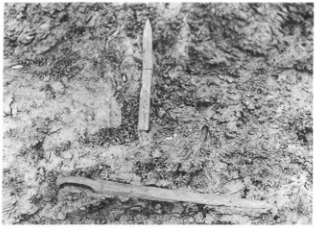
2．ＳＲ45南下層遺物出土状況（北より）

3．ＳＲ45中央上層遺物出土状況（西より）

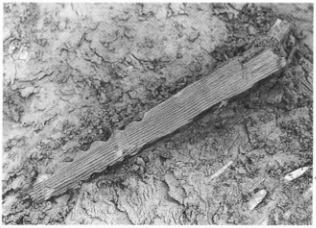
4．ＳＲ45北遺物出土状況（南東より）

5．ＳＲ45中央西遺物出土状況（南東より）

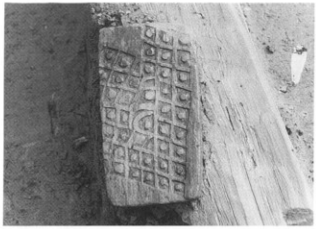
6．ＳＲ45南下層遺物出土状況（南より）



7．ＳＲ45北遺物出土状況（東より）



8．ＳＲ45中央上層遺物出土状況（南西より）



1.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（北より）

2.ＳＲ45中央上層遺物出土状況（北より）

3.ＳＲ45中央下層遺物出土状況（東より）

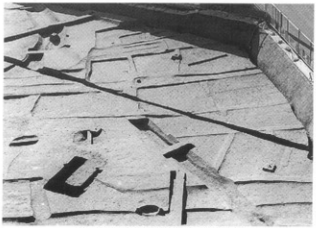
4.ＳＲ45南東土層噴砂（北東より）

5.恒武西浦遺跡北区全景（北より）

1.恒武西浦遺跡北区全景（北東より）

2.恒武西浦遺跡北区中央西（南東より）

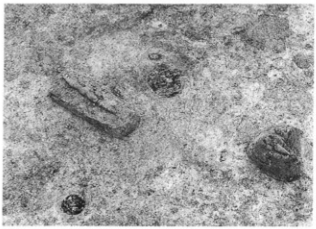
3.恒武西浦遺跡北区北（東より）



4.恒武西浦遺跡北区水田跡（東より）

5.ＳＲ46（東より）

6.ＳＲ46西端土層（東より）



7.ＳＲ46上層鉄製品出土状況（南より）

8.ＳＲ30下層遺物出土状況（西より）

1．S R30（南東より）

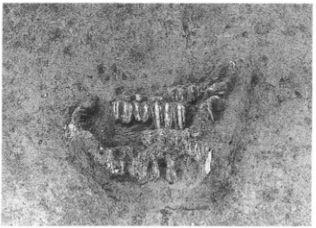
2．S R30下層遺物出土状況（東より）

3．S R30（95～96）土層断面（東より）

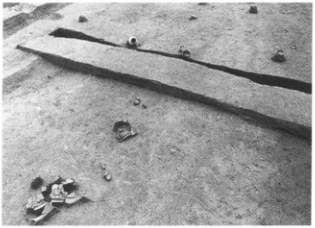
4．S R30（97～98）土層断面（北東より）

5．S R30（97～98）土層断面（北東より）

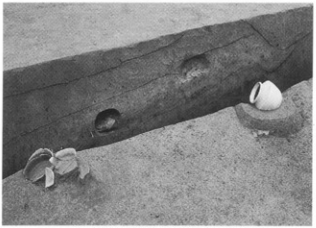
1．S R30上層遺物出土状況（南より）



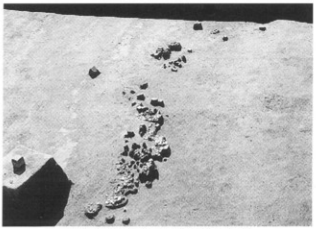
2．S R30上層顎骨29・30出土状況（北より）



3．S R30上層遺物出土状況（南西より）

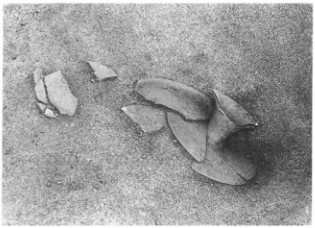


4．S R30上層遺物出土状況（南東より）



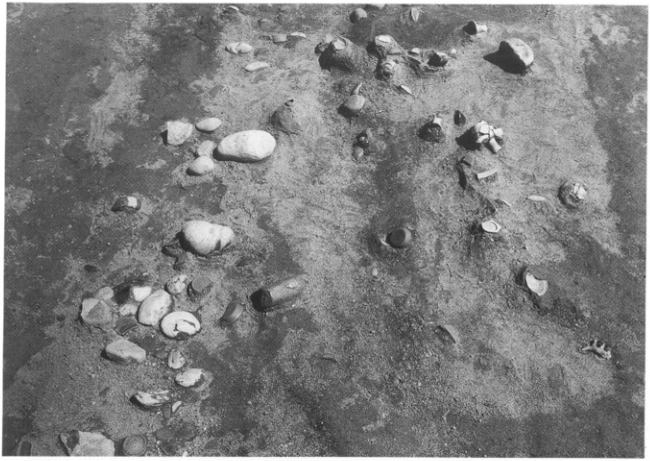
5．S R30上層遺物出土状況（東より）

6．S R30上層遺物出土状況（南西より）



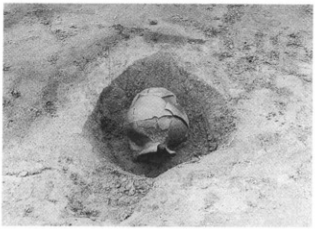
7．S R30上層遺物出土状況（西より）

8．S R30西土層帯遺物出土状況（北東より）

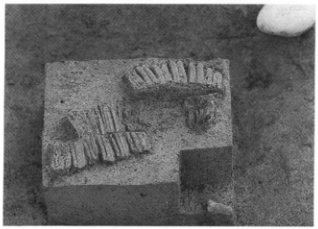


1.ＳＲ30下層遺物出土状況（西より）

2.ＳＲ30下層遺物出土状況（北西より）



3.ＳＲ30下層遺物出土状況（西より）

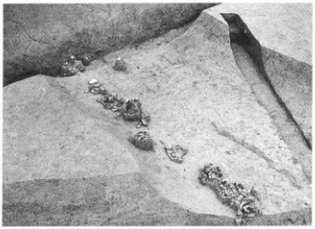


4.ＳＲ33上層頭骨31出土状況（北より）

5.ＳＲ33下層遺物出土状況（北西より）

1．S R36噴砂（南東より）

2．S R36西壁噴砂（東より）

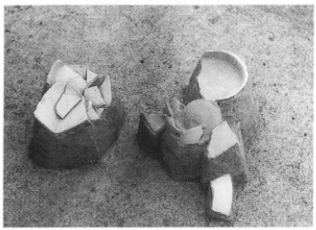


3．S R36下層遺物出土状況（南東より）

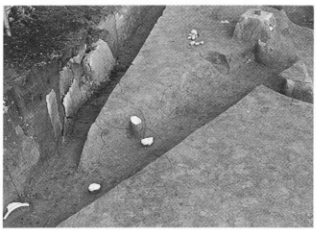
4．S R33・36遺物出土状況（北西より）

5．S R36上層遺物出土状況（東より）

6．S R36上層遺物出土状況（東より）

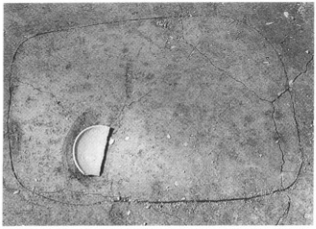


7．S R32遺物出土状況（南より）

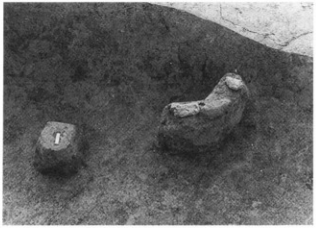


8．S D34遺物出土状況（南西より）

1.ＳＨ43（東より）

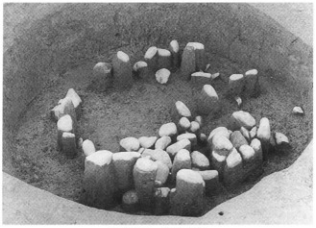


2.Ｐ777遺物出土状況（南より）



3.ＳＤ33遺物出土状況（北西より）

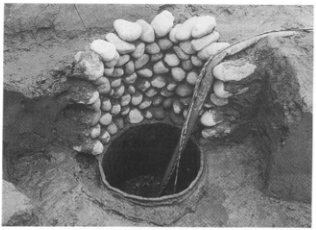
4.ＳＥ２（南より）



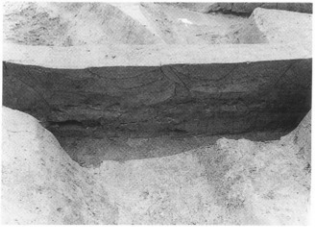
5.ＳＥ３（東より）

図版42

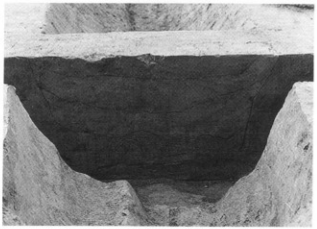
1.ＳＥ４（南より）



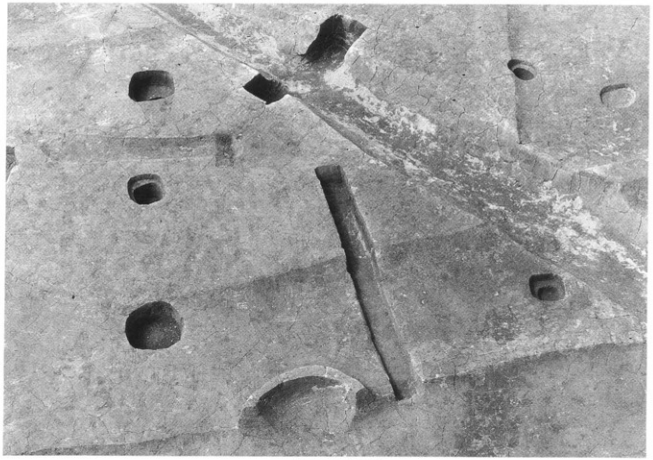
2.ＳＥ４（南より）



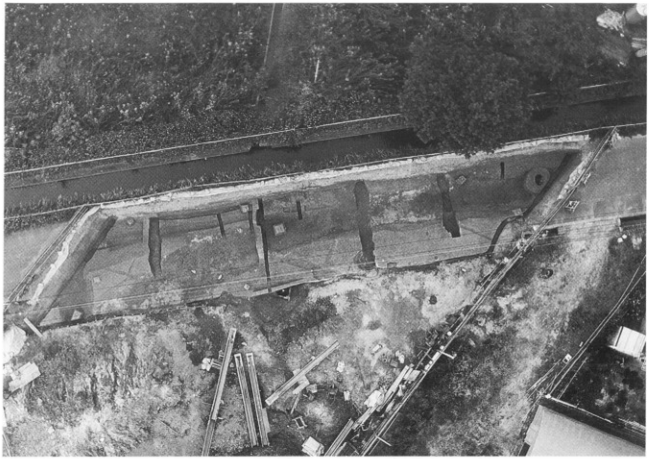
3.ＳＲ34・35土層断面（南西より）



4.ＳＲ34土層断面（北東より）



5.ＳＨ42（東より）



1.笠井51号線　調査区全景（第２調査面）（南より）

2.笠井51号線　ＳＲ39顎骨33出土状況（北より）

3.笠井51号線　ＳＲ39顎骨34出土状況（北より）

4.笠井51号線　ＳＰ828集石検出状況（北より）

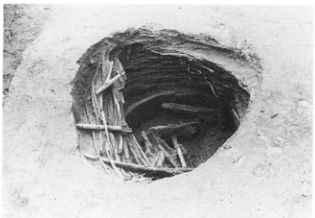
5.笠井51号線　ＳＲ51完掘状況（東より）

1.笠井51号線　ＳＥ６木組み検出状況（北より）

2.笠井51号線　ＳＥ６木組み上部除去後（西より）

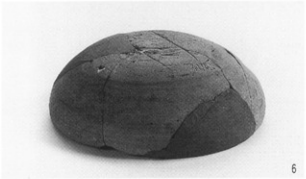
3.笠井51号線　ＳＥ６木組み上部除去後（北より）

4.笠井51号線　ＳＥ６曲物出土状況（西より）



5.笠井51号線　ＳＥ５竹製網代出土状況（北より）

5


6

12

17

SR1

38

39

40

43

45

47

57

SR3

SR3

SB3

SF49

SB4

1

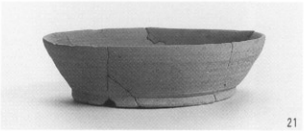
12

13

15

16

17


21

26

38

SR16

59

SR15

SR15

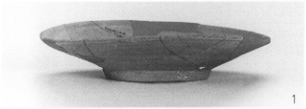
SR14

SR17

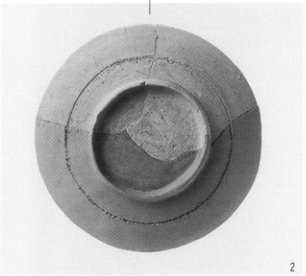
SX9

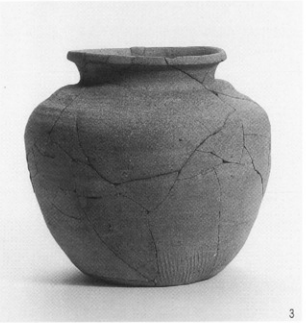
SX10

中区包含層出土土器


1

2


2


3

10

5

13

14

15

16

18

SR41

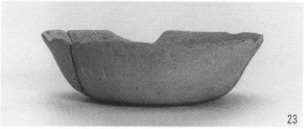
19

21

28

SR41

22


23

1

32

2

6

38

7

SR46

1

2

4

20

7

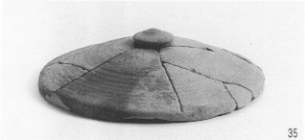
21

23

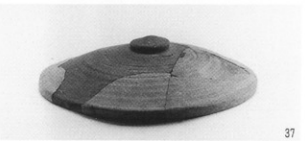
28

32

SR42


35

36


37

38

41

42

43

44

48

49

51

52

56

58

SR42

59

60

62

68

70

93

95

100

105

SR42

106

127

129

130

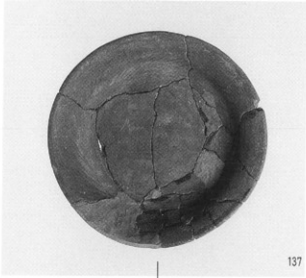
132

133

134

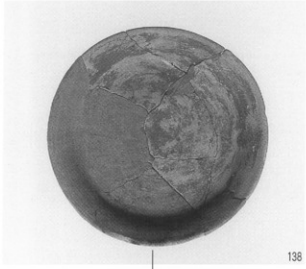
136

136


137

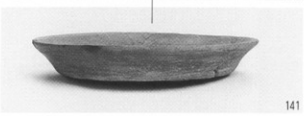
137

SR42


138

138

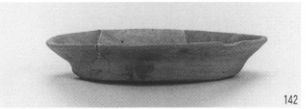
141

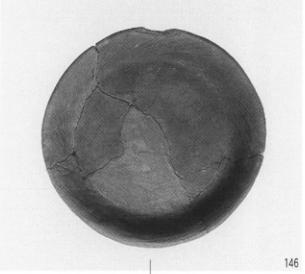

141

139

139

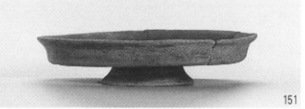
140


142


146

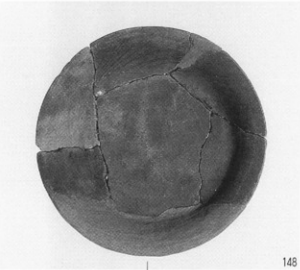
146

145


151

147

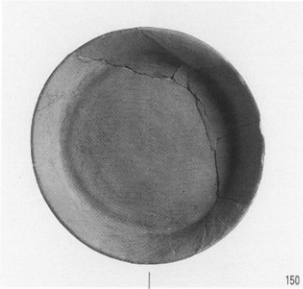
147

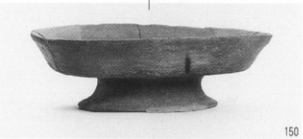

148

148

152

153


150


150

154

155

156

158

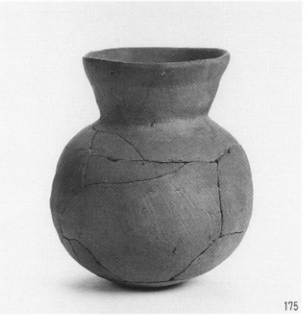
SR42

166

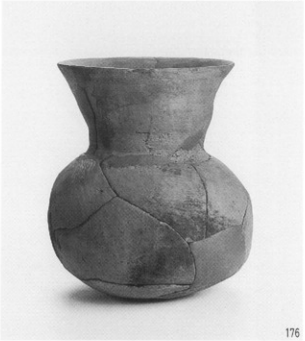
167

S R 42

168



175



176

177

178

S R 42～45

181

192

SR42～45

184

2

189

7

191

12

195

13

SR43

14

16

18

24

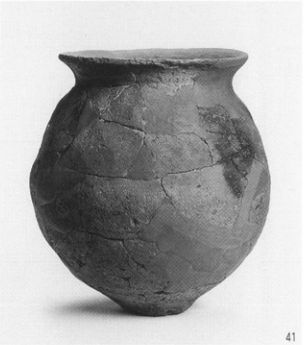
25

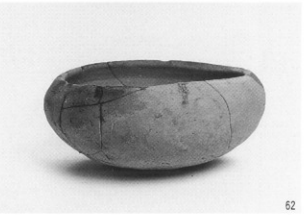
26

28

29

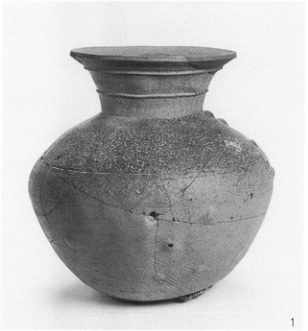
33


41


62

SR43

SR43～45



SR45

18

24

21

25

32

23

36

SR45

37

47

39

48

40

49

45

54

SR45

51

55

56

61

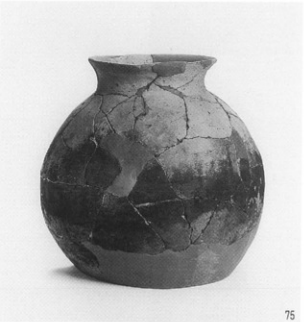
66

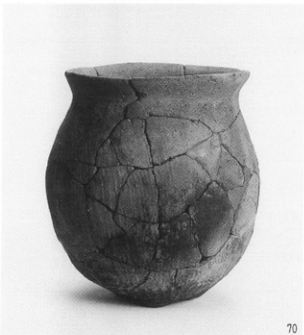
67

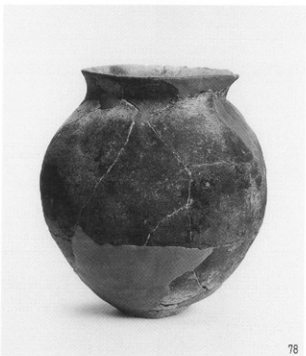
68

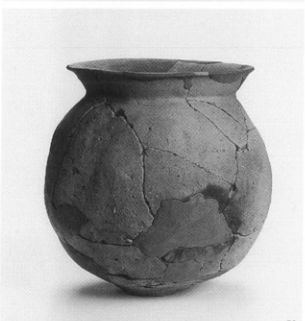
SR45

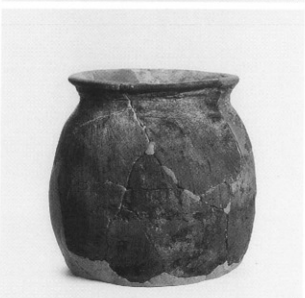
69


75


70

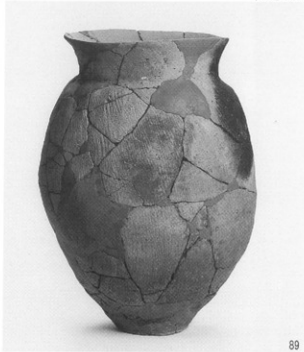

78

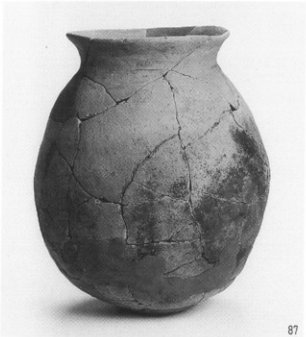

72


82

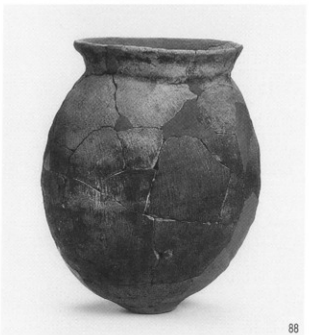
SR45

86


89


87

90


88

98

SR45

108

120

116

121

117

133

118

138

SR45

147

148

159

186

189

190

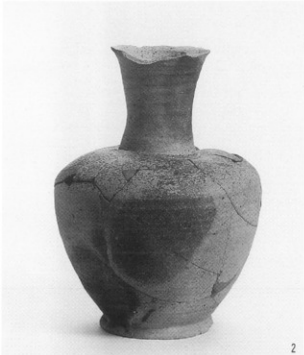
193

194

195

201

SR45


2

12

21

6

23

25

7

26

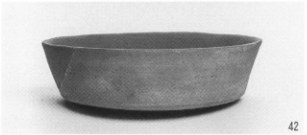
30

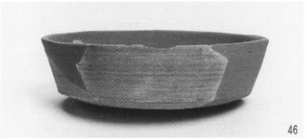
SR30

31

37

40


42


46

47

49

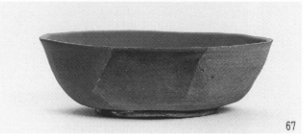
48

48

53

54

56


67

69

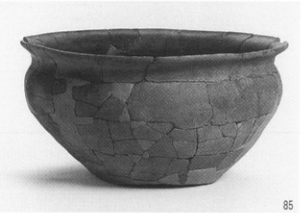
SR30

70

77

71

79


85

76

88

SR30

89

94

91

95

92

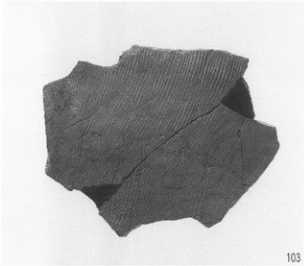
101

93

102

109

SR30


103

113

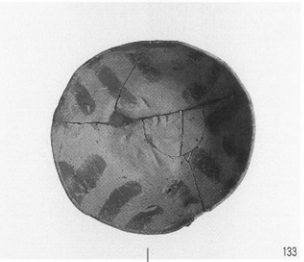
114

122

123

130

131


133

133

134

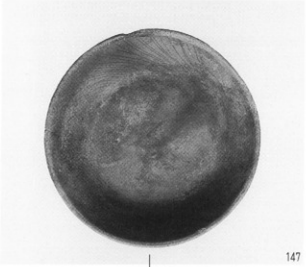
SR30

140

141

142

143


147

147

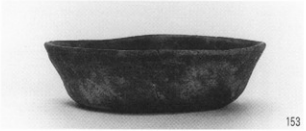
148

149

150

151

152


153

154

154

155

158

158

159

160

162

163

165

167

168

170

172

174

175

177

178

SR30

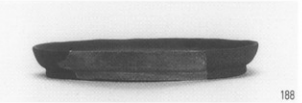
180

182

183

186

187


188

190

192

S R 30

3

4

8

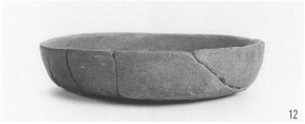
9

S R 33

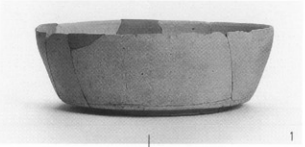
1

S R 36

2


12

SR36


1

6

1

7

3

SR32

8

2

SD32

SR30
1

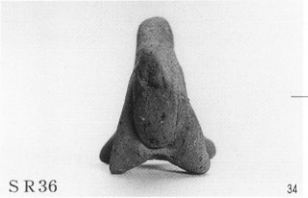
1

SR30
2

2

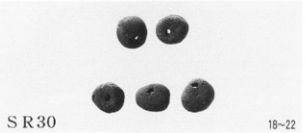
SR30
7

7


SR36
34

34

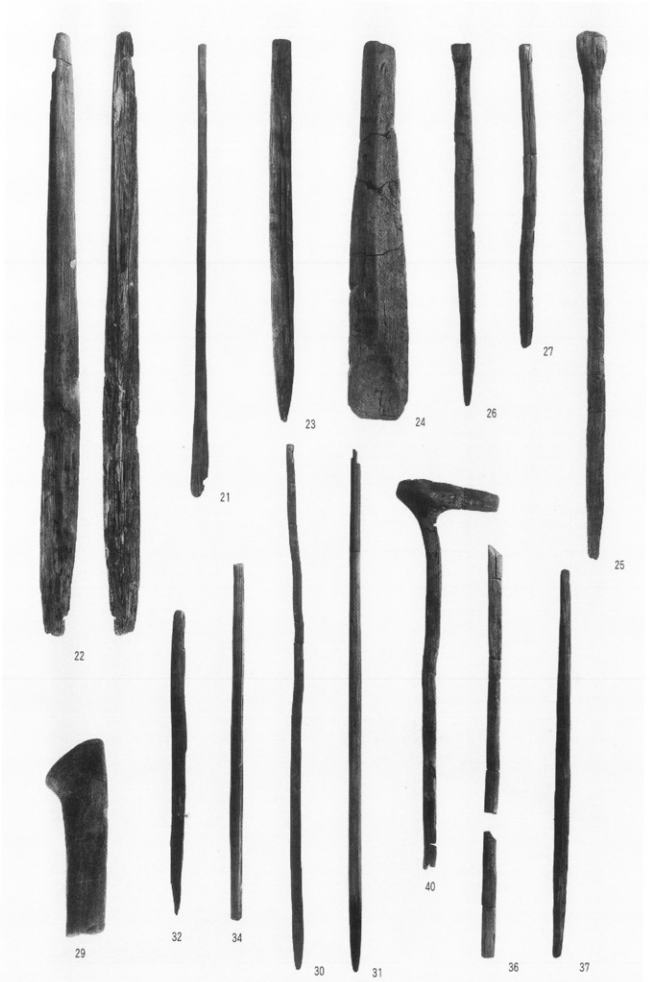
SR30
8


SR30
18~22

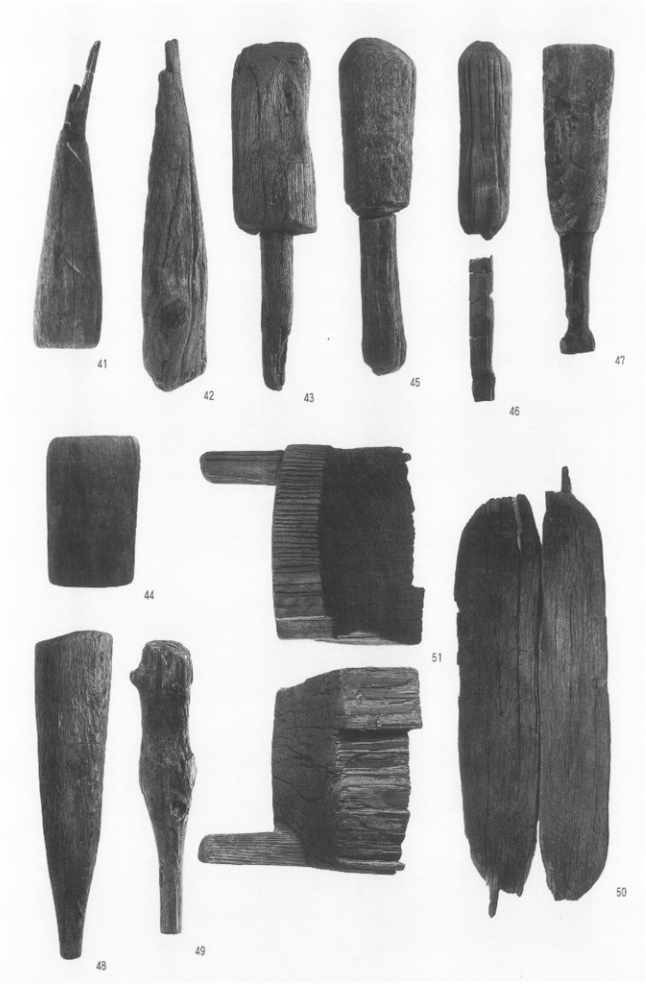
SR33
30

ＳＲ42～45出土木製品

ＳＲ42～45出土木製品



ＳＲ42～45出土木製品



ＳＲ42～45出土木製品

54

55

56

57

58

59

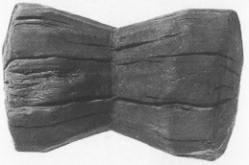
60

61

62

63

64

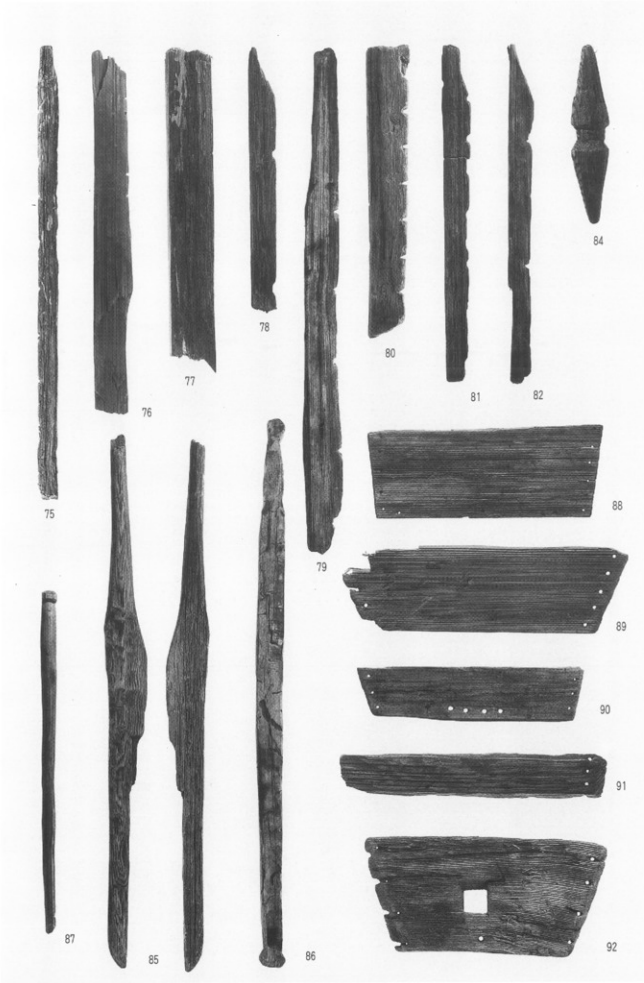

65

70

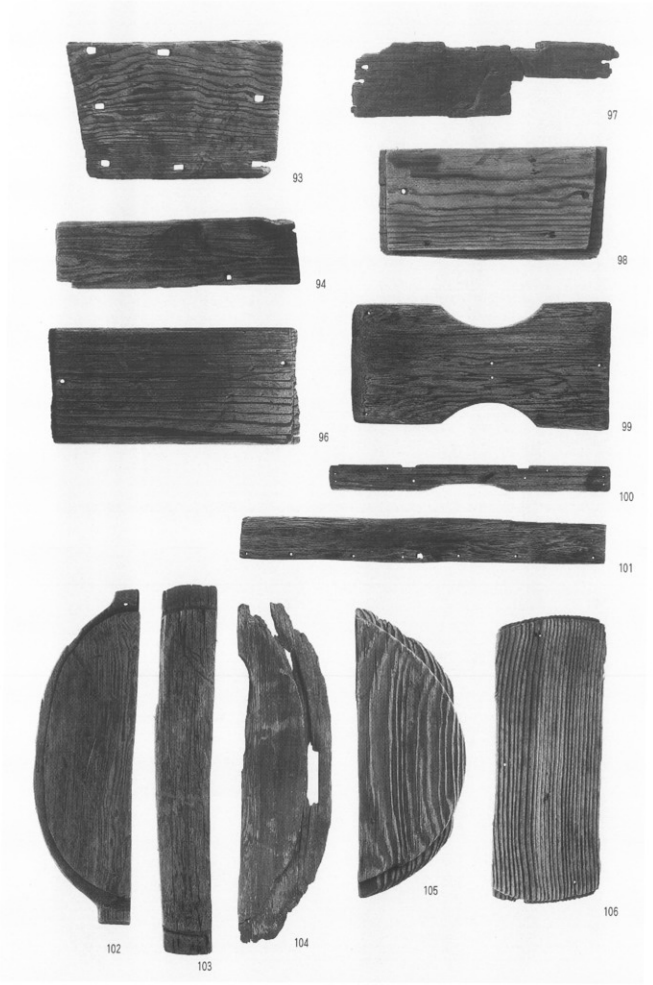
71

74

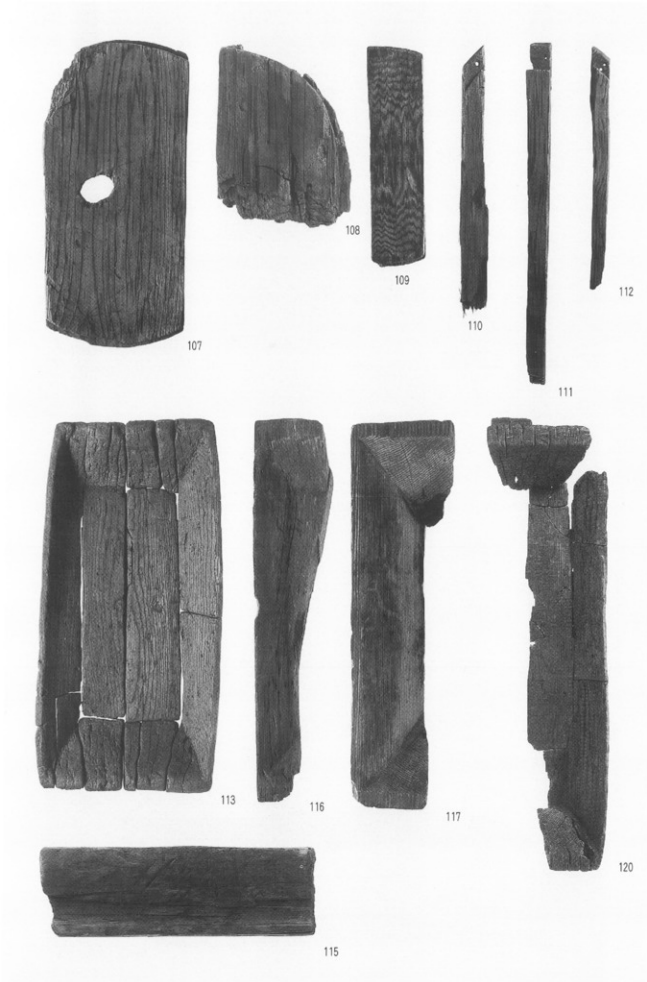
ＳＲ42～45出土木製品



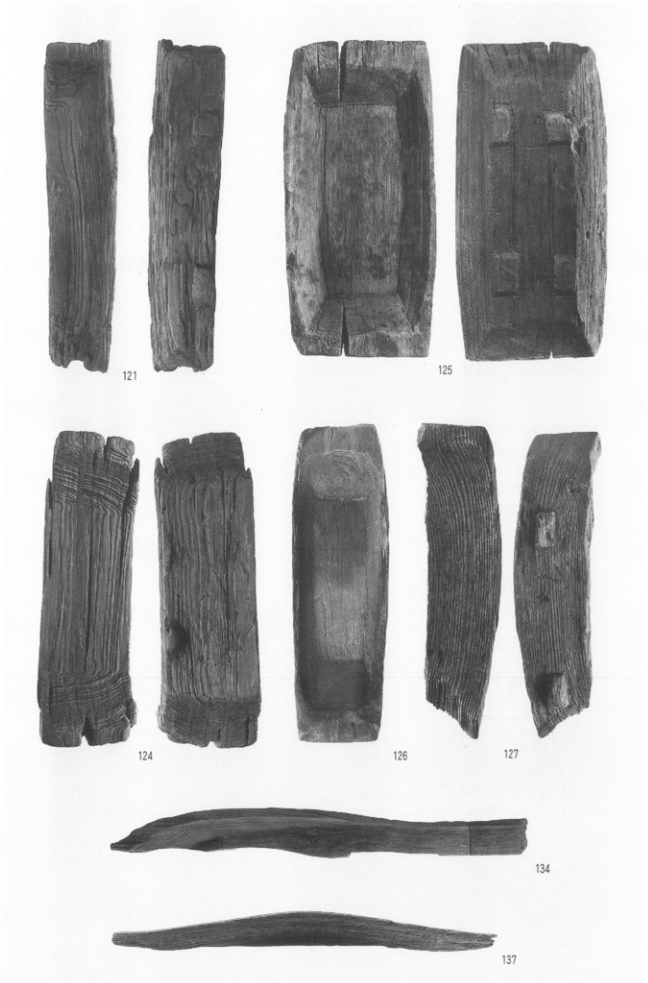
ＳＲ42～45出土木製品



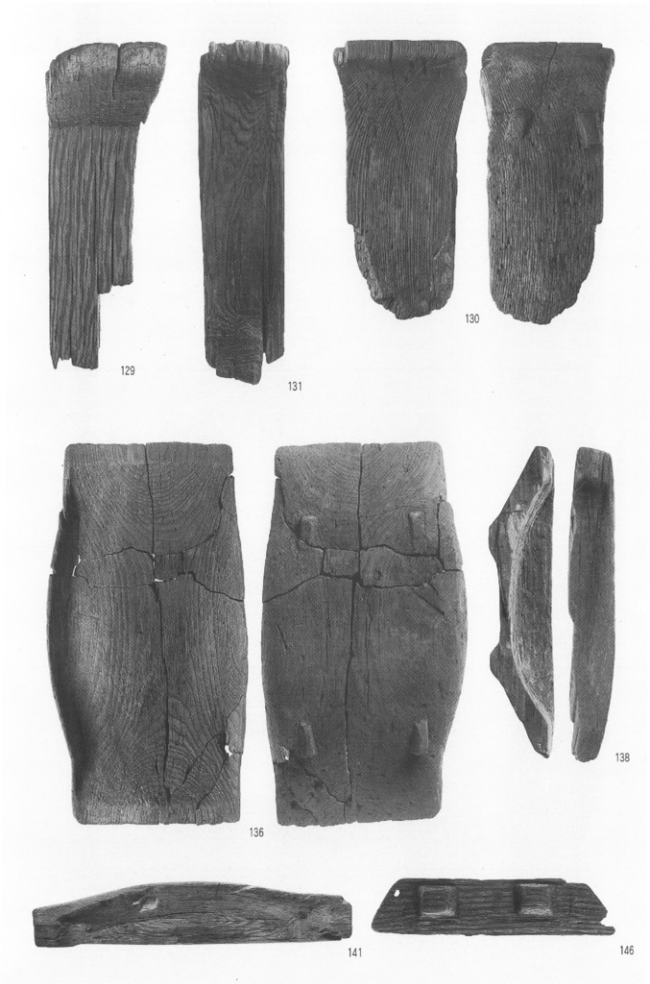
ＳＲ42～45出土木製品



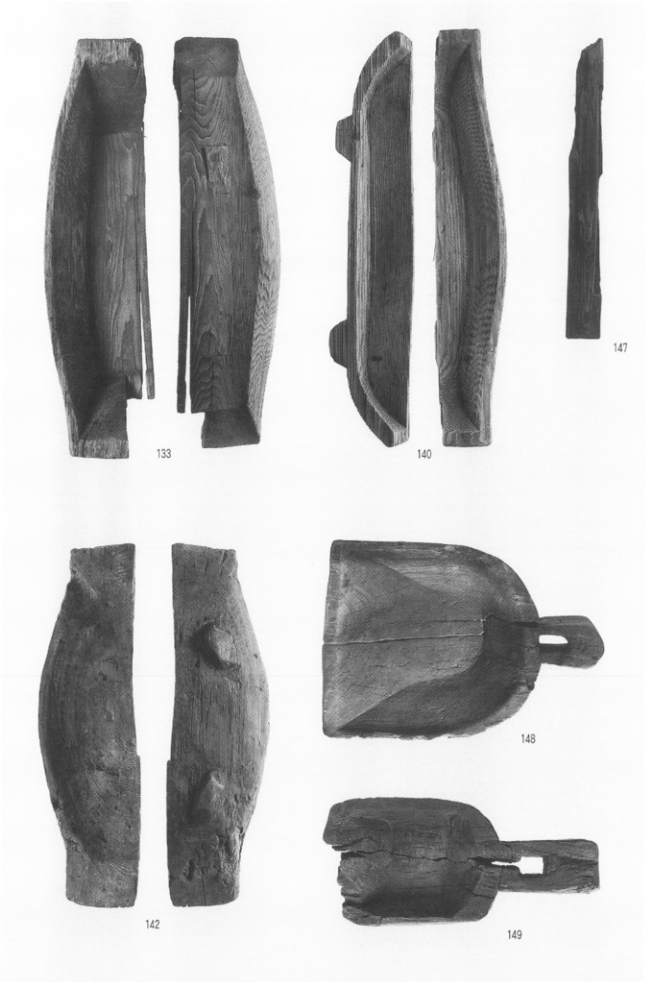
ＳＲ42～45出土木製品



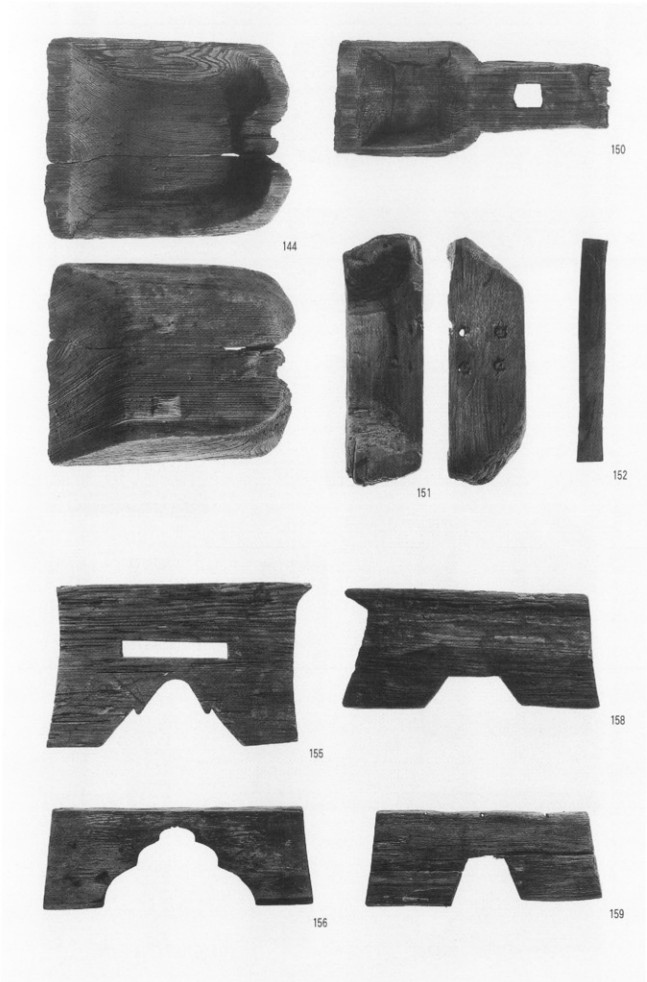
ＳＲ42～45出土木製品



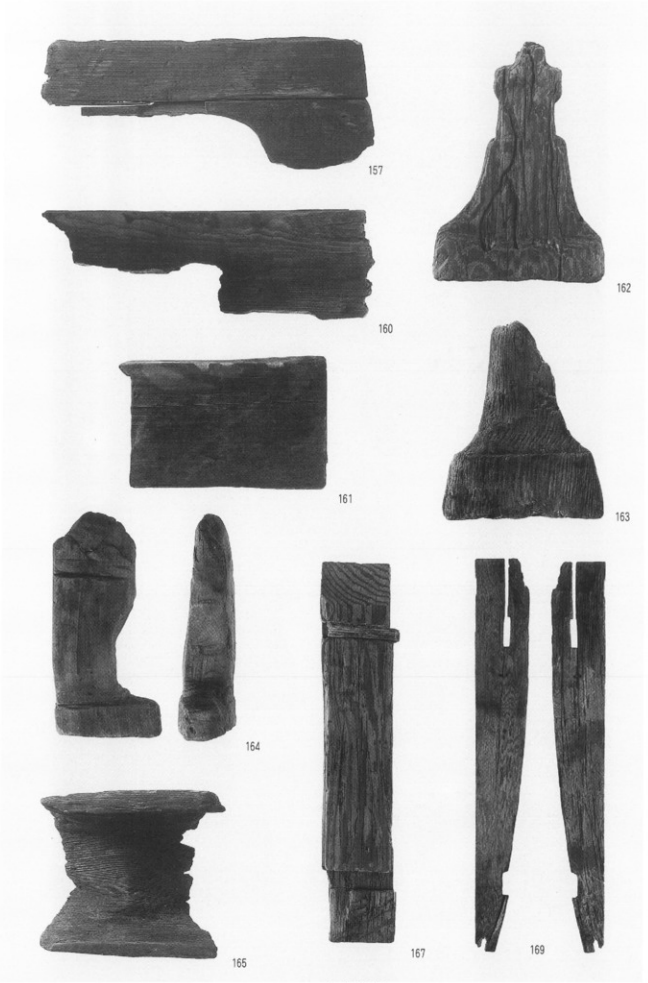
ＳＲ42～45出土木製品



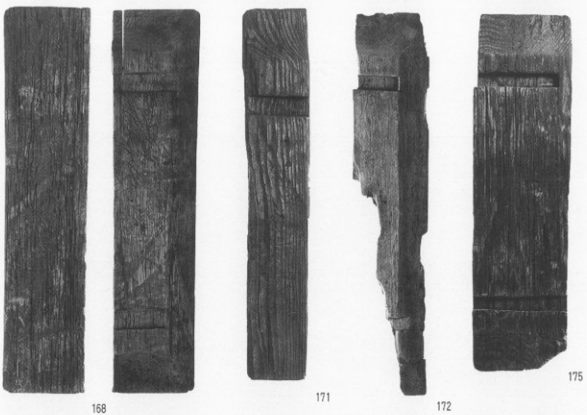
S R42～45出土木製品



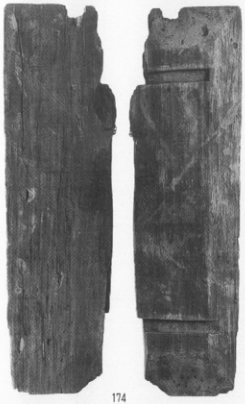
ＳＲ42～45出土木製品



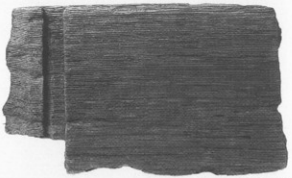
ＳＲ42～45出土木製品



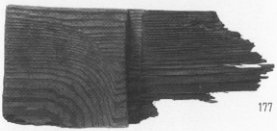
ＳＲ42～45出土木製品



174



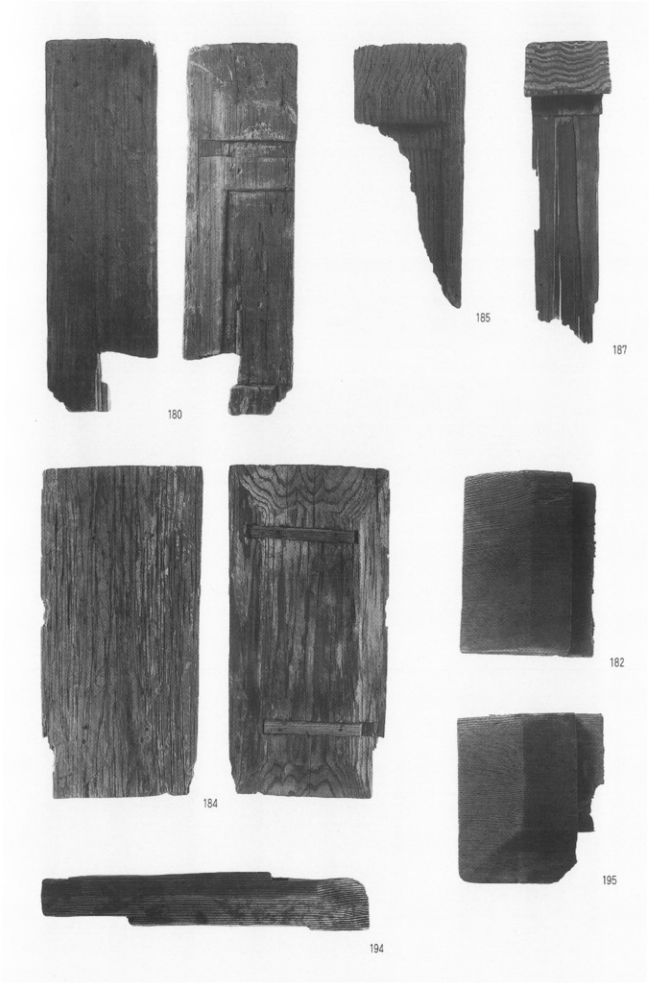
176



177

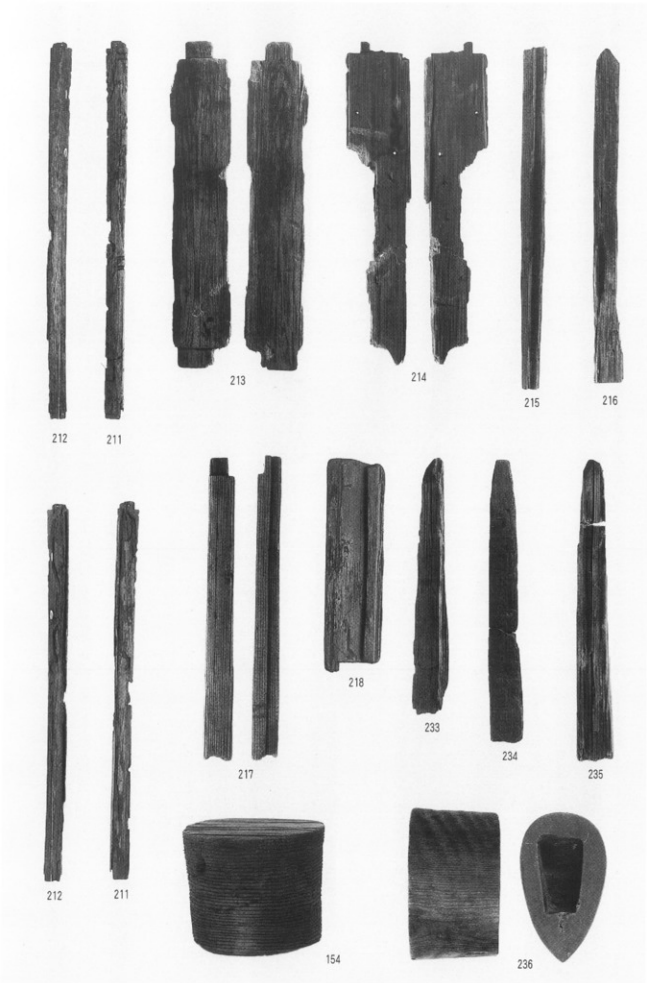
179

ＳＲ42～45出土木製品



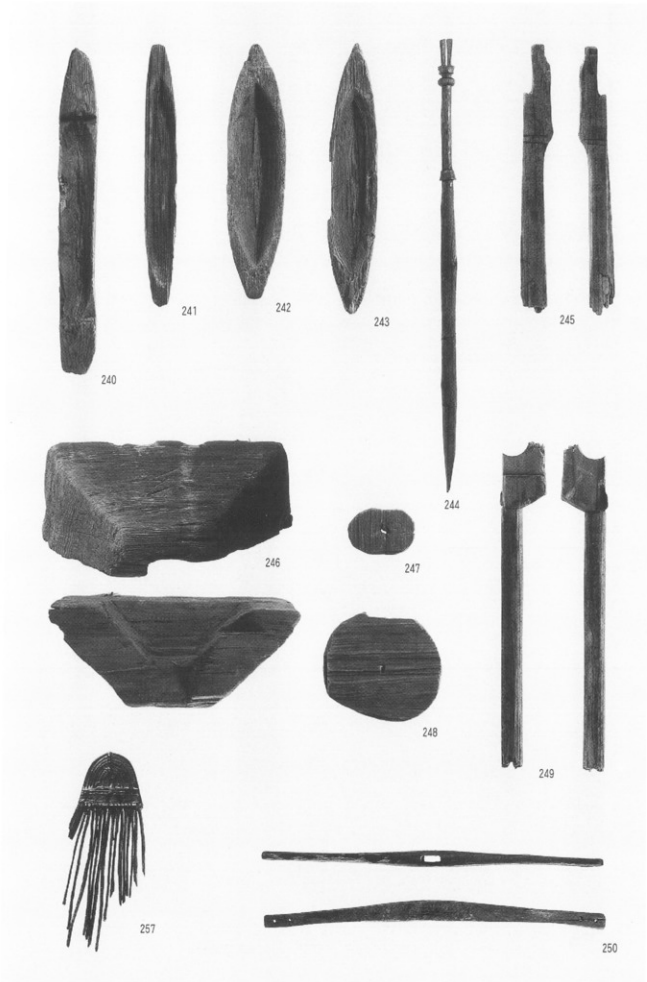
ＳＲ42～45出土木製品

ＳＲ42～45出土木製品

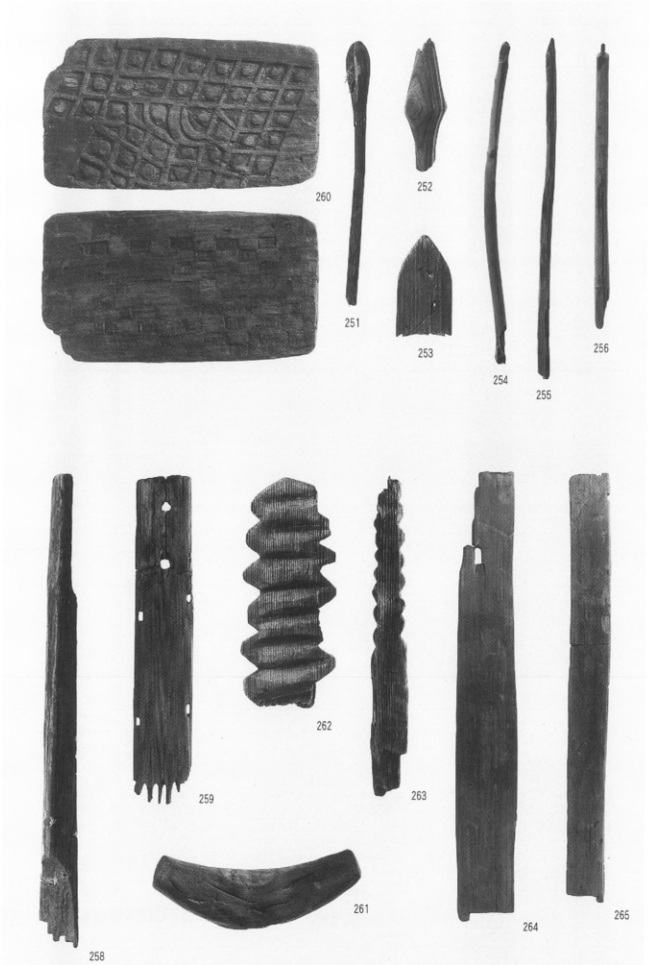


ＳＲ42～45出土木製品

ＳＲ42～45出土木製品



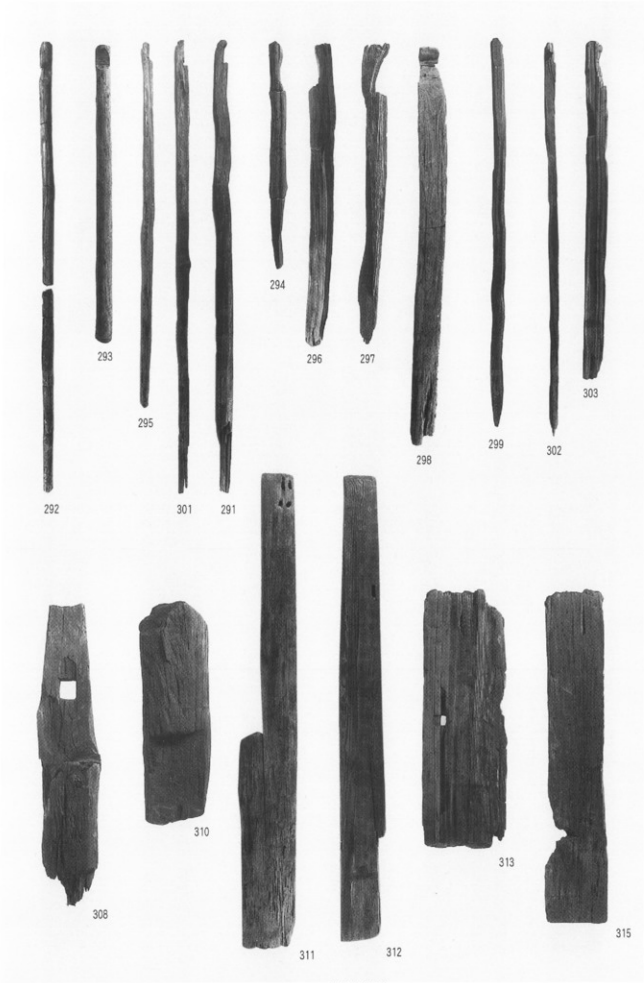
ＳＲ42～45出土木製品



ＳＲ42～45出土木製品

ＳＲ42～45出土木製品

ＳＲ42～45出土木製品



ＳＲ42～45出土木製品

314

317

318

321 同一個体 322

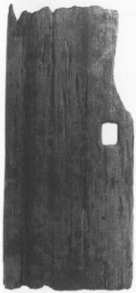
323

314の裏拡大

325

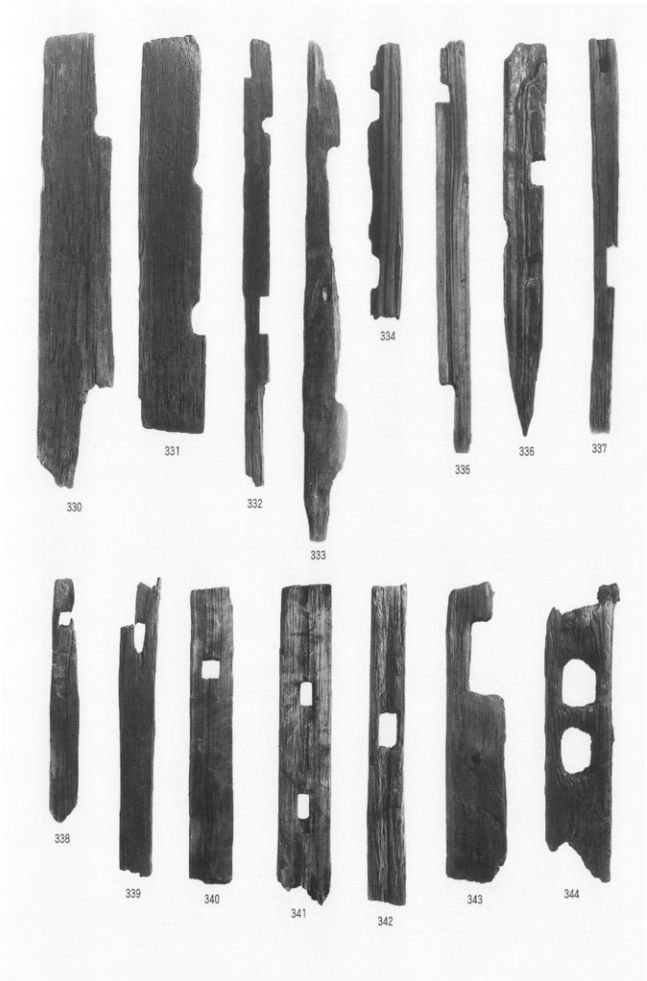
326

327


324

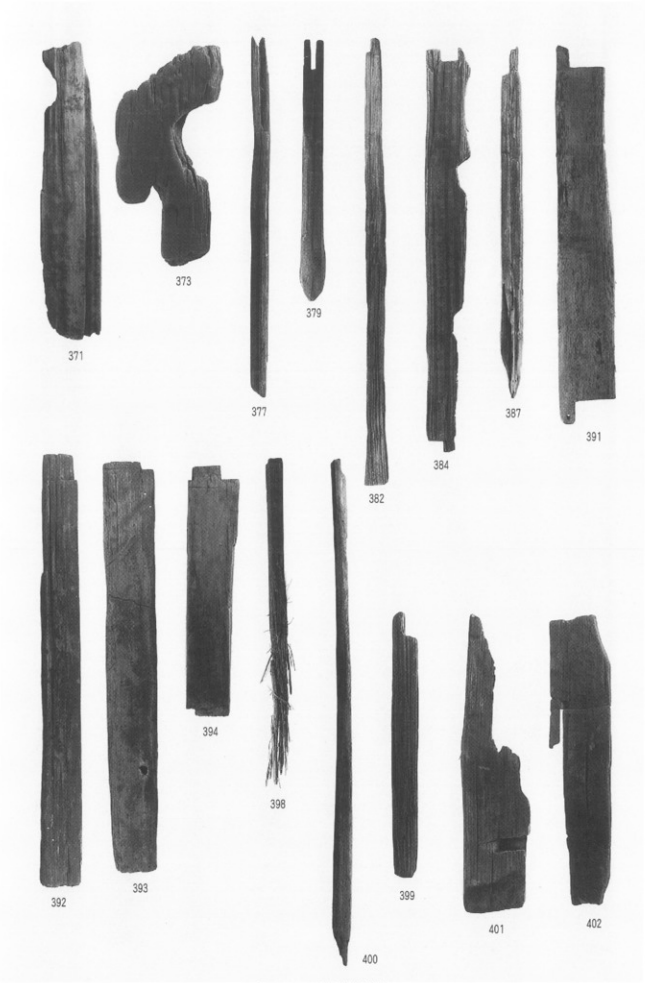
328

ＳＲ42～45出土木製品

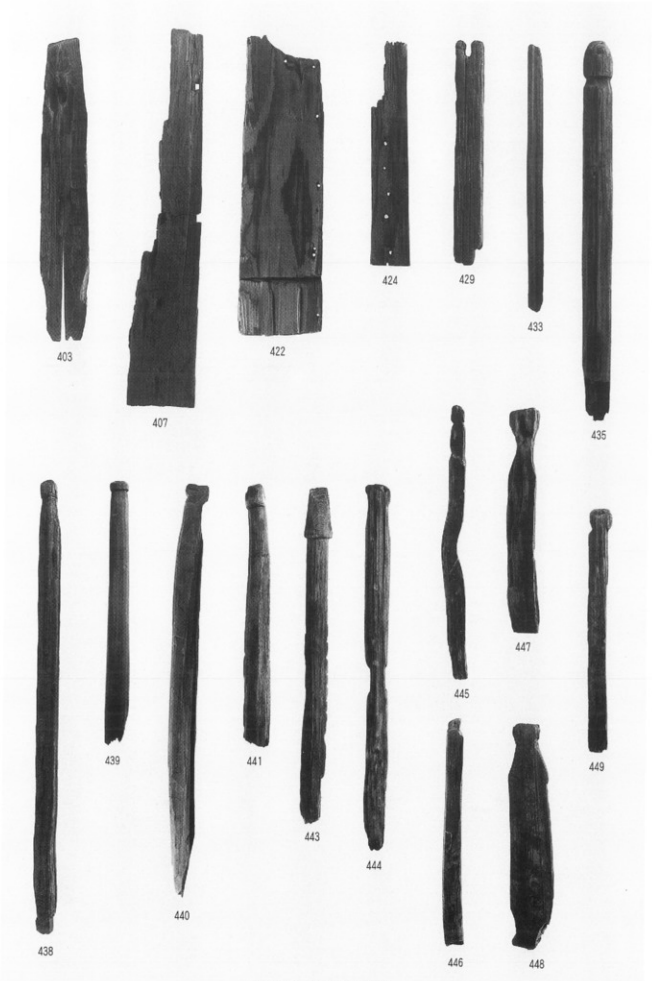


ＳＲ42～45出土木製品

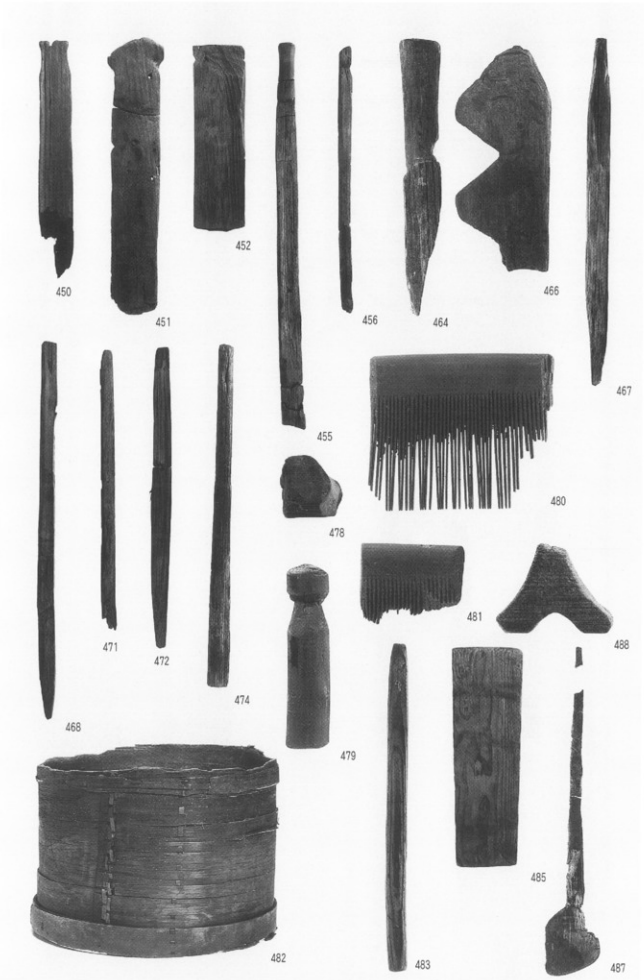
ＳＲ42～45出土木製品



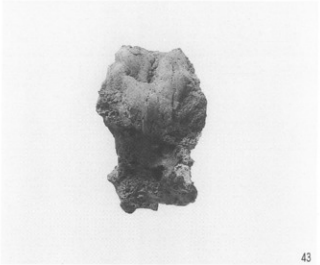
ＳＲ42～45出土木製品

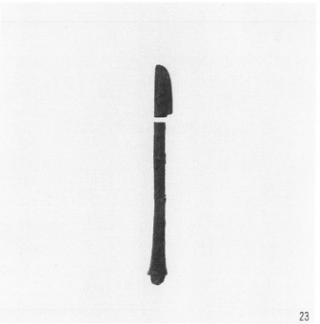


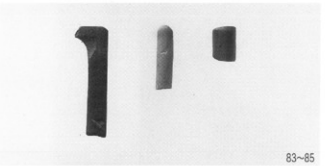
ＳＲ42～45出土木製品

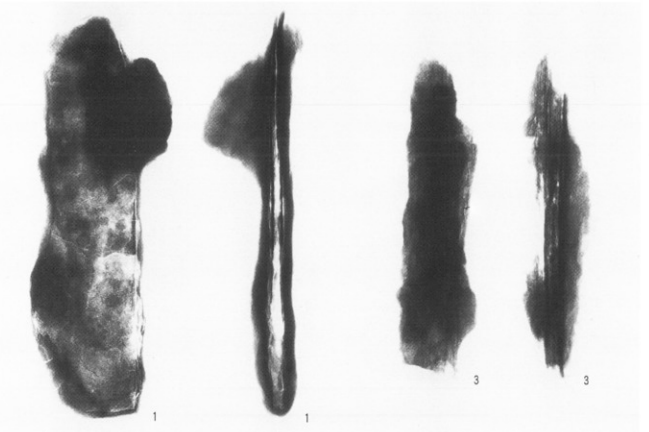


S R 42～45出土木製品

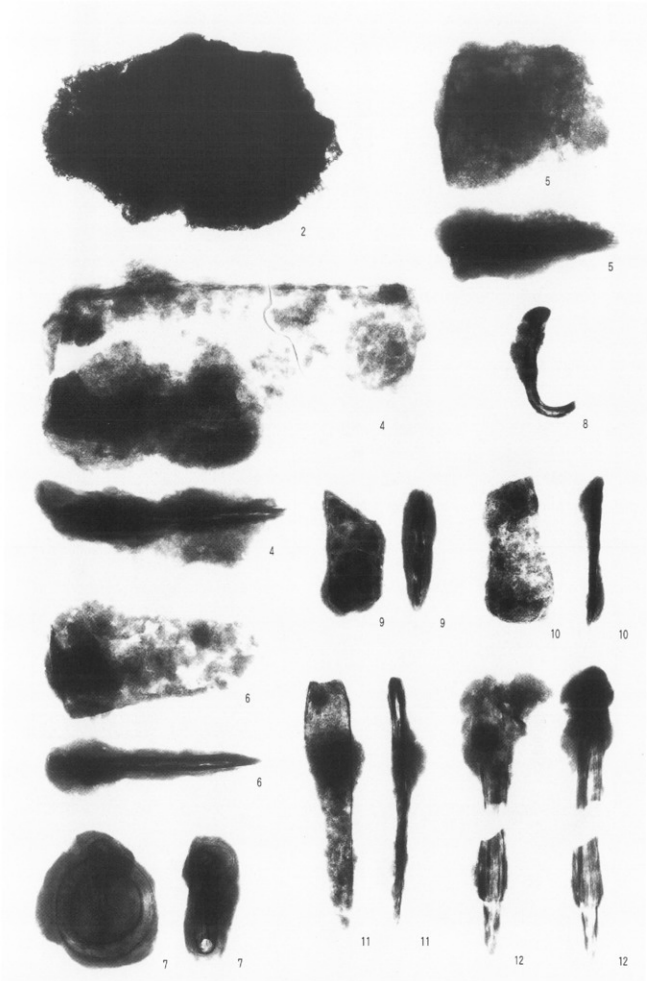








土製品、石製品、鉄滓、鉄製品、（下段X線写真）



鉄製品・鉄滓X線写真

鉄製品・鉄滓X線写真

鉄製品・鉄滓X線写真

本遺跡の調査を実施するにあたって、浜松市教育委員会から御協力を賜り、その他、多くの方々にお世話になった。ここに記して感謝申し上げたい。

川江　秀孝　佐野　一夫　佐藤由紀男　鈴木　敏則　太田　好治　辰己　均　鈴木　一有
後藤　建一　久野　正博　栗原　雅也　清水　尚　安藤　寛　山崎　克巳　佐口　節司
竹内　直文　鈴木京太郎　松井　一明　永井　義博　白澤　崇　吉岡　伸夫　塚本　和弘
木佐森道広　戸塚　和美　松本　一男　柴田　稔　贄元　洋　柏木　善治　安間　拓巳
森原　明廣　中野　宥　岡村　渉　田辺　寛治　川上　昭一　高橋　和　木許　守
北山　峰生

〈発掘作業参加者〉

鈴木　正男　川村富士雄　嶋田　究治　木俣　敏夫　古川　裕司　橋本　陽治　河島　哲次
樋口　勝治　土屋栄三郎　青野　武　磯部　茂栄　武田　誠治　袴田　和夫　中村　修司
犬塚　正美　犬塚　昇勢　鈴木　智　志太　政夫　江間　徳治　金原　邦雄　杉山　勇
鈴木　乙男　鈴木　安市　高野　茂雄　星　堯　鈴木　良光　鈴木　恵　嶋田　雅司
鈴木　直行　櫻井　典啓　溝口　彰啓　小野　映介　平野　茂樹　林　基光　名倉　香苗
鈴木　公子　匂坂　久子　辻　和子　野沢やす子　小笠原明美　辻村　貞恵　村松記代子
古田田鶴子　秋元　玲子　鈴木　幸子　稲垣　茂子　稲垣　典代　小田木朝子　高橋むつ子
北　史枝　山本　史子　鈴木由美子　村田　真弓　冨永　里菜　田口　久子　伊佐治悦子
山本留美子　吉山　常子　伊藤　保子　加藤　律子　中村　智子

〈整理作業参加者〉

杉本　織恵　高田みゆき　高遠　美幸　和途　美紀　前田　弘子　栗下美代子　佐々木富士子
杉山すず代　笠井　昌枝　早瀬　容子　河西　淑乃　榎本喜代子　鷲塚　宏子　佐野　絢子
原　洋子　石原喜久子　安田　暢子　白畑　幸子　八木　恵子　秋山　千春　大石　詠子
森田　直美　岩石　文江　加藤百合子　川渕由美子　柴田　圭子　杉山久美子　瀧　桂子
平井　豊子

（順不同、敬称略）

遺構図面の作成は田口、柴田圭子が、木製品に関しては図面は川渕が、樹種同定は森田が、遺構・遺物一覧表の作成は平井が中心となってまとめた。トレースの一部は㈱フジヤマに委託したが、多くは杉本が担当した。

報告書抄録

ふりがな	つねたけにしみや・にしうらいせき
書名	恒武西宮・西浦遺跡
副書名	平成8～10年度　(主) 浜松環状線（笠井工区）道路改良（一般）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第120集
編著者名	柴田　睦
編集機関	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市谷田23-20　TEL054-262-4261
発行年月日	2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
恒武西宮 （つねたけにしみや）	静岡県 （しずおかけん） 浜松市 （はままつし） 恒武町 （つねたけちょう）	22202	10-12	34度 45分 21秒	137度 47分 46秒	19960901 ～ 19970331	3,670 延 4,320	浜松環状線道路建設
恒武西浦 （つねたけにしうら）	静岡県 （しずおかけん） 浜松市 （はままつし） 恒武町 （つねたけちょう）	22202	10-12	34度 45分 30秒	137度 47分 47秒	19970701 ～ 19980930	5,800 延11,860	

所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項
恒武西宮	集落	古墳中期～中世	竪穴住居跡・土坑・掘立柱建物跡・溝・井戸跡・畑跡	須恵器・土師器・山茶碗・陶磁器・木製品・石製模造品	祭祀関連遺構
恒武西浦	集落	古墳中期～中世	竪穴住居跡・土坑・掘立柱建物跡・溝・井戸跡・畑跡・水田跡	須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・陶磁器・木製品・鉄製品・玉類・石製模造品・土製品・牛馬骨・種子	旧河道内より祭祀遺物と木製品が大量に出土

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第120集

恒武西宮・西浦遺跡

平成８～10年度（主）浜松環状線（笠井工区）道路改良
（一般）工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成12年３月31日発行

編集発行　財団法人
静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422－8002　静岡市谷田23番20号
TEL（054）262－4261(代)
FAX（054）262－4266
印刷所　黒船印刷株式会社
静岡市登呂三丁目４番25号
TEL（054）286－0235(代)